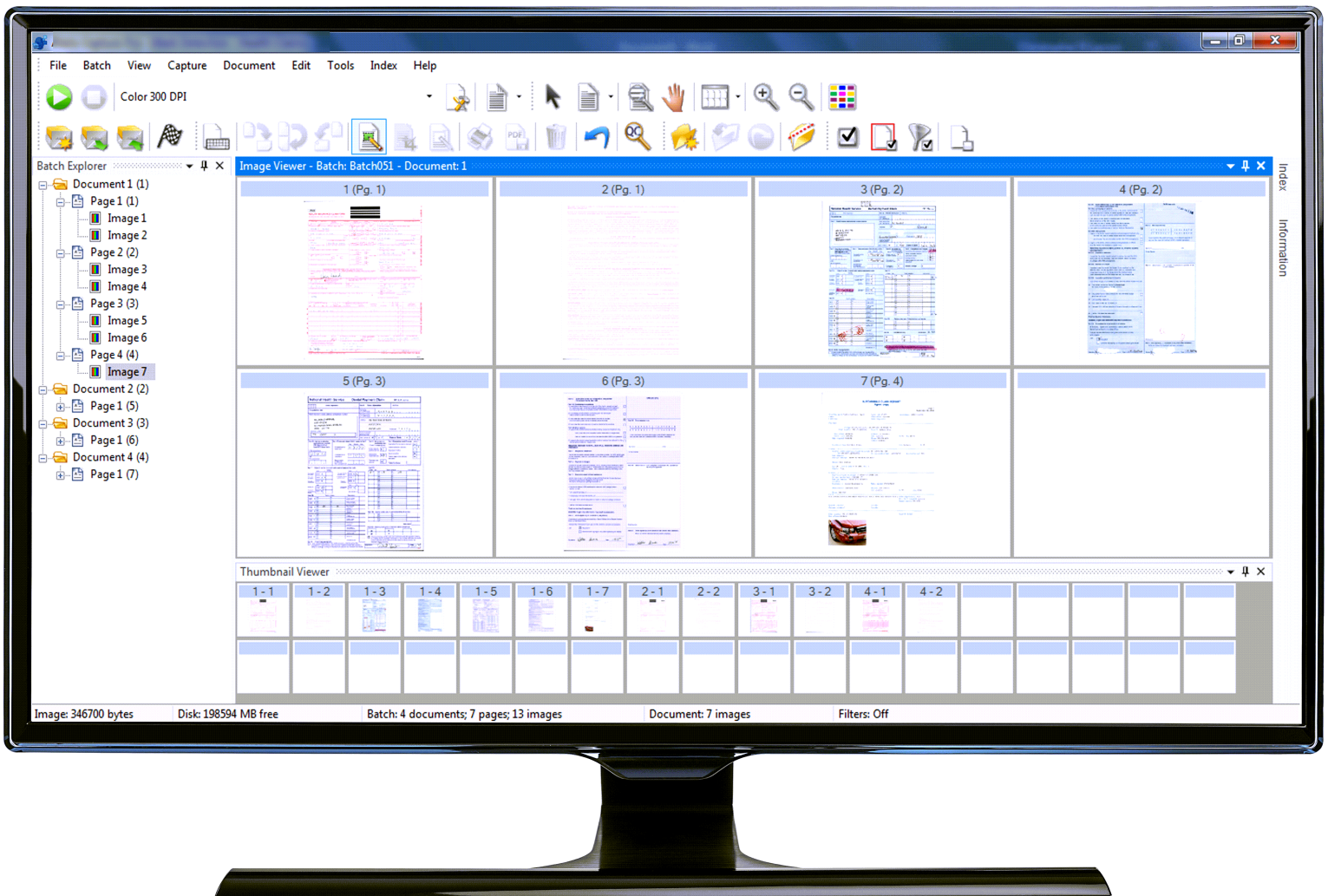


Kodak

キャプチャソフトウェア

管理者ガイド



目次

| | | |
|---|--------------------------------------|----|
| 1 | はじめに | 1 |
| | スキャナーのサポート | 1 |
| | 補足資料 | 2 |
| | ウイルススキャンアプリケーション | 2 |
| | ソフトウェアのインストール | 3 |
| | キャプチャプロ ソフトウェアの起動 | 5 |
| 2 | ジョブ セットアップ | 7 |
| | ジョブ セットアップ機能 | 7 |
| | ジョブセットアップを開く | 8 |
| | [ジョブセットアップ] ダイアログボックス | 8 |
| | ジョブ セットアップ:[スキャン] タブ | 11 |
| | 一般設定-[スキャン] タブ | 12 |
| | バッチの設定-[スキャン] タブ | 13 |
| | バーコード、OCR & マーク検知の設定-[スキャン] タブ | 16 |
| | セパレーションの設定-[スキャン] タブ | 16 |
| | ソートの設定-[スキャン] タブ | 19 |
| | ジョブ セットアップ:[インデックス] タブ | 29 |
| | ドキュメントインデックス フィールドの追加 | 31 |
| | ドキュメントインデックスフィールドの編集 | 35 |
| | バッチインデックスフィールドの追加 | 36 |
| | PDF プロパティ | 37 |
| | ダブルデータエントリ | 39 |
| | 入力フォーマット | 43 |
| | テキスト入力フォーマット | 43 |
| | 数値入力フォーマット | 45 |
| | 時間入力フォーマット | 47 |
| | 固定文字列入力フォーマット | 49 |
| | 組み合わせによる入力フォーマット | 49 |
| | インデックスデフォルト値の仕様 | 50 |
| | 固定文字列フォーマット | 51 |
| | 複数タグの使用 | 51 |
| | OR キーワードの使用 | 51 |
| | LASTVALUE を使用したデフォルト値 | 52 |
| | 変換式 | 52 |
| | 変換テキストフォーマット | 53 |
| | 変換数値フォーマット | 55 |
| | 変換時間フォーマット | 57 |
| | 固定文字列フォーマット | 58 |
| | 変換フォーマットの結合 | 58 |
| | 出力フォーマット | 58 |
| | [インデックス] タブ — データベース検索 | 59 |
| | データベースルックアップの設定 | 59 |
| | データベースルックアップの使用 | 63 |
| | インデックスフィールドの編集 | 64 |
| | バッチ出力 | 65 |
| | ジョブ セットアップ:[出力] タブ | 65 |
| | 資格情報 | 66 |
| | 出力先オプション:[ファイル (1)] と [ファイル (2)] | 67 |
| | [ファイル (1)] と [ファイル (2)] のセットアップオプション | 68 |
| | [ファイル (1)] と [ファイル (2)] のインデックスオプション | 77 |
| | ドキュメントごとの複数記録 | 79 |
| | [アウトプット先のセットアップ] を使用した場所とファイル名の構築 | 81 |
| | [インデックス内容のセットアップ] ダイアログボックスの使用 | 83 |

| | |
|--|-----|
| [システム (1)] と [システム (2)] オプション | 84 |
| E メールオプションの設定 | 85 |
| 印刷オプションの設定 | 88 |
| SHAREPOINT のインデックスセットアップウィザードの使用 | 89 |
| SharePoint モダン認証 | 94 |
| 詳細オプション | 96 |
| [他のプログラムの呼出し] オプション | 106 |
| リモート出力 (ネットワークエディションのみ) | 109 |
| ジョブセットアップ: スキャナー固有の設定 | 110 |
| スキャナオプション | 110 |
| Kodak ii5850/ii1850S シリーズスキャナー | 112 |
| 3 パッチのセットアップ | 115 |
| パッチコードについて | 115 |
| パッチコードの設定 | 116 |
| パッチ 2、3、T コードセパレーション | 116 |
| パッチコードによる添付ファイルの作成 | 117 |
| パッチコードによるバッチとドキュメントの分割 | 118 |
| 4 バーコード、OCR & マーク検知の設定 | 119 |
| 概要 | 119 |
| バーコードの使用 | 120 |
| [バーコード、OCR & マーク検知] ウィンドウ | 121 |
| バーコード、OCR、マーク検知ウィンドウのコンテキスト依存メニュー | 123 |
| バーコード設定用のイメージのスキャン | 126 |
| バーコードゾーンの作成と選択 | 128 |
| [バーコードゾーンの設定] ダイアログボックス | 129 |
| [ゾーンページ設定] ダイアログボックス | 134 |
| バーコードゾーンによるドキュメントの分割 | 136 |
| バーコードゾーンによるバッチの分割 | 136 |
| バーコードゾーンの編集 | 137 |
| バーコードゾーンの削除 | 138 |
| [バーコード] ウィンドウにイメージを転送 | 138 |
| バーコードイメージサイズの範囲の設定 | 139 |
| バーコードゾーンによるページの添付 | 139 |
| バーコードゾーンのテスト | 140 |
| バーコードタイプ | 140 |
| QR コードの特殊構文 | 141 |
| OCR ゾーンの使用 | 142 |
| OCR 設定用のイメージのスキャン | 143 |
| OCR ゾーン作成と選択 | 144 |
| [OCR ゾーンの設定] ダイアログボックス | 145 |
| 特定ページへの OCR ゾーン適用 | 147 |
| OCR ゾーンによるドキュメントの分割 | 147 |
| OCR ゾーンによるバッチの分割 | 147 |
| OCR ゾーンプロパティの編集 | 148 |
| OCR ゾーンの削除 | 148 |
| [OCR] ウィンドウにイメージを転送 | 148 |
| OCR イメージサイズの範囲の設定 | 149 |
| OCR ゾーンによるページの添付 | 149 |
| OCR ゾーンのテスト | 150 |
| カラーレスキャン時にセパレータを使用 | 150 |
| バーコードゾーン / OCR ゾーンスキャンのためのカラーイメージの設定 | 151 |
| バーコード & OCR の免責条項 | 152 |
| マーク検知ゾーンの使用 | 152 |
| マーク検知設定用のイメージのスキャン | 153 |
| マーク検知ゾーン作成と選択 | 154 |

| | |
|---|-----|
| マーク検知ゾーンの編集 | 155 |
| マーク検知ゾーンの削除 | 155 |
| [マーク検知]ウィンドウにイメージを転送 | 156 |
| [マーク検知ゾーンの設定]ダイアログボックス | 156 |
| 特定ページへのマーク検知ゾーンの適用 | 157 |
| マーク検知ゾーングループの設定 | 158 |
| | |
| 5 ページセットアップ | 161 |
| [ページセットアップ]ダイアログボックス | 161 |
| [イメージ]タブ | 162 |
| [自動削除]タブ | 164 |
| イメージの分割 | 167 |
| イメージの分割 | 167 |
| [結合]タブ | 168 |
| インテリジェント QC タブ | 169 |
| | |
| 6 便利なショートカット機能 | 171 |
| ボタン マネージャ | 171 |
| [ショートカットセットアップ]ダイアログボックス | 172 |
| | |
| 7 ユーザとグループのセットアップ | 173 |
| [ユーザセットアップ]ダイアログボックス | 173 |
| [一般]タブ | 173 |
| Active Directory を使用してユーザとグループをセットアップ | 173 |
| [ユーザ]タブ | 174 |
| [グループ]タブ | 176 |
| | |
| 8 自動インポート | 179 |
| 概要 | 179 |
| 自動インポートセットアップ | 180 |
| 自動インポート処理 | 184 |
| サーバ/サービス設定 | 188 |
| エラー処理 | 189 |
| | |
| 9 インテリジェントなジョブ選択 | 191 |
| 概要 | 191 |
| [インテリジェントなジョブ選択]-[一般]タブ | 192 |
| 機能パッチ ページの作成 | 194 |
| 機能パッチセットアップの作成 | 194 |
| [インテリジェントなジョブ選択]-[セットアップ]タブ | 195 |
| ルールの定義 | 196 |
| | |
| 10 トラブルシューティング | 197 |
| エラーのクリア | 197 |
| コマンドラインからのログイン | 197 |
| テクニカル サポート | 197 |
| | |
| 付録 A ライセンスマネージャ | 199 |
| ライセンスを要求する | 200 |
| ライセンスのリリース | 202 |
| ライセンスの交換 | 206 |

1 はじめに

キャプチャプロ ソフトウェアは、書類のスキャンを目的とした、インストールが簡単で使いやすい業務用スキャン アプリケーションです。

このソフトウェアは画像処理、フォーム処理、ワークフローに最適なアプリケーションであり、単独のアプリケーションとしても優れています。カラー、白黒、および / またはグレースケールでの片面、両面スキャン、インデックス付け、バッチ処理を管理します。バッチは多くの一般的なアプリケーションに簡単にエクスポートできます。キャプチャプロ ソフトウェアを使用すれば、ご利用のスキャナー製品の機能を十分に活用して、生産性を最大限に向上できます。このソフトウェアだけですべての機能をサポートしているので、特別なハードウェアアクセラレーションは必要ありません。

Kodak キャプチャプロ ソフトウェアは、速さ、正確さ、そして使いやすさを重視して設計されています。スキャナー性能を引き出すことで最大限の生産性を実現します。高速のマルチページ表示によって、イメージやオプションのインデックスデータをドキュメントのスキャン中に確認できます。スキャン管理をシンプルにするため、アイコンで操作できるツールを一通り揃えています。

この管理者ガイドでは、キャプチャプロ ソフトウェアを最も効率よく使用するためのジョブ セットアップの作成方法について、詳しい情報を提供します。その他、ページセットアップ、バーコードおよびパッチコード、自動インポートなどに関する情報も含まれています。

スキャナーのサポート

キャプチャプロソフトウェアはKodak & Alarisのスキャナをサポートしており、一部の他社製スキャナもキャプチャプロで使用できます。全リストは以下のリンクに掲載されています。
www.kodakalaris.com/go/kcsscannersupport

最新のシステム要件および認定オペレーティングシステムについては、キャプチャプロの Web サイトの仕様ページを参照してください。

<https://www.alarisworld.com/solutions/software/document-scanning-software/capture-pro-software#Specifications>.

補足資料

この『管理者ガイド』の他に、以下のドキュメントが用意されています。

- **オンラインヘルプ** — 製品の詳細なセットアップ、ユーザインターフェースの詳細、その他多数の高度な機能などの情報を提供します。ヘルプファイル内で情報を検索するには、目次、インデックス、検索機能を使用できます。

ヘルプにアクセスするには、[F1] を押して、ダイアログボックスの [ヘルプ] ボタンを選択するか、またはウィンドウの右上角の [?] アイコンをクリックします。

- **スタートガイド** — キャプチャプロ ソフトウェアのインストールと起動など、すぐに使い始めるための簡単な手順を説明します。デフォルトの事前定義されたジョブ セットアップを使用したスキャン手順も紹介しています。このガイドの PDF は、次のキャプチャプロ ソフトウェアのサポートページの「マニュアルおよびガイド」セクションにあります。
<https://support.alarisworld.com/capture-pro-software#Manuals>

- **ユーザズガイド** — 新しいバッチの作成、原稿のスキャン、スキャンしたイメージの編集、バッチの出力に関する基本手順を説明します。また、ウィンドウ、メニュー、ツールについての説明も含まれています。

ネットワークエディション: システムガイドは、キャプチャプロネットワークエディションのインストール手順について説明しています。このガイドの PDF は、次のキャプチャプロ ソフトウェアのサポートページの「マニュアルおよびガイド」セクションにあります。

- <https://support.alarisworld.com/capture-pro-software#Manuals>

リリースノート — 他の補足資料には掲載されていない情報が記載されています。リリースノートを表示するには、www.kodakalaris.com/go/kcsdownloads にアクセスし、Web サイトのワークステーション / クライアント ソフトウェアセクションに移動します。このセクションには、最新のリリースノートへのリンクが掲載されています。

ウイルススキャンアプリケーション

ウイルス スキャン アプリケーションを使用している場合は、ウイルス スキャン アプリケーションのアクセス対象から、キャプチャプロ ソフトウェアのワークグループ、スキャンしたイメージ、バッチ出力フォルダおよびサブフォルダを除外すると、システム パフォーマンスが向上します。

デフォルトフォルダ名は以下のとおりです。

c:\ScanPro

c:\BatchesPro

c:\Users\Public\Documents\KCS Pro

c:\Program Files (x86)\Kodak\Capture Pro

注記: **[詳細]** インストールオプションを選択して、デフォルトインストールフォルダを変更した場合は、アンチウイルスソフトウェアの設定時に、これらのフォルダを除外してください。

ソフトウェアのインストール

開始する前に、Kodak Alaris の Web サイトを参照して、お使いの PC がキャプチャープロソフトウェアの推奨構成に適合していることを確認します。
<https://www.alarisworld.com/solutions/software/document-scanning-software/capture-pro-software#Specifications>

インストールには以下が必要です。

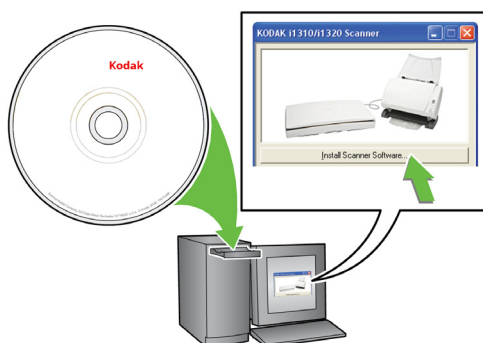
- スキャナーを接続する場合は、スキャナー メーカーから提供されたスキャナー ドライバ CD。
- シリアル番号を含む PDF ファイルを添付したライセンス通知メール。
- キャプチャプロ ソフトウェアの Web サイト (www.kodakalaris.com/go/CaptureProDownload) からアプリケーションをダウンロードします。

インストールの前に、リリース ノートで追加情報を確認します。リリースノートは、Kodak Alaris の Web サイト (www.kodakalaris.com/go/kcsdownloads) から入手できます。Web サイトのワークステーション / クライアントソフトウェアセクションに移動します。このセクションには、最新のリリースノートへのリンクが掲載されています。

ダウンロードした EXE インストーラを実行して、インストールを開始します。

- キャプチャプロ ソフトウェアをインストールするコンピュータがインターネットにアクセスできない場合は、キャプチャプロ ソフトウェアのウェブサイトにあるライセンス マネージャ ツールもダウンロードする必要があります。ライセンス マネージャは、インターネットにアクセスできるコンピュータにインストールされます。
- オプションのハードウェア キー (USB ドングル) (購入している場合)
- このソフトウェアをインストールする PC の管理者権限

1. スキャナー ドライバ CD を CD ドライブに挿入し、指示に従って、スキャナー ドライバをインストールします。



2. スキャナーを接続し、Scan Validation Tool を使用して接続をテストします。詳細については、ご使用のスキャナーのユーザーズ ガイドを参照してください。

Kodak Alaris スキャナー ドライバをインストールすると、Scan Validation Tool が自動的にインストールされます。このツールは、スキャナーの接続確認と、動作テストに使用できます。

注記： ご使用の PC へのスキャナーのインストールおよびテストについては、製造元の推奨事項に従ってください。

3. インストールの前に、リリースノートで追加情報を確認します。リリースノートは、Kodak Alaris の Web サイト (www.kodakalaris.com/go/kcsdownloads) から入手できます。Webサイトのワークステーション/クライアントソフトウェアセクションに移動します。このセクションには、最新のリリースノートへのリンクが掲載されています。

ダウンロードした EXE インストーラを実行して、インストールを開始します。

4. [インストール メニュー] 画面が表示されたら、希望する言語を選択し、[キャプチャプロ ソフトウェアのインストール] オプションをクリックします。
5. ライセンス契約を確認後、[使用許諾契約の全条項に同意します] をクリックし、[次へ] をクリックします。[ハードウェア ライセンス キー] 画面が表示されます。

6. [USB ハードウェア キーを使用しません] を選択し、[次へ] をクリックします。

注記： オプションの USB ハードウェア キーを購入した場合は、[USB ハードウェア キーを挿入しました] を選択して [次へ] をクリックします。

[インストールのタイプ] 画面が表示されます。

7. [次へ] をクリックします。[ソフトウェア シリアル番号] 画面が表示されます。

注記： キャプチャプロ ソフトウェア ネットワーク エディションを購入しており、クライアントをインストールしている場合は、[キャプチャプロ ソフトウェア ネットワーク エディションのクライアントとしてインストール] のみチェックします。

8. ソフトウェアのシリアル番号を入力して、[次へ] をクリックします。[製品登録] 画面が表示されます。

9. 受け取ったライセンス通知メールに記載されている登録 ID を入力します。登録 ID がない場合は、[今すぐ登録] を選択して登録を完了します。[次へ] をクリックします。Kodak Alaris ライセンスサーバーからライセンスを取得中に、[ライセンスの取得] 画面が表示されます。

注記： お使いのコンピュータがインターネットにアクセスできない場合は、ライセンスの取得方法に関する情報について、「付録 A ライセンスマネージャ」を参照してください。

10. [セットアップタイプ] 画面から、[標準] を選択し、[次へ] をクリックします。[インストールの概要] 画面が表示されます。

11. [次へ] をクリックします。[インストール準備の完了] 画面が表示されます。

12. [インストール] をクリックして、インストールを開始します。[セットアップステータス] 画面が表示されます。表示される指示に従ってください。

13. [完了] を選択します。

14. 要求された場合、コンピュータを再起動するオプションを選択します。

キャプチャプロ ソフトウェアの起動

[インデックスのみ]または[自動インポート]版を使用していない場合は、スキャナーの電源が入っていて PC に正しく接続されていることを確認してください。オプションのハードウェア キーを購入している場合は、コンピュータの USB ポートに挿入されていることを確認してください。



- デスクトップ上の [キャプチャプロ ソフトウェア] アイコンをダブルクリックします。
 - または、[スタート] > [プログラム] > [Kodak] > [Kodak Capture Pro Software] の順にアクセスします。
-
- デスクトップ上のキャプチャープロソフトウェアアイコンを右クリックし、**管理者として実行**を選択します。

注記：

- ネットワーク エディションのクライアントにより、ライセンス取得中であることが通知されます。
- キャプチャプロ ソフトウェア ネットワーク エディションのクライアントは、キャプチャプロ サーバソフトウェアとの初期同期を実行します。

2 ジョブセットアップ

ジョブセットアップ 機能

[ジョブセットアップ]機能では、ジョブのパラメータをセットアップできます。ここでは、[スキャン]、[インデックス]、[出力]タブの情報と、スキャンニーズに合ったオプションの選択方法について説明します。ジョブがセットアップされたら、ドキュメントのバッチに対するスキャンおよび出力要件を満たすジョブを選択することができます。

キャプチャプロ ソフトウェアで使用するジョブをセットアップするには、[ジョブセットアップ]ダイアログ ボックスを開きます。[ジョブセットアップ]から、定義済みのジョブ名を選択し、テンプレートとして使用することで、ご使用の環境で必要なジョブのカスタマイズができます。

キャプチャプロ ソフトウェアでは、予め3つのジョブが定義されています。

標準スキャン — セットアップを行わなくても、デフォルト設定を使用してスキャンができます。このジョブには、インデックスが定義されておらず、スキャンされたイメージはすべて、出力後に C:\ScanPro の下に保存されます。

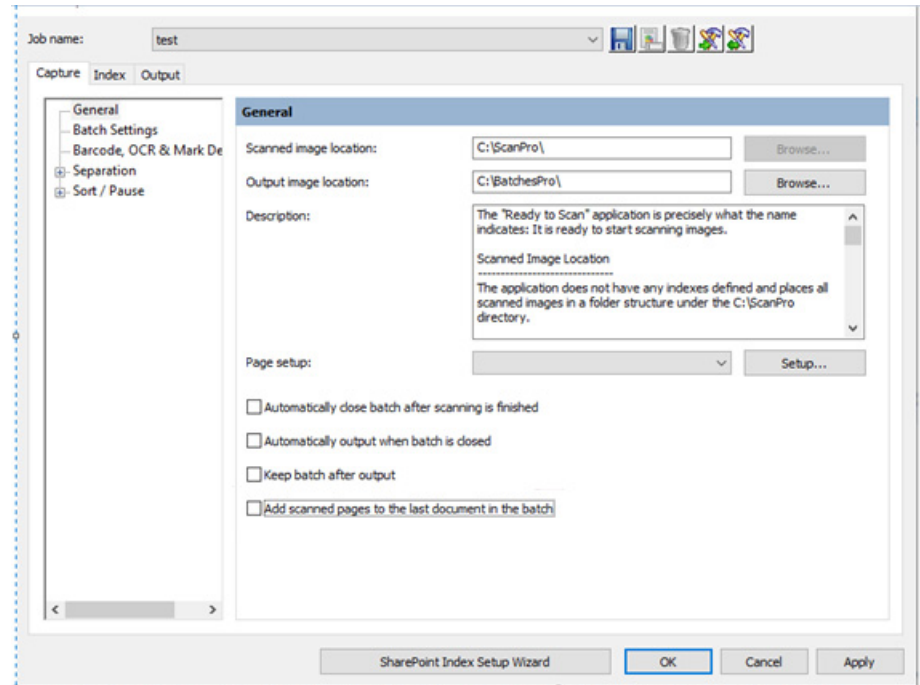
PDF に出力 — 書類をスキャンすると、最初のページがイメージビューアに表示され、インデックスデータ用にファイル名の入力を要求されるという点を除き、標準スキャンに似ています。インデックスデータは、ドキュメント出力時にファイル名として使用されます。

Eメールに送信 — PDF ファイルが作成され、Eメールに添付される点を除き、PDF に出力に似ています。スキャンが完了すると、ご使用の Eメールアプリケーションが開き、スキャンイメージのファイルが添付された Eメールを、ご自身の Eメールアカウントからご希望のアドレスへ送信する準備が整います。

目的の操作に応じて、これらのジョブセットアップのいずれかを選択し、ジョブをカスタマイズするための雛形として使用できます。

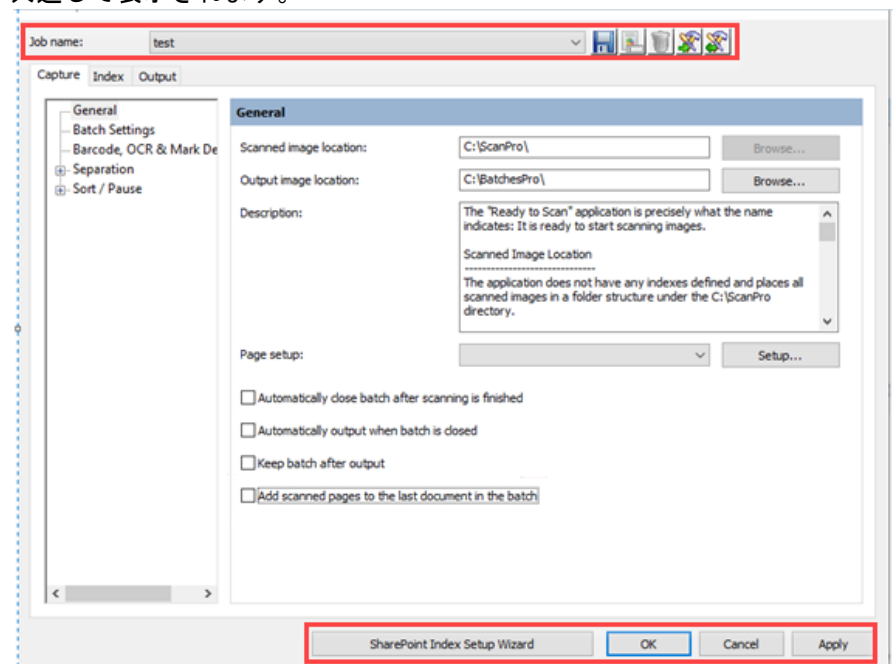
ジョブセットアップを開く

- [ファイル]>[ジョブセットアップ]をクリックします。[ジョブセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。



[ジョブセットアップ]ダイアログボックス

以下の情報は、[ジョブセットアップ]ダイアログボックスのすべてのタブで共通して表示されます。






ジョブ名 — 予め定義されたジョブおよびドロップダウンリストで定義されたその他のジョブをリストします。

[ジョブセットアップ]ダイアログボックスには、3つのタブがあります。[スキャン]、[インデックス]、[出力]です。これらのタブの詳細な使用方法は、以降の項で説明します。

- [インデックス] タブでは、バッチ レベルやドキュメント レベルのインデックス フィールドを定義できます。[データベース 検索] タブでは、データソースの指定、検索の実行方法、インデックス フィールドの入力に使用されるデータの定義や、インデックス フィールドの内容の検証が可能です。本章の後半にある「ジョブセットアップ:[インデックス]タブ」を参照してください。
- [出力] タブでは、ジョブセットアップの[出力先]や[詳細]オプションを設定できます。本章の後半にある「ジョブセットアップ:[出力]タブ」を参照してください。

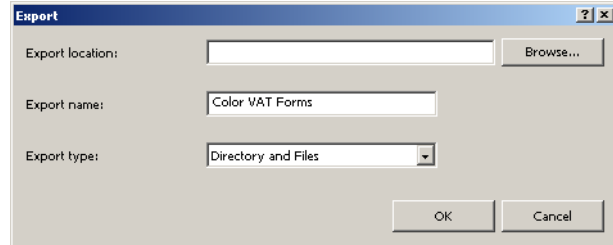
アイコン

| | |
|---|--|
|  | <p>追加：新規ジョブセットアップを追加できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [追加] アイコンをクリックします。 2. 新しいジョブセットアップの名前を入力し、[保存] をクリックします。 3. [スキャン]、[インデックス]、[出力] タブを使用して、このジョブの条件をセットアップできます。各タブについての詳細は、以降の項を参照してください。 4. 完了したら [OK] をクリックします。 <p>注記： ジョブセットアップ名の最後にピリオド (.) を使用できません。</p> |
|  | <p>名前の変更：現在選択しているジョブセットアップの名前を変更できます。開かれているジョブの名前は変更できません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [ジョブ名] ドロップダウンリストから、名前を変更するジョブセットアップを選択します。 2. [名前の変更] アイコンをクリックします。 3. 新しいジョブセットアップ名を入力し、[OK] をクリックします。 <p>注記： ジョブセットアップ名の最後にピリオド (.) を使用できません。</p> |
|  | <p>削除：選択したジョブセットアップを削除できます。開いているジョブは削除できません。また、すべてのバッチが処理、または削除されるまでジョブは削除できません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [ジョブ名] ドロップダウンリストから削除するジョブセットアップを選択します。 2. [削除] アイコンをクリックします。確認ボックスが表示されます。 3. [はい] をクリックして、削除を確認します。 |



エクスポート：キャプチャプロ ソフトウェアのセットアップの内容を保持しながら、ジョブをエクスポートできます。

1. [**ジョブ名**] ドロップダウンリストからジョブセットアップを選択します。
2. [**エクスポート**] アイコンをクリックします。[**エクスポート**] ダイアログボックス が表示されます。



3. [**フォルダの選択**] をクリックして、ジョブのエクスポート先となるフォルダを選択します。
4. エクスポート名には、エクスポート元のジョブ名が入ります。この名前を変更する場合は、[**エクスポート名**] フィールドに新しい名前を入力します。

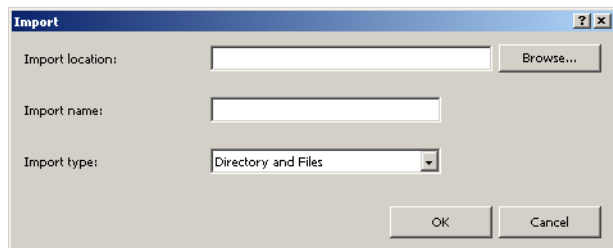
注記： ここでエクスポートタイプとして利用できるのは、**ディレクトリとファイルのみ**です。

5. [**OK**] をクリックします。エクスポート完了のメッセージが表示されます。



インポート：ジョブ セットアップを別の場所からキャプチャプロ ソフトウェアにインポートできます。

1. [**インポート**] アイコンをクリックします。[**インポート**] ダイアログボックスが表示されます。



2. [**フォルダの選択**] をクリックして、インポート対象のエクスポートされたジョブセットアップ名のフォルダを選択します。

3. インポート名には、インポートするジョブ名が入ります。この名前を変更する場合は、[**インポート名**] フィールドに新しい名前を入力します。

注記： ここでインポートタイプとして利用できるのは、**ディレクトリとファイルのみ**です。

4. [**OK**] をクリックします。インポートが完了したことを通知するメッセージが表示されます。

注記： 使用するモデルとは異なるスキャナーモデルを使用したジョブをインポートする場合、スキャナー固有の設定（つまりプリンタ / カウンタの設定）はすべて再設定する必要があります。

ジョブセットアップのすべての項目を設定したら、次のボタンをクリックします。

[他の出力先] — このボタンは [出力] タブにのみ表示されます。クリックすると、使用頻度の低いサードパーティシステムの出力先が表示されます。

SHAREPOINT のインデックスセットアップウィザード — 既存の SHAREPOINT サイトで使用しているインデックスをキャプチャソフトウェアのジョブセットアップに素早く簡単に設定します。詳細については、本章の後半にある「SHAREPOINT のインデックスセットアップウィザードの使用」を参照してください。

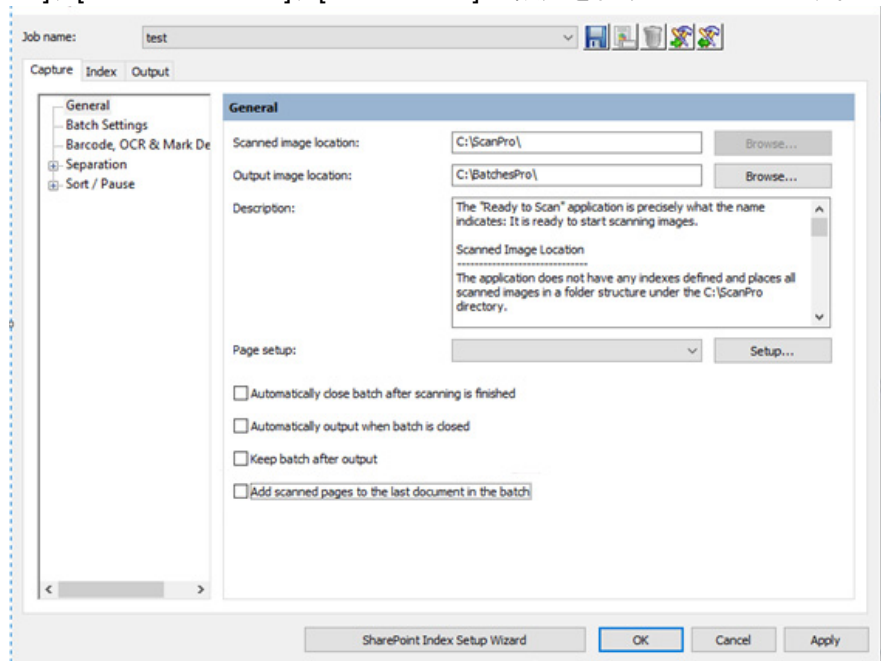
[OK] — ダイアログボックスを閉じて、入力を保存します。

[キャンセル] — 変更を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

[適用] — 変更を保存しますが、ダイアログボックスは開いたままです。

ジョブセットアップ： [スキャン] タブ

[スキャン] タブでは、[一般]、[バッチ]、[バーコード]、[OCR & マーク検知]、[セパレーション]、[スキャナー] の設定を行うことができます。

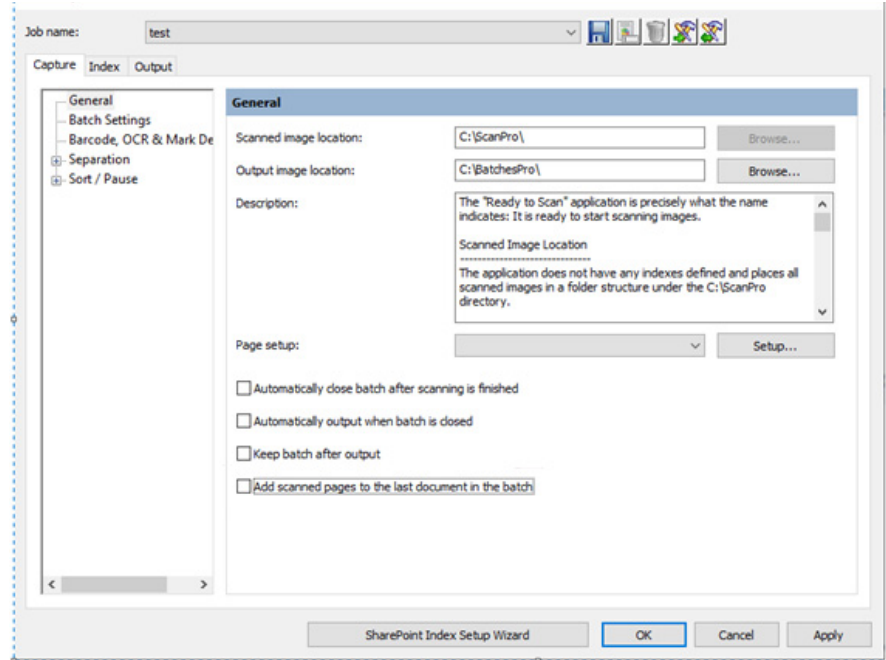


- **一般設定** は、スキャン後のイメージ保存方法を定義できます。
- **バッチ設定** — ジョブセットアップのバッチ名フォーマットを定義し、バッチドキュメントまたはドキュメントページの数に制限をかけることができます。
- **バーコード、OCR、マーク検知** — バーコード、OCR およびマーク検知を作成、変更、設定できます。
- **セパレーション** — カウント、白紙ページ、バーコードゾーン、OCR ゾーン、またはパッチコードなどを使ってバッチおよびドキュメントのセパレーションを設定できます。

- **スキャナー** — イメージアドレス機能や印字機能を持つスキャナーに対して、それらの機能を設定します。イメージアドレス、プリンタ、パッチ設定などのスキャン設定は、ページセットアップではなく、ジョブセットアップで行います。競合する設定は、デフォルトでジョブセットアップ設定になります。
- **[ソート]** — ジョブのページおよびドキュメントをソートする方法を指定できます。ソートは、複数の出力トレイを備えたスキャナーモデル（例：Kodak i5x50S）で物理的（自動的）に実行することも、手動で実行することも可能です。複数の種類のソートルールをジョブに追加できます。

一般設定 - [スキャン] タブ

[スキャン] タブの [一般] を選択して、以下の設定または変更ができます。



スキャンイメージの場所 — 選択したジョブ用にスキャンイメージが保存される現在の場所を表示します。別の場所にイメージをスキャンする場合は、[フォルダの選択] で適切な場所を選択します。

出力イメージの保存場所 — 出力イメージの最終出力先を選択できます。別の場所にイメージを出力する場合は、[フォルダの選択] で場所を選択します。

説明 — このジョブセットアップの設定についてのメモとして、重要な注意点をを入力できます。

ページ設定 — 新バッチが開かれたとき、選択済みデフォルトページ設定を行います。スキャン中、ユーザーが行うことのできるページ設定のリストも選択できます。[ページ設定を選択] ダイアログボックスを表示するには、[設定] を選択します。[アイテムを追加] と [アイテムを削除] ボタンを使用して、[使用可能なページ設定] リストから [選択したページ設定] のリストを作成します。終了したら [OK] をクリックします。

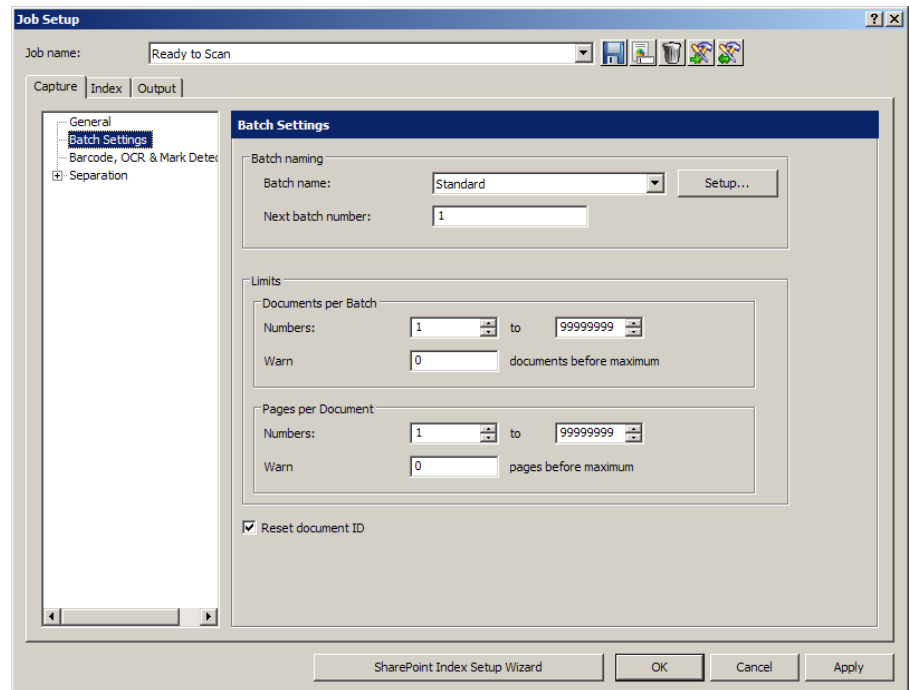
[ページ設定] ドロップダウンリストから、新しいバッチを開く時に使用されるデフォルトのページ設定を選択します。

- **スキャン後に自動的にバッチを閉じる** — 選択した場合、スキャナーの転送が停止すると、バッチエクスプローラとイメージビューアでバッチを閉じます。

- **バッチ終了時に自動的に出力** — 選択した場合、バッチを閉じた直後にバッチを出力処理します。
- **出力後にバッチを保存** — 選択した場合、スキャンイメージの場所にバッチを保存し、出力バッチも作成します。
- **スキャンしたページをバッチの最後のドキュメントに追加する** — チェックすると、それ以降にスキャンしたすべてのページがバッチの最後のドキュメントに追加されます。

バッチの設定 - [スキャン] タブ

[スキャン] タブで**バッチセットアップ**を選択すると、このジョブのバッチ命名フォーマットを定義し、バッチのドキュメント数やドキュメントのページ数の制限を設定します。たとえば、100 ドキュメントを1つのバッチとする場合、制限を設けることで、バッチ内の予想ドキュメント数と合致しない場合に警告を出すことができます。

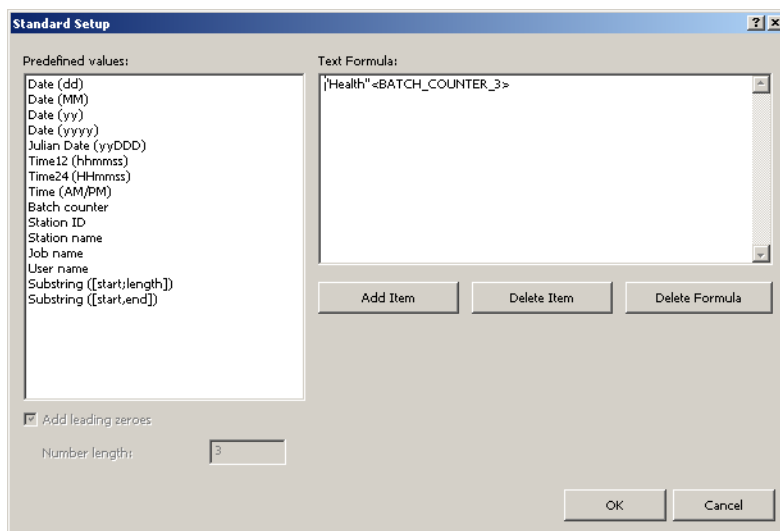


- **バッチ名の命名** — 以下の選択を行います。
 - **バッチ名** — ドロップダウンリストからバッチ名を選択します。標準的なバッチ名は、“**BatchXXX**”です。バッチ名を固定文字 “Invoices” と日付に変更する場合は、[**セットアップ**] をクリックして、[**標準セットアップ**] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスから、以下の設定を行うことができます。手順については、「**バッチ名の設定変更**」を参照してください。
 - **次のバッチ番号** — 次に作成するバッチ番号を入力します。実際のバッチ番号は、バッチ作成時に決定します。[**ジョブレベルバッチ番号設定を有効にする**] の選択が解除されている場合、値を入力できません。Kodak キャプチャプロ ソフトウェアの『**ユーザーズガイド**』の第2章「**ワークステーションのセットアップ**」を参照してください。
- [**上限 - バッチ内のドキュメント**] では、以下の項目が設定できます。
 - **数** : バッチに格納できるドキュメント数の最小値と最大値を選択します。

- **警告:** バッチが最大ドキュメント数に近くなった場合に警告するドキュメント数を入力します。スキャンがこの制限（1～2以上のドキュメント）を超えると、スキャンは停止します。
- **[上限 - ドキュメント内のページ]**— 次の項目を設定してください。
 - **数値:** ドキュメント内の最大ページ数を入力します。
 - **警告:** ドキュメントが最大ページ数に近くなった場合に警告するページ数を入力します。スキャンがこの制限（1～2ページ以上）を超えると、スキャンは停止します。
- **ドキュメント ID のリセット:** このボックスを選択すると、新規バッチ作成時にドキュメントカウンタが **0** にリセットされます。

バッチ名の設定変更

[バッチの命名] フィールドで [標準] および [セットアップ] を選択すると、[標準のセットアップ] ダイアログボックスが表示され、バッチ名に値を追加、または削除できます。



プリセット値のリストには、現在使用しているテキストの式に追加するために選択できる値が用意されます。プリセット値のリストから項目を選択して、バッチ名に必要な項目を追加できます。

たとえば、バッチにユーザ名、日付、時刻のラベルを付ける場合は、以下のように入力します。

User name, Date (dd), Date (mm), Time24 (HHmmss)

その結果、次のような名前になります。 **John Smith0409115503**。

値を追加するには：

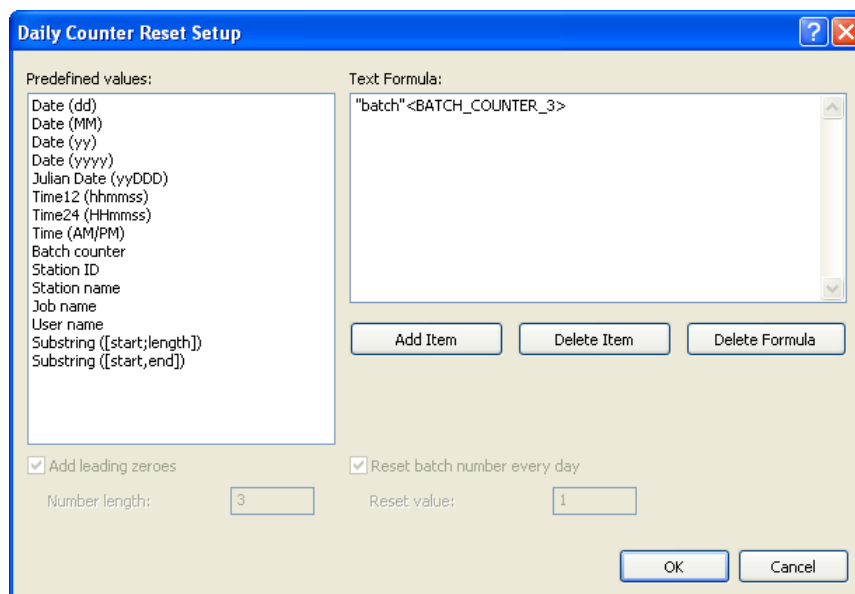
1. プリセット値のリストから、追加する項目を選択します。
2. **[項目の追加]** をクリックします。項目が式に追加されます。
 - 注記： パス名を指定する場合、上限は半角 248 文字です。
3. さらに値を追加する場合は、ステップ 1 と 2 を繰り返します。
 - 注記： **[バッチカウンタ]** 値を選択すると、**[ゼロ付き]** と **[桁数]** フィールドが表示されます。
4. 必要に応じて、**[ゼロ付き]** フィールドをクリックして、シーケンス番号の左側にゼロを追加します。

- 必要に応じて、[桁数]フィールドに値を入力して、バッチカウンタの桁数を調整します。
- 完了したら [OK] をクリックします。

注記：

- [項目の削除] をクリックすると、テキストの式の最後から項目が削除されます。
- [式の削除] をクリックすると、テキストの式がすべて削除されます。

[カウンタを毎日リセット] および **セットアップ** をバッチの命名フィールドで選択すると、[カウンタを毎日リセット] ダイアログボックスが表示され、ここではバッチ名に値を追加または削除してリセット値を選択することができます。



プリセット値のリストには、現在使用しているテキストの式に追加するために選択できる値が用意されます。プリセット値のリストから項目を選択して、バッチ名に必要な項目を追加できます。[カウンタを毎日リセット] を有効にするには、事前に定義された値の**バッチカウンタ**を選択する必要があります。バッチカウンタが選択されたら、それぞれの新しいバッチに対してカウンタが増えます。[バッチ番号を毎日リセット] を選択すると、バッチカウンタは毎日の始まりに [値をリセット] で指定された値にリセットされます。

注記：

- バッチ名の重複を避けるために、テキストの式には毎日変更される少なくとも 1 つの値が含まれる必要があります。たとえば、バッチ名に日付と増分番号のラベルを付ける場合は、以下のように入力します。

日付 (yyyy)、日付 (MM)、日付 (dd)、バッチカウンタ

その日の最初のバッチについては、結果は以下のようになります。
20120528001

2 つ目のバッチは、以下のようになります。20120528002

翌日の最初のバッチは以下のようになります。20120529001

- Kodak または Alaris のスキャナーをインプリンタとともに使用する場合は、[カウンタを毎日リセット] でも、1 日の始めにスキャナー カウントが 1 の値にリセットされます。

値を追加するには：

1. プリセット値のリストから、追加する項目を選択します。
2. **[項目の追加]** をクリックします。項目が式に追加されます。
注記：パス名を指定する場合、上限は半角 248 文字です。
3. さらに値を追加する場合は、ステップ 1 と 2 を繰り返します。
注記：**[バッチカウンタ]** 値を選択すると、**[ゼロ付き]** と **[バッチ数を毎日リセット]** フィールドが表示されます。
4. 必要に応じて、**[ゼロ付き]** フィールドをクリックして、シーケンス番号の左側にゼロを追加します。
5. 必要に応じて、**[桁数]** フィールドに値を入力して、バッチカウンタの桁数を調整します。
6. 必要に応じて、**[バッチ番号を毎日リセット]** をクリックし、シーケンス番号を毎日の始まりに特定の値にリセットします。
7. 必要に応じて、**[値をリセット]** フィールドに値を入力し、毎日の始まりに使用する最初のシーケンス番号を指定します。

注記：

- **[項目の削除]** をクリックすると、テキストの式の最後から項目が削除されます。
- **[式の削除]** をクリックすると、テキストの式がすべて削除されます。

バーコード、OCR & マーク検知の設定 — [スキャン] タブ

バーコード、OCR、マーク検出設定の構成については、「4 バーコード、OCR & マーク検知の設定」を参照してください。

セパレーションの設定 — [スキャン] タブ

[スキャン] タブの **[セパレーション]** オプションでは、このジョブでのバッチとドキュメントの分割方法を指定できます。バッチにセパレータを追加する方法がいくつかあります。キャプチャプロ ソフトウェアで、セパレーション設定を作成するために使用できるオプションは以下のとおりです。

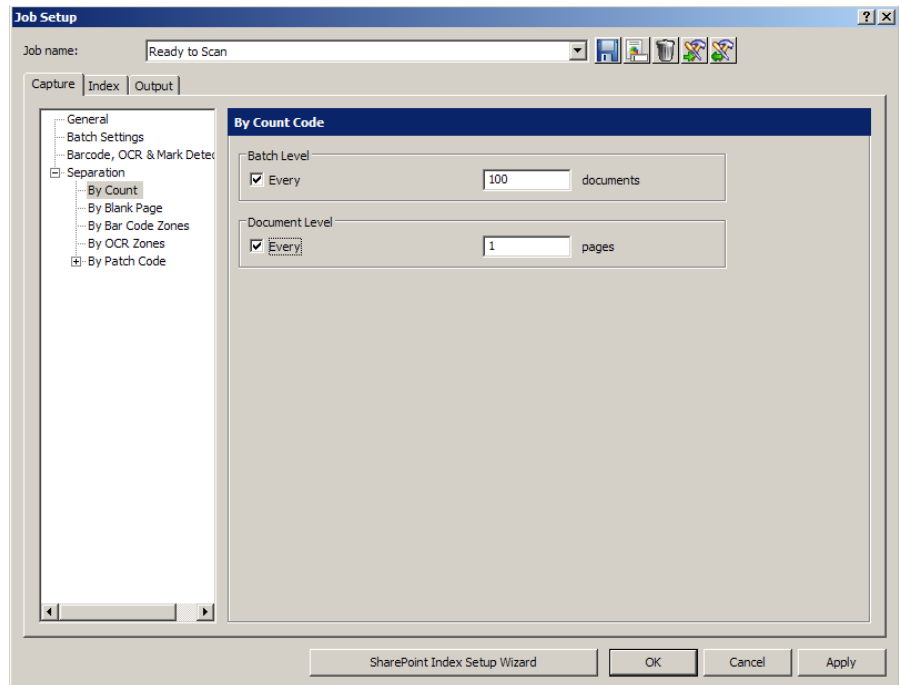
- バーコードゾーンを使用する（「4 バーコード、OCR & マーク検知の設定」を参照）
- OCRゾーンを使用する（「4 バーコード、OCR & マーク検知の設定」を参照）
- パッチコード 2、3、T のいずれかを使用する（「3 パッチのセットアップ」を参照）
- バッチ内のドキュメントやページ数のカウントを使用する方法（**[カウントを使用]** オプションを設定）
- 白紙ページを使用する方法（**[白紙ページを使用]** オプションを設定）
- **[ドキュメント]** > **[新規]** または **[バッチ]** > **[次]** を選択する方法
- スキャン中に **Enter** キーを押す
- バッチエクスプローラ内のページファイルを右クリックして、**[分割]** を選択する方法

以降のセクションでは、キャプチャプロ ソフトウェアを使用して、ページカウントによってドキュメントまたはバッチを自動的に分割する方法とステップ、さらに白紙ページセパレーションの使用方法を説明します。

カウントを使用

[スキャン]タブの[カウントを使用]には、バッチ毎のドキュメント数と、ドキュメント毎のページ数を入力できます。

1. [バッチレベル] および / または [ドキュメントレベル] を選択します。

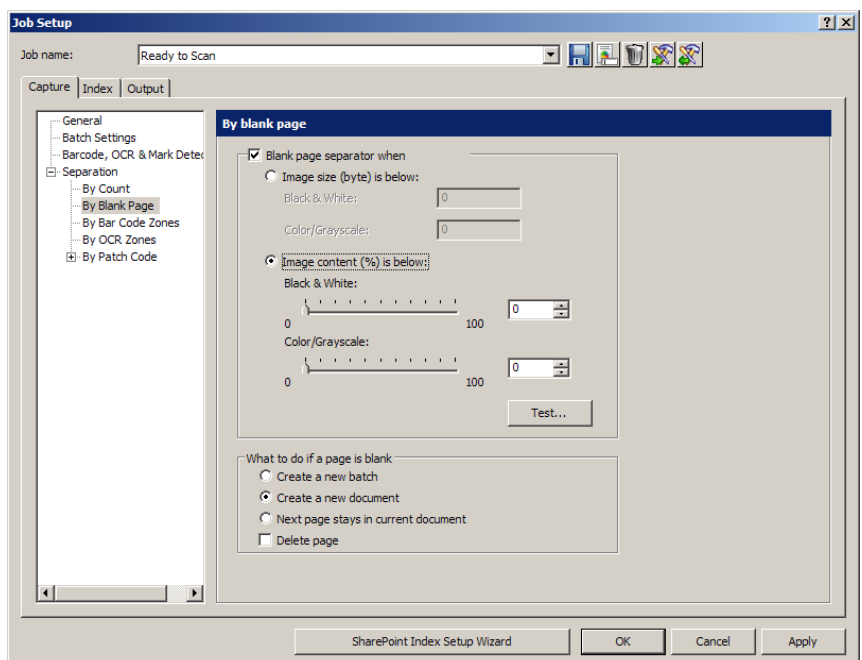


2. バッチレベルの [各] をクリックし、新規バッチを自動作成する条件としてバッチ内のドキュメント数の上限を入力します。
3. ドキュメントレベルの [各] をクリックし、新規ドキュメントを自動作成する条件として、ドキュメント内のページ数の上限を入力します。

白紙ページを使用

スキャン時に、セパレータとして白紙ページを挿入できます。キャプチャプロソフトウェアでは白紙ページを認識し、これらを使用して、新規バッチや新規ドキュメントの作成、またはドキュメントへのページ添付を実行できます。

この方法を使用するには、[白紙ページによる分割] オプションを有効にして、該当する設定を選択します。



白黒とカラー/グレーのイメージを同時にスキャンする場合、キャプチャプロソフトウェアは白黒、またはカラーイメージを使用して白紙ページを認識できます。白紙ページを検知すると、ページの4つのイメージ（カラー表面、カラー裏面、白黒表面、白黒裏面）がすべて削除されるか、新規/現在のドキュメントに添付されます（設定によります）。

ページの表面と裏面のイメージサイズ（バイト）が、設定した容量を下回っている場合、そのページは白紙ページと認識されます。白紙ページと認識されなかった場合は、セパレータとして機能しません。

注記： 設定した値でテストし、ソフトウェアで白紙ページがセパレータとして検出されることを確認することが推奨されます。手順については、「設定のテスト」を参照してください。

白紙ページイメージセパレータ — 白紙ページによるセパレーションを有効にします。

- **イメージのサイズ（バイト）** — 白紙ページイメージのサイズ（バイト）に基づいて白紙ページセパレーションを行います。ここに指定した値未満のイメージは白紙ページとみなされます。スキャンするイメージタイプ（白黒、カラー/グレースケール）ごとに、白紙として認識させることができる最大容量（バイト）を指定します。

このイメージサイズは、スキャナーからの raw イメージに対して処理が実施される前にチェックされます。

- **白黒**：白黒イメージの最大イメージサイズをバイトで指定します。デフォルトでは、白黒イメージには 3000 バイトが推奨されます。
- **カラー/グレースケール**：カラー/グレースケールイメージの最大サイズをバイトで指定します。1,000,000 バイト（1MB）までの最大イメージサイズを指定して、カラー/グレースケールイメージをスキャン時に白紙セパレーションを行うことができます。100,000 バイトが推奨されます。

- **イメージの内容（%）** — 白紙ページイメージ内のイメージの内容の割合に基づいて白紙ページセパレーションを行います。

注記： スキャンするページのサイズが異なる場合、小さいページはデータを含んでいても、白紙イメージバイト数を下回る場合があります。この場合は、バイトサイズではなく、**内容の割合（%）**で白紙イメージを記述するとよいでしょう。

- **白黒**：白黒イメージの制限値（%）を入力します。
- **カラー/グレースケール**：カラー/グレースケールイメージの制限値（%）を入力します。

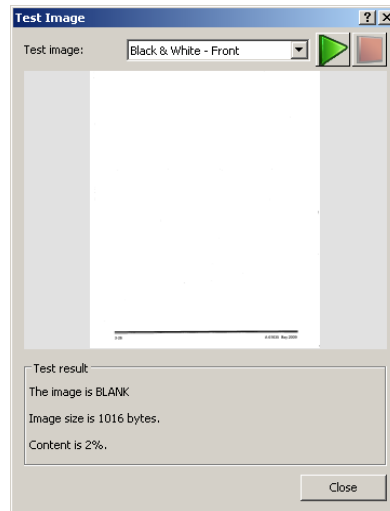
テスト — [テストイメージ] ダイアログボックスを開きます。ここでは、設定値と比較して白紙をセパレータとして使用できるように、白紙ページのスキャンとテストを行います。このオプションを使って、ソフトウェアがページを白紙と認識するかどうかを検証してください。詳細については、「設定のテスト」を参照してください。

[ページが白紙の場合] — ソフトウェアが白紙ページを認識した場合に実行する処理を選択します。

- **[新規バッチの作成]** — 白紙ページを認識すると、新規バッチを作成します。
- **[新規ドキュメントを作成する]** — 白紙ページを認識すると、新規ドキュメントを作成します。
- **[次のページは現在のドキュメントに入れる]** — 白紙ページを削除します。
- **[ページの削除]** — 白紙ページを削除します。

設定のテスト

1. 白紙ページセパレーションをテストするドキュメントの一部をスキャナーに配置します。
2. **[テスト]** をクリックすると、**[テストイメージ]** ダイアログボックスが表示されます。



3. **[スキャン]** ボタンをクリックします。結果が **[テスト結果]** ボックスに表示されます。
 - このイメージは：イメージが**白紙**か**白紙なし**かを示します。
 - イメージが次のサイズ（バイト）：テストイメージのサイズをバイトで示します。
 - イメージの内容が次の - %：テストイメージのコンテンツの割合（パーセンテージ）です。
4. **[イメージは - (バイト) です]**、**[コンテンツは - (%) です]** および / または両方のテスト結果に表示された値を確認して、**[閉じる]** をクリックします。
5. 結果に基づき、必要に応じて入力した値を再度調整し、**[OK]** をクリックします。

ソートの設定 — [スキャン] タブ

[ジョブセットアップ] 画面の [スキャン] タブにある [ソート] オプションでは、ジョブセットアップでページまたはドキュメントをソートする方法を指定できます。ソート機能として、複数の出力トレイが備えられたスキャナーモデル（例：Kodak i5x50S スキャナー）での物理的なソートだけでなく、手動ソートもサポートされます。

ソートの結果、スキャナー出力で次のように異なる処理が行われます。

- ソートされたページまたはドキュメントが、異なるトレイに給紙されます（物理ソートの場合）。
- スキャナーが停止し、ソートされたページ / ドキュメントに関する処理手順がユーザーに表示されます（手動ソートの場合）。

キャプチャプロ ソフトウェアで、ソート設定を作成するために使用できるオプションは以下のとおりです。

1. 重送を使用
2. サイズを使用
3. パッチコードを使用

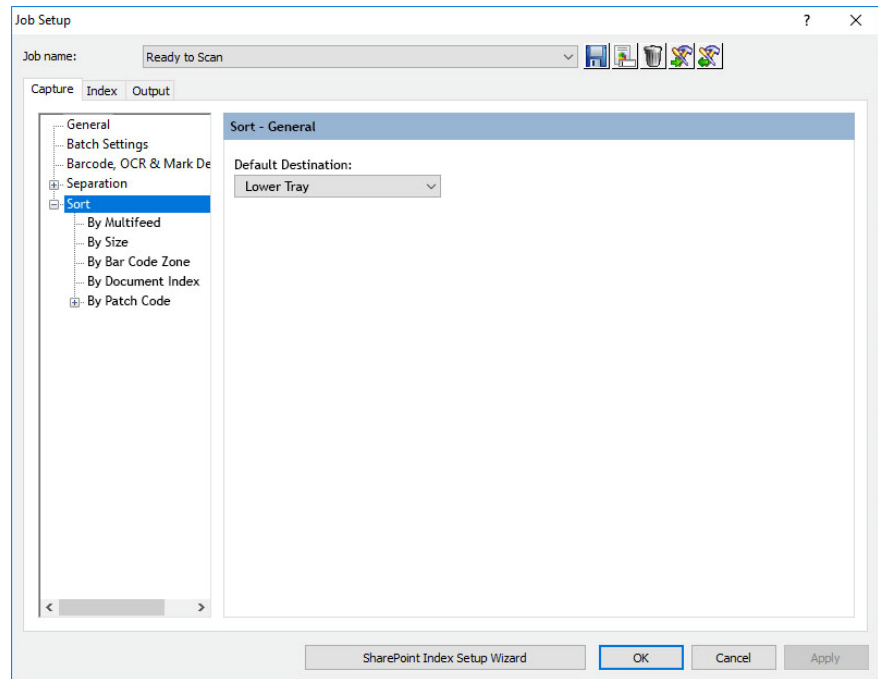
4. バーコードを使用

5. ドキュメントインデックスを使用

複数のソートオプションが構成されている場合、ソート順序は上記のようになります。ドキュメントインデックス以外のすべてのソートオプションでは、ページごとのソートが行われます。ドキュメントインデックスを使用するソートでは、ドキュメント全体が定義済みの容器にソートされるか、手動操作の対象になります。

物理ソートに対応しているスキャナーでソートが構成済みの場合は、[ソート]-[一般] ページで [デフォルトの出力先] を定義する必要があります。

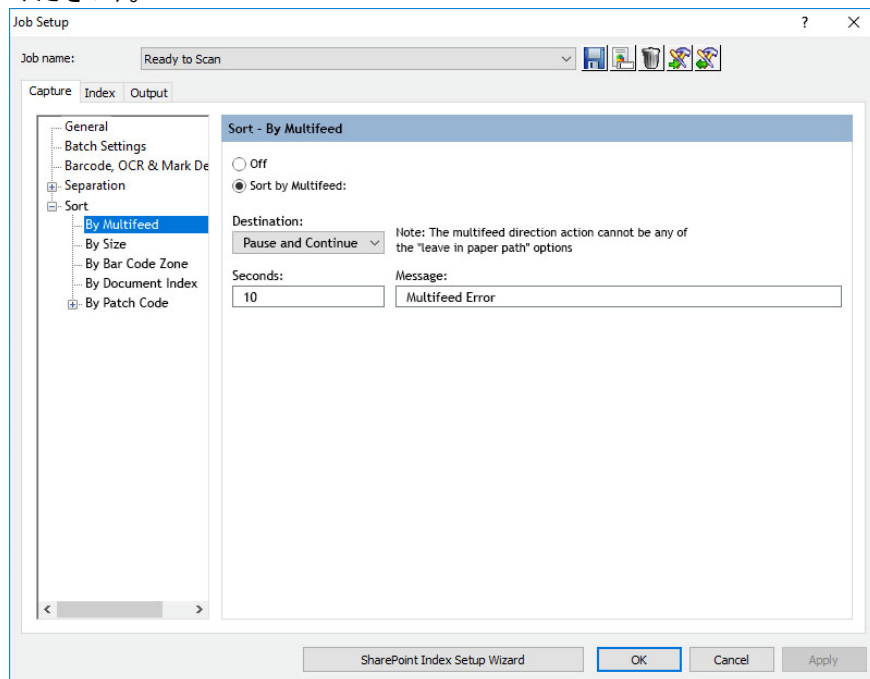
注記： 物理ソートに対応しているスキャナー モデル（例：Kodak i5x50S スキャナー）でのみ、用紙の出力先（デフォルトの用紙トレイ）が有効になります。



以降のセクションでは、キャプチャプロ ソフトウェアを使用して、ページまたはドキュメントを自動的にソートする方法と手順について説明しています。

重送を使用

[スキャン] タブの左パネルで [重送を使用するソート] を選択します。このソート オプションでは、スキャナー ドライバで重送検出を有効にする必要があります（ご使用のスキャナーの TWAIN または ISIS マニュアルを参照してください）。



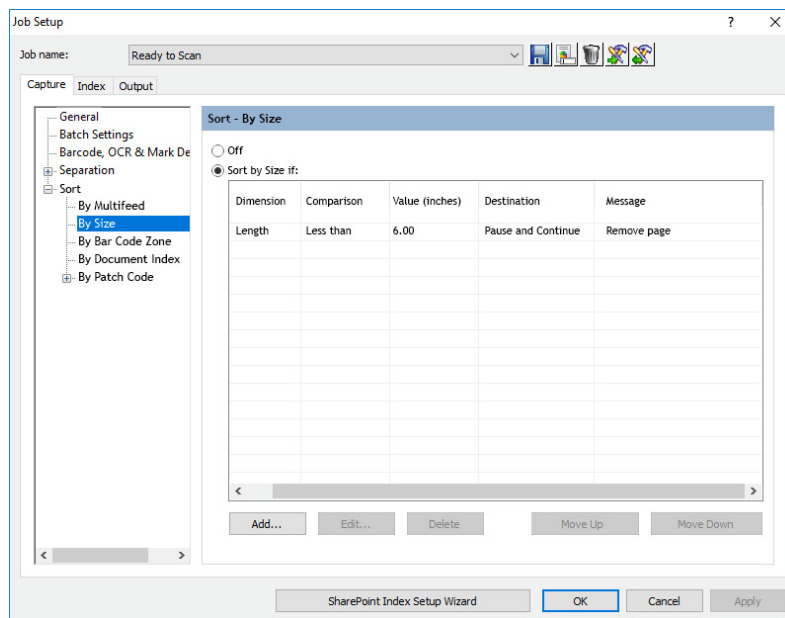
重送を使用するソートを有効にするには、[重送を使用するソート] ラジオ ボタンを選択します。物理ソートに対応しているスキャナー（例：Kodak i5x50S スキャナー）の場合は、スキャナーでサポートされるトレイが [出力先] フィールドに一覧表示され、[メッセージ] フィールドは非表示になります。物理ソートに対応していないスキャナーの場合は、[出力先] ドロップダウンに [一時停止して続行] と [停止] が表示され、[メッセージ] フィールドは有効な状態で表示されます。[一時停止して続行] を選択した場合、スキャンを一時停止してからスキャナーを再開するまでの時間を示す秒数を定義する必要があります。

スキャン中：重送を使用するソートが有効な状態で、スキャナーで重送が検出されると、次の処理が行われます。

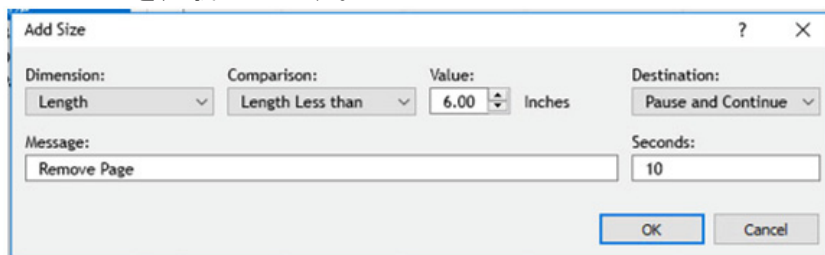
- 物理ソートに対応しているスキャナーの場合、[物理ソート] で定義された出力先トレイにページが給紙され、スキャンが続行されます。
- 手動ソートを行っており、[出力先] で [一時停止して続行] を選択した場合はスキャンが停止し、指定した秒数の間、構成済みのメッセージが表示された後、メッセージが終了します。その後、スキャンが再開されます。
- 手動ソートを行っており、[出力先] で [停止] を選択した場合はスキャンが停止し、構成済みのメッセージが表示されます。ボタンのオプションには、[スキャンの続行] または [停止] があります。

サイズを使用

[スキャン] タブの左パネルで [サイズを使用するソート] を選択します。このオプションを有効にするには、[次の場合にサイズを使用してソート] ラジオボタンを選択し、[追加] を選択して、サイズのルールを構成します。この画面ではテーブルの各行に、ルールを適用するページサイズと、ページの給紙先（物理ソートの場合）、または表示されるメッセージとスキャナーの動作（手動ソートの場合）が記載されます。



[追加] — [サイズの追加] ダイアログボックスが表示され、サイズのソートルールを定義できます。



- [寸法]: [長さ] または [幅] (サポートされている場合) を選択します。物理ソートに対応しているスキャナー (例: i5x50S) の場合、**長さ** を使用するソートがサポートされます。
- [比較]: [より小さい]、[より大きい]、[次の間の値] のいずれか。
- [値]: ページをソートするインチ /mm の値を入力します。
- [出力先]、[メッセージ]、および [秒]: 物理的なソートに対応しているスキャナーの場合 (例: Kodak i5x50S スキャナー)、[出力先] フィールドにはスキャナーでサポートされているトレイが一覧表示され、[メッセージ] フィールドは非表示になります。物理ソートに対応していないスキャナーの場合は、[出力先] ドロップダウンに [一時停止して続行] と [停止] が表示され、[メッセージ] フィールドは有効な状態で表示されます。[一時停止して続行] を選択した場合、スキャンを一時停止してからスキャナーを再開するまでの時間を示す秒数を定義する必要があります。
- [OK]: ルールを追加して、[サイズを追加] ダイアログボックスを閉じます。

- **[キャンセル]**：ルールを追加せずに**[サイズを追加]**ダイアログボックスを閉じます。

注記：物理ソートに対応しているスキャナーの場合は、サイズを使用するソートルールを最大2つ定義できます。

[編集]— 選択したルールを開いて、**[サイズの追加]**ダイアログボックスで編集できます。

[削除]— 選択したルールを削除します。

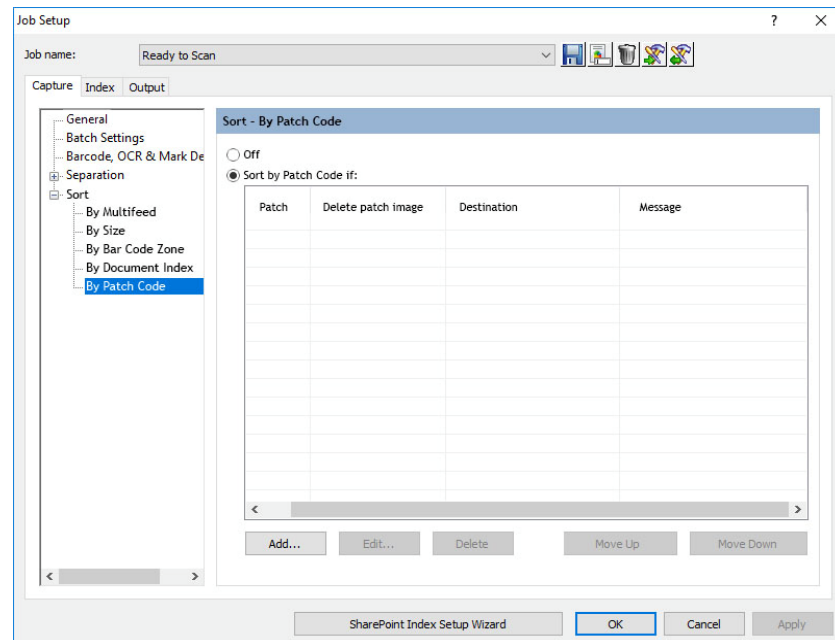
[上に移動]/[下に移動]— 選択したルールをリストで上または下に移動します。適合する最初のルールが適用されるため、表示順序が重要になります。

スキャン中：サイズを使用するソートが有効な状態で、サイズルールに適合した場合は、次の処理が実行されます。ソートルールに合わせて、以降のページが評価されます。

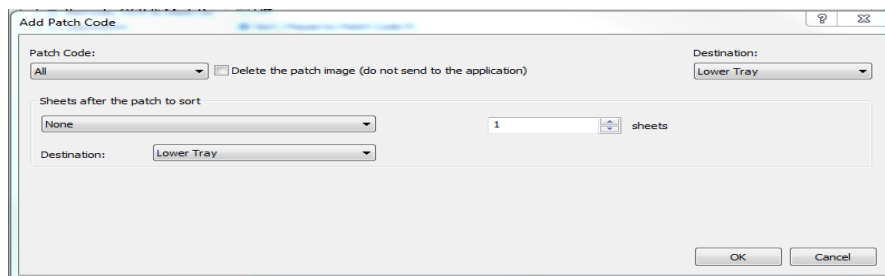
- 物理ソートに対応しているスキャナーの場合、物理ソート用に定義された出力先トレイにページが給紙され、スキャンが続行されます。
- 手動ソートを行っており、**[出力先]**で**[一時停止して続行]**を選択した場合はスキャンが停止し、指定した秒数の間、構成済みのメッセージが表示された後、メッセージが終了します。その後、スキャンが再開されます。
- 手動ソートを行っており、**[出力先]**で**[停止]**を選択した場合はスキャンが停止し、構成済みのメッセージが表示されます。ボタンのオプションには、**[スキャンの続行]**または**[停止]**があります。

パッチコードを使用

[スキャン]タブの左パネルで**[パッチコードを使用するソート]**を選択します。このオプションを有効にするには、**[次の場合にパッチコードを使用するソート]**を選択します。**[追加]**を選択して、パッチコードルールを構成します。ソートルールでは、パッチコードシートをどのように処理するかが定義されます。この画面ではテーブルの各行に、ルールを適用するパッチコードと、パッチコードイメージが維持されるかどうか、パッチコードページの給紙先（物理ソートの場合）、または表示されるメッセージとスキャナーの動作（手動ソートの場合）が記載されます。



[追加] — [パッチコードの追加] ダイアログボックスが表示されます。



- [パッチコード]: 物理ソートに対応しているスキャナーの場合、[パッチコード] プルダウンには、[すべて]、[T]、[1]、[2]、[3]、[4 または トグル]、[6]、[10]、[11]、[12]、[13]、[14]、[15] が含まれます。物理ソートに対応していないスキャナーの場合、プルダウンには [1]、[2]、[3]、[T] が含まれます。
 - [パッチイメージの削除]: パッチコードのイメージを削除する場合は、このオプションを選択します。
 - [出力先]、[メッセージ]、および [秒]: 物理的なソートに対応しているスキャナーの場合 (例: Kodak i5x50S スキャナー)、[出力先] フィールドにはスキャナーでサポートされているトレイが一覧表示され、[メッセージ] フィールドは非表示になります。物理ソートに対応していないスキャナーの場合は、[出力先] ドロップダウンに [一時停止して続行] と [停止] が表示され、[メッセージ] フィールドは有効な状態で表示されます。[一時停止して続行] を選択した場合、スキャンを一時停止してからスキャナーを再開するまでの時間を示す秒数を定義する必要があります。
 - [パッチソート後のシート] — パッチシートの直後に、どの用紙が設定した送り先に送られるのかを選択できます。この機能は物理的なソート (例: Kodak i5x50S) のみで利用できます。
 - (なし)
 - 指定数: シートの正確な数を 1 ~ 99 の値から選択できます。
 - このパッチまですべて: このルールのパッチが検知された場合、その次の原稿まで、すべての原稿が出力先に送信されることを示しています。
- 注記: このオプションは、ソート対象のドキュメントセットについて連続したページ数が不明な場合に使用します。この場合、このパッチタイプのパッチシートを 2 枚取得し、ソートするページの前に 1 枚のパッチシートを、ソートするページの後もう 1 枚のパッチシートを配置します。
- 以下すべて: このパッチシートが出力先に送信されてから、スキャンセッションが終了するまでのすべての原稿を示します。

注記:

- 進行中のソート処理は完了するまで続行されます。そのため、特定数の原稿をソートするルールがあり、その特定数の原稿がソートされる前に第 2 のソートルールの条件が満たされた場合でも、第 2 のソートルールは無視されます。
- ソートは、次のいずれかのイベントによって終了します。スキャンの停止、スキャンの停止を招く重送、またはスキャンの停止を招く紙詰まり。

出力先：このパッチ ソート ルールが適用される各シートの排紙先となる出力場所です。

注記：[出力先]は、[パッチ処理後のシートをソート]が[(なし)]に設定されていない場合にのみ利用できます。

[OK]：ルールを追加して、[パッチコードの追加]ダイアログ ボックスを閉じます。

[キャンセル]：ルールを追加せずに、[パッチコードの追加]ダイアログ ボックスを閉じます。

[編集]— 選択したルールを開いて、[パッチコードの追加]ダイアログ ボックスで編集できます。

[削除]— 選択したルールを削除します。

[上に移動]/[下に移動]— 選択したルールをリストで上または下に移動します。適合する最初のルールが適用されます。

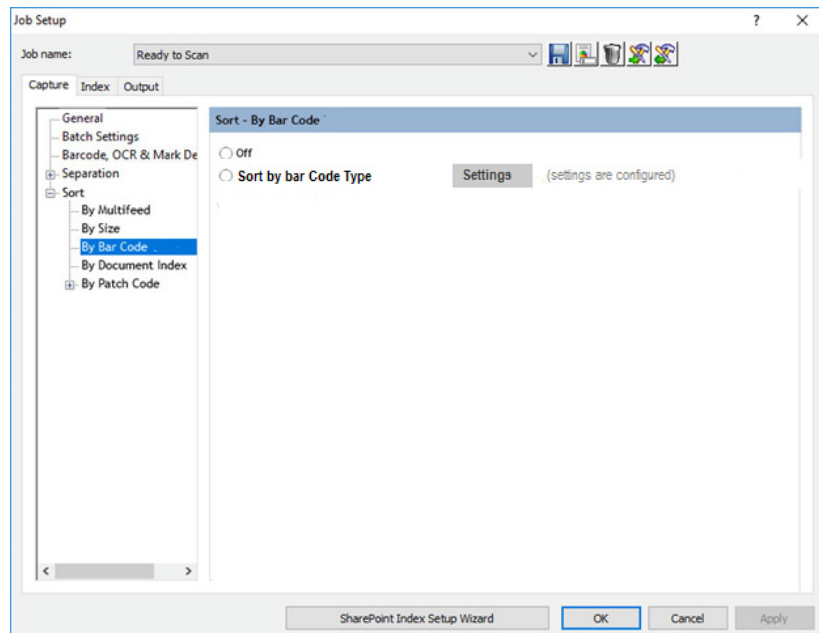
スキャン中：パッチコードを使用するソートが有効な状態で、サイズルールに適合した場合は、次の処理が実行されます。ソートルールに合わせて、以降のページが評価されます。

- 物理ソートに対応しているスキャナーの場合、物理ソート用に定義された出力先トレイにページが給紙され、スキャンが続行されます。
- 手動ソートを行っており、[出力先]で[一時停止して続行]を選択した場合はスキャンが停止し、指定した秒数の間、構成済みのメッセージが表示された後、メッセージが終了します。その後、スキャンが再開されます。
- 手動ソートを行っており、[出力先]で[停止]を選択した場合はスキャンが停止し、構成済みのメッセージが表示されます。ボタンのオプションには、[スキャンの続行]または[停止]があります。

バーコードを使用

[スキャン] タブの左パネルで[バーコードを使用するソート]を選択します。ソートルールでは、バーコード付きのページをどのように処理するかが定義されます。

物理的なソートに対応しているスキャナー（例：Kodak i5x50S スキャナー）では、次のダイアログ ボックスが表示されます。

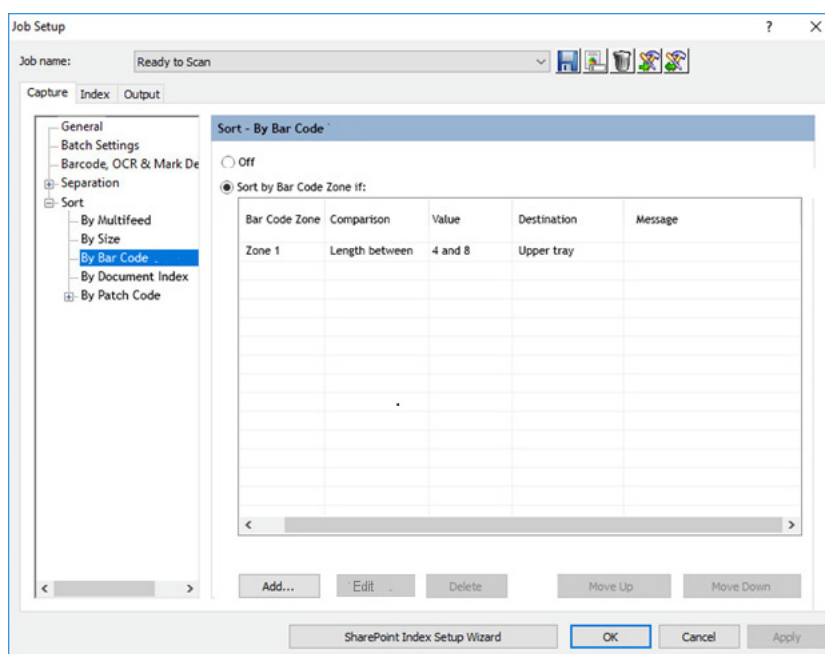


[**バーコードタイプを使用するソート**] を選択します。TWAIN ドライバの UI が表示され、バーコードを使用するソートルールをセットアップできます。

TWAIN ダイアログ ボックスでバーコードルールを追加して、[**OK**] を選択すると、[**バーコードタイプを使用したソート**] は有効なまま維持され、[**設定**] ボタンの横に [(**設定が構成済み**)] というテキストが表示されます。TWAIN ダイアログ ボックスでバーコードルールを保存しない場合は、何も構成されていないため、[**オフ**] ラジオ ボタンが自動的に選択されます。バーコードを使用するソートルールが 1 個以上保存されている場合にのみ、[**設定**] ボタンが有効になります。TWAIN ドライバの [**バーコードを使用するソート**] タブを再度表示するには、[**設定**] ボタンを使用します。

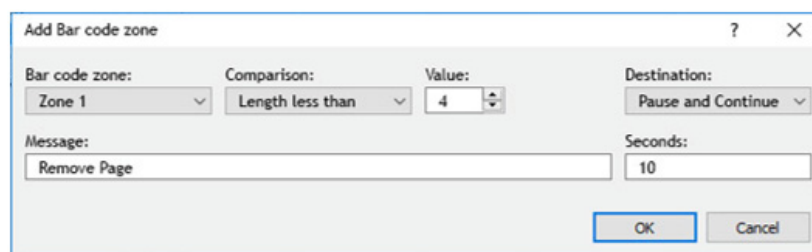
TWAIN UI でセットアップしたバーコードを使用するソートは、ご使用のスキナータイプの [**ジョブセットアップ**] 定義に保存されます。

物理的なソートに対応していないスキナーの場合は、次のダイアログ ボックスでバーコードのソートルールをセットアップできます。



[**次の場合にバーコードゾーンを使用してソート**] を選択し、1 つ以上の事前定義済みバーコードゾーンに基づいて、手動のソートルールをセットアップします。[**追加**] を選択して、バーコードを使用するソートルールを構成します。これらのルールは、ソートに対応していないスキナーの [**ジョブセットアップ**] 定義に保存されます。このダイアログ ボックスでは、テーブルの各行に、ルールが適用されているバーコードゾーン、ソート条件、表示されるメッセージが記載されています。

[**追加**] — [**バーコードゾーンの追加**] ダイアログ ボックスが開きます。



- [**バーコードゾーン**] : [**バーコードセットアップ**] で定義されたバーコードゾーンの一覧です。
- [**比較**] : リストからオプションを選択します。[**比較**] オプションの選択内容に応じて、次のフィールド [**値**] のオプションが次のように変化します。

| [比較] の選択項目 | [値] の入力項目 |
|---|--------------------------|
| 次の間の値 次の間の長さ | 最小および最大の値または長さを入力するための制御 |
| 次を含む値 次を含まない値 次で開始される値 次で終了する値 | テキストボックス |
| 次と等しい長さ 次と等しくない長さ 次より短い長さ 次より大きい長さ 次に等しい値 次と等しくない値 次より小さい値 次より大きい値 | 1つの長さまたは値の制御 |

- [**出力先**] : [**一時停止して続行**] または [**停止**]。
- [**メッセージ**] : スキャナーのオペレータに表示するメッセージを入力します (例 : 「バーコードページを取り除いてください」)。
- [**秒**] : [**出力先**] で [**一時停止して続行**] を選択した場合、スキャンを一時停止してからスキャナーを再開するまでの時間を示す**秒数**を定義する必要があります。
- [**OK**] : ルールを追加して、[**バーコードゾーンの追加**] ダイアログボックスを閉じます。
- [**キャンセル**] : ルールを追加せずに、[**バーコードゾーンの追加**] ダイアログボックスを閉じます。

[**編集**] — 選択したルールを開いて、[**バーコードゾーンの追加**] ダイアログボックスで編集できます。

[**削除**] — 選択したルールを削除します。

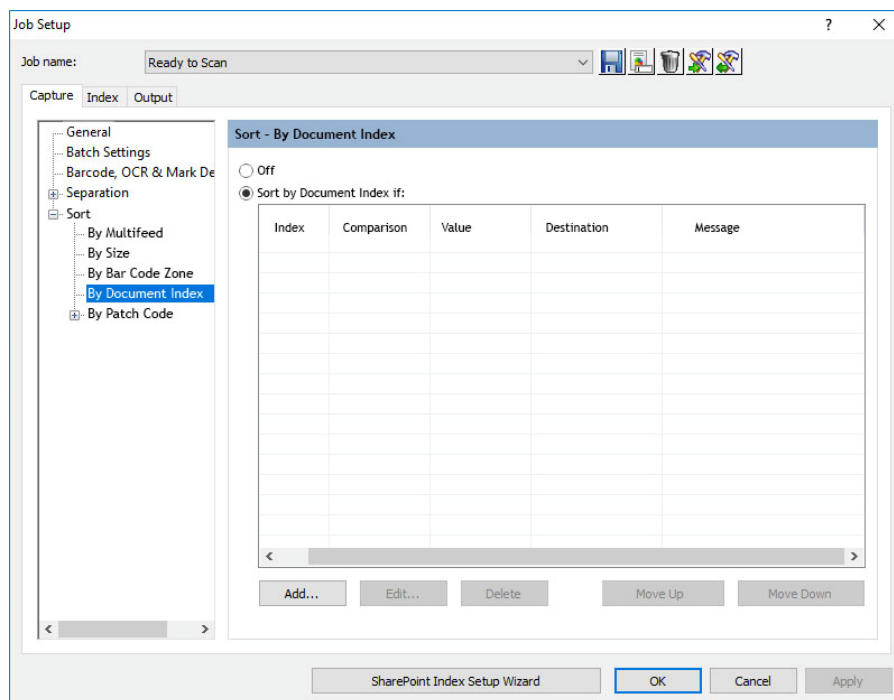
[**上に移動**]/[**下に移動**] — 選択したルールをリストで上または下に移動します。適合する最初のルールが適用されます。

スキャン中 : バーコードを使用するソートが有効な状態で、バーコードルールに適合した場合は、次の処理が実行されます。ソートルールに合わせて、以降のページが評価されます。

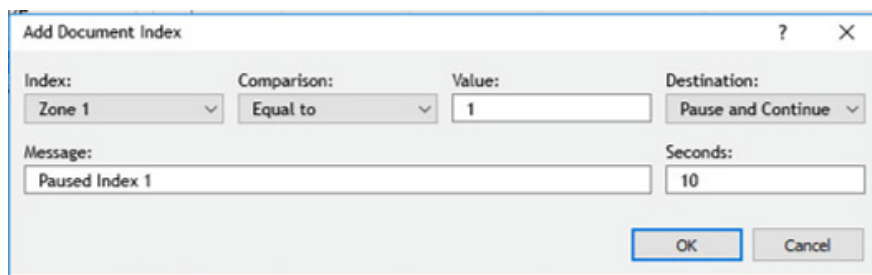
- 物理ソートに対応しているスキャナーの場合、物理ソート用に定義された**出力先**トレイにページが給紙され、スキャンが続行されます。
- 手動ソートを行っており、[**出力先**] で [**一時停止して続行**] を選択した場合はスキャンが停止し、指定した秒数の間、構成済みのメッセージが表示された後、メッセージが終了します。その後、スキャンが再開されます。
- 手動ソートを行っており、[**出力先**] で [**停止**] を選択した場合はスキャンが停止し、構成済みのメッセージが表示されます。ボタンのオプションには、[**スキャンの続行**] または [**停止**] があります。

ドキュメントインデックスを使用

[スキャン] タブの左パネルで [ドキュメント インデックスを使用するソート] を選択します。[追加] を選択して、ドキュメント インデックス ルールを構成します。この画面ではテーブルの各行に、ルールを適用するインデックスと、比較内容、比較に使用される値、ページの給紙先（物理ソートの場合）、または表示されるメッセージとスキャナーの動作（手動ソートの場合）が記載されます。



[追加] — [ドキュメント インデックスの追加] ダイアログ ボックスが表示されます。



- [インデックス]: 定義済みのドキュメントインデックスフィールドのリストです。
- [比較]: リストからオプションを選択します。[比較] オプションの選択内容に応じて、次のフィールド [値] のオプションが次のように変化します。

| [比較] の選択項目 | [値] の入力項目 |
|--|------------------|
| 空である 次の値である | [値] フィールドが表示されない |
| 次の間の値である | 高い値と低い値を入力 |
| 次に等しい 次と等しくない 次より小さい 次より大きい 次を含む | 値を 1 つ入力 |

- [出力先]、[メッセージ]、および[秒]：物理的なソートに対応しているスキャナーの場合（例：Kodak i5x50S スキャナー）、[出力先]フィールドにはスキャナーでサポートされているトレイが一覧表示され、[メッセージ]フィールドは非表示になります。物理ソートに対応していないスキャナーの場合は、[出力先]ドロップダウンに[一時停止して続行]と[停止]が表示され、[メッセージ]フィールドは有効な状態で表示されます。[一時停止して続行]を選択した場合、スキャンを一時停止してからスキャナーを再開するまでの時間を示す秒数を定義する必要があります。
- [OK]：ルールを追加して、[ドキュメントインデックスの追加]ダイアログボックスを閉じます。
- [キャンセル]：ルールを追加せずに[ドキュメントインデックスの追加]ダイアログボックスを閉じます。

[編集] — 選択したルールを開いて、[ドキュメント インデックスの追加]ダイアログ ボックスで編集できます。

[削除] — 選択したルールを削除します。

[上に移動][下に移動] — 選択したルールをリストで上または下に移動します。適合する最初のルールが適用されます。

スキャン中: ドキュメント インデックスを使用するソートが有効な状態で、ドキュメント インデックス ルールに適合した場合：

- 物理ソートに対応しているスキャナーの場合、物理ソート用に定義された出力先トレイにドキュメント インデックスの付いたページが給紙されます。スキャンが続行されます。
- 手動ソートを行っており、[出力先]で[一時停止して続行]を選択した場合はスキャンが停止し、指定した秒数の間、構成済みのメッセージが表示された後、メッセージが終了します。その後、次のページがスキャンされます。
- 手動ソートを行っており、[出力先]で[停止]を選択した場合はスキャンが停止し、構成済みのメッセージが表示されます。ボタンのオプションには、[スキャンの続行]または[停止]があります。

注記： 他のすべてのソート オプションでは、「ソート」される（出力先トレイに給紙される）ページは、ルールに適合した単一のページになります。ドキュメント インデックスを使用するソートでは、ドキュメント全体（キャプチャ プロで定義）がソート ルールによる影響を受けます。ドキュメントには 1 枚以上のページを含めることができます。ルールに適合しないドキュメント インデックスが検出されるまで、これらのページが出力先トレイに給紙されます。ルールに適合しないドキュメント インデックスが検出されると、スキャンされたページが通常の出先トレイに出力されます。

ジョブ セットアップ： [インデックス] タブ

インデックス作成を利用すると、ドキュメントレベルとバッチレベルで、イメージのスキャン/出力作業にデータ処理機能を追加できます。

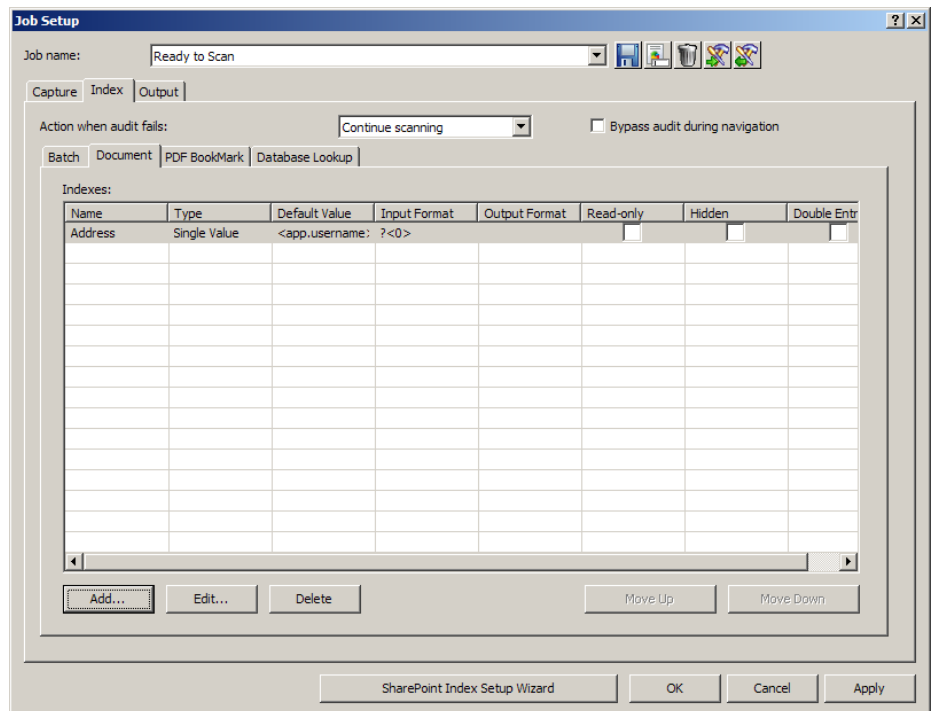
OCR ゾーン、バーコードゾーン、マーク検知ゾーンの設定に含まれているメタデータの精度を確認するようにインデックス式を設定できます。OCR、バーコード、またはマーク検知でデータの読み取りエラーが発生した場合は、インデックス式によりエラーが捕捉され、スキャンを停止できます。

メタデータに基づいて、別の場所にイメージを出力するようにインデックス式をセットアップすることもできます。

- 入力フォーマットの作成については、この項の後半の「入力フォーマット」を参照してください。
- 出力フォーマットの作成については、この項の後半の「出力フォーマット」を参照してください。
- SHAREPOINT 出力用にインデックスを設定する方法については、この項の後半の「SHAREPOINT のインデックスセットアップウィザードの使用」を参照してください。

[ジョブセットアップ] ダイアログボックスの [インデックス] タブでは、バッチレベルとドキュメントレベルでインデックスフィールドを定義できます。バッチレベルとドキュメントレベルのインデックスフィールドの設定方法は同じです。

[インデックス] タブのフィールドについて以下に説明します。



インデックス監視中に異常があった場合 — インデックス監視中に異常が発生した場合のスキャナーが実行するアクションを選択します。

- **スキヤンの続行**： 不正なインデックス値が見つかった場合でも、スキヤンが続行します。
- **スキヤンの中止**： 不正なインデックス値が見つかった場合、ただちにスキヤンを中止し、自動的にインデックスの編集モードに移行します。

ナビゲーション中はインデックスの監視をしない — 選択すると、バッチエクスプローラでドキュメントのナビゲーション中は監視機能を無効にします。ここで「監視」は、すべてのインデックス値が入力/出力フォーマットに適合していることを保証するための検証システムのことです。

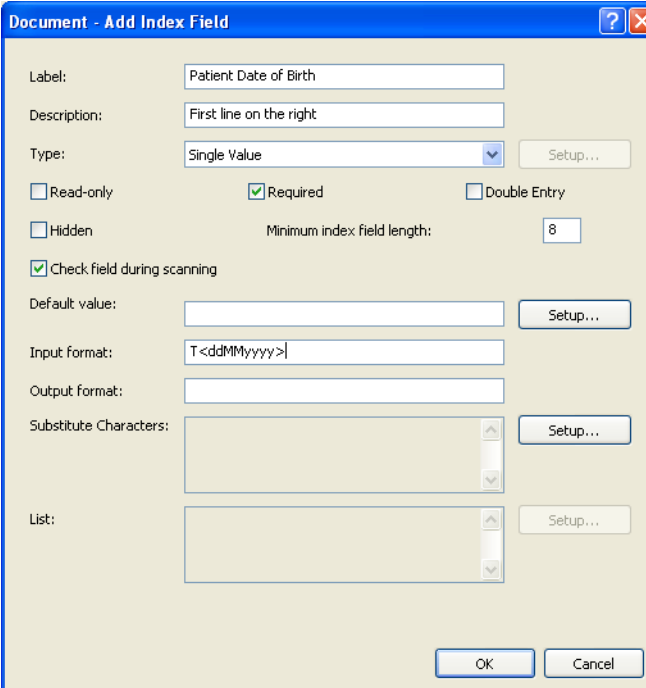
インデックスフィールドには、各インデックスにセットアップする次の値が表示されます。名前、タイプ、デフォルト値、入力フォーマット、出力フォーマット、読み込み専用、および非表示。以下のボタンを使用して、リスト内のフィールドの値を編集、削除し、フィールドを上下に移動、または新しい値の追加ができます。

- **追加**：ドキュメントのインデックスフィールドを作成する [ドキュメントインデックスフィールドの追加] ダイアログボックス、またはバッチにフィールドを作成する [バッチインデックスフィールドの追加] ダイアログボックスが表示されます。
- **編集**：ドキュメントのインデックスフィールドを変更する [ドキュメントインデックスフィールドの編集] ダイアログボックス、またはバッチのインデックスフィールドを変更する [バッチインデックスフィールドの編集] ダイアログボックスが表示されます。
- **削除**：選択したインデックスフィールドを削除します。
- **上に移動**：クリックすると、選択したインデックスフィールドがリスト中の1つ上に移動します。
- **下に移動**：クリックすると、選択したインデックスフィールドがリスト中の1つ下に移動します。

ドキュメントインデックスフィールドの追加

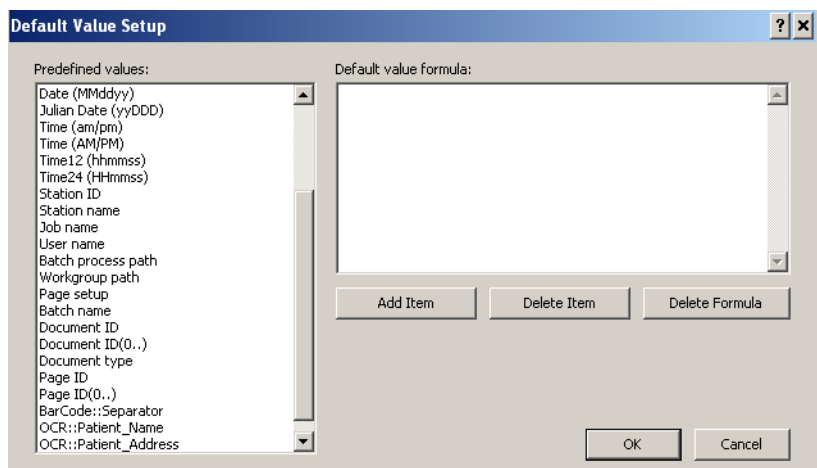
ドキュメントインデックスフィールドを追加するには：

1. [ファイル]>[ジョブセットアップ] を選択します。[ジョブセットアップ] ダイアログボックスが表示されます。
2. [ジョブ名] ドロップダウンリストからジョブを選択し、[インデックス] タブを開きます。
3. [ドキュメント] タブを開きます。
4. [追加] をクリックします。[ドキュメント - インデックス フィールドの追加] ダイアログボックスが表示されます。



5. [ラベル] フィールドにインデックスの名前を入力します。

6. 注記やコメントを [説明] フィールドに入力します。
7. [タイプ] フィールドから、[シングル値]、[ドロップダウンリスト] または [インデックス API] (使用可能な場合) を選択します。シングル値では、任意の値を入力できます。ドロップダウンリストでは、選択可能な値の固定リスト (たとえば国のリストを用意する場合など) をセットアップできます。ドロップダウンリスト、複数選択は、リストから複数の値を選択できる以外はドロップダウンリストと同じです。
注記： 独自のインデックス API を作成した場合は、[タイプ] ドロップダウンリストに表示されます。インデックス API を選択すると、[セットアップ] ボタンが追加されます。[セットアップ] ボタンをクリックして、設定を変更できます。
8. [シングル値] を選択した場合、[読み取り専用] を選択して、インデックスへの書き込みを禁止にできます。ユーザ操作により大切な情報が削除されることを回避します。
9. [必須] を選択すると、このインデックスがチェック必須項目になります。
10. インデックス フィールドの追加データ入力を可能にするには、[ダブルエントリ] を選択します。詳細については、本章の後半にある「ダブルデータエントリ」を参照してください。[フィールドタイプ] は [シングル値] である必要があり、このフィールドは [読み取り専用] または [非表示] にすることはできません。最初のデータ入力における自動インデックス作成をセットアップして、OCR、バーコード、OMR ゾーンの内いずれかを指定できます。
11. [シングル値] を選択すると、[非表示] を選択してこのインデックスをユーザ非表示にできます。これにより、機密情報が保護されます。
12. [インデックスフィールドの最小値] フィールドに、インデックス フィールドの最短有効長を定義する数値を入力します。
13. ページのスキャン時にインデックスフィールドをチェックする場合、[スキャン中にフィールドをチェック] を選択します。
14. [デフォルト値] フィールドにプリセット値を入力するか、[セットアップ] をクリックして [デフォルト値のセットアップ] ダイアログボックスを表示し、独自の値を設定します。



注記： バーコード、OCR、またはマーク検知ゾーンを作成した場合は、プリセット値のリストに表示されます (例：BC_[ゾーン名]、または OCR_[ゾーン名])。インデックスフィールドでバーコードか

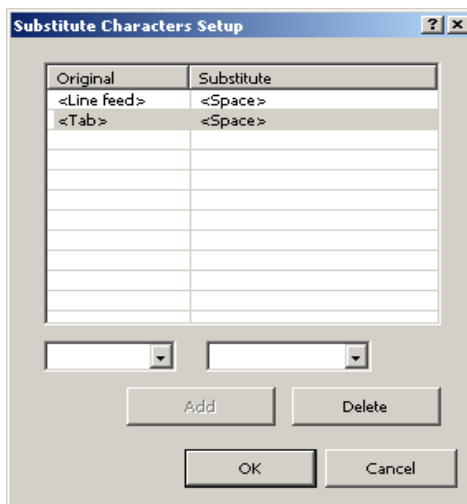
OCR ゾーンを使用するには、インデックスフィールドのデフォルト値として、適切な BC_[ゾーン名] または OCR_[ゾーン名] を割り当てます。バーコード /OCR/ マーク検知インデックスフィールドを選択するには、プリセット値の一番下までスクロールする必要があります。

[デフォルト値セットアップ] ダイアログボックスでは、インデックスフィールドのデフォルト値の式を作成、変更できます。

- [プリセット値] リストから項目を選択します。ボックスの右側には、デフォルト値の式が表示されます (ある場合)。
- [項目の追加] をクリックします。

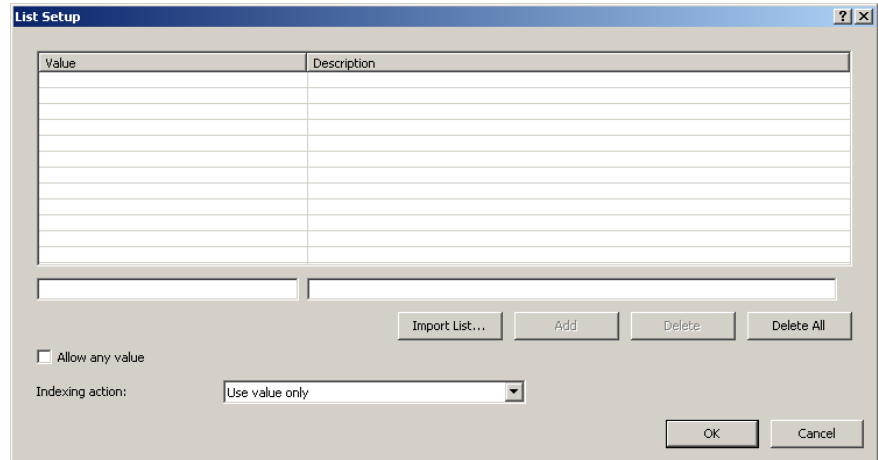
注記 : [項目の削除] はデフォルト値の式に最後に追加された定義済み項目を削除します。[式を削除] は、デフォルト値の式全体を削除します。

- 完了したら [OK] をクリックします。変更された式は、[デフォルト値] テキストボックスに入力されます。
15. 入力フォーマットを入力します。詳細については、本章の後半にある「入力フォーマット」を参照してください。
 16. 出力フォーマットを入力します。詳細については、本章の後半にある「出力フォーマット」を参照してください。
 17. **文字置換**を定義する場合は、[**セットアップ**] をクリックして、自動置換用に文字の組み合わせを定義します。[文字置換の設定] ダイアログボックスが表示されます。



- **オリジナル** — 置換対象文字が表示されます。この列の下にあるドロップダウン リストから、オリジナルの文字を 1 つ選択します。文字置換で交換したい文字を選択します。< スペース >、< 改行 > または < タブ > を選択することができます。[オリジナル] 列には、特定のオリジナル文字は 1 回のみ指定できます。
- **置換** — 指定できる文字が表示されます。列の下部にあるドロップダウン リストから、置換文字を選択します。< スペース >、< 改行 >、< タブ > または < 置換 > を選択します。[置換] 列には、特定の置換文字を複数指定できます。

- **追加** — クリックすると、2つのドロップダウンリストから選択したオリジナル文字と置換文字のペアが追加されます。オリジナル文字のみを選択した場合、キャプチャプロ ソフトウェアにより、置換文字としてデフォルトで <置換> が選択されます。
 - **削除** — オリジナルと置換文字の組み合わせを削除します。
18. 選択したインデックスフィールドで値リストを定義する場合は、[リスト] ボックスの隣の [セットアップ] をクリックします。[リスト設定] ダイアログボックスが表示されます。



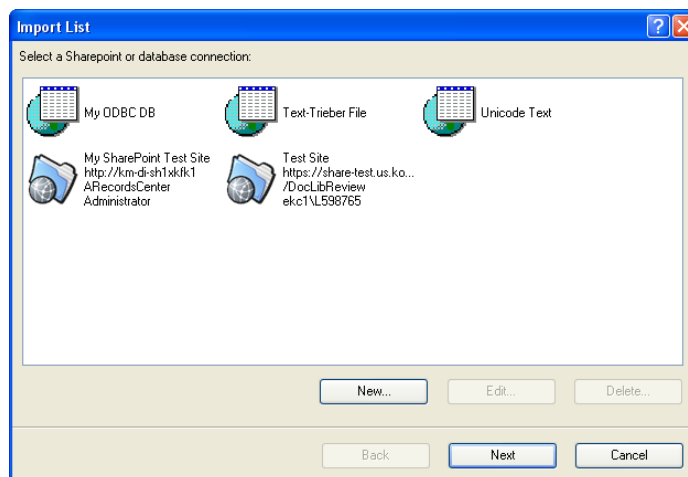
リストの値を手動で入力するか、ODBC 準拠のデータソースまたは SHAREPOINT ライブラリから既存の値のリストをインポートするかを選択できます。

手動入力

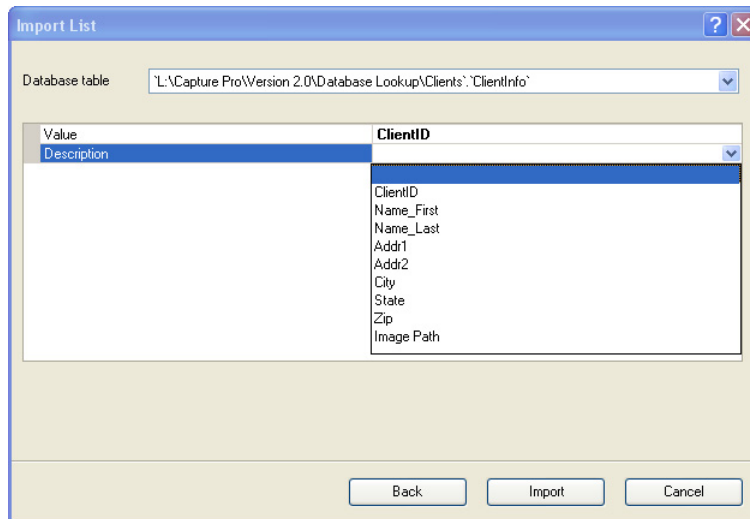
- [値] 欄のテキストボックスに該当する値を入力します。
- [説明] 欄のテキストボックスに値の説明を入力します。
- [追加] をクリックすると、2つのテキストフィールドに入力した値と説明のペアが追加されます。説明を指定しなかった場合、[説明] 欄は空白になります。

リストのインポート

- [インポートのリスト] をクリックします。
- 新しい SHAREPOINT または ODBC 接続を作成するか、既存の接続を選択します。



- [次へ]をクリックします。
- [値]フィールド用に使用するカラムと[説明]フィールド用に使用するカラムを選択します。
- [インポート]をクリックします。固有の値と関連する説明が指定されると、すべてインポートされます。リスト内に一致する値がすでに存在する場合、その値はインポートされた値に置換されません。インポートされた値はリストに追加されます。



注記： 値を削除する場合は[削除]をクリックし、リスト内のすべてのエントリを削除するには、[すべて削除]をクリックします。

- [すべての値を許可]を選択すると、インデックス値への制限がなくなります。
 - ドロップダウンリストから、[インデックス作成時のアクション]を選択します。[値のみ使用、説明のみ使用]、または[値と説明を使用]のいずれかを選択できます。
 - 選択を終了したら[OK]をクリックして、[ドキュメント - インデックスフィールドの追加]ダイアログボックスに戻ります。
19. [ドキュメント - インデックスフィールドの追加]ダイアログボックスで[OK]をクリックします。[ドキュメント]タブのリストに、新しいドキュメントインデックス情報が表示されます。

注記： テーブルを昇順または降順に並べ替えるには、適切なカラムヘッダをクリックします。[値]のカラムヘッダをクリックすると、テーブルがカラムに含まれる値でソートされます。[説明]カラムヘッダをクリックすると、テーブルが[説明]カラム内の値でソートされます。

20. [OK]をクリックして情報を保存し、[ジョブセットアップ]ダイアログボックスを閉じます。

ドキュメントインデックスフィールドの編集

ドキュメントインデックスフィールドを編集するには：

1. [ファイル]>[ジョブセットアップ]を選択します。[ジョブセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [ジョブ名]ドロップダウンリストからジョブを選択し、[インデックス]タブを開きます。

3. [ドキュメント] タブを開きます。
4. インデックスフィールドを選択します。
5. [編集] をクリックします。[ドキュメント - インデックスフィールドの編集] ダイアログボックスが表示されます。

6. 必要に応じてダイアログボックス内の設定を変更し、[OK] をクリックします。

バッチインデックスフィールドの追加

バッチインデックスフィールドを追加するには：

1. [ファイル]>[ジョブセットアップ]を選択します。[ジョブセットアップ] ダイアログボックスが表示されます。
2. [ジョブ名] ドロップダウンリストからジョブを選択し、[インデックス] タブを開きます。
3. [バッチ] タブを開きます。

4. **[追加]** をクリックします。[バッチ - インデクスフィールドの追加] ダイアログボックスが表示されます。

Batch - Add Index Field

Label: Branch location

Description: located in upper right corner

Type: Drop-down list Setup...

Read-only Required Double Entry

Hidden Minimum index field length: 4

Check field during scanning

Default value: Setup...

Input format: ?<0>

Output format:

Substitute Characters: <Space> --> <Tab> Setup...

List: Setup...

OK Cancel

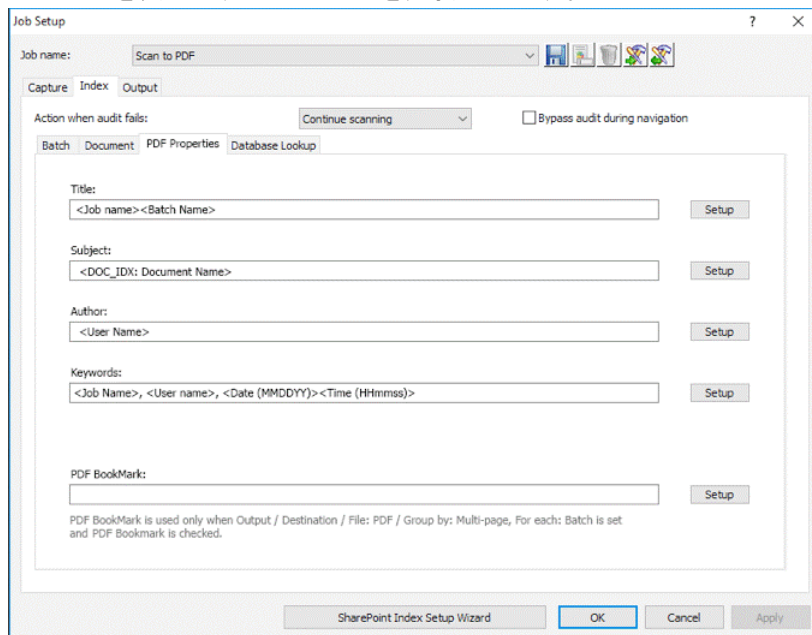
5. ダイアログ ボックス内の設定を完了したら、**[OK]** をクリックします。詳しいフィールドの説明については、本章の前半にある「ドキュメントインデックス フィールドの追加」を参照してください。
6. **[OK]** をクリックして情報を保存し、[ジョブセットアップ] ダイアログボックスを閉じます。

PDF プロパティ

[PDF プロパティ] タブでは、各ドキュメントのブックマークの値を指定したり、PDF プロパティのメタデータにインデクス値を割り当てたりすることができます。

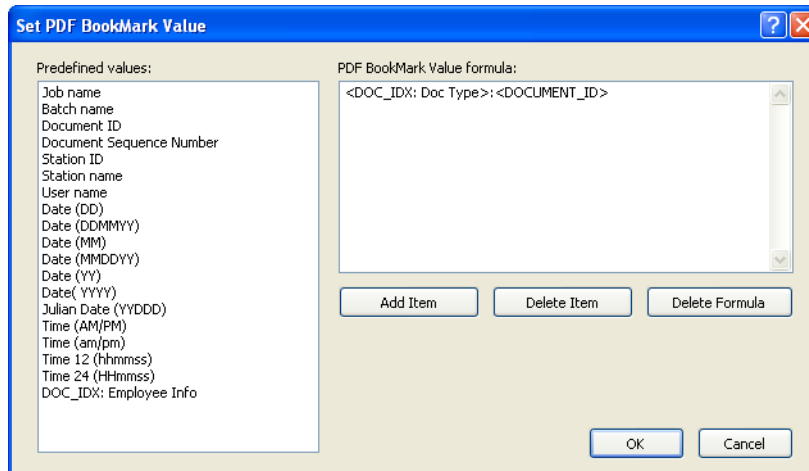
注記： この機能を効果的に動作させるには、[PDF 設定] ダイアログボックスで各 [バッチ] に対して [マルチページ] を使用したグループ化を選択します。本章の後半にある「[ファイル (1)] と [ファイル (2)] のセットアップオプション」を参照してください。

PDF プロパティの [タイトル]、[件名]、[作成者]、[キーワード] は、システム値、ドキュメント インデックス、バッチ インデックスのいずれかにマッピングできます。各フィールドで [セットアップ] ボタンを使用してダイアログボックスを表示し、マッピングを定義できます。



[タイトル]、[件名]、[作成者]、[PDF ブックマーク] を定義するには：

1. [セットアップ] をクリックして、[PDF ブックマーク値設定] ダイアログボックスを表示します。

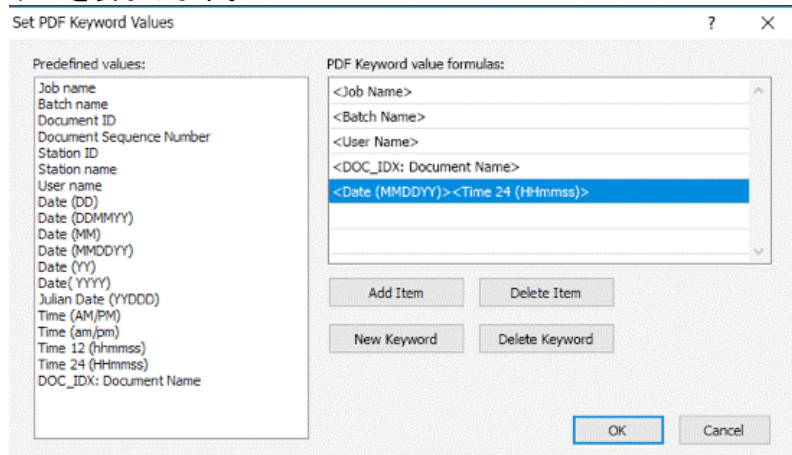


2. 適切な事前定義された値をリストから選択し、[項目の追加] をクリックします。

3. 完了したら [OK] をクリックします。

[キーワード] を定義するには：

1. **[セットアップ]** をクリックして **[PDF キーワード値設定]** ダイアログボックスを表示します。



2. 現在ハイライト表示されているキーワードの式に追加するには、予め定義された適切な値をリストから選択し、**[項目の追加]** をクリックします。
3. **[項目の削除]** をクリックすると、ハイライト表示された式の最後にある事前定義された値が削除されます。
4. 新しいキーワードの式を作成するには、予め定義された適切な値をリストから選択し、**[新しいキーワード]** をクリックします。
5. **[キーワードの削除]** をクリックすると、ハイライト表示されたキーワード式がテーブルから削除されます。
6. 完了したら **[OK]** をクリックします。
7. **[キャンセル]** をクリックすると、変更内容を保存せずに、ダイアログボックスが閉じます。

ダブルデータエントリー

ダブルエントリーでは、2人のインデックスエントリーオペレータによりドキュメントを別々にインデックス付けすることができ、インデックスデータの精度を向上させることができます。

スキャンが完了すると、オペレータはインデックスメニューから**インデックス 1**を選択して、バッチは最初のインデックス処理の準備が整っていることを示します。

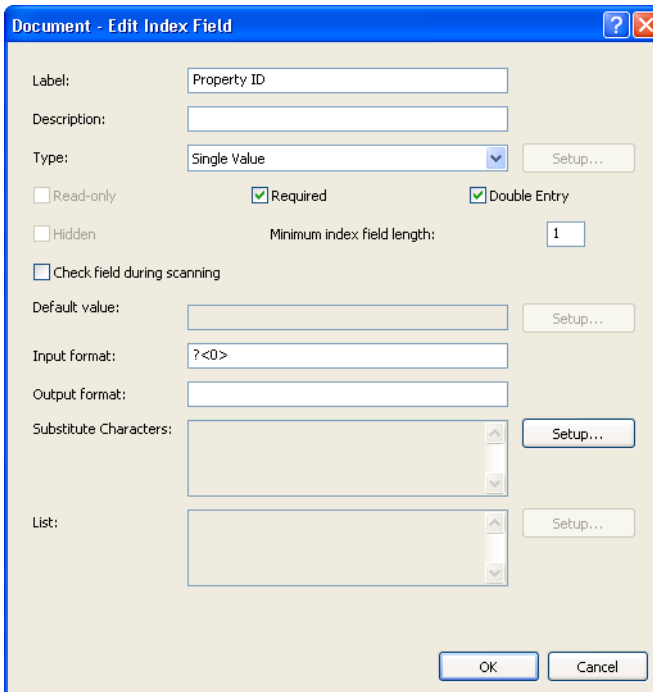
最初のインデックスオペレータは、バッチと各ドキュメントのインデックス値を入力します。完了すると、インデックスオペレータはインデックスメニューから**インデックス 2**を選択して、バッチは2番目のインデックス処理の準備が整っていることを示します。

ダブルエントリーのセットアップ

ダブルエントリーを使用するには、1つ以上のバッチまたはドキュメントインデックスがダブルエントリーに設定されている必要があります。

1. **[ファイル]>[ジョブセットアップ]** を選択します。**[ジョブセットアップ]** ダイアログボックスが表示されます。
2. **[ジョブ名]** ドロップダウンリストからジョブを選択し、**[インデックス]** タブを開きます。
3. **[バッチ]** または **[ドキュメント]** タブを開きます。

4. 希望する [ダブルエントリ] インデックスフィールドを選択し、[編集] をクリックします。[バッチインデックスフィールドの編集] または [ドキュメントインデックスフィールドの編集] ダイアログボックスが表示されます。



5. [ダブルエントリ] チェックボックスを選択します。

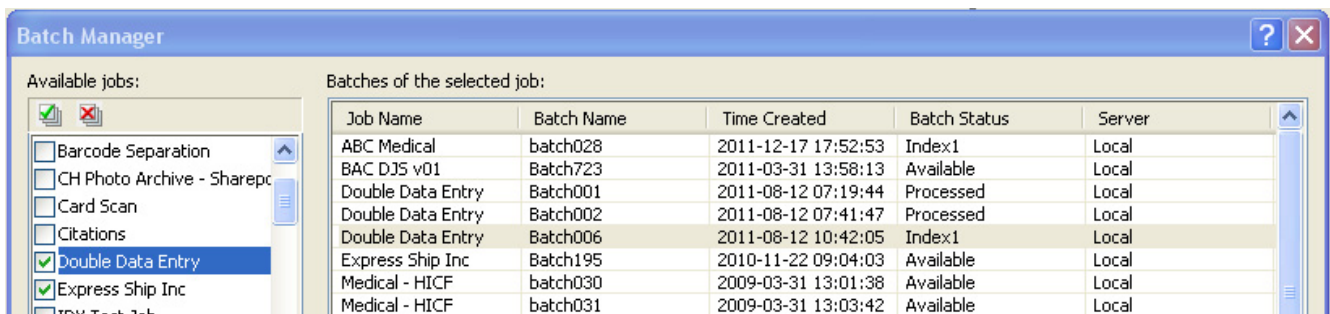
注記：

- [タイプ] はシングル値である必要があります。
- インデックスフィールドは読み取り専用にすることはできないため、[読み取り専用] は無効です。
- インデックスフィールドは非表示にすることはできないため、[非表示] は無効です。
- [ダブルデータ入力] フィールドにデフォルト値をセットアップする唯一の方法は、OCR やバーコード値などの自動インデックスフィールドを使用することです。希望する場合は、[デフォルト値の設定] ダイアログボックスで OCR ゾーンまたはバーコードゾーンを選択します。
- 以上のいずれかの設定が正しくない場合、[ダブルエントリ] チェックボックスの選択は解除され、無効になります。

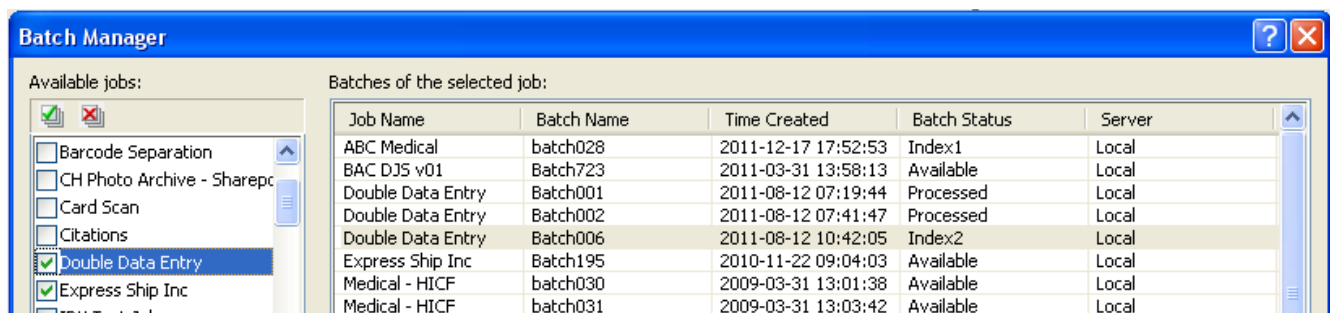
ダブルエントリの操作

ダブルエントリ向けに設定された 1 つ以上のバッチまたはドキュメントを有するジョブは、その他のジョブと同じようにドキュメントをスキャンするために使用されます。

ドキュメントのスキャンが完了し、バッチのインデックス付けの準備ができれば、オペレータは [インデックス] > [インデックス 1] の順に選択します。これにより、バッチのステータスが **使用可能** から **インデックス 1** に変わります。これは、バッチが最初のインデックス値の入力の準備ができていないことを意味します。



最初のインデックスオペレータがすべてのドキュメントのインデックス値を入力すると、[インデックス]>[インデックス 2]の順に選択します。これにより、バッチのステータスがインデックス 1 からインデックス 2 に変わります。これは、バッチが 2 つ目のインデックス値ののセットを入力する準備が整ったことを意味します。



2 人目のインデックスオペレーターは、最初のインデックスオペレーターが入力した値を見ることはありません。

2 人目のインデックスオペレーターが入力した値が最初の値と一致する場合、操作は不要でありインデックス付けが引き続き行われます。

最初の値と 2 つ目の値が一致しない場合、[入力の問題の解決] ダイアログボックスが表示され、オペレーターが正しい入力値を選択します。

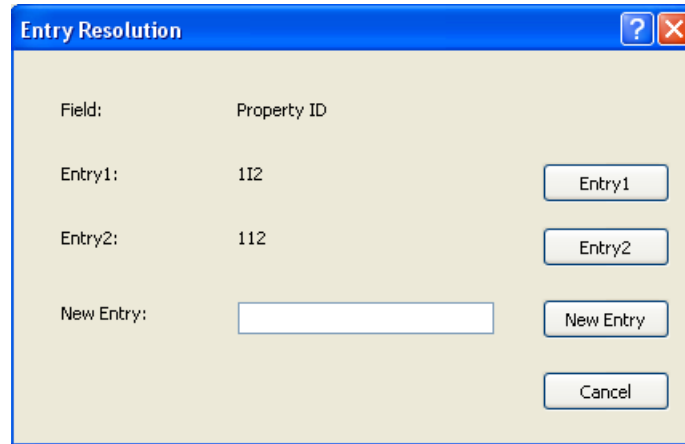
注記：

- スキャンオペレーターが最初のインデックス値の入力も行う場合、スキャンする際に最初のインデックス操作が完了している場合は、[インデックス]>[インデックス 1]の順に選択してから、すぐに [インデックス]>[インデックス 2] を選択する必要があります。
- インデックス 1 とインデックス 2 の値の比較においては、大文字と小文字を区別します。すなわち、「UPPER CASE」と「Upper Case」は一致するものではないということです。さらに、先行ゼロも意味を持っています。たとえば、123 の値は 0123 とは一致しません。
- ダブルエントリインデックスフィールドでは、すべての先頭および末尾の空白が削除されて値が保存されます。

たとえば、「 Shipment 」と入力された場合、値は「Shipment」として保存されます。これは、インデックス 1 が「 Shipment」と入力され、インデックス 2 が「Shipment 」と入力された場合、値は一致するということになります。

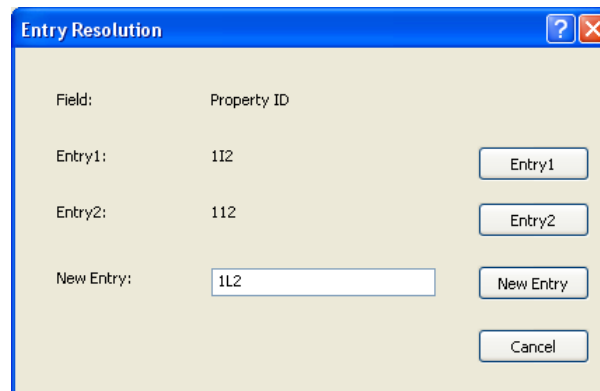
エントリの解消

2 番目のインデックス値が最初のインデックス値と一致する場合、[エントリの解消] ダイアログボックスが表示されます。



インデックスオペレーターには次の選択肢があります。

- **エントリ 1** を選択することで、最初のインデックスオペレーターにより作成されたエントリを選択します。
- **エントリ 2** を選択することで、作成されたエントリを選択します。



- [**新規エントリ**] フィールドに新しい値を入力します。どちらのエントリも正しくありません。
- 選択を行わない場合は、キャンセルし、[エントリの解消] ダイアログボックスを閉じます。1 つ以上の必須インデックスフィールドで一致しないインデックス値を解消しないと判断する場合、バッチの出力を試みる際に次のメッセージが表示されます。**1 つ以上のインデックスフィールドにはダブルエントリが必要です。この時点でバッチを出力することはできません。インデックスモードに入りますか？**

どの [**ダブルエントリ**] フィールドも必須でない場合、出力に [エントリの解消] ダイアログボックスが表示されます。エントリが一致していないすべての [**ダブルエントリ**] インデックスフィールドは、出力前に解消する必要があります。

注記：

- [**ダブルエントリ**] フィールドは必須のフィールドではないため、1 つまたは両方のインデックスエントリは空白のままにしておくこともできます。これにより、[エントリの解消] ダイアログボックスは表示されず、出力にエラーは発生しません。

- [ダブルエントリ]に一致しない値が入力された場合、オペレーターは出力前に[エントリの解消]ダイアログボックスで選択を行う必要があります。
- データベース検索を実行する、またはデータベース検索で検証または追加されたフィールドにするには、[ダブルエントリ]に有効なインデックスフィールドは使用できない場合があります。

入力フォーマット

入力フォーマットとは、特定のインデックスフィールドに関して、ユーザの入力を監査するのに使用されるテキスト式です。これは、インデックスフィールドに不正なデータが入力されるのを防ぎます。入力フォーマットの構文は、次のフォーマットを1つ使用するか、それらの組み合わせになります。

- テキストフォーマット
- 数値フォーマット
- 時間フォーマット
- 固定文字列フォーマット

テキスト入力フォーマット

#
#<maxlength>
#<minlength, maxlength>

— 特定タイプの1文字を表します。**#**は、次のいずれかの文字タイプです。

9: 「1」、「2」、... 「9」などの入力文字が有効です。
 Z: 「A」、「B」、... 「Z」などの入力文字が有効です。
 z: 「a」、「b」、... 「z」などの入力文字が有効です。
 A: Zタイプとzタイプの両方の文字セットが有効な入力になります。
 C: Zタイプと9タイプの両方の文字セットが有効な入力になります。
 c: zタイプと9タイプの両方の文字セットが有効な入力になります。
 X: Zタイプ、zタイプ、9タイプのすべての文字セットが有効な入力になります。
 ?: 任意の文字セットが有効になります。

例

999999

説明 — 6桁の数値です。

有効な入力例

123456

888888

無効な入力例

ABCDEF 文字タイプが違います。

1234567 長すぎます。

12345 短すぎます。

ZZZ999?

説明 — 7文字（最初の3文字はアルファベット大文字で、次の3文字は数値で、最後の文字は任意の文字）。

有効な入力例

BAT001%

BOX123a

無効な入力例

BAT12b3 6 番目の文字は数値である必要があります。

Bat123a 2 文字目および 3 文字目は、大文字のアルファベット文字である必要があります。
BAT12345 長すぎます。

#<maxlength> — 最小長は持たず、最大長を持つことが可能な可変長のテキスト値を表現するのに使用されます。

- maxlength が 0 の場合、入力値の長さは制限されません。
- maxlength が 0 より大きい場合は、入力値の長さは maxlength 以下である必要があります。

maxlength を 0 よりも小さくすることはできません。

例

A<6>

説明 — 6 文字以下のアルファベットを含む文字列です。

有効な入力例

A
ABCDEF

無効な入力例

ABC123 最後の 3 文字がアルファベット文字である必要があります。
ABCDEFGH 長すぎます。

?<0>

説明 — 任意のテキスト値。

#<minlength, maxlength> — 最小長または最大長を持つことが可能な固定または可変長の入力値を表すのに使用されます。

- minlength が 0 の場合、入力文字列が空の可能性がありまます。
- minlength が 0 より大きい場合は、入力値の長さは minlength 以上である必要があります。
- minlength を 0 よりも小さくすることはできません。
- minlength が maxlength と等しい場合、入力値は指定した文字数である必要があります。

例

X<2,10>

説明 — 2 ~ 10 文字の大文字か小文字アルファベット、または数値を含む文字列です。

有効な入力例

Batch0001
1234abcABC
A1

無効な入力例

Batch-001 ' - ' 文字は有効な 'X' タイプの文字ではありません
A 短すぎます
1234abcdABCD 長すぎます
AB Inc スペースは有効な 'X' タイプの文字ではありません

?<3,0>

説明— 3文字以上の任意の文字列です。

有効な入力例

ABC
+%=
ABC Company
smith@ABC.com

無効な入力例

A1 短すぎます

A<4,4>

説明— アルファベット4文字の文字列です。AAAAと同じフォーマットです。

9<0,3>

説明— 3文字以下の数字の文字列です。文字列が空の可能性がります。

A<3,2>

説明— 入力フォーマットが無効です。maxlengthが0より大きい場合、maxlengthはminlength以上である必要があります。

数値入力フォーマット

#(min, max)
#(min, max]
#[min, max)
#[min, max]

— 次の数値タイプを表すのに使用されます。

i : 正または負の整数値で、小数点を含みません

n : 正または負の数値で、小数点を含めることができます。

値の範囲や数値の精度は、オペレーティングシステムによって制限されます。

有効な数値の範囲は通常次のとおりです。

i : -2,147,483,648 ~ 2,147,483,647

n : 1.7 E ±308 (15桁)

最小値と最大値によって数値の範囲が定義されます。

最小値と最大値は、数値タイプと一致する必要があります。たとえば、数値タイプがiの場合は、最小値と最大値の両方が有効な整数値である必要があります。

最小値または最大値の代わりに*という文字を使用し、無限大の値または制限なしを表すことができます。

最大値は、最小値以上である必要があります。

(: 入力値は、最小値よりも大きい必要があります。

) : 入力値は、最大値未満である必要があります。

[: 入力値は、最小値以上である必要があります。

] : 入力値は、最大値以下である必要があります。

例

i

説明— 任意の整数値。

有効な入力例

123
-456

無効な入力例

123.456 整数値でなければなりません。小数値は使用できません
-123. 整数値には、小数点を含めません。

n

説明— 任意の整数値または小数値。

有効な入力例

123
123.456
-123.

#(min, max) — 最小値よりも大きく、最大値よりも小さい値を指定するのに使用されます。

例

i(-100, 100)

説明— -100 より大きく、100 より小さい任意の整数値。

有効な入力例

-99
0
99

無効な入力例

-100 小さすぎます。-100 よりも大きい必要があります
-99.9 整数である必要があります（小数は使用できません）。
100 大きすぎます。100 よりも小さい必要があります。

#(min, max] — 最小値よりも大きく、最大値以下である値を指定するのに使用されます。

例

i(-100, 100]

説明— -100 より大きく、100 以下の任意の整数値

有効な入力例

-99
0
100

無効な入力例

-100 小さすぎます。-100 よりも大きい必要があります
-99.9 整数である必要があります（小数は使用できません）。
101 大きすぎます。100 以下である必要があります。

#[min, max) — 最小値以上で、最大値よりも小さい値を指定するのに使用されます。

例

n[-100, 100)

説明— -100 以上、100 未満の任意の整数値。

有効な入力例

-100
-99.9
99.9999

無効な入力例

-100.1 小さすぎます。-100 よりも大きい必要があります
100 大きすぎます。100 よりも小さい必要があります。

#[min, max] — 最小値以上で、最大値以下の値を指定するのに使用されます。

例

n[-100, 100]

説明 — -100 以上、100 以下の任意の整数値。

有効な入力例

-100
0
100

無効な入力例

-100.1 小さすぎます。-100 以上である必要があります
100.001 大きすぎます。100 以下である必要があります。

i[100, *)

説明 — 100 以上の任意の整数値

有効な入力例

100
1000

無効な入力例

99 小さすぎます。100 以上である必要があります
100.5 整数値には、小数点を含めません。

i(-1.0, +1.0)

説明 — これは、最小値と最大値が“i”が指定する整数値ではないので、無効な入力フォーマットです。

n(+1.0, -1.0)

説明 — これは、最大値が最小値よりも小さいため無効な入力フォーマットです。

時間入力フォーマット

T<timeformat>

timeformat とは、日付 / 時刻の値を表すテキスト文字列の式です。その構文は、次のフォーマットを 1 つ使用するか、それらの組み合わせになります。

| | |
|------|---|
| YYYY | 年 (1000 ~ 9999) |
| yy | 年 (00 ~ 99、00 ~ 79 は 2000 年 ~ 2079 年を、80 ~ 99 は 1980 年 ~ 1999 年を表す) |
| MM | 月 (01 ~ 12) |
| dd | 日 (00 ~ 31、年と月がある場合、日付を検証) |
| DDD | その年の経過日数 (001 ~ 366、年と月がある場合、日を検証) |
| HH | 時間 (00 ~ 23) |

| | |
|----|-----------------|
| hh | 時間 (01 ~ 12) |
| mm | 分 (00 ~ 59) |
| ss | 秒 (00 ~ 59) |
| TT | 午前 / 午後 (AM/PM) |
| T | 午前 / 午後 (A/P) |
| tt | 午前 / 午後 (am/pm) |
| t | 午前 / 午後 (a/p) |

「テキスト」 テキストは、固定テキスト文字列です。

次の日付 / 時刻の要素は、timeformat の中で繰り返すことはできません。たとえば、**yyyy** を年のフォーマットとして選択した場合、yy または別の yyyy を timeformat 内で使用できません。この制限には次のものが含まれます。

yyyy と yy

dd と DDD

HH と hh

HH、TT、T、tt、t

例

T<yyyyMMdd>

説明 — 完全な日付です。

有効な入力例

20051025

19000101

無効な入力例

2005/10/25 予期しない文字です /

20051032 日付が無効です

20050229 日付が無効です (2005 年は閏年ではありません)

00990101 日付が 1000 より前になっています

T<MMdd>

説明 — 年なしの日付が指定されます。

有効な入力例

1201

1231

0229

無効な入力例

0001 月が無効です

0230 閏年かどうかにかかわらず、2 月の日付が無効です

ABCDEF テキストが無効です。

T<HH":"mm":"ss>

説明 — : (コロン) で時刻を区切ります。

有効な入力例

23:59:59

0:00:00

無効な入力例

99:59:00 時間が無効です
120000 区切り文字がありません

T<hhmmsst>

説明— 完全な時刻です。

有効な入力例

010000a
120000p

無効な入力例

010000A Aは小文字である必要があります。
000000a 時間が無効です。
1355101 時間が無効です。00～12にする必要があります

T<HHmmsTT>

説明— これは、HHが00～23時を表し、TTが24時間形式の時間文字列では無効なAM/PMを表しているため、無効な入力フォーマットです。

T<yyyyMMyyyy>

説明— これは、timeformat内で複数回使用されているため、yyyyに関する無効な入力フォーマットです。

固定文字列入力フォーマット

「テキスト」

テキストは、任意のテキスト文字列です。テキスト文字列の開始と終了は、“（ダブルコーテーション）で定義されるので、テキスト文字列内ではダブルコーテーションは使用できません。テキスト文字列のフォーマットは、通常、他の入力フォーマットとの組み合わせで使用されます。

例

999”-”99”-”999

説明— 固定文字列（米国の社会保障番号を定義）。

”ID”

説明— 固定文字列。

有効な入力例

ID

無効な入力例

XX フォーマット内のテキストと一致しません。正しい入力値：ID

”Text”ABC””

説明— これは、フォーマット内に2つの余分な“文字が含まれているので無効な入力フォーマットです。

組み合わせによる入力フォーマット

入力フォーマットは、組み合わせで使用できる複数のフォーマットから構成されます。入力フォーマットを定義するのに複数のフォーマットを使用するには、スペースを使用して（使用しなくても可）フォーマット式を接続するだけです。

フォーマット式は、可変長のフォーマットに続けることはできません。例：A<1,0>”-Comment”は、A<1,0>の長さが不定なので、無効です。フォーマット：“Comment-”A<1,0>は、可変長フォーマットが組み合わせ入力フォーマットの末尾にあるため有効です。

有効 / 無効な組み合わせフォーマットを以下に示します。

例

"ID"999999

説明— 組み合わせたフォーマット : "ID" と 999999。

有効な入力例

ID123456

無効な入力例

IDabcdef abcdef という文字は数字である必要があります。

id123456 id の 2 文字が ID のフォーマットに一致しません。

"DATE"T<yyyyMMdd>

説明— "DATE" および T<yyyyMMdd> を組み合わせたフォーマット

T<"DATE"yyyyMMdd> は、上記のフォーマットと同等のフォーマットです。

有効な入力例

DATE20051025

無効な入力例

n?<0>

説明— これは、n に指定された数字が可変長となり、その後にフォーマットを追加できない無効な入力フォーマットです。

A<2,3>"XX"

説明— これは、A<2,3> が可変長を指定しており、その後にフォーマットを追加できない無効の入力フォーマットです。

A<3,3>"XX"

説明— 組み合わせたフォーマット : A<3,3> および "XX"

有効な入力例

XYZXX

無効な入力例

XXXXXX テキスト文字列の最後に予期しない X があります。

20051025 DATE というテキストが日付の前に来る必要があります。

DATE20051032 10 月に 32 日はありません。

XXXXXXX 長すぎます。文字列の最後に余分な X があります。

インデックスデフォルト値の仕様

デフォルト値式は、特定のインデックスフィールドに対してデフォルト値を設定するテキスト式です。デフォルト値式の中では、1 つ以上のプリセットタグ (システム、バーコード /OCR/ マーク検知値など) または固定文字列を使用してデフォルト値を定義する必要があります。また、OR キーワードを使用して、タグを結合することで、デフォルト値の複数のオプションを定義することもできます。

タグ

<tagname>

<tagname:transformexpression>

tagname は、プリセット値のシステム、OCR、マーク検知、またはバーコードゾーンのデータ式です。システムデータの式には、日付、時間、ステーション ID と名前、ジョブとユーザー名、バッチとワークグループパス、ドキュメントとページ ID、前回の値が含まれます。

transformexpression は、システムまたはバーコード /OCR 値のフォーマットを変換する場合に使用します。たとえば、MMddy のように表された日付が、変換式によって、フォーマットが MM/dd/yyyy に変換されます。変換式の説明については、次の項を参照してください。

インデックス フィールドの追加データ入力を可能にするには、[**ダブルエントリ**] を選択します。詳細については、本章の「ダブルデータエントリ」を参照してください。[**ダブルデータ入力**] を使用する際にデフォルト値は入力しないでください。フィールドタイプは [**シングル値**] にする必要があり、フィールドは [**読み取り専用**] または [**非表示**] にしないでください。

注記：

- [**タイプ**] は [**シングル値**] である必要があります。
- インデックス フィールドは読み取り専用にするにはできないため、[**読み取り専用**] は無効になります。
- インデックス フィールドは非表示にするにはできないため、[**非表示**] は無効になります。
- デフォルト値は空欄にしておく必要があるため、[**デフォルト値の設定**] は無効になります。
- 以上のいずれかの設定が正しくない場合、[**ダブル入力**] チェックボックスの選択は解除され、無効になります。

固定文字列フォーマット

「テキスト」

テキストは、固定テキスト文字列です。文字列の区切り文字 "（ダブルコーテーション）は、このフォーマットで使用できません。固定テキスト文字列のフォーマットは、通常、他のフォーマットとの組み合わせで使用されます。

複数タグの使用

デフォルト値には、組み合わせて使用される複数のタグ式を含めることができます。たとえば、デフォルト値に、日付、時刻、ステーション ID をダッシュで区切って含めることができます。これを行うには、すべての式を連結します。

例：

```
<sys.date:ddMMyy>"-"<sys.time:hmmss> "-" <sys.stationid>
```

OR キーワードの使用

OR キーワードをデフォルト値式に含めることもできます。これは、値が常に存在するわけではない場合に便利です。デフォルト値は、ドキュメント上に表示されるバーコードの値に設定してください。

例：

```
<barcode.UPI ID Number>
```

ドキュメント上でバーコードが見つからない場合、インデックスフィールドは空になります。OR キーワードを使用して、代替値を取得できます。

例：

```
<barcode.UPI ID Number> OR 「バーコードが見つかりません。」
```

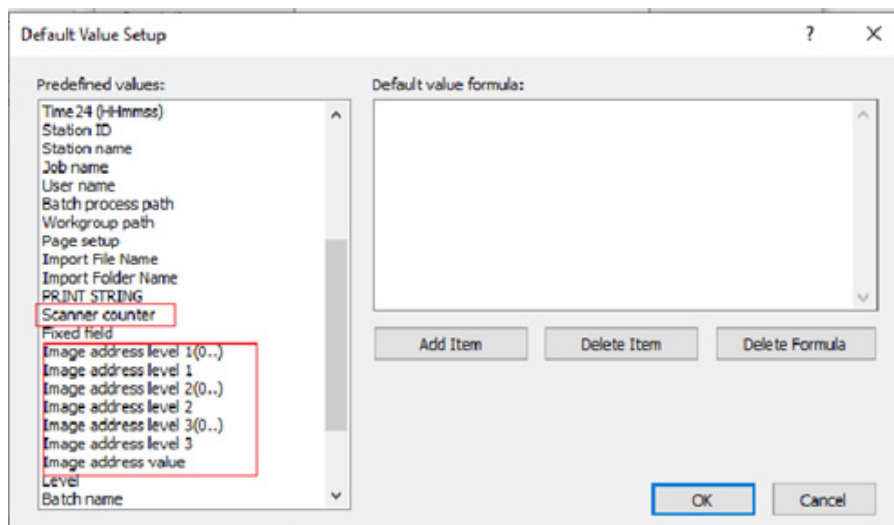
```
<app.documentid>
```

必要な数の式を OR で結合できます。

デフォルト値オプション #1 OR デフォルト値オプション #2 OR ...OR デフォルト値オプション #n

デフォルト値オプションの番号が 1 つずつ左から右へチェックされ、インデックスデータの初期化に有効な最初の値が使用されます。

利用可能なタグ — 利用可能なデフォルト値のタグが表示されます。



注記： リストの下にバーコード /OCR/ マーク検知ゾーンがあります。

LASTVALUE を使用した デフォルト値

lastvalue がデフォルト値として選択されると、キャプチャプロ ソフトウェアでは、新しいドキュメントまたはバッチが作成されるたびに、最後に割り当てられた値が前のドキュメント（ドキュメントインデックス用）または前のバッチ（バッチインデックス用）から自動的にインデックスフィールドに引き継ぎされます。たとえば、同じ日付を持つドキュメントのフォルダをスキャンする場合などのバックログアプリケーションで役立ちます。新規バッチにスキャンを開始した際に、インデックス値がまだ割り当てられていない場合は、一度日付を入力すると、それを変更するまで、それ以降の新規ドキュメントはすべて同じ日付になります。

また、**lastvalue** は、バーコードによるインデックス作成の実行時も非常に役立ちますが、スキャンされたすべてのドキュメントにバーコードが付いていない場合もあります。たとえば、

<barcode.Patient ID> OR <app.lastvalue>

というデフォルト値の式は、新しいドキュメントがスキャンされると、バーコードゾーン "Patient ID" <barcode.Patient ID> の値にインデックスフィールドの値が割り当てられることを意味します。ただし、ドキュメントにバーコードが付いていない場合は、代わりにインデックスフィールドを前のドキュメント OR <app.lastvalue> の値に割り当てます。

変換式

変換式とは、特定のフィールドのデータをデフォルト値または出力値にフォーマットまたは変換するためのテキスト式のことで変換式は、インデックスフィールド用にデフォルト値と出力フォーマットを定義するのに使用されます。

デフォルト値の仕様：新規バッチまたはドキュメントが作成されると、デフォルト値の仕様に基づいてインデックスフィールドに値が入力されます。デフォルト値の仕様は、[インデックス] タブに入力され、<tagname> または <tagname:transform expression> の形式になります。変換式については、以下で説明します。

例：

<sys.date:ddMMyy>

<sys.stationid:[1,5]>

出力フォーマット : バッチの出力時には、バッチとバッチ内の各ドキュメントのインデックスデータが出力フォーマットに基づいて再フォーマットされます。たとえば、MMddy の値を持つ日付インデックスは、次のように再フォーマットできます。

MM/dd/yyyy

出力フォーマットは、[インデックス] タブに入力され、次の形式になります。
変換式。

例 :

ddMMyy

[1, 5]

この構文は、次のフォーマットを 1 つ使用するか、組み合わせます。

- テキストフォーマット
- 数値フォーマット
- 時間フォーマット
- 固定文字列フォーマット

変換テキストフォーマット

[start]

[start, end]

[index, 'delimiter']

[start; len]

これらのフォーマットは、元のインデックス値から文字列を抽出するのに使用されます。

[start] — start で指定された位置から元の値の最後の文字までを部分文字列として抽出する場合に使用します。

- start が正の数の場合、開始位置は元の値の先頭からカウントされます。
- start が負の数の場合、開始位置は元の値の末尾からカウントされます。
- start が 0 または * の場合、開始位置は元の値の先頭になります。

例

[5]

説明 — 元の値の 5 文字目から最後まで文字列を取得します。

“ABCDEFGHijkl” → “FGHIJKL”

“1234567890” → “567890”

“1234” → “”

[*]

説明 — すべての文字列を取得します。

“ABCDEFg” → “ABCDEFg”

“1234567” → “1234567”

[start, end] — 元の値の start で指定された位置から end で指定された位置までの文字列を抽出する場合に使用します。

- end が正の数の場合、終了位置は元の値の先頭からカウントされます。
- end が負の数の場合、終了位置は元の値の末尾からカウントされます。
- end が 0 または * の場合、終了位置は元の値の末尾になります。
- 開始位置が終了位置より後ろにある場合、文字列は元の値の逆順になります。

例

[1, 2]

説明 — 元の値の 1 文字目から 2 文字目までを文字列として取得します。

“ABCDEFGH” → “AB”

“123456” → “12”

[-4, -1]

説明 — 元の値の最後から数えて 4 文字目から、末尾の文字までの文字列を取得します。

“ABCDEFGHIJK” → “HIJK”

“1234567890” → “7890”

[*, 5]

説明 — 元の値の 1 文字目から 5 文字目までを文字列として取得します。

“ABCDEFGHIJK” → “ABCDE”

[5,2]

説明 — 元の値の 5 文字目から 2 文字目までを文字列として逆順で取得します。

“ABCDEFGHIJK” → “EDCB”

“1234567890” → “5432”

[2, -2]

説明 — 元の値の 2 文字目から始まり最後から数えて 2 文字目までの文字列を取得します。

“ABCDEFGHIJ” → “BCDEFGHI”

“1234567890” → “23456789”

“AB” → “BA”

“A” → “A”

[index, ‘delimiter’] — インデックスで指定された位置の要素を抽出する場合に使用します。インデックス内の各要素は、区切り文字によって区切られています。最初の要素はインデックス 1 です。

注記： この変換式は、PDF417 バーコード内のデータ要素を異なるインデックスフィールドに割り当てる場合に特に役立ちます。また、マルチライン OCR 結果の異なる行を別のインデックスフィールドに割り当てる場合にも役立ちます。マルチライン OCR によって生成される区切り文字は、カラット (^) 文字です。

例

[2, ‘^’]

説明 — マルチライン OCR の 2 番目の要素を取得します。各要素は、「^」文字で区切られています。

“John Smith^123 Main Street^Some City” → “123 Main Street”

[3, ‘*’]

説明 — PDF417 バーコードから 3 番目の要素を取得します。要素は、「*」文字で区切られています。

“John Smith*123 Main Street*Some City” → “Some City”

[start; len] — start で指定された位置から len で指定された文字数を従属文字列として抽出するのに使用されます。

例

[2;3]

説明 — 2 文字目から 3 文字分を文字列として取得します。

“ABCDEFGHJIJ” → “BCD”

“1234567890” → “234”

“AB” → “B”

“A” → “”

変換数値フォーマット

#<width, fracwidth>

#<width, fracwidth, padding>

#<textformats, width, fracwidth>

#<textformats, width, fracwidth, padding>

0width

は、希望の数値タイプを定義するための次のいずれかの文字です。

n: 一般的な数値

N: 一般的な数値 (符号付き)

p: 数値 (パーセンテージ)

P: 符号付き数値 (パーセンテージ)

c: 数値 (通貨)

C: 符号付き数値 (通貨)

値の範囲や数値の精度は、オペレーティングシステムによって制限されます。有効な数値の範囲は、 $1.7E \pm 308$ (15 桁) です。

#<width, fracwidth> — 最大で width の桁数および fracwidth の小数点以下の桁数を持つ数をフォーマットするのに使用されます。

width は、出力文字列に含まれる桁数の合計を定義します。

- width が正の数の場合、出力テキストは左側のパディング文字 (もしあれば) と右揃えになります。
- width が負の数の場合、出力テキストは右側のパディング文字 (もしあれば) に左揃えになります。

fracwidth は、小数点の右側に表示される桁数を定義します。

小数点がないことを示すには、0 が使用されます。

小数点の右側にデフォルトの 6 桁を表示するのに * という文字が使用されます。

例

n<20,2>

説明 — 最大桁数が 20 文字で小数点以下が 2 桁の一般的な数値です。文字列は右詰めされます。

例

“324.5” → “ 324.50”

“abcd” → “ 0.00”

p<-20, 2>

説明 — 合計桁数が 20 文字で小数点以下が 2 桁の百分率で表された数値です。文字列は左詰めされます。

例

“0.12abc” → “12.00% “

“-43” → “-4300.00% “

c<20, 0>

説明 — 合計桁数が 20 文字で小数点なしの通貨として表された数です。文字列は右詰めされます。

例

“12345.6” → “ 12,346”

“-12345.6” → “ -12,346”

C<20, 2>

説明 — 合計の長さが 20 文字で小数点以下が 2 桁の符号付きの通貨として表された数です。文字列は右詰めされます。

例

“12345.6” → “ +12,345.60”

“-12345.6” → “ -12,345.60”

“abc” → “ +0.00”

“-0.001” → “ -0.00”

“-0.00” → “ +0.00”

#<width, fracwidth, padding> — 小数点以下の fracwidth 文字を含む、指定された長さまで暫定文字で埋められた数をフォーマットする場合に使用します。

パディング文字は、フォーマット済みのテキストが定義された長さよりも短い場合にスペースを埋めるために使用される文字を定義します。

例

P<20, 3, '#>

説明 — 合計桁数が 20 文字で小数点以下が 3 桁の符号付き百分率で表され、「#」という文字で埋められた数値です。

例

“0.12abc” → “#####+12.0000%”

“-43” → “#####-4300.000%”

#<textformats, width, fracwidth> — textformats を使用して文字列から抽出された数をフォーマットするのに使用されます。

textformats は、元のインデックス文字列から数値を抽出する方法を指定します。「出力フォーマット」を参照してください。

例**N<[2], 20, 3>**

説明 — 合計桁数が 20 文字で小数点以下が 3 桁の符号付きの数値です。この数値は、元の文字列の 2 番目の文字以降から抽出されます。

例

“A12345.6” → “ +12345.600”

“-12345.6” → “ +12345.600”

“TT9000” → “ +0.000”

“—9999” → “ -9999.000”

N<[2, '^'], 20, 3>

説明 — 合計桁数が 20 文字で小数点以下が 3 桁の符号付きの数値です。数値は、要素が「^」文字で区切られている文字列の 2 つの要素から抽出されます。

例

“12345.6^45678.9” → “ +45678.900”

#<textformats, width, fracwidth, padding> — textformats を使用して文字列から抽出され、指定された文字で埋められた数をフォーマットするのに使用されます。

このフォーマットは、出力文字列が指定された文字で埋められるフォーマット #<textformats, width, fracwidth> を拡張したものです。

0width — 指定された最小の桁数になるように、数値をゼロで埋める場合に使用します。

例

010

説明— 合計の長さが 10 文字で、空白が 0 で埋められた数値です。

例

“123” → “0000000123”

“0” → “0000000000”

03

説明— 合計の長さが 3 文字で、空白が 0 で埋められた数値です。

例

“1” → “001”

“1234” → “1234”

変換時間フォーマット

#

— 以下のフォーマットの 1 つか、複数を組み合わせて使用します。

| | |
|------|----------------------|
| yyyy | 年 (1900 ~ 2099) |
| yy | 年 (00 ~ 99) |
| y | 年 |
| MM | 月 (01 ~ 12) |
| M | 月 (1 ~ 12) |
| dd | 日付 (01 ~ 31) |
| d | 日付 (1 ~ 31) |
| D | 曜日 (1: 日曜、2: 月曜日、など) |
| DDD | 年頭からの日数 (001 ~ 365) |
| HH | 時間 (00 ~ 23) |
| H | 時間 (0 ~ 23) |
| hh | 時間 (01 ~ 12) |
| h | 時間 (1 ~ 12) |
| mm | 分 (00 ~ 59) |
| m | 分 (0 ~ 59) |
| ss | 秒 (00 ~ 59) |
| s | 秒 (0 ~ 59) |
| TT | 午前 / 午後 (AM/PM) |
| T | 午前 / 午後 (A/P) |
| tt | 午前 / 午後 (am/pm) |
| t | 午前 / 午後 (a/p) |
| ww | 年頭からの週数 (01 ~ 53) |
| w | 年頭からの週数 (1 ~ 53) |

時間フォーマットを使用する場合は、出力用にフォーマットされる文字列の内容を定義する入力時間フォーマットを指定する必要があります。

例

ddMMyyyy

説明— 日、月、年のフォーマットで表した日付です。

例

入力フォーマット : T<yyyyMMdd> 文字列 "20051026" → "26102005"

入力フォーマット : T<yyyyMM> 文字列 "102005" → "102005"

固定文字列フォーマット

テキスト”

テキストは、任意のテキスト文字列です。テキスト文字列の開始と終了は、“（ダブルコーテーション）で定義されるので、テキスト文字列内ではダブルコーテーションは使用できません。テキスト文字列のフォーマットは、通常、他の入力フォーマットとの組み合わせで使用されます。

例

"ID-[*]-XX"

説明— "ID" の出力用の固定テキスト文字列です。

例

"20051026" ==> "ID-20051026-XX"

変換フォーマットの結合

変換式は、組み合わせて使用される複数のフォーマットから構成されます。変換式を定義するのに複数のフォーマットを使用するには、スペースを使用して（使用しなくてもよい）フォーマット式を接続するだけです。

例

"Revenue" c<20, 2>

説明— "Revenue" および c<20, 2> というフォーマットの組み合わせです。

例

"123456" ==> "Revenue 123,456.00"

yyyy"/"MM"/"dd"."HH":"mm":"ss

説明— 以下のフォーマットと組み合わせ : yyyy、"/"、MM、"/"、dd、"."、HH、":"、mm、":" および ss。

例

"20051026080405PM" ==> "2005/10/26-20:04:05"

入力フォーマット : T<yyyyMMddhhmmssTT>

出力フォーマット

出力フォーマットとは、特定のインデックスフィールドのデータを出力値にフォーマットするためのテキスト式です。変換式は、インデックスフィールド用に出力フォーマットを定義する時に使用されます。

出力フォーマット : バッチの出力時には、バッチとバッチ内の各ドキュメントのインデックスデータが出力フォーマットに基づいて再フォーマットされます。たとえば、MMddy の値を持つ日付インデックスは、次のように再フォーマットできます。

MM/dd/yyyy

この構文は、次のフォーマットを 1 つ使用するか、組み合わせます。

- **テキストフォーマット** — 「変換テキストフォーマット」を参照してください。

- **数値フォーマット** — 「[変換数値フォーマット](#)」を参照してください。
- **時間フォーマット** — 「[変換時間フォーマット](#)」を参照してください。
- **固定文字列フォーマット** — 「[変換固定文字列フォーマット](#)」を参照してください。
- **フォーマットの組み合わせ** — 「[変換フォーマットの組み合わせ](#)」を参照してください。

[インデックス] タブ — データベース検索

データベース検索を使用して、ODBC（Open Database Connectivity）に準拠したデータソースからバッチやドキュメントインデックスフィールドにデータの入力や検証ができます。設定ウィザードは、データソースの指定、検索の実行方法およびインデックスフィールドの入力に使用するデータ定義、またはインデックスフィールドの内容の検証に使用します。1つのジョブセットアップには、複数の検索を含めることができます。各検索は、異なるデータソース用に使用したり、選択したインデックスフィールドの入力や検証に使用できません。検索に使用されるインデックス値がバーコードリーダー、OCR 結果として提供される場合、スキャン中に検索を実行できます。各検索は、次の形式で指定されます。SELECT <table column 1>, <table column 2>, ...<table column n> FROM <data source> WHERE <table column x> = <index field value> or select: WHERE <table column x> = <index field value> AND <table column y> = <index field value>.

データベースルックアップ の設定

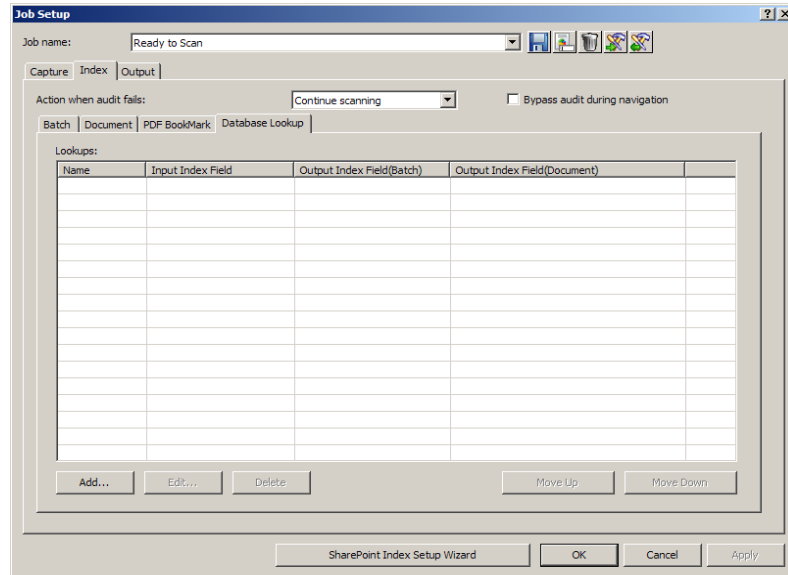
データベース検索の設定は、バッチやドキュメントインデックスのフィールドの定義から始まります。これらのフィールドは検索で使用されます。データベース検索は、ジョブごとに設定されます。

注記： [ジョブセットアップ] 内のインデックスフィールドの定義は、以前のバージョンのキャプチャプロ ソフトウェアから変更していません。

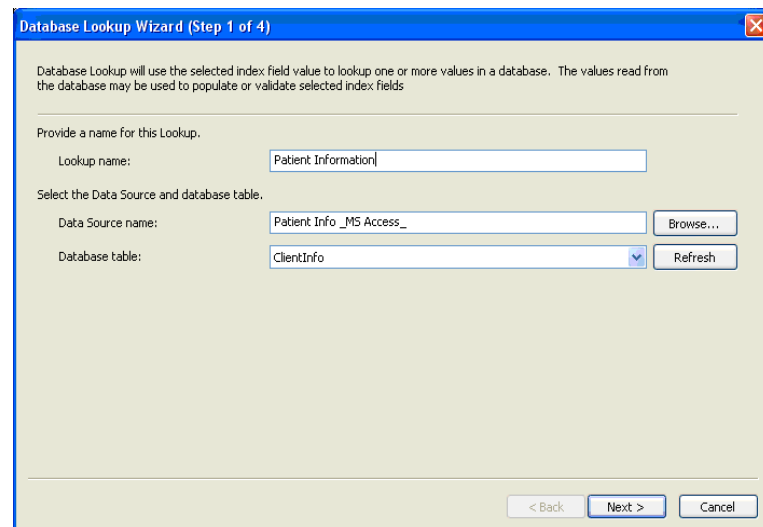
新規検索を追加または編集するには：

1. [ファイル] > [ジョブセットアップ] をクリックします。[ジョブセットアップ] ダイアログボックスが表示されます。
2. [ジョブ名] ドロップダウンリストからジョブセットアップを選択します。ジョブセットアップの設定が表示されます。
3. [インデックス] タブを選択します。

4. [データベース検索] タブを選択します。次のフィールドを含む検索リストが表示されます。検索ごとに、[名前]、[入カインデックス フィールド]、[出カインデックス フィールド (バッチ)]、および [出カインデックス フィールド (ドキュメント)]。

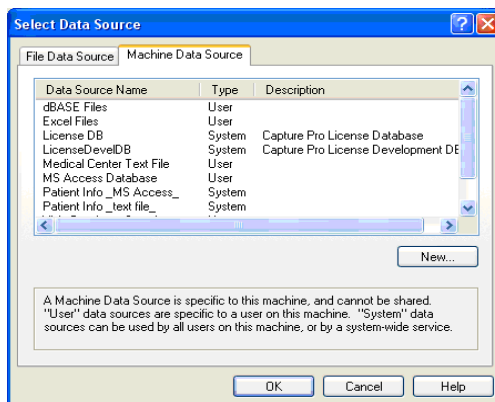


5. [追加] をクリックします。データベース検索ウィザードが表示されます。

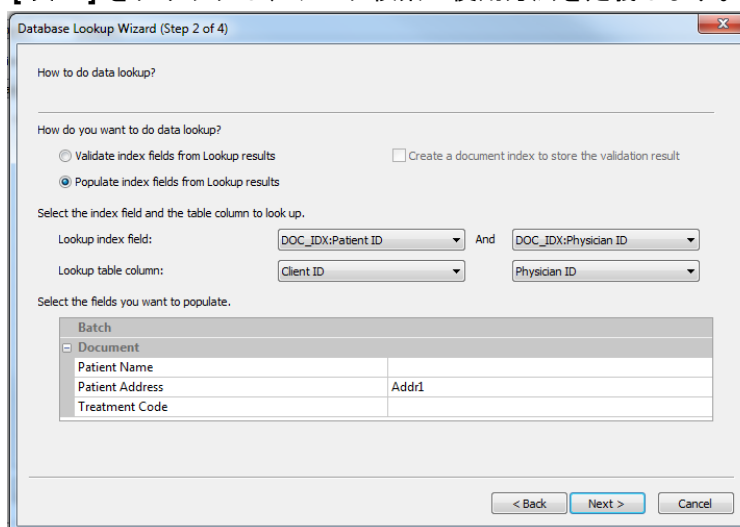


6. 使用する検索を [検索名] フィールドに入力します。

7. **[参照]** をクリックして **[データソースの選択]** ダイアログボックスを開きます。

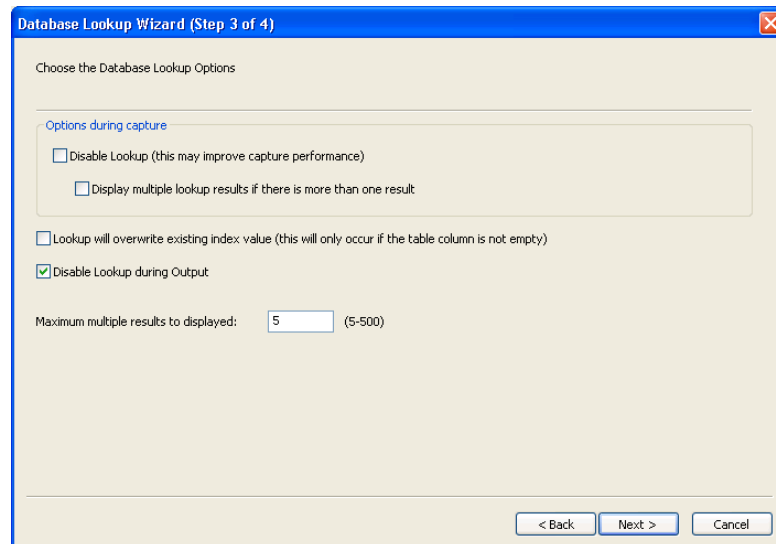


- 既存のファイルデータソースまたはマシンデータソースを選択するか、**[新規]** をクリックして新しいデータソースを作成します。選択したデータソースの種類に応じて、追加情報が要求されます。
 - 必要な情報をすべて入力したら、**[OK]** をクリックします。
 - **[OK]** をクリックすると、SQL Server ログインウィンドウが表示されます。資格情報をすべて入力し、**[OK]** をクリックします。
8. **[データベーステーブル]** ドロップダウンリストからインデックス フィールドへの入力、検証に使用するデータを含むテーブルやファイルを選択します。
9. **[次へ]** をクリックし、データ検索の使用方法を定義します。



- 1 つ以上のインデックス フィールド値がデータソース内のデータと一致しているかどうかを検証する場合は、**[検索の結果からインデックスフィールドを検証]** を選択します。ドキュメントインデックスを使用するソートなど、他の処理に使用するためにインデックスフィールド内の検証結果を保存する場合は、**[検証結果を保存するドキュメントインデックスを作成]** チェックボックスを選択します。
- 検索の結果から 1 つ以上のインデックスフィールドに入力する場合は、**[検索の結果からインデックスフィールドに入力]** を選択します。

10. 検索が選択したデータベース内で一致する値を検索するのに使用するインデックスフィールドを、[インデックスフィールドの検索] ドロップダウンリストから選択します。このリストには、すべての定義済みドキュメントやバッチインデックスフィールドが含まれています。検索に単一のインデックスフィールドを使用する場合、そのフィールドは「And」の前の左側の列に存在する必要があります。2つの [インデックスフィールドの検索] が表示される場合、両方の値を含むデータベースレコードのみが一致します。インデックスデータ入力時、1つ値が不明な場合は、アスタリスク (*) 文字で置き換えることができます。詳細については、この章の「データベース検索の使用」を参照してください。
11. [検索テーブル列] ドロップダウンリストから、選択した [検索インデックス] フィールドに一致する値を検索するテーブル列を選択します。このリストには、選択解除したデータベーステーブルのすべてのテーブル列を選択できます。
12. 入力または検証の対象となるバッチインデックスフィールドまたはドキュメントインデックスフィールドごとに、目的のデータが入っているデータベース列を選択します。インデックスフィールド名の右側にある列をクリックし、ドロップダウンリストからデータベース列を選択します。
13. [次へ] をクリックし、データベース検索オプションを選択します。

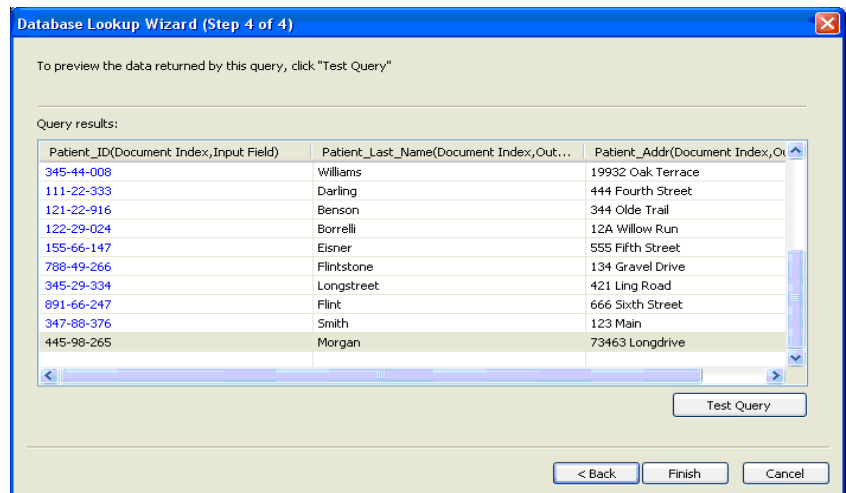


14. 任意の検索オプションを選択します。
 - **検索の無効化**：選択すると、スキャン時に検索が実行されません。これにより、大規模またはリモートのデータベースにおいてパフォーマンスが向上する可能性があります。検索は、インデックスの編集モード時やバッチ出力時に、引き続き実行されます。
 - **結果が複数ある場合、複数の検索結果を表示する**：選択すると、スキャン時に [複数検索の結果] テーブルは表示されません。複数検索の結果は、インデックスの編集モードでは解決され、スキャンは中断されずに続行します。
 - **既存のインデックス値を上書き**：選択すると、データベースのエントリに値がある限り（つまり、空または Null ではない）、検索により常にインデックスフィールドにデータベースの検索値が入力されます。データベース検索によって入力されるインデックスフィールドに、ユーザが手動でデータを入力できるようにするには、このオプションを選択しません。

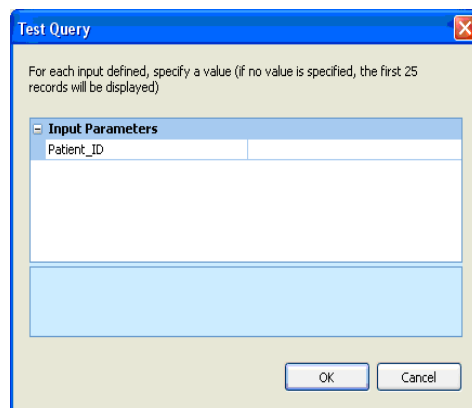
注記： データベース検索がバッチ出力時にデータを上書きすることはありません。

- **出力中の検索の無効化**： 選択すると、出力中に検索（入力または検証）が行われません。選択を解除すると、空のフィールドに入力が行われ、欠落レコードや複数のレコードは無視されます。一致するレコードが見つからなかった場合は、検証が失敗します。
- **表示する最大複数検索結果**： 検索結果が複数見つかった場合、結果の表が表示され、正しい結果を選択できます。入力した値で表の長さは制限されます。

15. [次へ] をクリックし、検索をテストします。



16. [テストクエリ] をクリックします。[テストクエリ] ダイアログボックスが表示されます。



17. 検索の実行に使用されるパラメータ用に有効な値を入力します。値を空のままにすると、データテーブル内の最初の 25 レコードが表示されます。

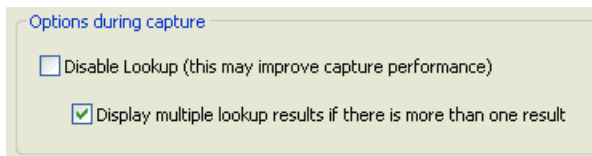
18. [OK] をクリックします。

データベースルックアップの使用

データベース検索を実行するようにジョブを設定したら、検索がいつ実行されるのかを理解することが重要です。一般的なシナリオを次に示します。

スキャン中 - インデックスフィールドへの入力

[スキャン中の検索を無効にする]が選択されていない場合、検索がスキャン中にオンザフライで実行されます。



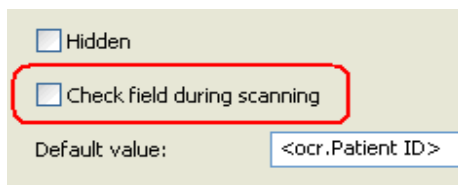
検索は、そのために使用されているインデックスフィールドに、スキャン中に入力された値がある場合（たとえば、バーコード、OCR、またはマーク検知のゾーン読み取りなどの結果）にのみ、実行されます。

スキャン中 - インデックスフィールドの検証

[スキャン中の検索を無効にする]が選択されていない場合、インデックスフィールドの検証用に設定された検索もスキャン中にオンザフライで実行されます。

検索の検証は、そのために使用されているインデックスフィールドに、スキャン中に入力された値がある場合（たとえば、バーコード、OCR、またはマーク検知のゾーン読み取りなどの結果）に実行されます。

注記：[検索を無効化]が選択されていないと、スキャン中にデータベース検索が常に実行されます。[スキャン時にフィールドをチェック]設定オプションの[チェック]フィールドが無効でも、データベース検索の検証を実行します。



インデックスフィールドの編集

スキャンが実行され、ユーザがインデックスモード（[インデックス]>[インデックスフィールドの編集]）になると、インデックスモード中はドキュメントに移動するたびに、そのドキュメントに対して常に検索が実行されます。

検索に使用されるインデックスフィールドにすでに値が入力されている場合（たとえば、バーコード、OCR、またはマーク検知のゾーン読み取りなどから）は、ドキュメントに移動する際に、ドキュメントの検索が自動的に実行されます。

インデックスフィールドに手動でデータを入力する場合は、ユーザがインデックスフィールドを離れると、検索が実行されます。入力後のインデックスフィールドから移動するのにTabキーを使用する場合、確認のため他のインデックスフィールドへの入力結果が表示されます。Enterキーまたはその他のインデックスモードのファンクションキー（F9、F10、F11など）の1つを使用して別のドキュメントに移動する場合、検索が実行され、その他のインデックスフィールドに値が入力されます。ただし、そのドキュメントはインデックス作成モードで表示されないため、検索の結果は表示されません。

検索のインデックスフィールドをOCRのドラッグアンドドロップを使用するか、OCRをクリックすると、ただちに検索が実行され、他のインデックスフィールドへの入力結果が表示されるので確認できます。

検索に使用する値が一部しか分からない場合、不明の文字の代わりにアスタリスク「*」を使用します。アスタリスクは最後の文字にする必要があります。例えば、検索値が電話番号で、最初の4桁分のみ分かっている場合、値を「557-3*」と入力します。「557-3xx」で始まるすべての電話番号はデータベースから取得され、正しい値を選択できます。

検索が2つの値に基づいていて、1つの値のみ分かっている場合、不明な値の代わりにアスタリスクが使用できます。例えば、検索が姓と名に基づいて、アドレスが検索される環境で姓しかわからない場合、インデックスフィールドの「姓」に名字を入力し、インデックスフィールドの「名」にアスタリスクを入力します。入力された姓でレコードが1つだけの場合、名前とアドレスが入力されます。入力された姓でレコードが複数ある場合、[複数結果]ダイアログボックスが表示され、正しい結果が選択できます。

バッチ出力

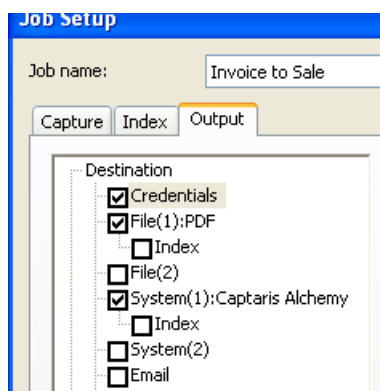
データベース検索は、[出力時に検索を無効にする]オプションが選択されていない場合は、出力時のみ実行されます。インデックスフィールドの検証の一部として出力ツールをクリックすると、出力処理のためにバッチがキューに入れられる前に、インデックスフィールドへの入力および検証のためのデータベース検索がすぐに実行されます。データベース検索がインデックスフィールドに入力中の場合、エラーは無視されます。レコードが見つからない場合、または複数のレコードが見つかった場合は、インデックスフィールド内の現在の値が変更されないか、空白のままになります。データベース検索がインデックスフィールドを検証中の場合は、一致するレコードが見つからないとエラーが発生します。バッチは出力処理されないため、バッチを正常に出力するには、エラーを修正する必要があります。

バッチが[バッチマネージャ]画面から出力されたり、[ジョブセットアップ]から自動的に出力されたりすると、バックグラウンドのバッチ処理の一部としてデータベース検索がただちに実行されます。検索が失敗すると、バッチはインデックスエラーの状態になります。

| | | | |
|-------------------------|-----------|---------------------|-------------|
| Health Claims - Doc... | Health197 | 2009-02-13 15:47:41 | Processed |
| Health Claims - Doc... | Health201 | 2009-02-25 16:24:44 | Available |
| Health Claims - Doc... | Health202 | 2009-02-25 16:26:03 | Index Error |
| Health Claims with P... | Health014 | 2009-04-01 10:59:44 | Processed |
| Health Claims with P... | Health018 | 2009-04-01 12:49:30 | Available |
| Health Claims with P... | Health019 | 2009-04-01 13:23:25 | Available |

エラー修正のためにバッチを開くと、検索の失敗が存在するドキュメントが自動的に表示されるので、インデックスモードでインデックスの問題を修正し、バッチを再出力して確定します。

ジョブセットアップ： [出力]タブ



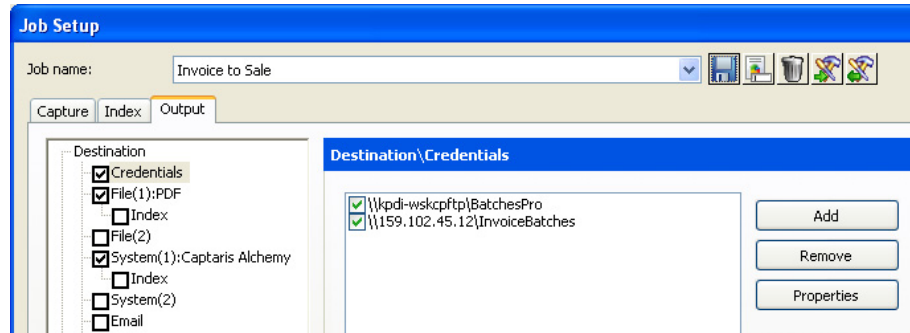
[出力]タブでは、ジョブセットアップの出力オプションをセットアップできます。

- **出力先** — 出力のフォーマット、出力先、インデックス作成方法などを設定します。[出力先]オプションは次のとおりです。
 - **資格情報**: 出力先のネットワークファイル共有に対するユーザーアクセス資格情報を提供することができます。
 - **ファイル(1)**と**ファイル(2)**: ファイル形式 (TIFF、JPEG、PDF、PNG、等) および出力タイプ (たとえば、白黒、カラー/グレースケール) を選択できます。
 - **システム(1)**と**システム(2)**: ジョブセットアップのためのシステム出力先を選択できます。
 - **Eメール**: 出力を自動的にEメールで送信するように、セットアップできます。
 - **印刷**: 出力を自動的に印刷するように、ソフトウェアをセットアップできます。

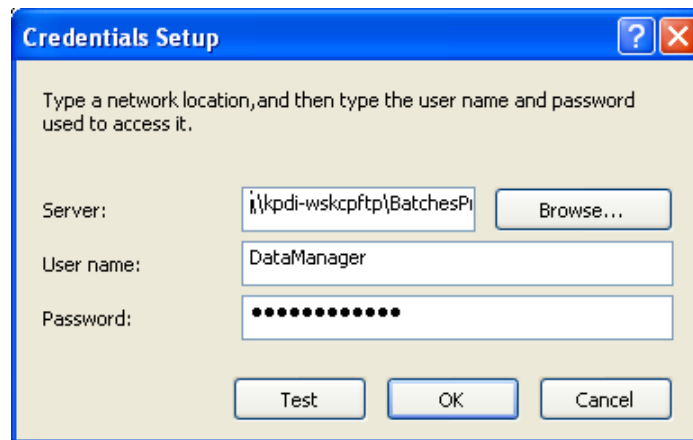
- **詳細オプション** — キャプチャプロ ソフトウェアのイメージ処理オプションを出力に適用できます。
- **他のプログラムの呼出し** — 出力時に他のソフトウェアを起動します。

資格情報

出力先がキャプチャプロオペレータがアクセスできない可能性があるネットワーク共有の場合に [資格情報] を選択します。



- **追加** — [資格情報の設定] ダイアログボックスを表示します。



- **サーバ名と共有名**を \\server_name\share_name 形式で入力します。サーバマシン名またはサーバ IP アドレスを入力することができます。
- **削除** — 選択した資格情報を削除します。
- **プロパティ** — 選択した資格情報のプロパティを表示します。ユーザー名とパスワードの変更ができます。

資格情報はジョブセットアップ間で共有されません。2つのジョブセットアップが同じネットワーク共有を使用する場合、両方のジョブセットアップに資格情報を追加する必要があります。これにより、異なる各ジョブセットアップが個別の資格情報を使用して同じネットワーク共有にアクセスすることが可能になります。

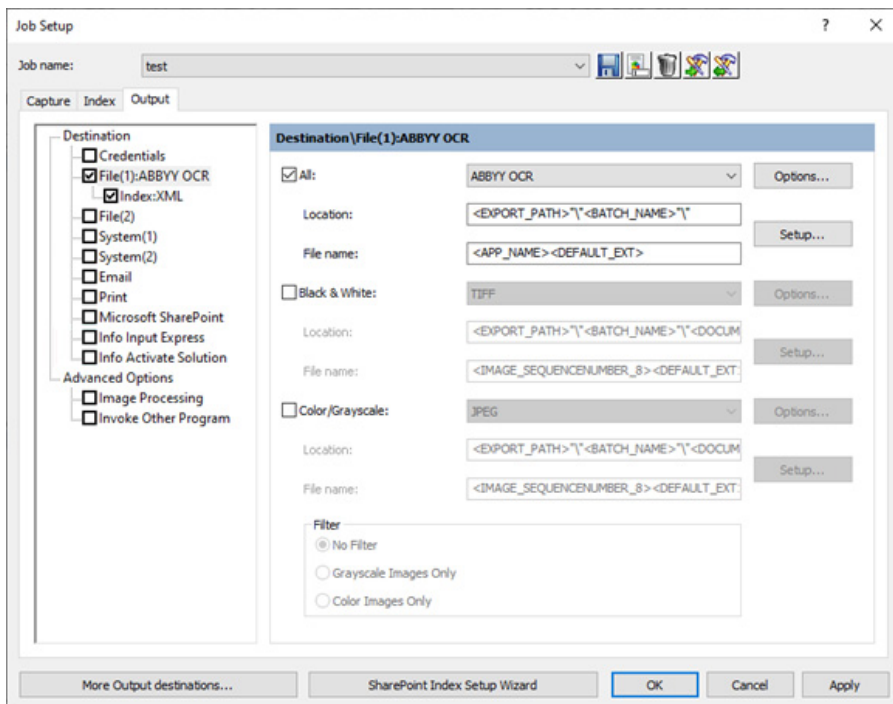
現在のユーザーがネットワーク共有にアクセスできる状態であっても常に資格情報が使用されます。

資格情報は、[ファイル (1)]、[ファイル (2)]、[システム (1)]、[システム (2)] の出力に対して使用できます。オプションの [キャプチャプロネットワークエディション - リモート出力サーバ] を使用するには資格情報の使用が特に便利です。リモート出力サービスにはユーザーが存在しないため、資格情報を使用して外部の共有へのアクセスを提供します。

出力先オプション: [ファイル(1)]と[ファイル(2)]

ファイル(1)オプション — 出力用のファイル形式 (TIFF、PDF、JPEG、PNG、など) を選択します。選択するフォーマットは、出力のタイプにより異なります。

- すべて (白黒、カラー/グレースケール)
- 白黒
- カラー/グレースケール — これを選択すると、フィルターオプションを選択して、グレースケールイメージまたはカラーイメージのみを出力できます。



注記: ファイル形式のダイアログボックスの説明は、この章に後述の「ファイル(1)とファイル(2)のセットアップオプション」を参照してください。

- **アウトプット先** — ファイル(1)の出力先を示します。設定を変更するには、[セットアップ]をクリックして[アウトプット先のセットアップ]ダイアログボックスを開きます。[アウトプット先のセットアップ]ダイアログボックスに関する詳細は、この章に後述の「[アウトプット先のセットアップ]ダイアログボックスを使用した場所とファイル名の式」を参照してください。

- **ファイル名** — ファイル(1)のファイル名を示します。

[ファイル(2)]オプション — [ファイル(1)]と同じです。ファイル(2)は、ファイル(1)と同じ設定でも、異なる設定でも構いません。

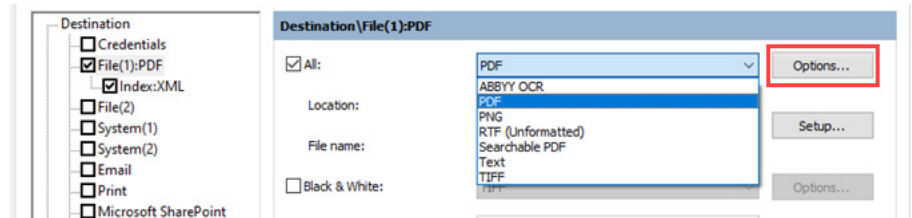
[ファイル(1)]と[ファイル(2)]オプションの下では、[インデックス]オプションを選択できます。次のインデックスオプションが表示されます。

- バッチインデックスファイル
- ドキュメントインデックスファイル
- イメージインデックスファイル

[ファイル (1)] と [ファイル (2)] のセットアップオプション

出力用のファイル形式（すなわち、TIFF、PDF、JPEG、PNG、等）を選択する場合、フォーマットの選択はファイル形式のセットアップの設定方法によります。

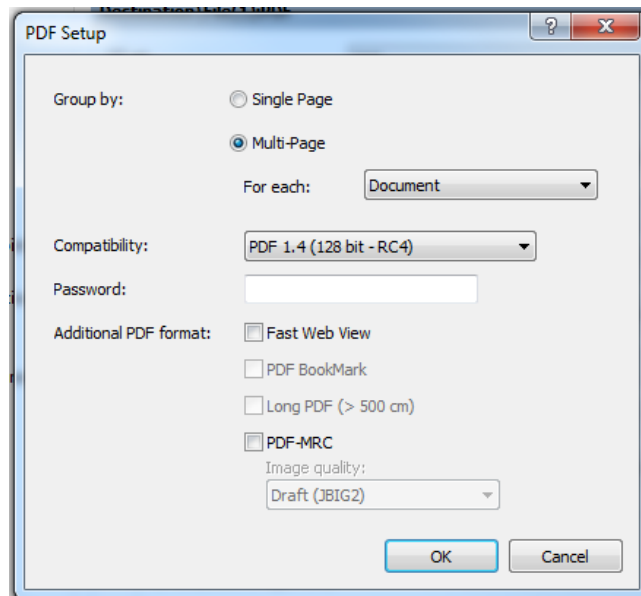
- 設定するファイル形式の [オプション] をクリックします。



[オプション] ボタンを選択すると、そのファイル形式のダイアログボックスが表示されます。

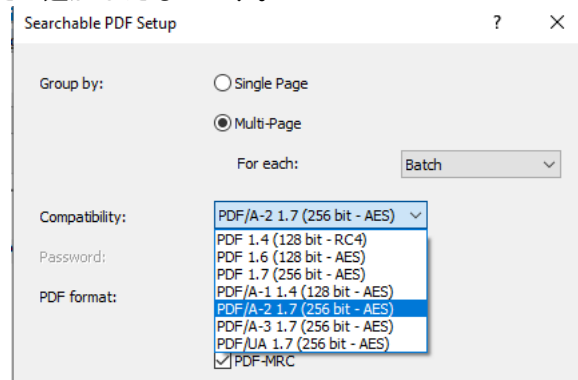
ファイル形式として PDF を選択

ファイル形式として **PDF** を選択すると、[PDF セットアップ] ダイアログボックスが表示されます。



1. 出力でイメージファイルをグループ化する方法として、[シングルページ] または [マルチページ] のいずれかを選択します。スキャンイメージファイルが個別の出力ファイルになります。
 - [シングルページ] を選択すると、スキャンするすべてのイメージが個別のイメージファイルとして出力されます。したがって、ページをスキャンすると、表面と裏面それぞれ 1 つずつ、合計 2 つの個別イメージファイルができます。デュアルストリームスキャンする場合は、出力には 4 つのイメージファイルがあります。
 - [マルチページ] を選択すると、それぞれに対して、ドロップダウンリストが表示されます。
 - **ファイル単位: ページ** - スキャンするページ単位で 1 ファイルになります。ファイルを開くと、表面と裏面それぞれ 1 つずつ、合計 2 つのイメージがあります。デュアルストリームスキャンしている場合は、4 つのイメージができます。

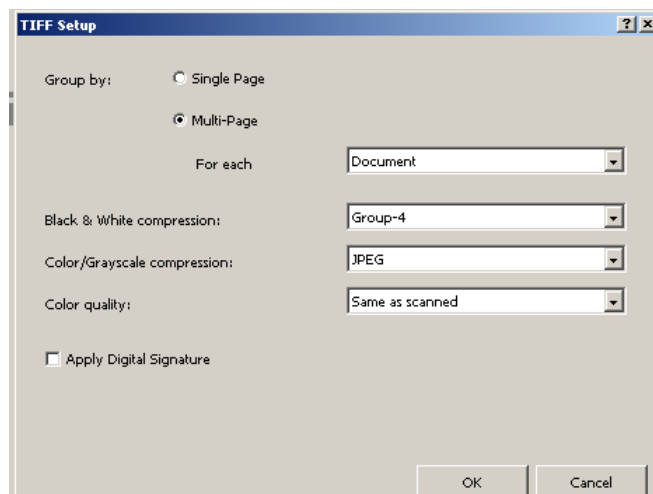
- **ファイル単位：ドキュメント** — 1つのドキュメント単位で1ファイルになります。1つのファイルには複数の（または多数の）イメージが含まれることがあります。
 - **ファイル単位：バッチ** — バッチにスキャンされるすべてのイメージは、1つの出力ファイルになります。出力ファイルには多数のイメージが含まれることがあります。
2. 1つまたは複数の [**追加の PDF 形式**] を選択します。これには、[**高速 Web ビュー**]、[**PDF ブックマーク**]、[**ロング PDF**] または [**PDF-MRC**] があります。
- Web サイトから大きなファイルをダウンロードする際に、より高速に表示できるように PDF ファイルを設定する場合、[**高速 Web ビュー**] を選択します。
 - 各ドキュメントを PDF ファイルでブックマークする場合、[**PDF ブックマーク**] を選択します。各 [**バッチ**] に対してグループの [**マルチページ**] によるグループ化を選択します。[**インデックス**] タブにある [**PDF ブックマーク**] タブを使用して、各ドキュメントのブックマーク値を指定します。システムおよび / またはインデックス値を使用して一意的なブックマーク値を生成することができます。
 - 500 cm (200 インチ) 以上の長さのイメージを想定する場合、[**ロング PDF**] を選択します。これを選択するとパフォーマンスに影響を及ぼします。[**ロング PDF**] は PDF-MRC ファイル形式では使用できません。
 - 追加の PDF フォーマットとして [**PDF-MRC**] を選択する場合、希望する次の **イメージ品質** を選択します。[**JBIG2/Group4**]、[**ドラフト (Draft)**]、[**標準 (Good)**] または [**高 (Better)**]。
- 注記： **PDF-MRC** オプションは、キャプチャープロを最初にインストールしたバージョンが 5.5.1 以前の場合のみ使用可能で、アップグレード後も使用することができます。キャプチャープロの最初のインストールがバージョン 5.6 以上である場合、これらのオプションは使用できません。
- 注記： 一般的に、JBIG2 は Group 4 より品質は低くファイルサイズが小さくなります。 **JBIG2-Better**、**Group4-Draft**、**Group4-Good**、**Group4-Better** はロスレスです。
- 何も選択しない場合、PDF フォーマットは [**PDF**] になります。
3. PDF を Adobe Reader 特定バージョンと互換性を持たせる必要がある場合、PDF 互換性のオプションを選択します。PDF をパスワードで暗号化する場合、より新しいバージョンの PDF を選択すると、より強力な暗号化アルゴリズムが可能になります。PDF/UA は、PDF と SPDF のファイル形式を新たに追加したものです。



4. PDF ファイルを暗号化する場合、[パスワード] フィールドに PDF ファイルを開いて表示するのに必要なパスワードを入力します。ファイルを暗号化しない場合、[パスワード] フィールドは空欄のままにしておきます。
5. 終了したら **[OK]** をクリックします。

ファイル形式として TIFF を選択

ファイル形式として **TIFF** を選択すると、[TIFF セットアップ] ダイアログボックスが表示されます。

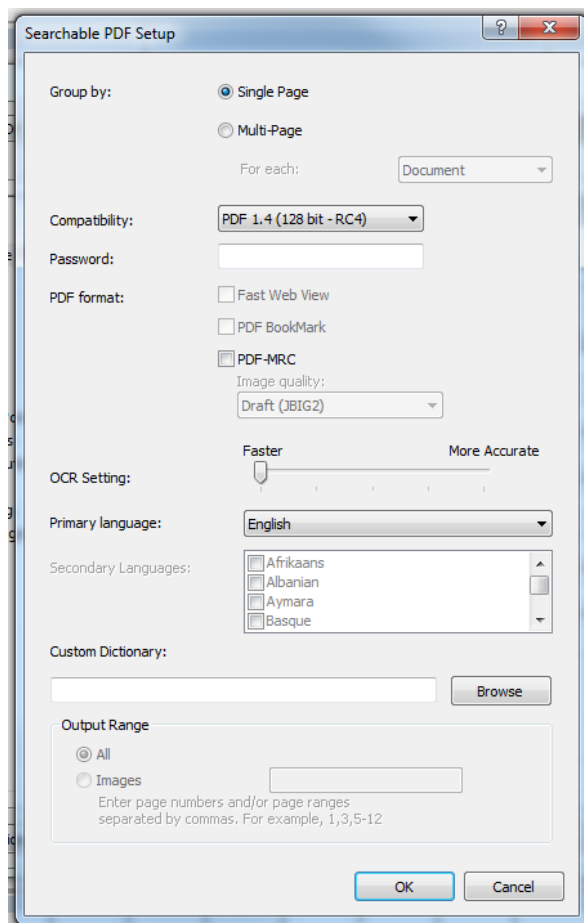


1. 出力でイメージファイルをグループ化する方法として、[**シングルページ**] または [**マルチページ**] のいずれかを選択します。スキャンイメージファイルが個別の出力ファイルになります。
 - [**シングルページ**] を選択すると、スキャンするすべてのイメージが個別のイメージファイルとして出力されます。したがって、ページをスキャンすると、表面と裏面それぞれ 1 つずつ、合計 2 つの個別イメージファイルができます。デュアルストリームスキャンする場合は、出力には 4 つのイメージファイルがあります。
 - [**マルチページ**] を選択すると、それぞれに対して、ドロップダウンリストが表示されます。
 - **ファイル単位：ページ** — スキャンするページ単位で 1 ファイルになります。ファイルを開くと、表面と裏面それぞれ 1 つずつ、合計 2 つのイメージがあります。デュアルストリームスキャンしている場合は、4 つのイメージができます。
 - **ファイル単位：ドキュメント** — 1 つのドキュメント単位で 1 ファイルになります。1 つのファイルには複数の (または多数の) イメージが含まれることがあります。
 - **ファイル単位：バッチ** — バッチにスキャンされるすべてのイメージは、1 つの出力ファイルになります。出力ファイルには多数のイメージが含まれることがあります。
2. 出力に白黒イメージが含まれる場合、[**白黒圧縮**] オプションが有効になります。ドロップダウンリストから、[**グループ -4**] または [**(なし)**] を選択してください。
3. 出力にカラーまたはグレースケールイメージが含まれる場合、[**カラー/グレースケール圧縮**] と [**カラー品質**] オプションが有効になります。

- **カラー/グレースケール圧縮** — JPEG、JAPED(TIFF 6) または (なし) を選択します。
 - **カラー品質** — ドロップダウンリストから、次のいずれかの設定を選択します。[スキャンイメージと同じ]、[ドラフト (Draft)]、[標準 (Good)]、[高 (Better)]、[最高 (Best)]、[高品質 (Superior)]。[スキャンイメージと同じ] を推奨します。
4. Capture Pro Software によるイメージ出力がキャプチャされたソースドキュメントのイメージから変更されていないことを確認するには、[デジタル署名の適用] をクリックします。
- デジタル署名されたイメージが修正されていないことを確認するために、いつでも無料の Image Verifier ソフトウェアを使用することができます。
- 署名入りの画像は一切変更されていません。イメージ確認の利点についての記述を読み、Image Verifier ソフトウェアにアクセスするには、最寄りの Kodak Alaris 担当者へお問い合わせください。
5. 終了したら [OK] をクリックします。

サーチャブル PDF をファイル形式として選択

ファイル形式として**サーチャブルPDF**を選択すると、[サーチャブルPDFセッ
トアップ] ダイアログボックスが表示されます。



1. 出力でイメージファイルをグループ化する方法として、[シングルページ] または [マルチページ] のいずれかを選択します。スキャンイメージファイルが個別の出力ファイルになります。

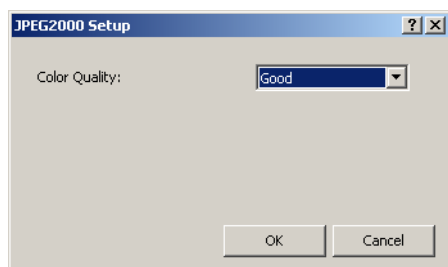
- **[シングルページ]** を選択すると、スキャンするすべてのイメージが個別のイメージファイルとして出力されます。したがって、ページをスキャンすると、表面と裏面それぞれ 1 つずつ、合計 2 つの個別イメージファイルができます。デュアルストリームスキャンする場合は、出力には 4 つのイメージファイルがあります。
 - **[マルチページ]** を選択すると、それぞれに対して、ドロップダウンリストが表示されます。
 - **ファイル単位：ページ** — スキャンするページ単位で 1 ファイルになります。ファイルを開くと、表面と裏面それぞれ 1 つずつ、合計 2 つのイメージがあります。デュアルストリームスキャンしている場合は、4 つのイメージができます。
 - **ファイル単位：ドキュメント** — 1 つのドキュメント単位で 1 ファイルになります。1 つのファイルには複数の（または多数の）イメージが含まれることがあります。
 - **ファイル単位：パッチ** — パッチにスキャンされるすべてのイメージは、1 つの出力ファイルになります。出力ファイルには多数のイメージが含まれることがあります。
- 注記： 複数ページ検索可能な PDF は、1 つのドキュメントは 500 ページまでとなります。実際の結果は、構成やジョブセットアップによって異なる場合があります。
2. 次の PDF 形式を 1 つ以上選択します。これには、**[高速 Web ビュー]**、**[PDF ブックマーク]**、または **[PDF-MRC]** があります。
- Web サイトから大きなファイルをダウンロードする際に、より高速に表示できるように PDF ファイルを設定する場合、**[高速 Web ビュー]** を選択します。
 - 各ドキュメントを PDF ファイルでブックマークする場合、**[PDF ブックマーク]** を選択します。各 **[パッチ]** に対してグループの **[マルチページ]** によるグループ化を選択します。**[インデックス]** タブにある **[PDF ブックマーク]** タブを使用して、各ドキュメントのブックマーク値を指定します。システムおよび / またはインデックス値を使用して一意のブックマーク値を生成することができます。
 - 追加の PDF フォーマットとして **[PDF-MRC]** を選択する場合、希望する次のイメージ品質を選択します。**[JBIG2/Group4]**、**[ドラフト (Draft)]**、**[標準 (Good)]** または **[高 (Better)]**。

注記： 一般的に、JBIG2 は Group 4 より品質は低くファイルサイズが小さくなります。**JBIG2-Better**、**Group4-Draft**、**Group4-Good**、**Group4-Better** はロスレスです。
 - 何も選択しない場合、PDF フォーマットは **[PDF]** になります。
3. PDF を Adobe Reader 特定バージョンと互換性を持たせる必要がある場合、PDF 互換性のオプションを選択します。PDF をパスワードで暗号化する場合、より新しいバージョンの PDF を選択すると、より強力な暗号化アルゴリズムが可能になります。
4. PDF ファイルを暗号化する場合、**[パスワード]** フィールドに PDF ファイルを開いて表示するのに必要なパスワードを入力します。
- ファイルを暗号化しない場合、**[パスワード]** フィールドは空欄のままにしておきます。

5. **[OCR 設定]** を選択して、速度と精度のバランスを調整します。スライダーを右に移動すると、言語辞書や複数の OCR エンジンなどの追加のツールを使用して、精度を調整できます。
6. 可能であれば、OCR で出力ファイル内の特定のテキストを検索できます。スキャンした原稿の言語を OCR の言語に指定して、正確な文字認識が行えるようにします。複数の言語を含む複数の原稿が混在している場合は、複数の第 2 言語を選択できます。
7. カスタム辞書を使用すると、ドキュメントに固有の用語や独自の用語を認識する精度が向上します。**[参照]** をクリックして、カスタム辞書を選択します。詳細については、付録 D の「**カスタム辞書の使用**」を参照してください。
8. マルチページをグループ化する場合、**[すべて]** または **[イメージ]** のいずれかを選択して、出力ファイルに含めるイメージを指定します。
 - **[すべて]** を選択すると、選択した **[ページ]**、**[ドキュメント]**、**[バッチ]** のグループ内のすべてのイメージがファイルに出力されます。
 - **[イメージ]** を選択すると、選択された **[ページ]**、**[ドキュメント]**、**[バッチ]** のグループ内の指定されたイメージのみが出力ファイルに含まれます。たとえば、選択した **[マルチページ]** を **[ドキュメント]** でグループ化して、**[出力範囲]** に 1 と 10 を指定すると、各ドキュメントの 1 番目と 10 番目のイメージのみがファイルに出力されます。ドキュメントのイメージ数が 10 を下回る場合、1 番目のイメージのみがファイルに出力されます。
9. 終了したら **[OK]** をクリックします。

ファイル形式として **JPEG** または **JEPG2000** を選択（出力タイプがカラー / グレースケールの場合）

ファイル形式として **JPEG2000** を選択すると、**[JPEG2000 セットアップ]** ダイアログボックスが表示されます。



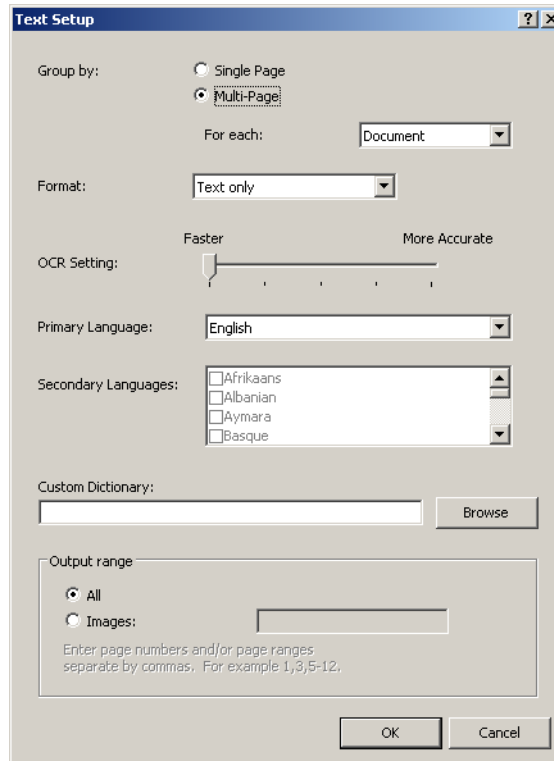
1. **[標準 (Good)]**、**[高 (Better)]**、**[最高 (Best)]** のカラー品質を選択します。
 注記： 出力処理用のファイル形式として **JPEG** を選択すると、次のような追加のカラー品質オプションが選択できます。**[スキャンイメージと同じ]**、**[ドラフト (Draft)]**、**[高品質 (Superior)]**。**[スキャンイメージと同じ]** を推奨します。
2. 終了したら **[OK]** をクリックします。

ファイル形式として **PNG** を選択

ファイル形式として **PNG** を選択する場合、セットアップは必要ありません。**PNG** ファイル形式は、構成を必要としない無劣化のシングルページ形式です。

ファイル形式としてテキストを選択

出力処理用ファイル形式として [テキスト] を選択すると、[テキストのセットアップ] ダイアログ ボックスが表示されます。

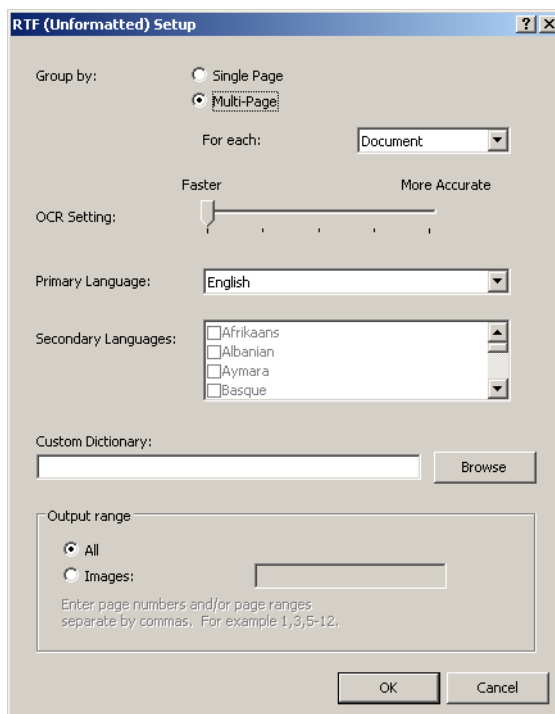


- 出力でイメージファイルをグループ化する方法として、[シングルページ] または [マルチページ] のいずれかを選択します。スキャンイメージファイルが個別の出力ファイルになります。
 - [シングルページ] を選択すると、スキャンするすべてのイメージが個別のイメージファイルとして出力されます。したがって、ページをスキャンすると、表面と裏面それぞれ 1 つずつ、合計 2 つの個別イメージファイルができます。デュアルストリームスキャンする場合は、出力には 4 つのイメージファイルがあります。
 - [マルチページ] を選択すると、それぞれに対して、ドロップダウンリストが表示されます。
 - ファイル単位：ページ** – スキャンするページ単位で 1 ファイルになります。ファイルを開くと、表面と裏面それぞれ 1 つずつ、合計 2 つのイメージがあります。デュアルストリームスキャンしている場合は、4 つのイメージができます。
 - ファイル単位：ドキュメント** – 1 つのドキュメント単位で、1 ファイルを生成します。1 つのファイルには複数の（または多数の）イメージが含まれることがあります。
 - ファイル単位：バッチ** – バッチでスキャンされるすべてのイメージは、1 つの出力ファイルになります。出力ファイルには多数のイメージが含まれることがあります。
- ドロップダウンリストから、次のいずれかのフォーマットを選択します。[テキストのみ]、[フォーマット済みテキスト]、[テキストのみ – Unicode]、または [フォーマット済みテキスト – Unicode]。

3. **[OCR の設定]** を選択して、速度と精度のバランスを調整します。スライダーを右に移動すると、言語辞書や複数の OCR エンジンなどの追加のツールを使用して、精度を調整できます。
4. OCR により出力ファイルの特定テキスト検索が可能になります。スキャンした原稿に含まれる OCR 言語を選択して、正確な文字認識が行われるようにします。複数の言語を含む複数の原稿が混在している場合は、複数の第 2 言語を選択できます。
5. カスタム辞書を使用すると、ドキュメントに固有の用語や独自の用語を認識する精度が向上します。**[参照]** をクリックして、カスタム辞書を選択します。詳細については、付録 D の「**カスタム辞書の使用**」を参照してください。
マルチページをグループ化する場合、**[すべて]** または **[イメージ]** のいずれかを選択して、出力ファイルに含めるイメージを指定します。
 - **[すべて]** を選択すると、選択した **[ページ]**、**[ドキュメント]**、**[バッチ]** のグループ内のすべてのイメージがファイルに出力されます。
 - **[イメージ]** を選択すると、選択された **[ページ]**、**[ドキュメント]**、**[バッチ]** のグループ内の指定されたイメージのみが出力ファイルに含まれます。たとえば、選択した **[マルチページ]** を **[ドキュメント]** でグループ化して、**[出力範囲]** に 1 と 10 を指定すると、各ドキュメントの 1 番目と 10 番目のイメージのみがファイルに出力されます。ドキュメントのイメージ数が 10 を下回る場合、1 番目のイメージのみがファイルに出力されます。
6. 終了したら **[OK]** をクリックします。

RTF (未フォーマット) をファイル形式として選択

ファイル形式として RTF を選択すると、**[RTF (未フォーマット) セットアップ]** ダイアログボックスが表示されます。

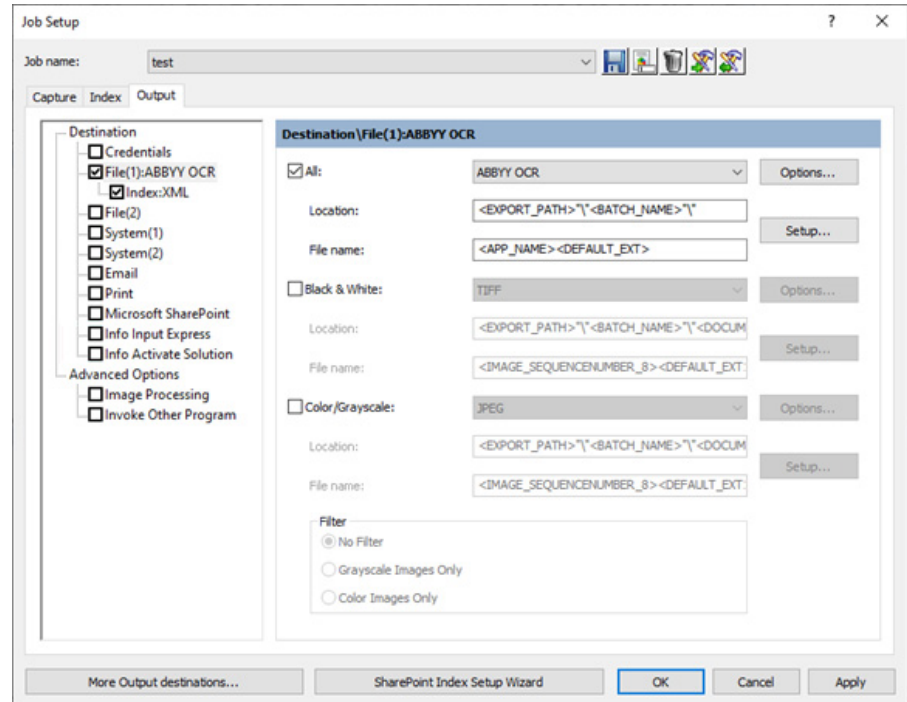


1. 出力でイメージファイルをグループ化する方法として、**[シングルページ]** または **[マルチページ]** のいずれかを選択します。スキャンイメージファイルが個別の出力ファイルになります。

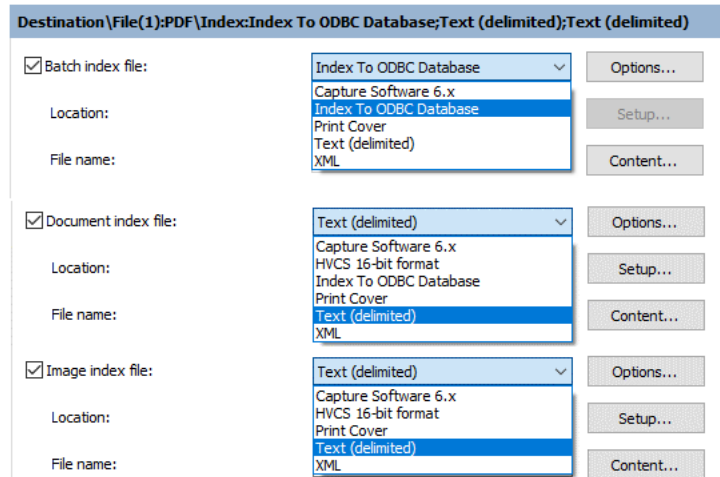
- **[シングルページ]** を選択すると、スキャンするすべてのイメージが個別のイメージファイルとして出力されます。したがって、ページをスキャンすると、出力には2つのイメージファイルが含まれます（表面と裏面）。デュアルストリームスキャンする場合は、出力には4つのイメージファイルがあります。
 - **[マルチページ]** を選択すると、*それぞれに対して*、ドロップダウンリストが表示されます。
 - **ファイル単位: ページ** – スキャンするページ単位で1ファイルになります。ファイルを開くと、表面と裏面それぞれ1つずつ、合計2つのイメージがあります。デュアルストリームスキャンしている場合は、4つのイメージができます。
 - **ファイル単位: ドキュメント** – 1つのドキュメント単位で、1ファイルを生成します。1つのファイルには複数の（または多数の）イメージが含まれることがあります。
 - **ファイル単位: バッチ** – バッチでスキャンされるすべてのイメージは、1つの出力ファイルになります。出力ファイルには多数のイメージが含まれることがあります。
2. **[OCR の設定]** を選択して、速度と精度のバランスを調整します。セレクトターを右に移動すると、言語辞書や複数のOCRエンジンなどの追加のツールを使用して、精度を調整できます。
 3. OCR により出力ファイルの特定テキスト検索が可能になります。スキャンした原稿に含まれるOCR言語を選択して、正確な文字認識が行われるようにします。複数の言語を含む複数の原稿が混在している場合は、複数の第2言語を選択できます。
 4. マルチページをグループ化する場合、**[すべて]** または **[イメージ]** のいずれかを選択して、出力ファイルに含めるイメージを指定します。
 - **[すべて]** を選択すると、選択した **[ページ]**、**[ドキュメント]**、**[バッチ]** のグループ内のすべてのイメージがファイルに出力されます。
 - **[イメージ]** を選択すると、選択された **[ページ]**、**[ドキュメント]**、**[バッチ]** のグループ内の指定されたイメージのみが出力ファイルに含まれます。たとえば、選択した **[マルチページ]** を **[ドキュメント]** でグループ化して、**[出力範囲]** に1と10を指定すると、各ドキュメントの1番目と10番目のイメージのみがファイルに出力されます。ドキュメントのイメージ数が10を下回る場合、1番目のイメージのみがファイルに出力されます。
 5. 終了したら **[OK]** をクリックします。

[ファイル (1)] と [ファイル (2)] のインデックスオプション

[ファイル (1)] と [ファイル (2)] の出力先のインデックスオプションは、[出力] タブでセットアップします。



バッチインデックスファイル、ドキュメントインデックスファイル、イメージインデックスファイルを作成できます。



注記： イメージファイルを出力せずにインデックスファイルのみを出力する場合は、インデックスファイルタイプ（バッチ、ドキュメント、イメージ）を選択して、出力先（ファイル（1）、ファイル（2））を選択し、すべての出力タイプ（すべて、白黒、カラー / グレースケール）のチェックを外します。ファイル（1） / ファイル（2）のラベルはイメージなしに変更され、インデックスデータのみ出力されることを示します。

各インデックスファイル（バッチ、ドキュメント、イメージなど）には [オプション] ボタン、[セットアップ] ボタン、[項目] ボタンがあります。

オプション — 使用可能なインデックスファイルタイプを表示します。

- キャプチャ ソフトウェア 6.x — プロパティのセットアップは不要です。

- **ODBC データベースへのインデックス** — 選択されたバッチおよび / またはドキュメントインデックス統計情報を ODBC 対応データベースに送信します。
 - **バッチインデックスファイル** : 選択したバッチ統計を含むバッチごとの 1 つのデータベースレコードです。
 - **ドキュメントインデックスファイル** : 選択したドキュメント統計を含むドキュメントごとの 1 つのデータベースレコードです。
 注記 : このオプションを利用できないイメージインデックスもあります。
- **HVCS 16 ビットフォーマット** — このオプションは、バッチインデックスファイルには提供されていません。[HVCS 16 ビットフォーマット] では、クライアント番号 (1 ~ 999) とアプリケーション番号 (1 ~ 9) を定義できます。
- **テキスト (区切り)** — ASCII または Unicode テキストファイル形式を選択できます。
- **XML** — プロパティのセットアップは不要です。
- **プリントカバー** — 印刷時にファイル内容に表紙を追加します。

セットアップ — インデックスファイルの作成が可能な、[アウトプット先のセットアップ] ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスに関する詳細は、この章の後半の「[アウトプット先のセットアップ]を使用した場所とファイル名の式の構築」を参照してください。

項目 — [インデックス内容のセットアップ] を表示します。ここでは、インデックスを定義できます。このダイアログボックスに関する詳細は、この章の後半の「[インデックス内容のセットアップ] ダイアログボックスの使用」を参照してください。

ODBC データベースへのインデックス

インデックスデータを SQL Server や Microsoft Access など、ODBC に準拠したデータソースに保存する場合は、このシステム出力先を使用します。出力の際、選択したバッチおよびドキュメントインデックスフィールドを使用して、各ドキュメントの新しいレコードが作成され、データベースに書き込まれます。

ドキュメントイメージの保存先パスが含まれた 3 つの追加ドキュメントインデックスフィールドが提供されています。単一の場所にすべてのイメージを保存している場合、[イメージの場所 - すべて] フィールドに、各ドキュメントのイメージのパスが含まれます。白黒とカラー / グレースケールイメージを異なる場所に保存している場合は、[イメージの場所 - 白黒] および [イメージの場所 - カラー / グレースケール] フィールドに該当するそれぞれのイメージタイプのパスが含まれます。これらのフィールドはユーザーのデータベースで使用され、保存したイメージをドキュメントインデックスデータと関連付けるために使用されます。

サポートしている出力ファイル / グループ化 — マルチページ、ドキュメントごと、全イメージタイプ

サポートしているチャンネル — 全て、白黒、カラー / グレースケール

1. **[ODBC データベース]** のシステム出力先にアクセスします。

注記 : Microsoft Access 2016 のサポートのため、Microsoft の Web サイト <https://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=13255> から MS Access Database Engine 2010 再頒布可能パッケージをインストールする必要があります。

- **データソース名** : 既存のファイルを参照するか、新規ファイルまたはマシデータソースを作成します。
 - **データベーステーブル** : ドロップダウンコントロールを選択して、選択したデータソースに使用可能なテーブルを一覧表示します。インデックスフィールドデータを保存するテーブルを選択します。
2. 追加するフィールドを選択します。
データグリッドの左側のカラムには、現在のバッチとドキュメントフィールド名が予め入力されている点に注意してください。追加のドキュメントインデックスフィールドも3つあります。[イメージの場所 - すべて]、[イメージの場所 - 白黒]、および [イメージの場所 - カラー/グレースケール]
3. インデックスフィールドと同じ行の右のカラムをクリックして、データベースにマッピングするインデックスフィールドを選択します。
4. ドロップダウンで表示された矢印をクリックすると、使用可能なデータテーブルフィールドが表示され、フィールドを選択することができます。
- [出力]、[システム (1)/(2)] タブで [すべて] のチェックボックスを選択した場合、[イメージの場所 - すべて] のフィールドには、ファイルパスとイメージ名が含まれます。ファイルパスは [出力] ルートパスに「\batch name」と「\All」を付加して作成できます。イメージ名はドキュメントのシーケンス番号で、8文字の長さになるよう、ゼロが埋め込まれています。ファイルの拡張子は、出力用に選択したイメージタイプによって異なります (tif、pdf、txt など)。例 :
“C:\BatchesPro\Batch001\All\00000001.tif”。
 - [白黒] を選択すると、ファイルパス内の「\All」が「\BW」と入れ替わります。
 - [カラー/グレースケール] を選択すると、ファイルパス内の「\All」が「\CG」と入れ替わります。

ドキュメントごとの複数記録

ドキュメントには複数のアイテムが含まれている場合があります。各アイテムはデータベースの個別の記録として保存されます。たとえば、以下のドキュメントには4つのアイテムが含まれています。

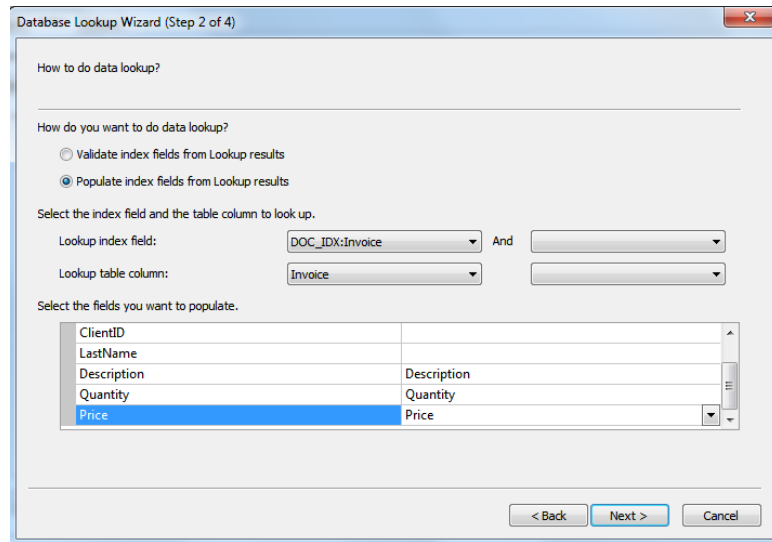
| 説明 | 数量 | 価格 |
|----------|----|--------|
| 製品アイテム 1 | 2 | 28.44 |
| 製品アイテム 2 | 1 | 43.12 |
| 製品アイテム 3 | 5 | 122.50 |
| 製品アイテム 4 | 2 | 12.80 |

4つのレコードを、各レコードに [説明]、[数量]、[価格] の3つのフィールドが含まれるデータベースに保存したい場合は :

1. 入力する各データベースフィールドにインデックスフィールドを作成します。例えば、説明、数量、価格です。これらのインデックスフィールドは、最初のアイテムセットを保持するために使用します。
2. 残りのアイテムセットのインデックスフィールドを作成します。インデックスフィールド名は、番号が追加された最初のアイテムセットのものと同一にします。番号は1から始まり、連番である必要があります。例 :

製品アイテム 2 : 「内容 1」、「数量 1」、「価格 1」
製品アイテム 3 : 「内容 2」、「数量 2」、「価格 2」
製品アイテム 4 : 「内容 3」、「数量 3」、「価格 3」

3. データベース検索ウィザードを使用して、最初のアイテムセットのインデックスフィールド名をデータベースフィールド名に配置します。最初のアイテムセットのフィールド名のみがデータベース検索ウィザードで使用されます。



バッチインデックスファイル

バッチインデックスファイルをセットアップするには：

1. バッチインデックスファイルを選択します。
2. リストから該当するインデックスファイルタイプを選択します。
 - テキスト (区切り) を選択した場合は、[オプション] をクリックして、[ASCII] または [Unicode] を選択し、最後に [OK] をクリックします。
3. 必要に応じて、[セットアップ] をクリックして [アウトプット先のセットアップ] を表示し、出力バッチインデックスファイルのパスを作成します。この章に後述の「[アウトプット先のセットアップ] を使用した場所とファイル名の構築」を参照してください。
4. 必要に応じて、[項目] をクリックして [インデックス内容のセットアップ] ダイアログボックスを表示し、インデックス内容を定義します。デフォルトでは、バッチインデックスファイルにはジョブ用に定義されたバッチインデックスのみが含まれます。[項目] ボタンを使用して、インデックス値を追加または削除したり、出力のインデックスを並べ替えたりします。この章に後述の「[インデックス内容のセットアップ] ダイアログボックスの使用」を参照してください。
5. 終了したら [OK] をクリックします。

ドキュメントインデックスファイル

ドキュメントインデックスファイルをセットアップするには：

1. ドキュメントインデックスファイルを選択します。
2. リストから該当するインデックスファイルタイプを選択します。
 - テキスト (区切り) を選択した場合は、[オプション] をクリックして、[ASCII] または [Unicode] を選択し、最後に [OK] をクリックします。
 - [HVCS 16 ビットフォーマット] を選択した場合は、[オプション] をクリックして、クライアント番号 (1 ~ -999) とアプリケーション番号 (1 ~ -9) を入力し、最後に [OK] をクリックします。

3. 必要に応じて、[**セットアップ**] をクリックして [アウトプット先のセットアップ] ダイアログボックスを表示し、出力するドキュメントインデックスファイルのパスを作成します。この章に後述の「[アウトプット先のセットアップ] を使用した場所とファイル名の構築」を参照してください。
4. 必要に応じて、[**項目**] をクリックして [インデックス内容のセットアップ] ダイアログボックスを表示し、インデックス内容を定義します。デフォルトでは、ドキュメントインデックスファイルには、ジョブ用に定義されたドキュメントインデックスのみが含まれます。[**項目**] ボタンを使用して、インデックス値を追加または削除したり、出力のインデックスを並べ替えたりします。この章に後述の「[インデックス内容のセットアップ] ダイアログボックスの使用」を参照してください。
5. 終了したら [**OK**] をクリックします。

イメージインデックスファイル

イメージインデックスファイルをセットアップするには：

1. **イメージインデックスファイル**を選択します。
2. リストから該当するインデックスファイルタイプを選択します。
 - **テキスト (区切り)** を選択した場合は、[**オプション**] をクリックして、[**ASCII**] または [**Unicode**] を選択し、最後に [**OK**] をクリックします。
 - [**HVCS 16 ビットフォーマット**] を選択した場合は、[**オプション**] をクリックして、**クライアント番号** (1 ~ -999) と **アプリケーション番号** (1 ~ -9) を入力し、最後に [**OK**] をクリックします。
3. 必要に応じて、[**セットアップ**] をクリックして [アウトプット先のセットアップ] ダイアログボックスを表示し、出力するイメージインデックスファイルのパスを作成します。この章に後述の「[アウトプット先のセットアップ] を使用した場所とファイル名の構築」を参照してください。
4. 必要に応じて、[**項目**] をクリックして [インデックス内容のセットアップ] ダイアログボックスを表示し、インデックス内容を定義します。デフォルトでは、イメージインデックスファイルにはこのジョブ用に定義されたイメージインデックスの項目で構築されています。[**項目**] ボタンを使用して、インデックス値を追加または削除したり、出力のインデックスを並べ替えたりします。この章に後述の「[インデックス内容のセットアップ] ダイアログボックスの使用」を参照してください。
5. 終了したら [**OK**] をクリックします。

[アウトプット先のセットアップ] を使用した場所とファイル名の構築

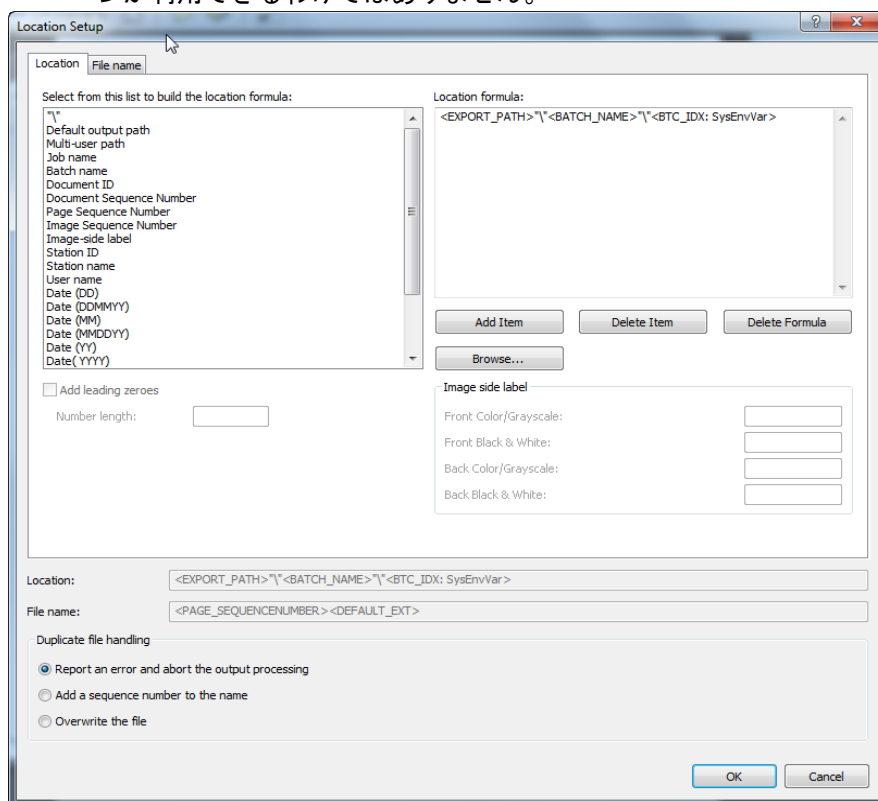
[アウトプット先のセットアップ] ダイアログボックスにはプリセット値と過去にセットアップしたインデックス項目のリストが表示されます。このリストを使用して、簡単に分類できるように任意のフォルダに、出力ファイルを保存できます。

[出力] タブ – **出力先 \ ファイル (1)** または **出力先 \ ファイル (2)** で [**セットアップ**] をクリックすると、[アウトプット先のセットアップ] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用して、出力先を作成および保存する際にキャプチャプロソフトウェアで使用する式を作成します。

- 場所の式を構築するには、[**アウトプット先**] タブを開きます。
- ファイル名の式を構築するには、[**ファイル名**] タブを開きます (このダイアログボックスにある場合)。

アウトプット先とファイル名式の作成手順は同じです。

注記： アウトプット先のオプション-[ファイル名]タブはインデックスファイル（たとえば、バッチ、ドキュメント、イメージ）の種類により異なります。すべてのインデックスファイルの種類ですべてのオプションが利用できるわけではありません。



1. このダイアログボックスの左側にあるリストから、必要な項目を選択します。現在使用されている式が、ダイアログボックスの右側の [ファイル名の式] フィールドに表示されます。

2. [項目の追加] をクリックすると、式の最後に項目が追加されます。パス名を指定する場合、上限は半角 248 文字です。

注記：

- [項目の削除] をクリックすると、式の最後にある項目が削除されます。
- [式の削除] をクリックすると、式が削除されます。

3. 連続番号の桁を定義し、シーケンス番号の先頭にゼロを付ける場合は、[ゼロ付き] を選択します。このオプションは番号に適用できます。

4. [ゼロ付き] を選択した場合、[桁数] ボックスを使用して、(ゼロ付き) シーケンス番号の桁数を指定します。

5. [ファイル名の式] フィールドに <読み取り用ラベル> を追加すると、[表面カラー/グレー]、[表面白黒]、[裏面カラー/グレー]、[裏面白黒] テキストボックス が利用できるようになります。必要に応じて、これらのフィールドにテキストラベルを入力してください。

6. [重複ファイルの処理] には 2 つのオプションがあります。次のいずれかのオプションを選択します。

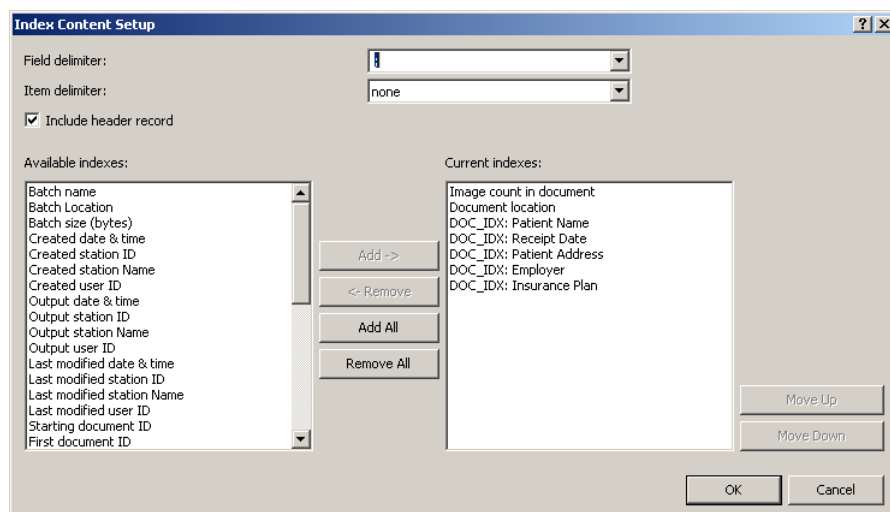
- エラーを報告して出力処理を中止：エラーメッセージが生成され、バッチの出力が停止します。
- シーケンス番号を名前に追加：シーケンス番号（たとえば -001、-002 など）を追加し、バッチの出力を継続します。

- **ファイルの上書き**: 重複の名称を有する出力フォルダの既存ファイルを上書きします。上書きされていない出力フォルダの既存ファイルは存続します。
7. **[ページシーケンス番号]** または **[イメージシーケンス番号]** を選択すると、**[リセット機能]** が選択できます。ページ/イメージ番号のシーケンス番号の仕様を設定します。
 - 各バッチに対して 1 から開始（ページシーケンス番号とイメージシーケンス番号でのみ利用可能）。
 - 各ドキュメントに対して 1 から開始（イメージシーケンス番号でのみ利用可能）。
 - 次のイメージ番号から継続（イメージシーケンス番号のみ利用可能）。
 8. **[OK]** をクリックすると出力式が保存されます。

注記： **マルチページ式**： **TIFF**、**PDF** または **検索可能 PDF** でマルチページ出力を選択した場合、ページシーケンス番号、イメージシーケンス番号、イメージサイドラベルを場所式やファイル 名式に追加することができません。同様に、バッチレベルでマルチページ出力を選択した場合は、バッチレベルより詳細な情報を出カファイル名に使用することはできません。

[インデックス内容のセットアップ] ダイアログボックスの使用

1. **[内容]** をクリックして、出カインデックスファイルのインデックス内容を定義します。**[インデックス内容のセットアップ]** ダイアログボックスが表示されます。



テキスト（区切り）のインデックスを定義する場合は、以下のフィールドのエントリを選択します。

テキスト（区切り）インデックス タイプには、次のオプションが使用できます。

2. **[フィールドの区切り文字]** ドロップダウンリストから（**タブ**）または（**スペース**）を選択します。区切り文字として他の文字を手動で入力することもできます。
3. （**なし**）、**コーテーション（'）**、**ダブルコーテーション（"）** を **[項目の区切り文字]** ドロップダウンリストから選択します。
4. 出カインデックスファイルにイメージファイルヘッダ情報を含む場合は、**[ヘッダレコードを入れる]** オプションを選択します。

テキスト（区切り）タイプか XML タイプのインデックス内容を定義している場合は、以下のオプションを適用できます。

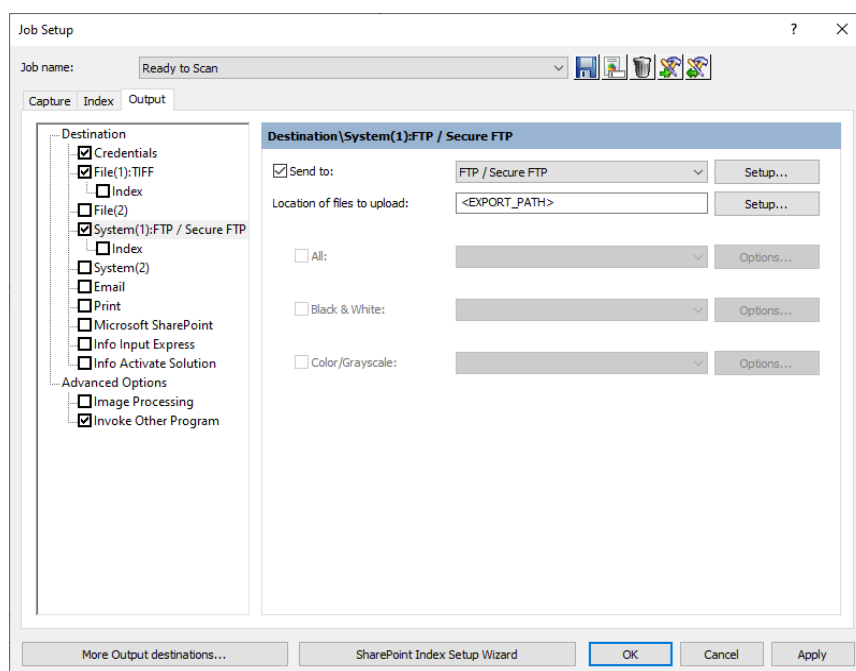
5. [使用可能なインデックス] リストから任意の項目を選択し、[追加] をクリックして [現在のインデックス] リストに追加します。

注記：

- [削除] をクリックすると、[現在のインデックス] リストから、選択した項目を削除します。
 - [すべて追加] をクリックすると、[利用可能なインデックス] のすべての項目を [現在のインデックス] リストに移動します。
 - [すべて削除] をクリックすると、[現在のインデックス] リストから、すべての項目を削除します。
 - [上に移動 / 下に移動] をクリックすると、[現在のインデックス] リストで、選択したインデックス項目が 1 つ移動します。
6. 終了したら [OK] をクリックします。

[システム (1)] と [システム (2)] オプション

[システム (1)] と [システム (2)] オプションでは、必要なファイル構造でバッチを出力するためのバッチ出力プラグインと、多くのエンタープライズコンテンツ マネージメントシステム用のファイル形式を選択できます。



[システム (1)] オプション — 選択した場合は、[送信先] チェックボックスを選択して、ドロップダウンリストからシステム（システム出力先）を選択します。

システム設定を変更する場合は、[セットアップ] をクリックします。選択したシステム出力先のダイアログボックスが表示されます。これらのダイアログボックスの詳細については、システム出力ガイドを参照してください。(A-61638)

出カルートパスを変更するには、[セッアップ]をクリックしてください。
[アウトプット先のセッアップ]ダイアログボックスが表示されます。詳細については、この章の前半の「[アウトプット先のセッアップ]を使用した場所とファイル名の構築」を参照してください。

出力用のファイル形式（TIFF、PDF、JPEG、PNG など）を選択します。選択するファイル形式は、選択した出力フォーマットによって異なります。

注記： [すべて]、[白黒]、および [カラー/グレー] は、選択したシステム出力フォーマットによっては使用できない場合があります。その場合は、[セッアップ] ボタンをクリックして、セッアップオプションを選択します。

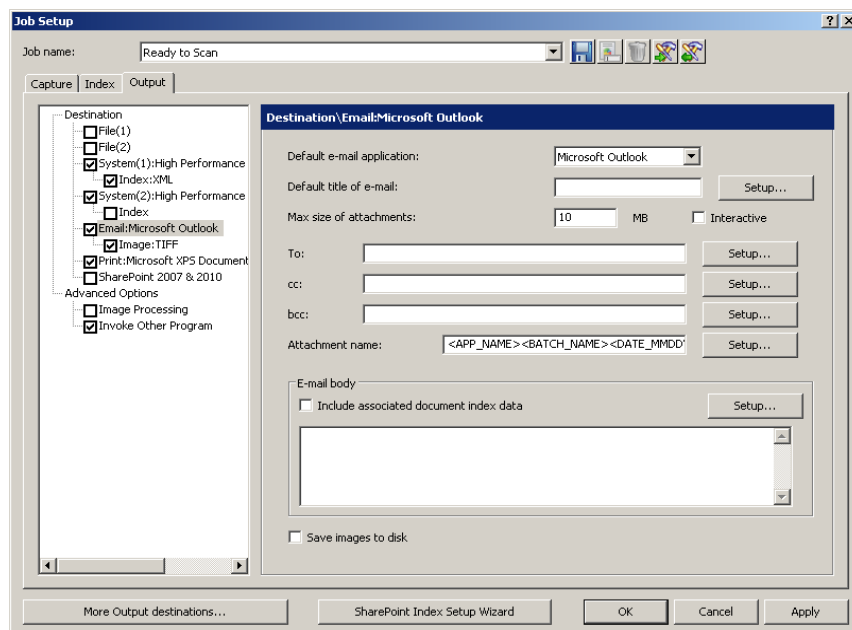
[システム (2)] オプション — 選択した場合は、システム (1) と同じように作業を行ってください。

その他の出力フォーマット — Kodak キャプチャプロとサードパーティのシステム出力先のリストと、各フォーマットへのリンクが Kodak Alaris のウェブサイトに掲載されています。

E メールオプションの設定

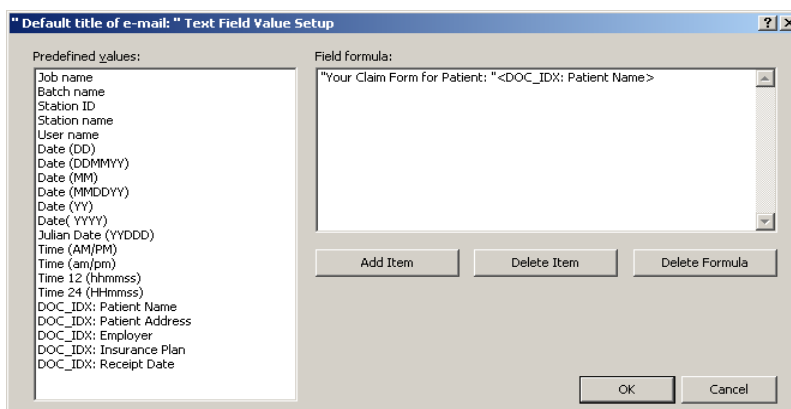
[出力] タブの E メールオプションを使用して、インデックスデータの有無に関わらず、出力バッチを自動的に E メールで送信できます。

1. [ジョブセッアップ] ダイアログボックスを開き、[出力] タブをクリックします。
2. [E メール] オプションをクリックします。[出力先 ¥ 電子メール:] ダイアログボックスが表示されます。



3. [デフォルトの E メールアプリケーション] ドロップダウンリストから、使用する E メールソフトウェアアプリケーションを選択します。

4. Eメールの件名欄に表示する情報を、[デフォルトの件名]フィールドに入力します。[セットアップ]をクリックして、件名欄にプリセット値（日付、名前など）を選択できます。[デフォルトの件名][テキストフィールド値のセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。ここでは、メール件名に追加する追加項目を選択できます。



- 件名に追加する項目を、[プリセット値]リストから選択します。追加ごとに、[項目の追加]をクリックします。
- 完了したら [OK] をクリックします。

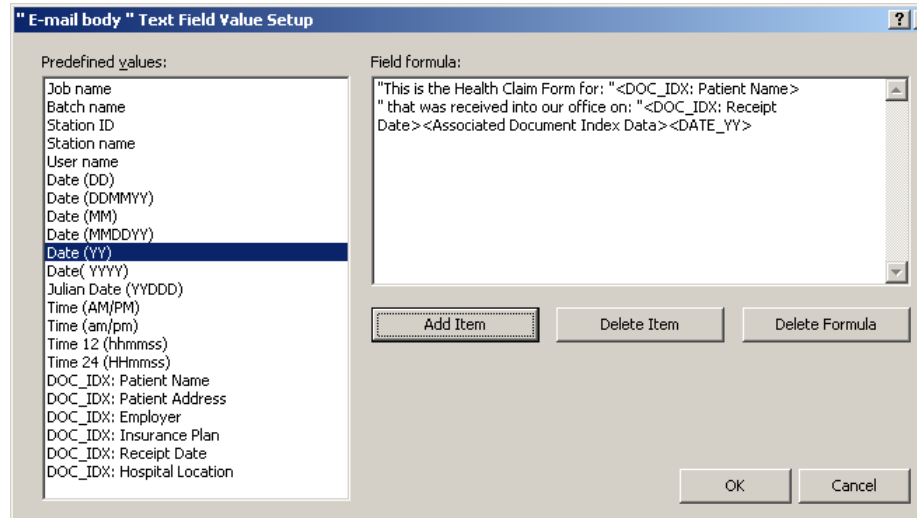
注記：最後の項目を削除するには、[項目を削除]をクリックします。式全体を削除するには、[式の削除]をクリックします。

5. Eメール添付ファイルの最大サイズ（MB）を、[添付ファイルの最大容量]フィールドに入力します。
6. Eメールの送信前に確認する場合は、[インタラクティブ]を選択します。

注記：Eメールクライアントに Outlook Express の旧バージョンを使用している場合は、必ずこのオプションを選択してください。選択しないと、Eメールが送信されない可能性があります。

7. 必要に応じて、1つ以上のEメールアドレスを [宛先]フィールド、[cc]フィールド、[bcc]に入力します。Eメールアドレスはダブルコーテーションで囲む必要があります（例：“John Smith@aol.com”）。
8. 必要に応じて、[セットアップ]をクリックしてEメール送信先名にプリセット値を追加します。
9. ファイルを添付する場合は、添付ファイル名を入力するか、[セットアップ]をクリックしてプリセット値を選択するか、その両方ができます。添付ファイル名はダブルコーテーションで囲む必要があります（例：“Patient file”）。

10. **[関連したドキュメントインデックスデータを入れる]**を選択すると、**[Eメールの本文]**フィールドにデータが自動的に表示されます。このデータを変更するには、**[セットアップ]**をクリックします。**[メール本文テキストフィールド値のセットアップ]**ダイアログボックスが表示されます。



- 任意のテキストを入力します。入力する情報は、ダブルコーテーション (“) で囲んでください。**[プリセット値]**リストから項目を選択し、**[項目の追加]**をクリックします。
- 完了したら **[OK]** をクリックします。

11. **[イメージをディスクに保存]**を選択すると、Eメール出力以外に、出力イメージファイルがハードディスク上にも保存されます。

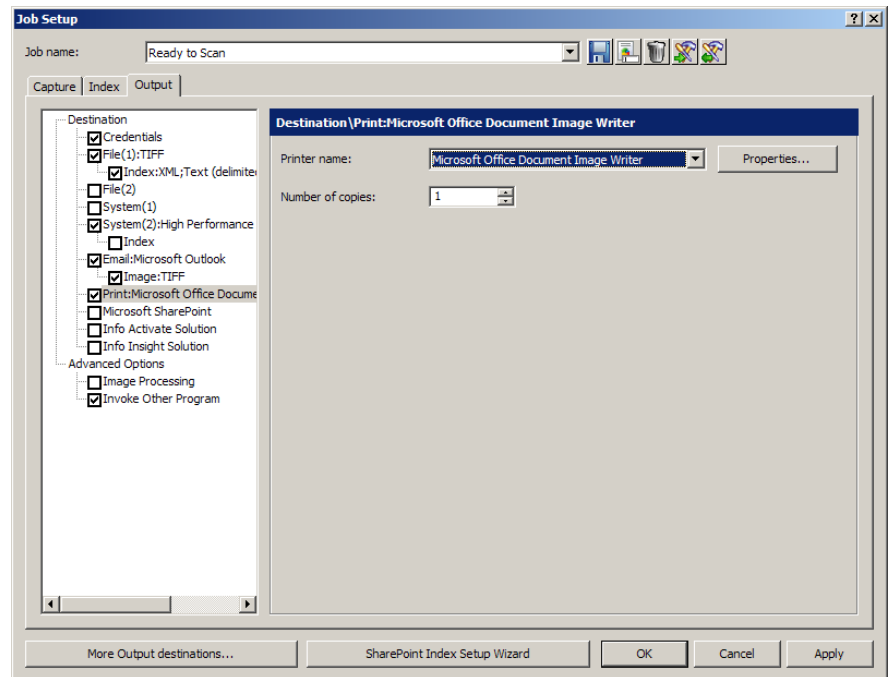
12. 完了したら **[OK]** をクリックします。

注記： **[出力]** タブの左側の **[Eメール]** オプションの下の **[イメージ]** を選択すると、出力の種類により出力先オプション（TIFF、PDF、JPEG、PNG など）を選択できます。

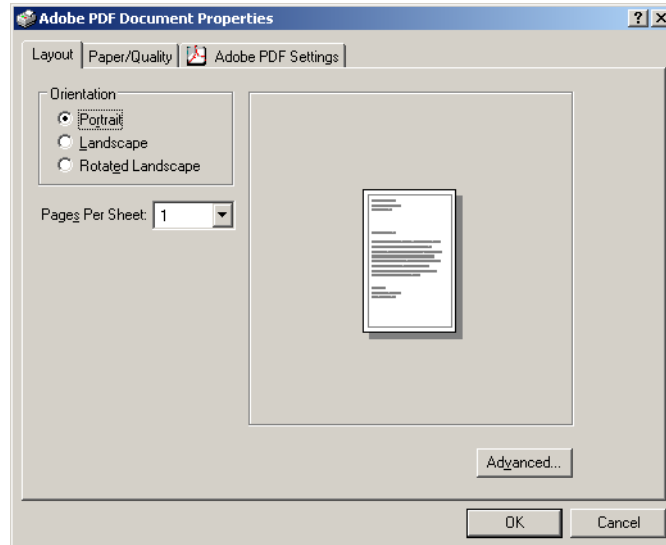
印刷オプションの設定

印刷オプションによってバッチ出力を印刷できます。

1. [ジョブセットアップ]-[出力]タブの[印刷]をクリックします。



2. [プリンタ名]ドロップダウンボックスから、使用するプリンタを選択します。
3. プリンタのプロパティを変更する場合は、[プロパティ]を選択します。選択したプリンタのプロパティが表示されます。



4. プリンタのプロパティを必要に応じて変更し、[OK]をクリックします。
5. ドロップダウンリストから印刷部数を設定し、[OK]をクリックします。

SHAREPOINT のインデックスセットアップウィザードの使用

SHAREPOINT のインデックスセットアップは、既存の SHAREPOINT サイトで使用しているインデックスをキャプチャプロ ソフトウェアのジョブセットアップに素早く簡単に設定します。

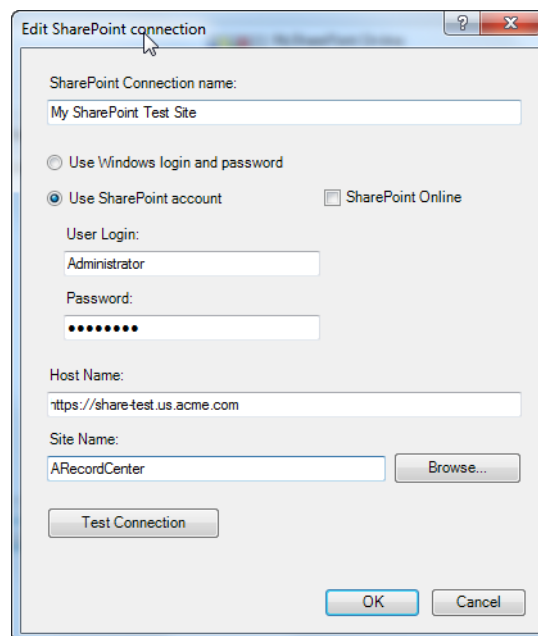
セットアップウィザードで SHAREPOINT サイトへの接続、SHAREPOINT のインデックスカラムからインデックスフィールドの作成、イメージの格納パスの定義に関する手順が示されます。

このウィザードは、SHAREPOINT のデータタイプを認識し、適切なフォーマットと「範囲内」のデータ キャプチャを保証するために、インデックスフィールドのフォーマットをお勧めします。ウィザードは、カラムが「選択」タイプの場合、選択肢にあるデータ値をドロップダウンリストに入力します。

SHAREPOINT のインデックスセットアップウィザードは、以下の 4 つの手順で進めていきます。

ステップ 1.SHAREPOINT のセットアップ：SHAREPOINT 接続を作成、編集および選択

1. バッチイメージとデータを格納する SHAREPOINT サイトへの「接続先」を選択します。この接続は、サイトへのアクセスに必要なホスト名、サイト名、資格情報を指定します。将来使用するときのために、意味のある名前を付けてください。



接続が定義されていない場合、[SHAREPOINT 接続の作成] ダイアログボックスが表示されます。

1. 接続する名前を入力します。このホスト名を使用して、特定の SHAREPOINT サイトを参照します。
2. Windows ログイン ID とパスワードで SHAREPOINT サイトにアクセスする場合、[Windows ログイン ID とパスワードを使用する] を選択します。
3. [SHAREPOINT アカウントを使用する] を選択し、ユーザーログイン ID とパスワードを入力し、SHAREPOINT アカウント資格情報で SHAREPOINT サイトにアクセスします。
4. [ホスト名] を入力します。たとえば、https://my-SHAREPOINT-host を入力します。
5. [サイト名] を入力します。ホスト名と資格情報が正しい場合、[参照] をクリックして利用可能なサイトを選択できます。

注記：

- SHAREPOINT にアクセスする前に、すべてのサブサイトにアクセスできるように許可されているか確認してください。アクセスについてチェックするには、まず `//<server>/_vti_bin/Lists.aspx` にアクセスします。エラーが返されたら、SHAREPOINT セットアップとサイト許可の状況を確認します。
- Office 365 SHAREPOINT オンラインアカウントにアクセスするには、**SHAREPOINT オンライン**をチェックしてください。
- Office 365 SHAREPOINT オンラインアカウントにアクセスするには、まず SHAREPOINT サーバー 2013 のクライアントコンポーネントの SDK と Windows Identity Foundation をインストールする必要があります。両コンポーネントとも Microsoft ダウンロードセンターで入手できます。
- ホスト名を決定するには、Web ブラウザを使用して O365 サイトにアクセスします。ブラウザのアドレスバーで URL を確認します。ホスト名は通常、URL の最初の部分で、`/_layouts/...` の前で終わります。

ステップ 2 既存の SHAREPOINT 上のインデックスカラムを基にドキュメントインデックスフィールドを作成する

SHAREPOINT サイト上にある使用可能な SHAREPOINT リストのいずれかを選択し、`[ドキュメントタイプ]`を選択すると、SHAREPOINT カラムが表示されます。

| SharePoint Column | Column Type | Required | Input Format | Default Value | Create index | Status |
|-------------------|-------------|-------------------------------------|--------------|---------------|-------------------------------------|--------|
| Content Type | Computed | <input checked="" type="checkbox"/> | ?<D> | | <input checked="" type="checkbox"/> | ⊘ |
| Name | File | <input checked="" type="checkbox"/> | ?<D> | | <input checked="" type="checkbox"/> | |
| Title | Text | <input type="checkbox"/> | ?<D> | | <input checked="" type="checkbox"/> | |
| Site URL | Text | <input type="checkbox"/> | ?<D> | | <input checked="" type="checkbox"/> | |
| Holds | Text | <input type="checkbox"/> | ?<D> | | <input checked="" type="checkbox"/> | |
| Hold Url | Text | <input type="checkbox"/> | ?<D> | | <input checked="" type="checkbox"/> | |

SharePoint Index Setup

SharePoint List: `Hold Reports` Show Document Libraries only

Document Type: `Document`

Edit

Status Message
This selected SharePoint Column is of type Computed. An index field of this type can not automatically be configured.

< Back Next > Cancel

`[カラムタイプ]`が表示され、SHAREPOINT 上のリストで必須の場合は **[必須]** チェックボックスがチェックされます。


自動的に作成 / 設定されたインデックスフィールドは、入力可能なすべてのカラムタイプに対して **[インデックスの作成]** チェックボックスがデフォルトで選択されます。特定カラムへの入力をしない、または新しいインデックスフィールドで特定のカラムに入力する必要がない場合は、**[インデックスの作成]** チェックボックスの選択を解除します。選択されていない SHAREPOINT のカラム用にインデックスフィールドを作成する場合は、**[インデックスの作成]** チェックボックスを選択し、**[編集]** をクリックしてインデックスフィールドを設定します。カラムに保存するデータを後で指定することができます。

[インデックス作成] チェックボックスをオフにする場合の一例としては、SHAREPOINT カラム *[Full Name]* に「last name, first name」という形式で人名を含む場合が挙げられます。「First Name」および「Last Name」という2つの既存のインデックスフィールドを使用して、このカラムに入力します。これら2つのインデックスフィールドのマッピングは後で行うとして、ここでは、*[フルネーム]* カラム用の **[インデックスの作成]** チェックボックスの選択を解除します。*[フルネーム]* のインデックスフィールドが必要ないためです。

新規インデックスフィールド毎に、SHAREPOINT のカラムのデータ要件に基づいた「入力フォーマット」が推奨されます。データ範囲やデータタイプにさらに制限を加える必要がなければ、推奨されたフォーマットを変更する必要があります。

SHAREPOINT 内でカラムにデフォルト値が指定されている場合、「デフォルト値」が表示されます。ドロップダウンリストに値が表示されない場合は、既存の値を変更したり、デフォルト値を追加したりできます。定義済みのバーコード、OCR、またはマーク検知ゾーンを含む、定義済みの値のリストが表示されます。さらに複雑なデフォルト値が必要な場合、**[編集]** を選択します。1つ以上の定義済みのタグまたは固定文字列を使用してデフォルト値を定義できます。

インデックスフィールドを作成する際に問題があれば、*[ステータス]* カラムに表示されます。問題を示す行を選択すると、**[編集]** ボタンの下にステータスメッセージが表示されます。このマークは、この SHAREPOINT のカラムのインデックスフィールドが作成されないことを示します。ほとんどの場合、アプリケーションがカラムタイプを自動的に作成できないことが原因です。たとえば、「計算済み」のカラムタイプは、アプリケーションが認識していない他の SHAREPOINT カラムを参照する必要があります。**[インデックスの作成]** を選択して、このカラムにインデックスフィールドを作成できます。

問題  を示す行を選択すると、**[編集]** ボタンの下にステータスメッセージが表示されます。ステータスメッセージには、問題と解決方法が表示されます。このマークは、続行する前にインデックスフィールドを作成する際、解決が必要な問題があることを示します。インデックスフィールドが不要な場合、**[インデックスの作成]** チェックボックスの選択を解除します。

[出力フォーマット]、*[置換文字]*、*[リスト]*（ドロップダウンインデックスフィールド用）などのその他のインデックスフィールドを追加/編集するには、適切なインデックスフィールドの行を選択し、**[編集]** をクリックします。

ステップ3 SHAREPOINTのセットアップ: 値を選択して SHAREPOINT のカラムに入力

インデックスフィールドを作成したので、これらのインデックスフィールドをシステム値（ジョブ名、バッチ名、日付、時刻など）、OCR ゾーン値、バーコードゾーン値、マーク検知ゾーン値と一緒に、またはこれらの値を組み合わせて使用し、SHAREPOINT カラムに挿入することができます。

| Required Columns | |
|------------------|-----------------|
| Name | <DOC_IDX: Name> |

| Optional Columns | |
|------------------|-------------------------|
| Content Type | <DOC_IDX: Content Type> |
| Title | <DOC_IDX: Title> |
| Site URL | <DOC_IDX: Site URL> |
| Holds | <DOC_IDX: Holds> |
| Hold Url | <DOC_IDX: Hold Url> |

値が必要な SHAREPOINT のカラムが最上部に表示されます。デフォルトでは、ステップ2で作成されたインデックスフィールドがカラムの入力に使用されます。異なる値を選択する場合は、[SHAREPOINT] カラムを選択し、変更管理のアイコンを選択します。ダブルコーテーションで囲まれた固定文字列を含む、1 つ以上の項目をリストから選択できます。たとえば、" 作成日: "<DATE_DDMMYY> のように指定します。

ステップ2に含まれていなかった SHAREPOINT カラムには（[インデックス作成]のチェックボックスがオフになっている場合）、デフォルト値は表示されません。このカラムにインデックスフィールドが作成されていないことが原因ですが、他のインデックスフィールド、システム値、OCR/バーコード/マーク検知ゾーンの値、またはこれらの値の組み合わせを使用して、このカラムの値を定義できます。

注記： [SHAREPOINT 名] カラムは、SHAREPOINT に保存されるファイルの名前を定義します。ステップ4には、イメージをグループ化する方法が記載されています。

各「ドキュメント」に対して、[複数ページ]でグループ化する場合、ドキュメントごとに固有の名前が必要です。たとえば、[名前]に <DOCUMENT_SEQUENCENUMBER> を指定することができます。

シングルページでグループ化する場合、各イメージに一意的な名前を付ける必要があります。したがって、[名前]カラムに各イメージごとに異なる名前を含む必要があります。たとえば、[名前]に <IMAGE_SEQUENCENUMBER_DOCUMENT> を指定することができます。

ステップ 4.SHAREPOINT の セットアップ：保存オプションとパスの定義

最後のステップでは、イメージのフォーマットおよびイメージを保存する SHAREPOINT の場所を指定します。

「開始フォルダ」とは、現在の SHAREPOINT サイトに含まれる既存のフォルダへのパスです。「すべて」、「白黒」、「カラー/ グレー」用に指定するイメージの保存パスはこのフォルダを基にします。[**セットアップ**] を選択すると、使用可能なフォルダを表示します。

白黒とカラー/グレースケールのイメージがあり、同じイメージフォーマットですべてのイメージを同じ場所に保存する場合は、[**すべて**] というチェックボックスをオンにします。

出力用のファイル形式（テキスト、TIFF、PDF など）を選択します。選択したファイル形式を設定する場合は、[**オプション**] を選択します。ファイル形式のダイアログボックスの説明は、本章で後述する「ジョブセットアップ」の [出力] タブにある「ファイル（1）とファイル（2）のセットアップオプション」を参照してください。

ファイルタイプの下にあるボックス内にイメージフォルダの場所を指定できます。利用可能なシステムとフィールドインデックス値からフォルダの場所を作成する場合は、[**セットアップ**] を選択します。

注記：[**セットアップ**] ボタンによって、イメージ（SHAREPOINT ドキュメント）の保存先のパスとフォルダ名を指定できます。「ドキュメント」毎に独自のパス名が必要です。そうでない場合は上書きされる可能性があります。バージョン管理を設定している場合、ファイル名の重複エラーが発生する可能性があります。ステップ 3 で選択した SHAREPOINT の「名前」が、選択したパスとイメージのグループ化に互換性があることを確認します。

白黒、カラー、グレーのいずれかのイメージが存在する場合、または白黒、カラー/ グレーのイメージに異なるファイルタイプを使用する場合は、[**白黒**] と [**カラー/ グレー**] のチェックボックスをそれぞれ選択します。

ドキュメントをバージョン管理されたSHAREPOINTドキュメントライブラリにチェックインするには、[アップロード後にチェックイン]チェックボックスをオンにします。SHAREPOINT リストのバージョン管理が有効になっていない場合、警告が表示され、ボックスの選択が解除されます。メジャーバージョン番号 (1.0) またはマイナーバージョン番号 (0.1) を持つドキュメントをチェックインできます。SHAREPOINT でマイナーバージョンの番号管理が設定されていない場合、警告が表示され、メジャーバージョン番号が選択されます。

注記： SHAREPOINT のバージョン管理が有効な場合、SHAREPOINT を [チェックアウトが必要] と設定する必要があります。

チェックイン時に「チェックインコメント」を追加できます。コメントは、固定メッセージにするか、[セットアップ] をクリックし、システム値とインデックス値を使用してコメントを作成できます。例：<STATION_NAME> : "<USER_NAME>

事前に定義されたインデックス「イメージシーケンス番号 (バッチ)」は、[連続イメージ開始番号] チェックボックスを選択し、開始値を入力することで、特定の番号から開始できます。

注記：

- [連続イメージ開始番号] チェックボックスを選択しても、「イメージシーケンス番号 (ドキュメント)」の開始値は変更されません。
- ウィザードを開始する前に、SHAREPOINT 用のバーコードゾーン /OCR ゾーン / マーク検知ゾーンの作成を推奨します。

SHAREPOINTのインデックスセットアップウィザードを以下の方法で起動します。

- [ファイル]>[ジョブセットアップ]を選択し、次に[ジョブセットアップ]ダイアログボックスの下にある **SHAREPOINT インデックスセットアップ** ウィザードボタンを選択します。

SharePointモダン認証

このオプションを使用すると、SharePoint インデックス セットアップ ウィザードから SharePoint Online のモダン認証を有効にすることができます。

注記： [Windows ログインとパスワードを使用する] がオンになっている場合、このオプションは無効です。

SharePoint Online の接続を作成するには：

1. ラジオボタンをクリックして [SharePoint アカウントを使用する] をアクティブにし、[SharePoint Online] オプションのチェックボックスをオンにします。
2. [モダン認証] オプションのチェックボックスをオンにすると、Web ベースの 2 要素認証が開始され、SharePoint Online のセットアップが完了します。

Create new SharePoint connection

SharePoint Connection name:
test

Use Windows login and password

Use SharePoint account SharePoint Online

User Login: Modern Authentication

Password:

Host Name:

Site Name: Browse...

Test Connection

OK Cancel

3. ログインポップアップで、SharePoint Online アカウントのユーザー名を入力します。

Microsoft

Sign in

Email, phone, or Skype

[Can't access your account?](#)

Back Next

Sign-in options

4. ユーザー名が有効であることが確認された後、SharePoint Online のパスワードを入力し、第 1 要素サインインを完了させます。

Microsoft

< onmicrosoft.com

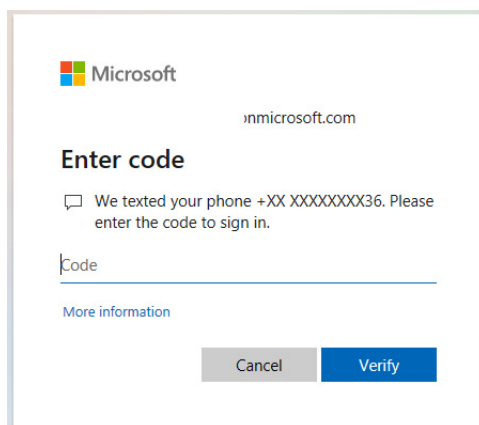
Enter password

password

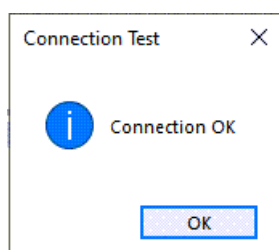
[Forgot my password](#)

Sign in

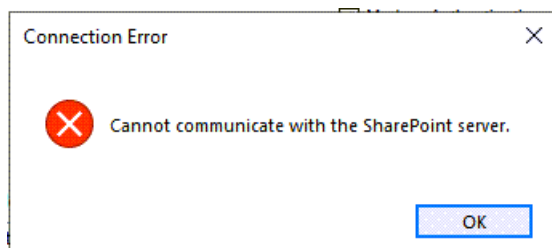
5. 電話 / 携帯電話から認証コードを入力し、第 1 要素サインインを完了させます。



6. SharePoint Online のログインが成功した場合、[接続のテスト] をクリックすると接続 OK メッセージが表示されます。



ログインに失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。



7. SharePoint Online へのログインが完了すると、ポップアップウィンドウが表示され、[はい] を選択すると SharePoint へのログインを継続し、[いいえ] をクリックするとセッション終了後にサインアウトすることができます。[はい] を選択すると、今後 SharePoint に接続する際にログインポップアップが表示されません。

注記： バッチ出力を選択した場合、同じ 2 要素認証プロセスで接続が開始され、ログインに成功すると SharePoint Online サイトにファイルがアップロードされます。

詳細オプション

[詳細オプション] を選択すると、以下のオプションが表示されます。

自動削除 — 表面または裏面のイメージサイズが [自動削除] ダイアログボックスで指定された値よりも小さい場合に、そのイメージを削除します。

自動方向修正 — 原稿の内容を解析し、スキャンイメージが正像になるように回転します。

背景色スムージング — 背景色のある原稿やフォームをスキャンする場合にこのオプションを使用すると、より均一な背景色のイメージが生成されます。

イメージ端埋め — イメージの端にある不要な部分を黒か白で埋めて、鮮明なイメージにします。

イメージのスタンプ — 各ページの表面と裏面にイメージ番号のスタンプを追加します。

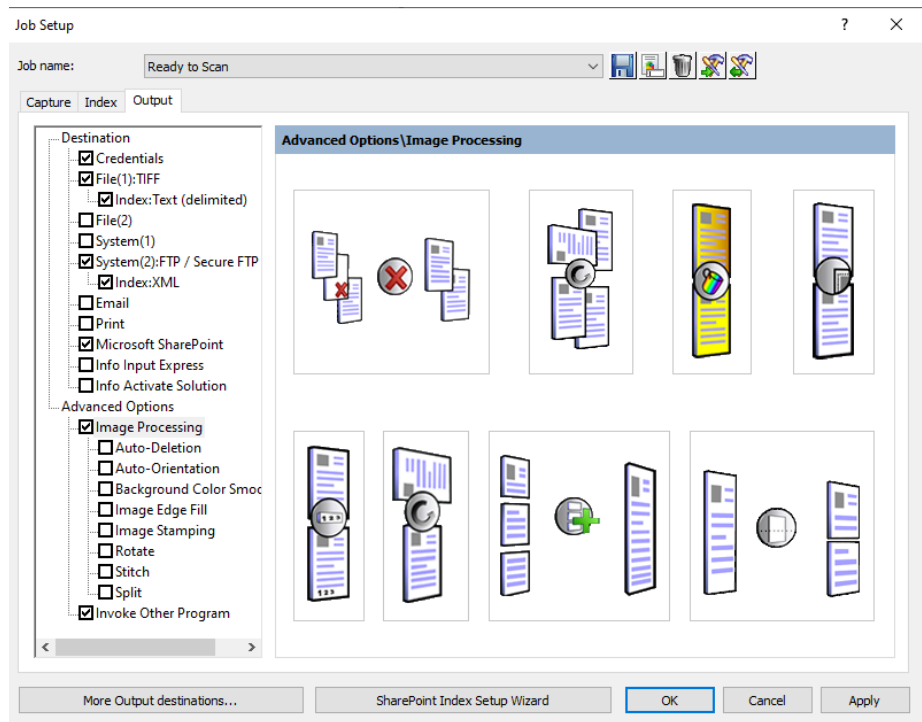
回転 — 0、90、180、270 度のいずれかを選択して、すべてのイメージを回転します。

縦じ代 — ドキュメントのすべてのイメージを単一の出力ファイルに結合します。イメージは同じ幅で、最後のイメージ以外は同じ長さでなければなりません。

分割 — 表面 / 裏面イメージを複数のイメージ（最大 6 つ）に分割します。イメージは同じ種類（カラー / グレースケールまたは白黒）でなければなりません。

イメージ処理オプションにアクセスするには：

1. [出力] タブの [詳細オプション] の下の [画像処理] をクリックします。



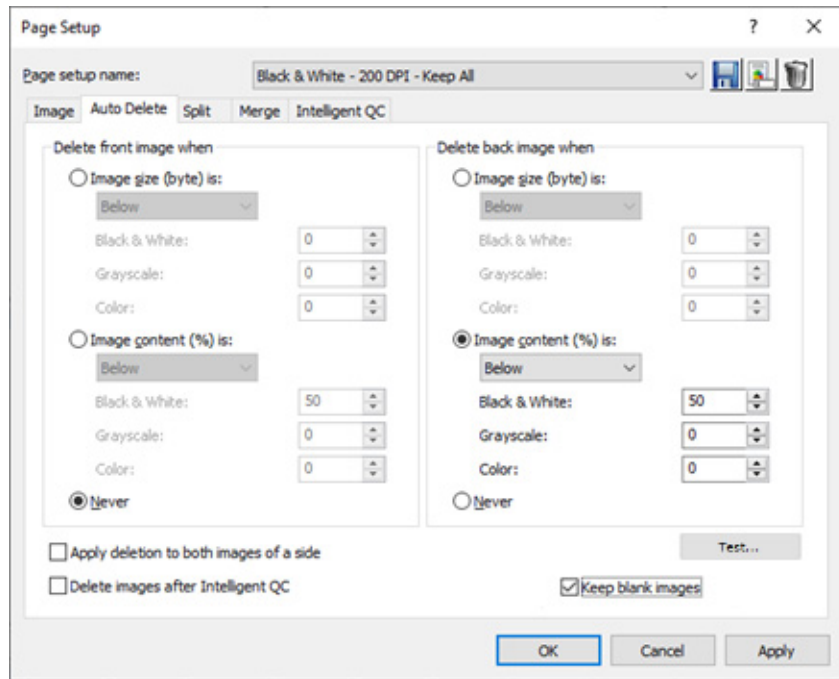
2. 該当するイメージ処理オプションを選択し、適切に設定します。

注記： 各オプションの詳細については以降で説明します。

自動削除

自動削除オプションでは、内容のないイメージや、非常に込み入ったページ（多くの説明文章を含むフォームの裏面など）を自動的に削除するオプションを設定できます。自動削除設定は、表面と裏面がそれぞれ独立して指定されます。

カラー、グレースケールおよび / または白黒イメージタイプをスキャンする場合、自動削除設定も独立して設定されます。そのため、選択したイメージタイプのみ削除するように選択できます。



自動削除を使用する場合は、[テスト] オプションを使用して、*白紙またはほぼ白紙*とみなされるようなドキュメントをスキャンすることをお勧めします。[テスト] オプションの結果により、[イメージのサイズ (バイト)] オプションまたは [イメージの内容 (%)] オプションのいずれかを使用して自動削除を設定する必要があるかが判断できます。

- **イメージが次のサイズ以上 (バイト)** — 説明的で込み入った内容を多く含むページを削除する場合は、このオプションを選択します。たとえば、表面 / 裏面ページに似たような内容 (保険の書類など) の原稿で、表面の内容は保存する必要があり、裏面の内容は要求の申立て方法が記載されている (保存の必要はない) ような原稿をスキャンする場合、バイト数を指定し、イメージファイルがその値を超過する場合は削除させるように値を入力します。この値を超えるイメージは、すべて大き過ぎるとみなされ、削除されます。
- **イメージが次のサイズ (バイト) 未満** — 内容がない、または内容が少ないページを削除する場合は、このオプションを選択します。イメージファイルの容量を入力します。この値を下回るイメージは、すべて空白とみなされ、削除されます。
- **イメージの内容 (%) が次のサイズ以上** — 大き過ぎると判断する値をパーセンテージで指定する以外は、[イメージが次のサイズ (バイト) 以上] オプションと似ています。この値を超えるイメージは、すべて削除されます。
- **イメージの内容 (%) が次のサイズ未満** — このオプションは、キャプチャソフトウェアがページの内容を空白または非常に少ないとみなす値をパーセンテージで指定する以外は、[イメージが次のサイズ (バイト) 未満] オプションと似ています。この値を下回るイメージは、すべて空白とみなされ、削除されます。白紙ページがある場合は、この設定を使用します。

注記：

- [**イメージのサイズ (バイト)**] オプションを選択すると、解像度、圧縮率などの別の要素がイメージのサイズに影響を与えます。
- [**イメージの内容 (%)**] オプションでは、イメージに含まれる情報の割合のみで判断されるので、イメージのサイズ、解像度、圧縮率などが変化する場合、より一貫性があり、確度が高いオプションです。

削除しない — イメージを削除しない場合は、[**削除しない**] をクリックします。

白紙イメージをキープする — このオプションを有効にすると、白紙イメージは削除されずにハイライト表示されます。

白紙としてマークするには、[**ツール**] メニューの [**白紙としてマーク**] をクリックするか、

選択した画像を右クリックして [**白紙としてマーク**] を選択します。

このオプションは、イメージが選択されているときのみ有効で、マークされたイメージはイメージビューア内で赤枠でハイライトされます。

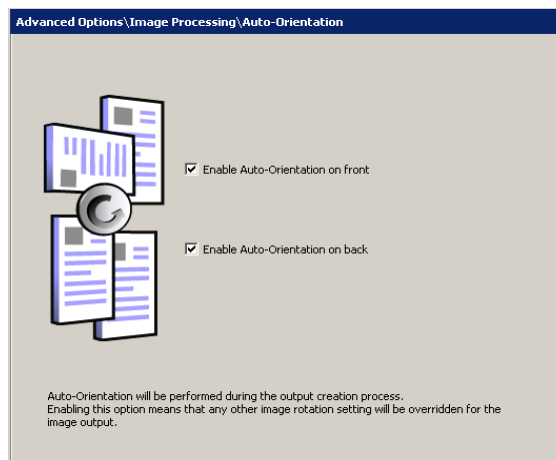
注記：

- 白紙としてマークされたイメージが [**インデックス内容のセットアップ**] ダイアログの [**現在のインデックス:**] 欄に追加されると、イメージインデックスファイルに "<IMG_MARKBLANK>" タグが入力されます。
- イメージが白紙としてマークされた場合は <IMG_MARKBLANK> = 1、それ以外の場合、値 = 0。

自動方向修正

このオプションは、原稿の内容を解析し、ドキュメントが右読みになるように向きを設定します。

自動方向修正は、すべての文字セットで機能するわけではありません。方向が正しく修正されることを確認するために、テスト原稿をいくつかスキャンすることをお勧めします。

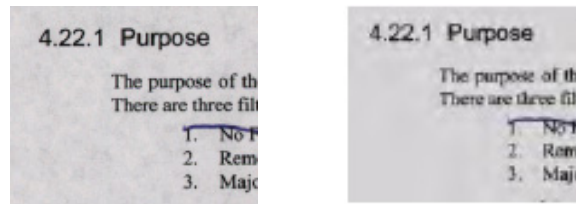


- [**表面の自動方向修正を使用**] または [**裏面の自動方向修正を有効にする**] を選択できます。

注記： 自動方向修正は、バッチ出力作成処理中に実行されます。

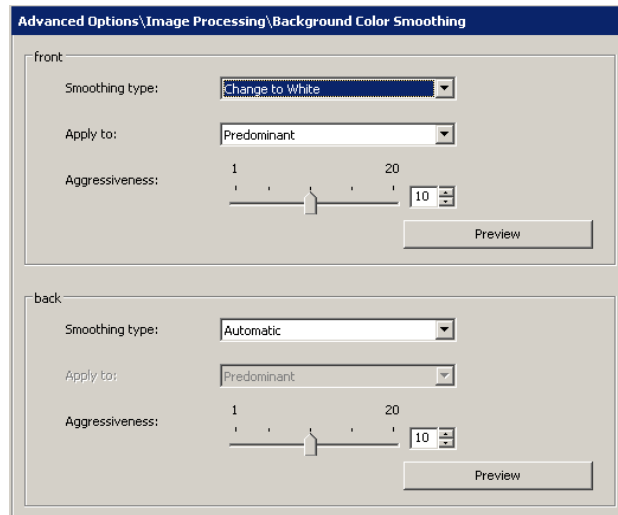
背景色のスムージング

このオプションを使用すると、背景色のあるドキュメントやフォームから均一な背景色のイメージが生成されます。



背景色スムージングの前 背景色スムージングの後

スムージングのオプションは、ページの表面と裏面（あるいはその両方）に適用できます。



以下のスムージングの種類が選択できます。

なし — 背景のスムージングは実行されません。イメージは変更されません。

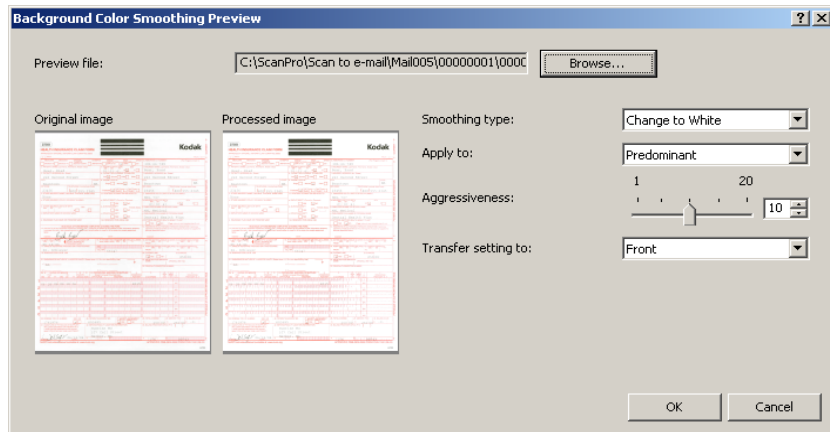
自動 — 背景色が自動的に選択され、スムージングされます。

白に変換 — 3色までの背景色を指定し、その各色を白にします。このオプションを選択すると、[適用]ドロップダウンボックスが有効になり、以下を選択できます。

- **主色**：最も一般的な背景色のみが白に変更されます。
- **中間色**：中間の背景色のみが白に変更されます。
- **すべて**：背景色が白に変更されます。

度数 — 背景色の中で修正が可能ならばつき量を制御します。1から20までの値を選択します。

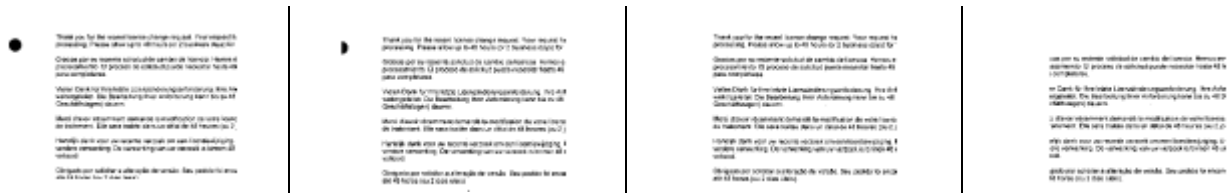
プレビュー [背景のスミージングプレビュー] ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスでは、元のイメージと変更後のイメージを比較したり、設定を変更したりすることができます。



イメージの端埋め

このオプションを使用すると、黒または白（選択に応じて）でカバーすることで、スキャンしたイメージの不要な端を埋めてきれいにできます。このオプションは、ページの表面、裏面のいずれか、または両方に適用できます。

パンチ穴や不揃いなイメージを含むページがあり、それをクリーンアップする場合は、このオプションを使用します。



オリジナル : [イメージ端埋め] を使用しない 3 穴式のパンチ

穴の半分を埋めている 37/100 インチのイメージ。値が小さすぎます。

62/100 インチのイメージは、穴全体を埋め、テキストのすべてを保持します。値は十分です。

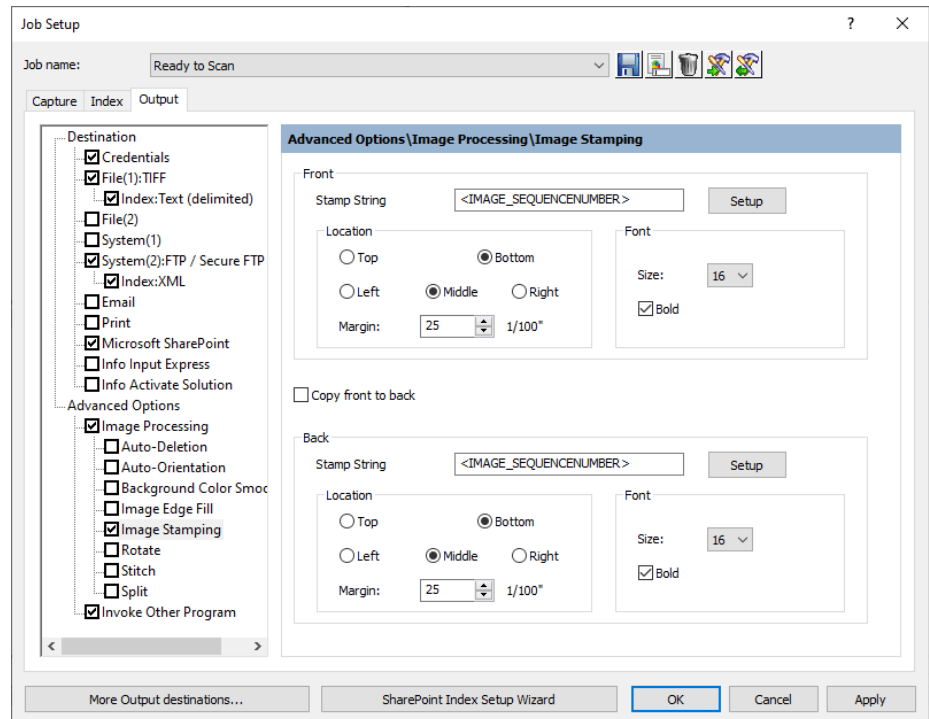
150/100 インチのイメージでは、穴全体とテキストの一部が埋まりました。値が大きすぎます。

- スキャンされたイメージの各面から埋める範囲（1/100 インチ）を、[上]、[左]、[右] または [下] の領域に指定します。あるいは、すべての面を同じ範囲だけ埋める場合は、[すべての面] を選択します。

注記：イメージ端埋めを使用するときは、大きな値を入力しないよう注意してください。値が大きすぎると、イメージデータが塗りつぶされる場合があります。

イメージのスタンプ

イメージのスタンプを使用すると、時刻、日付、各種シーケンス番号、ジョブやバッチ名などの情報をスキャンイメージに挿入できます。[イメージのスタンプ] ダイアログボックスで、ページの表面、裏面のいずれか、または両方の様々な位置にこの種の情報を配置できます。ページの表面と裏面を個別に設定できます。



表面 / 裏面 : スタンプ文字列 — [セッアップ] をクリックすると、[スタンプ文字列のセッアップ] ダイアログボックスが表示されます。リストの1つ以上の項目を組み合わせて、スタンプ文字列の式を作成できます。詳細については、この章の前半の「ファイル (1) とファイル (2) のセッアップオプション」の「[場所のセッアップ] ダイアログボックスを使用した場所とファイル名の式の作成」を参照してください。

位置: 上または下 — 選択に応じてイメージの上か下にスタンプを配置します。

位置 : 左、中央、右 — 選択に応じてイメージの左、中央、右にスタンプを配置します。

余白 — 1 インチの 1/100 の単位で余白サイズを選択し、上下左右からどの程度離れた場所にスタンプを配置するのかを指定します。

フォントサイズ — スタンプのフォントサイズを選択します : 16 または 18 ポイント。

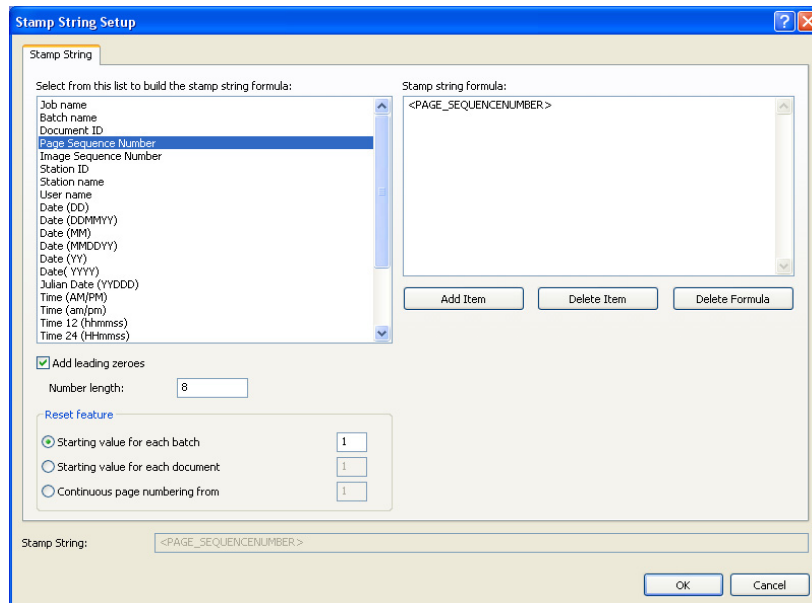
太字 — 太字で印字する場合に、このチェックボックスを選択します。

表面から裏面へコピー — 表面の設定値と同じ値を裏面に設定する場合に、このチェックボックスを選択します。

スタンプ文字列の設定

イメージのスタンプ文字列を設定するには、次を行います：

1. **[表面]** または **[裏面]** のセクションで **[セットアップ]** をクリックします。
[スタンプ文字列セットアップ] ダイアログボックスが表示されます。



2. 表示されたスタンプ文字列の式のリストから、スタンプ文字列に含める項目を選択します。項目の選択ごとに、**[項目を追加]** をクリックします。

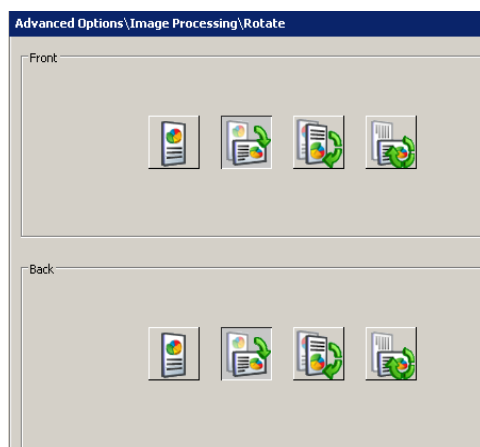
注記：

- 以下を選択すると、**[ゼロ付き]** と **[桁数]** フィールドが表示されます：
[ドキュメント ID]、**[ページシーケンス番号]**、**[イメージシーケンス番号]**、**[イメージアドレスレベル 1]**、**[イメージアドレスレベル 2]** または **[イメージアドレスレベル 3]**。ページシーケンス番号またはイメージシーケンス番号を選択すると、ページまたはイメージのシーケンス番号をリセットするタイミングおよびリセットする値を指定するオプションも使用できます。
 - スタンプ文字列式から項目を削除するには、**[項目の削除]** をクリックします。
 - スタンプ文字列式から式全体を削除するには、**[式の削除]** をクリックします。
3. スタンプ文字列の定義が完了したら、**[OK]** をクリックします。
 4. スタンプ文字列の位置を定義するには、イメージのスタンプをページのどちら側に配置するか指定します。**[マージン]** では、テキスト枠のサイズをページの端からの距離（右または左の水平方向および上または下の垂直方向）で定義します。**[中間]** を選択すると、垂直方向のマージンのみが適用されます。
 5. フォントサイズとしていずれかを選択します：**16** または **18**。
 6. 太字にする場合は、**[太字]** を選択します。
 7. 表面で指定したスタンプ文字列を両面で使用する場合は、**[表面の設定を裏面にコピー]** を選択します。異なる場合は、裏面を別途設定します。
 8. 終了したら **[OK]** をクリックします。

注記：キャプチャプロソフトウェアでは、テキストはイメージスタンプの領域に合わせて調整されません。イメージスタンプが割り当てられた領域より大きい場合、余分なテキストは省略されます。イメージスタンプサイズは予想が難しく、式、フォントサイズ、割り当てられたマージン、文字列によって異なります。テストスキャンを実行して、指定した文字列がスタンプの領域に収まるか確認することをお勧めします。

回転

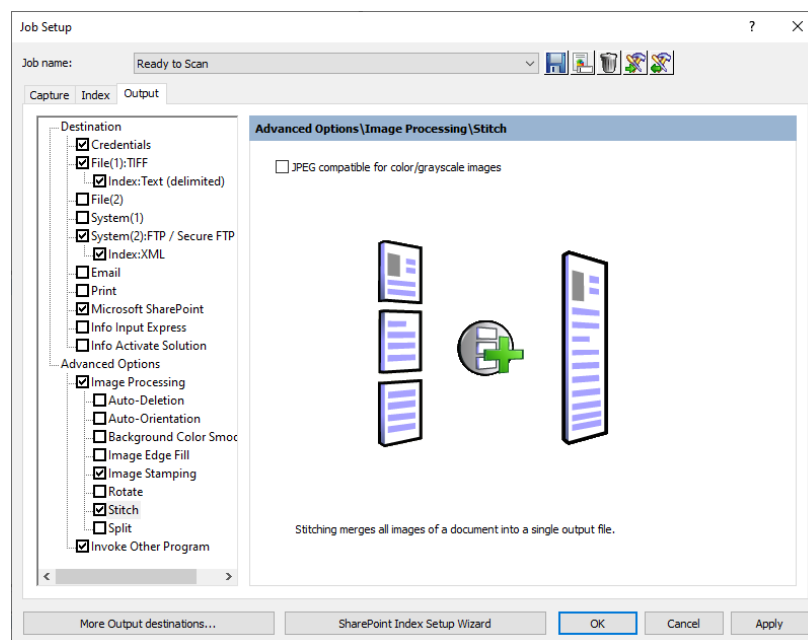
回転する角度を **0、90、180、270** 度から選択できます。回転角度は、バッチ内のすべてのイメージに適用されます。



イメージの結合

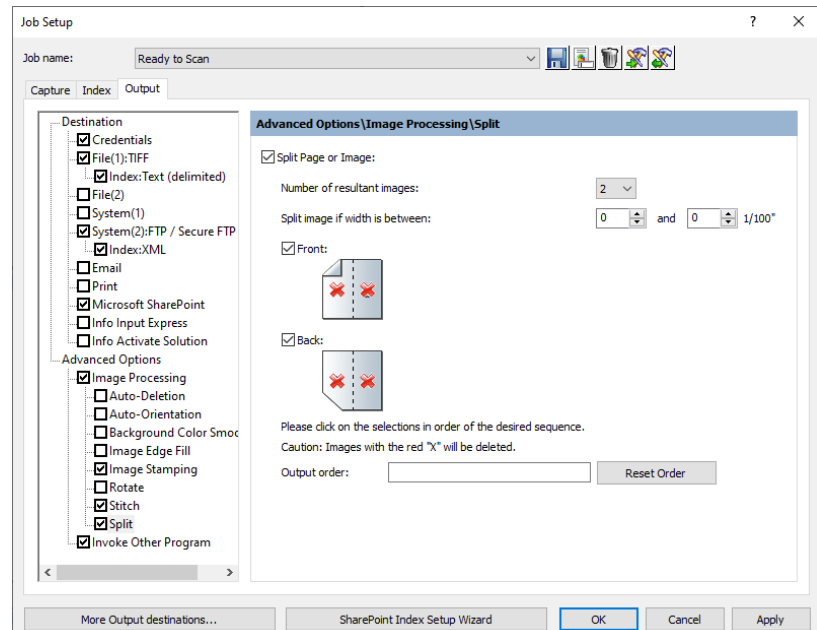
このオプションを選択すると、ドキュメント内のすべてのイメージが1つのイメージファイルに結合されます。

注記：効果的に使用するには、すべてのイメージが同じ幅であり同じ長さである必要があります。イメージの幅を変更するにはページセットアップを使用できます。最後のイメージを除くすべてのイメージは同じ長さでなければなりません。



分割

このオプションを選択すると、表面 / 裏面イメージが複数のイメージ（最大 6 つ）に分割されます。イメージは同じ種類（カラー / グレースケールまたは白黒）でなければなりません。

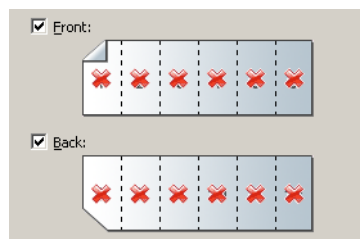


ページまたはイメージを分割 — このチェックボックスを選択すると、[分割] オプションが有効になります。

分割イメージ数 — ドロップダウンリストから、イメージの分割数として 2 ~ 6 の数を選択します。

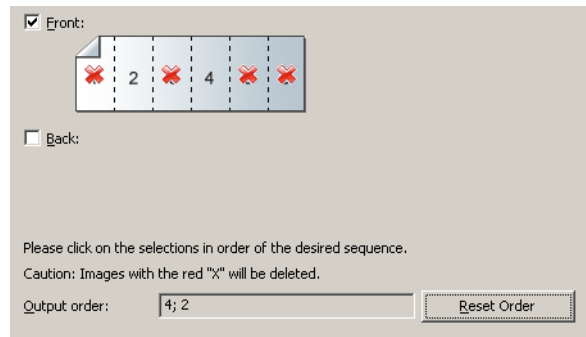
幅が次の範囲内の場合にイメージ分割 — 2 つのドロップダウンリストを使って、ページ / イメージの幅を選択します。ページの幅が指定範囲内の場合、分割されます。表面または裏面のいずれかが範囲外の場合は、両面とも分割されません。

表面、裏面 — [表面]、[裏面] のチェックボックスを選択すると、分割が有効になります。選択内容を表す図が表示されます。両方のチェックボックスを選択した場合、赤い「X」がある 2 つのブックアイコンが各面に表示されます。



注記： 片面スキャナーを使用している場合、[表面] のみを選択します。[表面] と [裏面] を両方選択すると分割されません。

出力順序 — このフィールドには、出力ページの順番が表示されます。イメージを出力する順番に合わせて、各イメージセグメントをクリックします。イメージセグメントをクリックしていくと、赤い「X」が消えます。

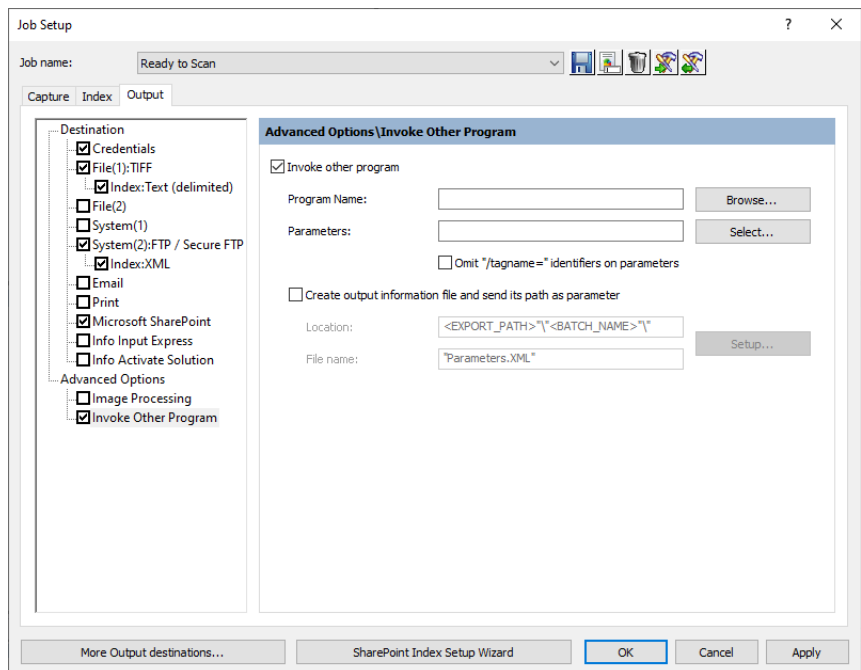


赤い「X」が残っているイメージセグメントは削除され、出力されません。このオプションは、最後のページが必ず白紙になるパンフレットなどの場合に役立ちます。

順番のリセット — 指定した順番が削除されます。再び順番を指定し直す場合に使用します。

[他のプログラムの呼出し]オプション

[出力]タブにある[他のプログラムの呼出し]オプションでは、キャプチャソフトウェア以外のアプリケーションを使用して、出力に変更を加えることができます。このオプションを有効にするには、チェックボックスを選択します。



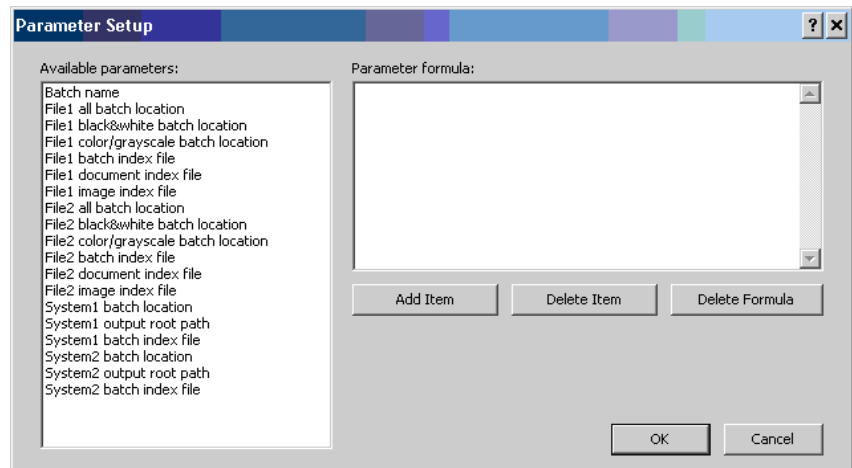
プログラム名 — アプリケーション名を入力します。必要に応じて、[参照]をクリックし、アプリケーション名を指定します。

パラメータ — パラメータはリテラル文字列とバッチの出力時に定義された可変値の組み合わせです。可変値を定義するには、[選択]をクリックします。

リテラル文字列を [パラメータ] テキストボックスまたは [パラメータの設定] ダイアログボックスの [パラメータ式] ウィンドウに入力します。リテラル文字列はスペースを使用して区切る必要があります。スペースを含むリテラル文字列はダブルコーテーションで囲みます。

可変パラメータを追加するには：

1. **[選択]** をクリックして **[パラメータセットアップ]** ダイアログボックスを表示し、可変パラメータをセットアップします。



2. **[使用可能なパラメータ]** のリストから追加するパラメータを選択します。
3. **[項目の追加]** をクリックします。

注記：

- **[項目の削除]** をクリックすると、**[パラメータの式]** からパラメータが削除されます。パラメータの式全体を削除するには、**[式を削除]** をクリックします。
- **[パラメータの式]** ダイアログボックスにリテラル文字列の入力もできます。 <> に囲まれた可変パラメータが (<BATCH_NAME> など)、式に追加されます。

バッチ出力時には、実際の値が代入され、値がパラメータとして渡されます。

たとえば、パラメータの式が <BATCH_NAME> one two "three four" の場合、次の 4 つのパラメータに置換されます：

```
/BATCH_NAME=Batch99999  
one  
two  
three four
```

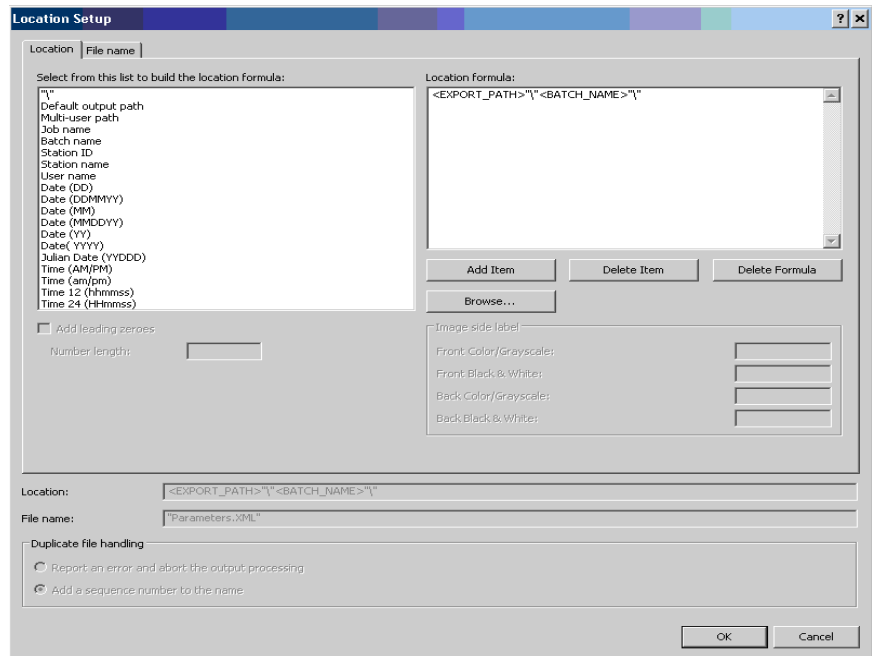
パラメータの "/tagname=" 識別子を省略 — デフォルトでは、パラメータは、/tagname= の形式の文字列を前に置いて、呼び出したアプリケーションに渡されます。このとき、tagname 識別子はパラメータタイプを表します (/BATCH_NAME=Batch001 など)。このオプションを選択すると、この識別子が省略されるため、プログラムでパラメータを正しく解釈するには、その番号とシーケンスが必要になります。

たとえば、以下の形式で **[パラメータの "/tagname=" 識別子を省略]** を選択すると、<BATCH_NAME> one two "three four" は以下のパラメータを生成します。

```
Batch99999  
one  
two  
three four
```

出力ファイルを作成し、パスをパラメータとして送信 — このオプションを選択すると、そのパラメータを含む XML ファイルが作成されます。このファイルへのパスが唯一のパラメータとして、呼び出したプログラムに渡されます。

場所 — [セットアップ] をクリックして、出力ファイルのパスの式とファイル名を指定します。



XML ファイルでは、文字列リテラルは PARAM_LIST エレメントに含まれ、1つのリテラルに対して1つの PARAM エレメントが使用されます。

可変パラメータは、パラメータタイプを特定するエレメントに含まれます (<BATCH_NAME> など)。

スキーマファイルの **KCCustomApplication.xsd** (付録 D 参照) は、作成された XML ファイルの検証とコード開発の参照に使用できます。

たとえば、場所とファイル名の式が <EXPORT_PATH>\"' <BATCH_NAME>\"' と Parameters.XML の場合、作成されるパラメータは **C:\BatchesPro\Batch001033841\Parameters.XML** です。

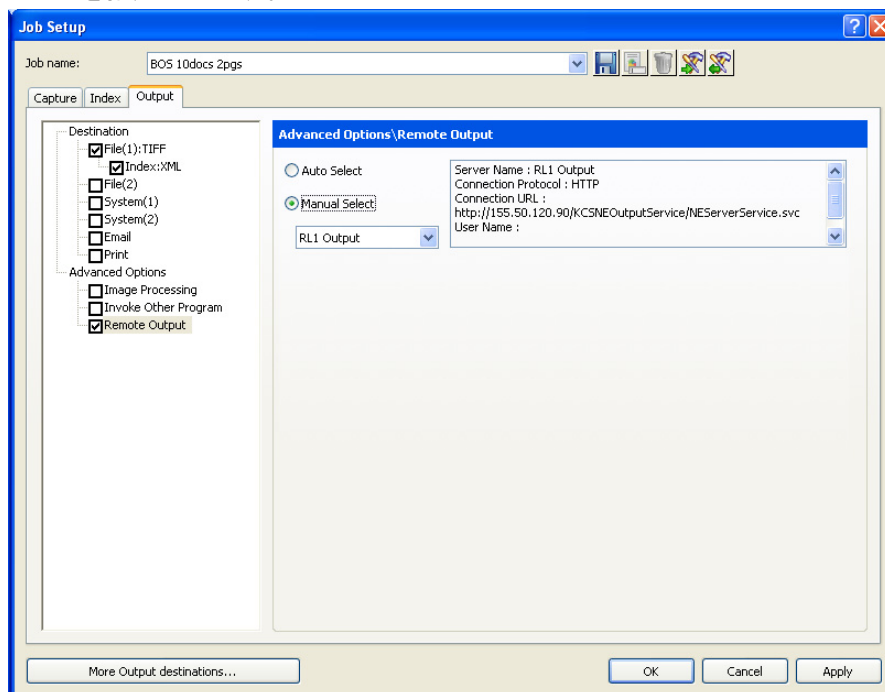
Parameters.XML ファイルの内容は次のようになります :

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no" ?>
<KCCustomApplication xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:noNamespaceSchemaLocation="KCCustomApplication.xsd">
  <PARAM_LIST>
    <PARAM>one</PARAM>
    <PARAM>two</PARAM>
    <PARAM>three four</PARAM>
  </PARAM_LIST>
  <BATCH_NAME>Batch001033841</BATCH_NAME>
</KCCustomApplication>
```

リモート出力（ネットワークエディションのみ）

リモート出力は、リモート出力サーバにバッチを転送して処理ができます。サーチャブル PDF ファイルを生成するジョブの様に、スキャン処理を遅らせてしまう可能性がある大量のジョブを処理する場合に大変有効です。リモート出力サーバの設定は、キャプチャソフトウェアのインストール作業の一部であるサーバマップに含まれています（ネットワークエディションの『管理者ガイド』を参照してください）。

ネットワークエディションの設定では、1 つ以上のオプションリモート出力サーバを指定できます。



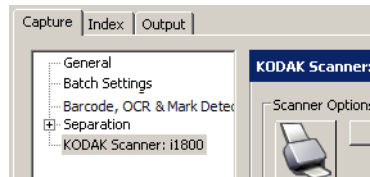
常に特定の出力サーバにバッチを送信したり（手動選択）、「ラウンドロビン」方式で出力サーバ間にジョブを分散させる（自動選択）ようにジョブセットアップを設定できます。

- **[自動選択]** オプションを選択すると、バッチは使用可能な出力サーバに循環して割り当てられます。ロードバランシングは行われません。
- **[手動選択]** オプションが選択された状態でサーバが「ダウン」すると、アプリケーションにエラーが返され、ユーザはジョブセットアップを手動で別のサーバに変更するか、**[自動選択]** に変更する必要があります。

リモート出力サーバを選択する際に重要なのは、送信されたあらゆるジョブを適切に処理できるようにサーバを設定する必要があるということです。サーバの設定は、ネットワークエディションのインストールでは実行しません。たとえば、ジョブが**[他のプログラムの呼出し]** オプションを使用する場合、呼び出されるプログラムが出力サーバ上にインストールされ、設定されている必要があります。これは外部データベースや他のシステム出力に依存するタイプも含め、すべての出力タイプに該当します。

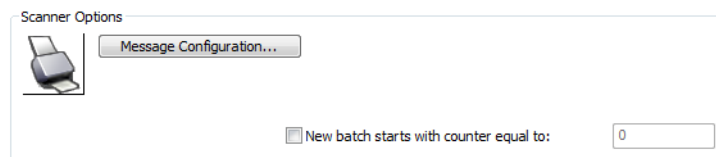
ジョブ セットアップ： スキャナー固有の設定

すべてのスキャナーに固有の設定があるわけではありません。この項は、印刷、イメージアドレス、バッチ、パッチ機能を備えたスキャナーにのみ適用されます。お使いのスキャナーに固有の設定が必要な場合、[スキャン] タブの左側に **KODAK Scanner: iXXX** オプションが表示されます。



スキャナオプション

Kodak i3000/S3000/i4000/i5000/i1800 シリーズスキャナーおよび Kodak S2085f/i2900 スキャナーは、TWAIN データソースへのアクセス、メッセージ設定のセットアップ、その他のオプション（印刷、イメージアドレス、パッチ、バッチ）を実行するスキャナーオプションボックスを提供します。



注記：印刷、イメージアドレス、バッチ、パッチオプションの詳細については、スキャナーの**スキャンセットアップガイド**を参照してください。スキャンセットアップガイドのコピーを入手するには、www.alarisworld.com/go/support に進み、お使いのスキャナーを選択してください。

スキャナオプション



このアイコンをクリックすると、TWAIN データソースが表示され、[プリンタ]、[イメージアドレス]、[バッチ]、[パッチ] 等のオプションを設定できます。TWAIN データソースの使用法や手順については、TWAIN データソースのオンラインヘルプを参照してください。

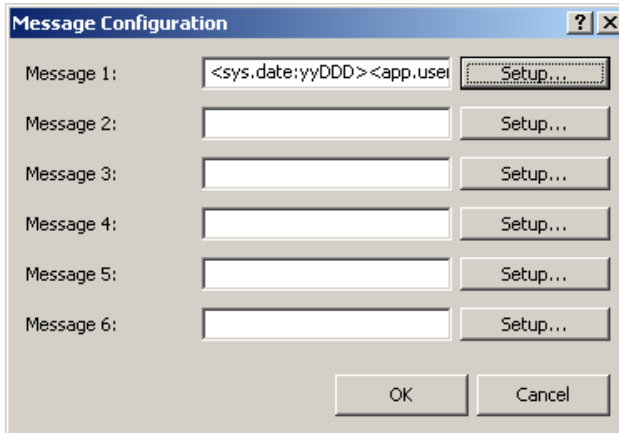
メッセージの設定 — [メッセージの設定] ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスでは、印字文字列に含めるカスタムテキストを指定できます。最大 20 文字まで指定できます。1 つの文字列につき、最大で 6 つの固有のメッセージを設定できます。キャプチャプロ ソフトウェアでカスタムメッセージを設定するには、TWAIN データソースの [プリンタ] オプションを有効にして、設定する必要があります。印字ストリングをカスタマイズする手順については、次のセクションを参照してください。

新規バッチを次のカウンタ値から開始 — 新規バッチを開始する番号を入力します。

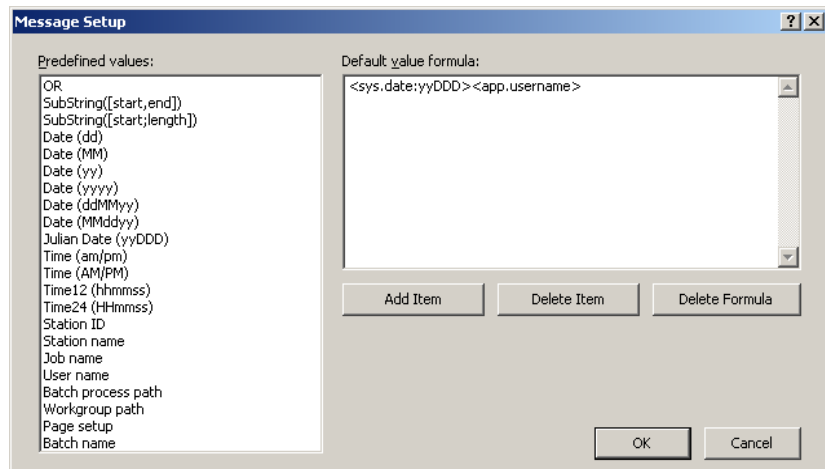
印字文字列用にテキストをカスタマイズ

注記：キャプチャプロ ソフトウェアで設定するプリンタ設定は、TWAIN データソースで設定された内容すべてに優先します。

1. **[メッセージの設定]** をクリックします。**[メッセージの設定]** ダイアログボックスが表示されます。



2. 設定するメッセージごとに、**[セットアップ]** をクリックします。**[メッセージのセットアップ]** ダイアログボックスが表示されます。

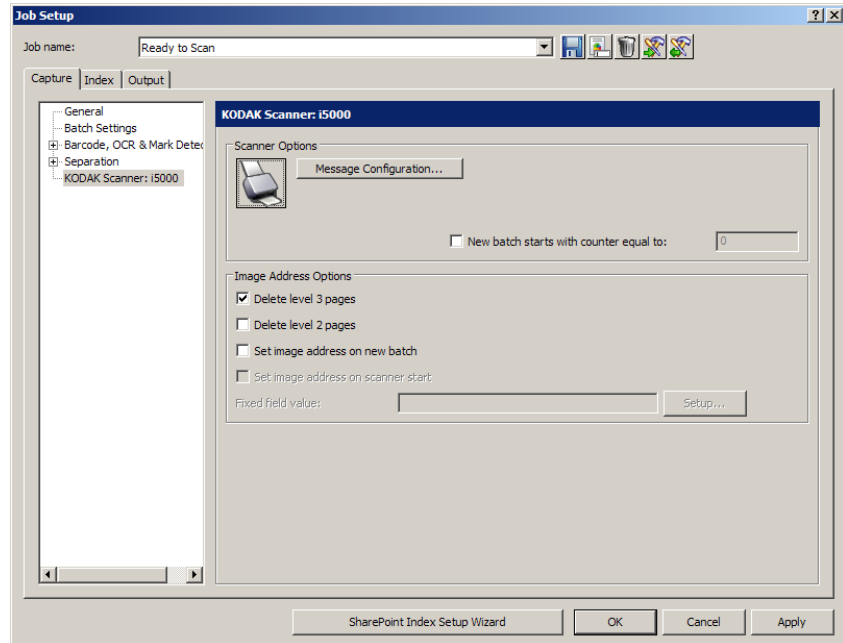


3. **[プリセット値]** リストから値を選択し、**[項目を追加]** をクリックします。
4. 完了したら **[OK]** をクリックします。

注記：**[項目の削除]** をクリックし、式内の最後の値を削除するか、**[式の削除]** をクリックし、式全体を削除します。

Kodak ii5850/ii1850S シリーズスキャナー

前述のスキャナーオプションに加えて、Kodak ii5850 シリーズスキャナーと Kodak ii1850S シリーズスキャナーは、以下のオプションを提供します。



イメージアドレスオプション

- **レベル 3 のページを削除**：このカウンタは、バッチ名の数値部と関連付けられています。レベル 3 ページがスキャンされると、キャプチャプロ ソフトウェアが自動的に新規バッチを作成し、レベル 3 ページを破棄します。
- **レベル 2 のページを削除**：このカウンタは、現在のバッチのドキュメント番号と関連付けられています。レベル 2 ページがスキャンされると、キャプチャプロ ソフトウェアが自動的に新規ドキュメントを作成します。
- **新規バッチ作成時にイメージアドレスを設定**：キャプチャプロ ソフトウェアで新規バッチを手動で作成した場合に、イメージアドレスの値を設定します。キャプチャプロ ソフトウェアにおいてバッチが自動的に作成された場合は、このオプションは無視されます。デフォルトでは、新規バッチのイメージアドレス値は次のようになります。
 - **固定フィールド**：このダイアログボックスで定義されているデフォルト値。
 - **レベル 3**：キャプチャプロ ソフトウェアバッチ名のバッチ番号部（例：バッチ名が「バッチ 019」の場合「19」）。
 - **レベル 2**：キャプチャプロ ソフトウェアバッチの最初のドキュメント番号。
 - **レベル 1**：イメージアドレスフォーマットがレベル 2 またはレベル 3 の場合 **0**。
イメージアドレスフォーマットがレベル 1 の場合 **1**。
- **スキャン開始時にイメージアドレスを設定** — スキャン開始時に、スキャナのイメージアドレスとキャプチャプロ ソフトウェアの現在のスキャンバッチを自動的に同期化します。イメージアドレスの値は、次にスキャンされるページのイメージアドレスに設定されます。このオプションは、**[新規バッチ作成時にイメージアドレスを設定]** が有効になっている場合にだけ利用できます。

スキャナーのイメージアドレスが再同期化されると、イメージアドレスフィールドは次のように設定されます。

- **固定フィールド**：現在のスキャナーの値から変更されません。
- **レベル 3**：キャプチャプロ ソフトウェアのバッチ名のバッチ番号部。
- **レベル 2**：現在のキャプチャプロ ソフトウェアのドキュメント番号。
- **レベル 1**：イメージアドレスフォーマットがレベル 2 またはレベル 3 の場合、現在のドキュメントのページ番号。イメージアドレスフォーマットがレベル 1 の場合、現在のドキュメントのページ番号 +1。

注記： 同時スキャン時は、[**スキャン開始時にイメージアドレスを設定**] の使用はお勧めできません。同時スキャン時は、キャプチャプロ ソフトウェアではページ数が正しく維持されません。その結果、イメージアドレスのレベル 1 が不一致になります。

固定フィールド値 — スキャン中に増えたり変更されたりすることがない、ASCII 文字列を含む静的なフィールドです。フィールドにテキストを入力するか、[**セットアップ**] をクリックして [**固定フィールド値の設定**] ダイアログボックスを表示します。

OK — 変更内容を保存して、[**ジョブセットアップ**] ダイアログボックスを閉じます。

3 パッチのセットアップ

パッチコードについて

キャプチャプロ ソフトウェアでは、パッチ コードが記載されたページを使用して、スキャナー上のページやドキュメントを分割できます。また、ドキュメントに添付ファイルを追加することもできます。パッチコードセパレータを使用するには、パッチコードを認識するようにジョブをセットアップします。

キャプチャプロ ソフトウェアは、3 種類のパッチコードをサポートしています。

| パッチタイプ | 機能 | パッチを保持するか？ |
|-----------------|--|------------|
| パッチ 2 | ページをドキュメント単位で分割します | はい |
| パッチ 3 | ドキュメントをバッチ単位で分割します | いいえ |
| パッチ T (プログラム可能) | ページをドキュメント単位で分割します ドキュメントをバッチ単位で分割します 添付ファイルを作成します | いいえ |

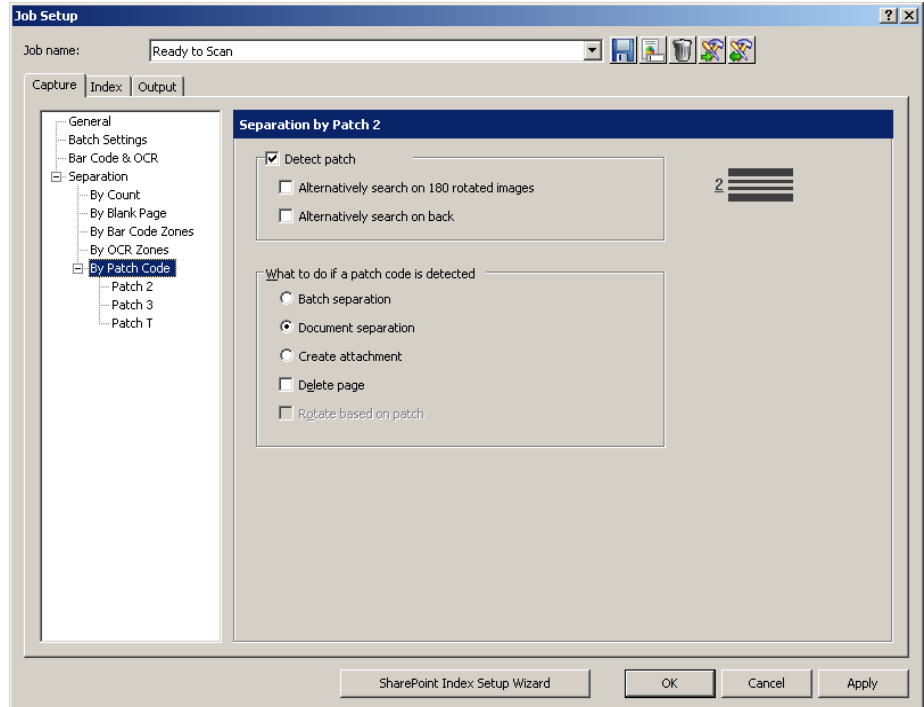
各パッチコードの分割方法を定義できます。これは、パッチ T コードの代わりにパッチ 2 コードをドキュメントセパレータページとして使用する既存のジョブで役立ちます。パッチコードを定義して添付ファイルを追加することもできます。新規ジョブと互換上の理由から、パッチコードは意図された用途に応じて使用することをお勧めします。

- カラーまたはグレースケールのスキャン時のパッチ コード読み取りについては、第 4 章の「カラー/グレースケールスキャン時にセパレータを使用」を参照してください。
- Kodak i800 および i1800 シリーズ スキャナーでパッチ コードを使用する際の詳細については、「ジョブ セットアップ: スキャナー固有の設定」を参照してください。Kodaki800/i1800 シリーズ スキャナーでパッチ コードの読み取りが有効になっている場合、キャプチャプロ ソフトウェアによるパッチ コードの読み取りはできません。逆に、キャプチャプロ ソフトウェアでパッチ コードの読み取りが有効になっている場合は、Kodak i800/i1800 シリーズ スキャナーでのパッチ コードの読み取りはできません。

パッチコードの設定

パッチ 2、3、Tコードセパレーション

[ジョブセットアップ] ダイアログ ボックスの [スキャン] タブにあるパッチ 2、3、Tセパレーション設定では、スキャナー上のパッチやドキュメントのセパレータとして認識されるパッチコードを設定できます。パッチごとにウィンドウがあります。ただし、どのウィンドウでも利用できるコマンドは同じです。3つのパッチコードをすべて認識するようにシステムを設定することも、1つだけを認識するように設定することもできます。



注記：

- 3種類すべての [パッチコード] ウィンドウで [パッチを検出] チェックボックスを無効にした場合、パッチリーダーは無効になります。
- いずれかの [パッチごとに分割] ダイアログ ボックスで [パッチを検出] を選択した場合、選択したパッチコードのタイプが各ページでチェックされます。

パッチを検出 — 選択すると、[パッチを検出] オプションが有効になります。

- **180度回転したイメージも検索** — パッチコードの読み取りに失敗した場合、イメージを回転させてからもう一度パッチコードを検索します。このオプションを選択するとページが逆向きにスキャンされるため、パッチコードの読み取り失敗の防止に役立ちます。

注記： このソフトウェアは、回転、傾き補正、クロッピング後のイメージの上部 4 インチ (10cm) 内のパッチコードを常に検出します。パッチが垂直の場合、[ページセットアップ] ダイアログボックスの [ソフトウェア回転] オプションでイメージを回転させる必要があります。

- **裏面も検索** — パッチコードの読み取りに失敗した場合、裏面イメージもパッチコードを検索します。表面にパッチコードがあった場合は、裏面のパッチコードは検索されません。

パッチコードが検出された場合 — 以下のオプションのいずれかを選択します。

- **パッチセパレーション**：パッチコードで新しいパッチを作成します。
 - 通常、パッチ 3 を使用して新しいパッチを作成します。
 - 一般的に、パッチセパレーション用パッチコードのあるページには、他の内容を入れないでください。パッチコードページは破棄され、その次にスキャンされるページがパッチ内の最初のドキュメントの先頭ページになります。
- **ドキュメントセパレーション**：パッチコードで新しいドキュメントを作成します。
 - 通常、パッチ 2 は新規ドキュメントを作成し、パッチコードのあるページのイメージを保存します。
 - 通常パッチ T は、新規ドキュメント作成と、パッチコード付きページのイメージ削除に使用されます。
- **添付ファイルの**：パッチコードで添付を作成します。
- **ページの削除**：新規ドキュメントまたは添付ファイルを開始したパッチコードを含むページを削除します。このオプションは、パッチページに文書情報がなく、純粹にセパレーションに使用することが重要です。
- **パッチの向きに回転**：パッチコードのあるイメージを、パッチコードがページの上部に水平に配置されるように回転します。ドキュメント内のすべてのイメージが回転されます。このオプションは、**[180 度回転したイメージも検索]** オプションが有効になっている場合にのみ機能します。
 - パッチコードセパレータページを破棄する場合は、**[パッチの向きにイメージを回転]** オプションは機能しません。

OK — ダイアログボックスを閉じて、設定を保存します。

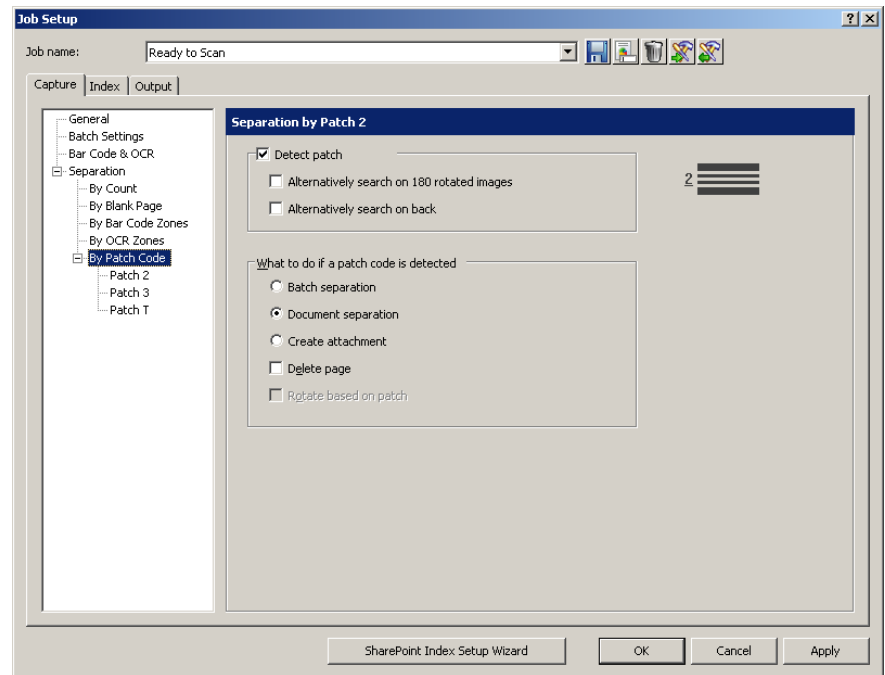
パッチコードによる添付ファイルの作成

1. **[ファイル]>[ジョブセットアップ]** を選択します。[ジョブセットアップ] ダイアログボックスが表示されます。
2. **[ジョブ名]** ドロップダウンリストから、パッチコードセパレーションを行うジョブを選択します。
3. **[スキャン] タブ** を開き、**[セパレーション]>[パッチコード]** を選択します。
4. 定義するパッチタイプとして、**[パッチ 2]**、**[パッチ 3]**、**[パッチ T]** のいずれかを選択します。[パッチコード] ウィンドウが表示されます。
5. **[パッチを検出]** をクリックします。
6. **[パッチコードが検出された場合]** から **[添付の作成]** を選択します。
7. [パッチコード] ウィンドウ内でその他必要なオプションを選択します。
8. **[OK]** をクリックします。

パッチコードによるパッチとドキュメントの分割

キャプチャプロ ソフトウェアでは、スキャナーでパッチやドキュメントを分割するセパレータとしてパッチコードを使用できます。

1. [ファイル]>[ジョブセットアップ]を選択します。[ジョブセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [ジョブ名]ドロップダウンリストから、パッチコードセパレーションを行うジョブを選択します。
3. [スキャン]タブを開き、[セパレーション]>[パッチコードを使用]を選択します。
4. 定義するパッチタイプとして、[パッチ 2]、[パッチ 3]、[パッチ T]のいずれかを選択します。[パッチコード]ウィンドウが表示されます。必要に応じて他のパッチコードタイプも選択できます。



5. [パッチを検出]をクリックします。
6. 必要に応じて、以下のオプションのいずれかまたは両方を選択します。
[180度回転したイメージも検索する]、[裏面も検索する]。
7. [パッチコードが検出された場合]から、[ドキュメントセパレーション]または[パッチセパレーション]を選択します。
8. 必要であればその他のオプションを選択します。
9. [OK]をクリックします。

4 バーコード、OCR & マーク検知の設定

概要

ジョブセットアップ内でインデックス用にバーコード、OCR、マーク検知ゾーンを使用する場合は、以下の作業が必要です。

- このタイプのジョブでスキャン時に使用する [ページセットアップ] を選択します。
- ジョブセットアップを編集します。
- バーコード、OCR、またはマーク検知の定義用テンプレートとして使用するページをスキャンします。
- テンプレートイメージ上で、バーコード /OCR/ マーク検知ゾーンを検索する場所を定義します。
- 正しいバーコード/OCR/マーク検知ゾーン値を認識できる様に設定します。
- ゾーンを適用したいページを定義します。

ジョブセットアップ内でセパレーション用にバーコード /OCR/ マーク検知ゾーンを使用する場合は、以下の作業が必要です。

- バーコード / OCR ゾーンに関連付けられたアクションを設定します (新規バッチの作成、現在のバッチ内で新規ドキュメントを作成、1つ以上のインデックスフィールドへ値を入力、など)。

本章では、インデックスフィールドへの値の入力以外の手順について説明します。インデックスフィールドへの値の入力については、第2章「ジョブセットアップ」を参照してください。

バーコードの使用

バーコードは、コンピュータが読み取り可能なコードにデータを置き換える方法で、白黒の線から成るパターンの明暗差を利用してデータを読み取ります。明るい要素は「スペース」、暗い要素は「バー」と呼ばれます。バーとスペースは太くすることも、細くすることもできます。太さの異なるバーとスペースを組み合わせたものがバーコードです。各バーコードは「スタート」文字から始まり、「ストップ」文字で終了します。業界では、バーコードを使用して手動より正確で効率的なデータ入力を行っています。

バーコードのセットアップによって以下を定義できます。

- バーコード名
- データマスクまたは構文
- バーコードを見つける物理的な場所（ゾーン、またはイメージ上の任意の場所）
- バーコードタイプ（幅、高さ、品質、信頼レベル）
- バーコード（バッチ、ドキュメント、またはページ）を見つけられるレベル
- バーコードをキャプチャするソース

キャプチャプロ ソフトウェアのパフォーマンスを最大限に高めるには、以下の項目に従ってください。

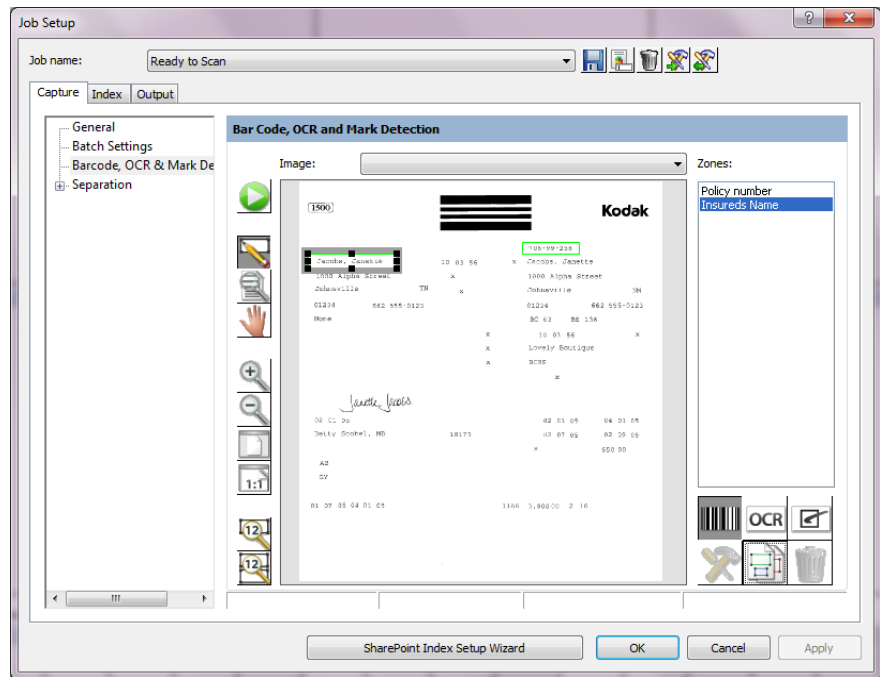
- バーコードゾーンを定義する前に、スキャンに使用するページセットアップ名を選択してください。
- スキャナー搬送路内のすべてのガラス面（ガラスガイドやカメラ部のガラス）が汚れていないことを確認してください。表面が汚れていると認識率が低下します。
- 高解像度でスキャンすると、認識率（300 対 200dpi）が向上します。
- バーコード周囲のゾーンの配置を確認してください。配置によっては、バーコードの確度レベルに影響してしまいます。バーコードが常にゾーン内にあるように、バーコードの周囲には最低でも 1/4 インチのスペースを確保してください。確度レベルが最高になるように、バーコード周囲のゾーンを移動してください。
- 指定できるバーコードの高さの最小値は 40 ピクセルです。200 dpi では 40 ピクセルは 20/100 インチ、300 dpi では 40 ピクセルは 13/100 インチです。高さが 40 ピクセル未満のバーコードの場合は、[バーコードゾーンの設定] ダイアログボックスでバーコードの高さを指定してください。
- [バーコードゾーンの設定] ダイアログボックスで、バーコードタイプとバーコードの方向が正しく設定されていることを確認してください。
- 背景がカラーの原稿にバーコードがある場合、[バーコードゾーンの設定] ダイアログボックスのしきい値を下げると認識率が向上する場合があります。
- 可能であれば、中～低密度のバーコードを使用してください。高密度のバーコードには、[バーコードゾーンのセットアップ] ダイアログボックスでしきい値を低く設定する必要があります。
- 解読が難しいバーコードの認識率を向上させるには、[バーコードゾーンのセットアップ] ダイアログボックスの【品質】レベルを下げます。
- [任意] バーコードゾーンを使用する場合は、2.8 GHz 以上のプロセッサを搭載した PC を使用してください。スキャナーのスペック通りの速度でバーコードの読み取りができます。

[バーコード、OCR & マーク検知] ウィンドウ

[バーコード、OCR & マーク検知] ウィンドウでは、イメージのスキャンと操作、バーコードゾーン、OCR ゾーン、またはマーク検知ゾーンの作成が可能です。

[バーコード、OCR & マーク検知] ウィンドウを開くには：

1. [ジョブセットアップ] ダイアログボックスを開きます。
2. [スキャン] タブの [バーコード、OCR & マーク検知] をクリックします。
















注記： 1つのジョブに8以上のバーコードゾーンを設定すると、スキャン速度が低下します。




イメージ — 必要に応じて、ドロップダウンリストから既存のイメージを選択します。[イメージ] ドロップダウンリストには、バーコード設定用にスキャンされたイメージがあります。バーコードや OCR ゾーン、またはマーク検知ゾーンを定義するには、このリストに1つ以上のイメージがなければなりません。

注記： バーコードゾーンや OCR ゾーン、またはマーク検知ゾーンを使用する典型的なジョブの場合、1つの画像で十分です。バーコードや OCR、またはマーク検知情報を含むバッチとドキュメントヘッダシートがあるジョブの場合は、それぞれのイメージが必要です。

ゾーン — バーコードゾーン、OCR ゾーン、またはマーク検知ゾーンの名前が表示されます。リスト内のいずれかのゾーンをクリックすると、表示領域が強調表示されます。定義したバーコードゾーンや OCR ゾーン、またはマーク検知ゾーンは、現在のイメージに表示されます（別のイメージを使ってゾーンを定義した場合でも表示は残ります）。

アイコン

| | |
|---|---|
|  | <p>[スキャン開始]— [イメージのスキャン] ダイアログ ボックスを開きます。ここでは、イメージ名の入力と、バーコード、OCR テキストセグメント、またはマーク領域を含むイメージのスキャンが可能です。</p> <p>注記： [スキャン開始] を選択すると、キャプチャプロ ソフトウェアは、現在選択しているページセットアップを使用します。</p> |
|  | <p>[領域描画]— スキャンしたイメージのバーコードや OCR 文字列、またはマーク領域の周囲に四角形を描画して、[バーコードゾーンの設定]、[OCR ゾーンの設定]、または [マーク検知ゾーンの設定] ダイアログボックスを表示します。</p> |
|  | <p>[拡大]— イメージの一部を拡大します。拡大ツールを移動してクリックアンドホールドすると、その領域が拡大されます。</p> |
|  | <p>[スクロール]— イメージがバーコード、OCR、およびマーク検知ウィンドウより大きい場合に、イメージを移動できます。</p> |
|  | <p>[ズームイン]— イメージをズームインします。</p> |
|  | <p>[ズームアウト]— イメージをズームアウトします。</p> |
|  | <p>[ウィンドウに合わせる]— ウィンドウに合わせてイメージを表示します。</p> |
|  | <p>[原寸大]— イメージを原寸大で表示します。スキャンされた 1 ピクセルと、ウィンドウの 1 ピクセルが等しくなります。</p> |
|  | <p>[バーコード、OCR、マーク検知ゾーンのテスト]— [バーコード、OCR、マーク検知の値] ダイアログ ボックスを開きます。ここでは、1 つのバーコード、OCR、マーク検知ゾーンのテスト結果を参照できます。</p> |
|  | <p>[選択したバーコード、OCR、マーク検知ゾーンを全てテスト]— [バーコード、OCR、マーク検知の値] ダイアログボックスを開きます。ここでは、選択したすべてのゾーンのテスト結果を表示できます。</p> |
|  | <p>[バーコードの作成]— [バーコード、OCR & マーク検知] ウィンドウに表示されたイメージから、バーコード ゾーンを作成できます。</p> |
|  | <p>[OCR ゾーン の作成]— [バーコード、OCR & マーク検知] ウィンドウのイメージから、OCR ゾーンを作成できます。</p> |
|  | <p>[マーク検知ゾーン の作成]— [バーコード、OCR & マーク検知] ウィンドウのイメージから、マーク検知ゾーンを作成できます。</p> |

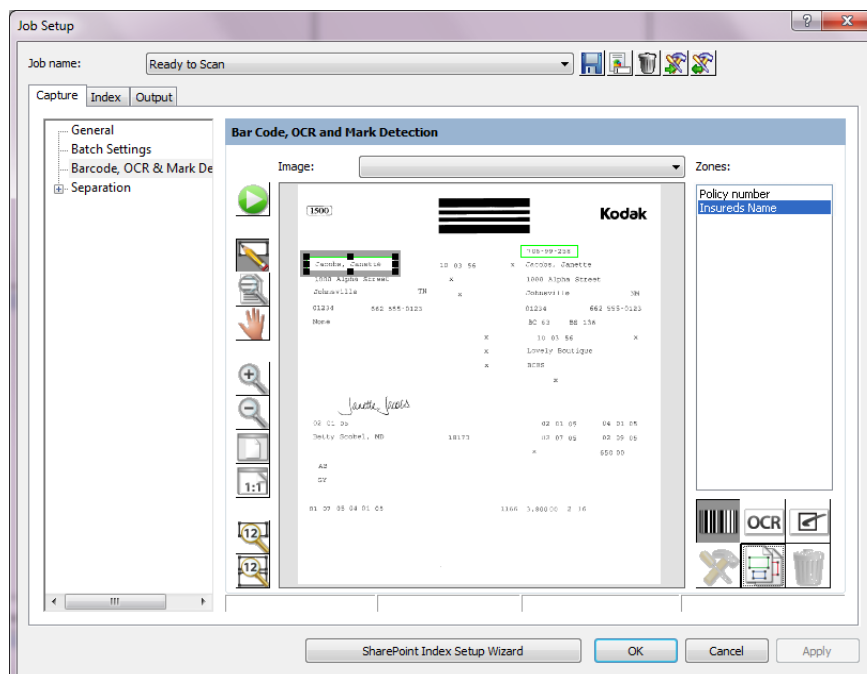
| | |
|---|--|
|  | [ゾーンのプロパティ]— [バーコードゾーンの設定]、 [OCRゾーンの設定]、または [マーク検知ゾーンの設定] ダイアログボックスを開きます。ここから、選択したバーコード、OCR、マーク検知ゾーンのプロパティを参照できます。 |
|  | [すべてのゾーンが必要なページを選択]— [ゾーンページの設定] ダイアログボックスを開きます。ここから、定義済み OCR、バーコード、マーク検知ゾーンを適用するページを選択できます。詳細については、本章の後半にある「 [ゾーンページ設定] ダイアログボックス」を参照してください。 |
|  | [選択したゾーンの削除]—バーコード、OCR、マーク検知ゾーンを削除できます。選択すると、削除を確認するメッセージが表示されます。 |

OK — ダイアログボックスを閉じて、設定を保存します。

バーコード、OCR、マーク検知ウィンドウのコンテキスト依存メニュー

- Cut
- Copy
- Paste
- Test Zone
- Test All Zones
- Zone Properties
- General Properties
- Rename Image
- Delete Image
- Delete Zone
- Delete All Zones

[バーコード、OCR & マーク検知] ウィンドウのイメージを右クリックすると、コンテキスト依存メニューが表示されます。バーコード、OCR、マーク検知ゾーンが選択されていない場合、表示されるメニュー項目は少なくなります。



切り取り — 選択したバーコード、OCR、マーク検知ゾーンを切り取ります。必要に応じて、該当のバーコード、OCR、マーク検知ゾーンを同じイメージ内の他の場所に切り取って貼り付けることができます。ゾーンを左クリックして、それを目的の場所にドラッグしてください。

コピー — 選択したバーコード、OCR、マーク検知ゾーンをコピーします。同じプロパティを持つ複数のバーコード、OCR、マーク検知ゾーン（位置を除く）が必要な場合は、[**コピー**] が役立ちます。最初のゾーンを定義したら、[**貼り付け**] オプションでそれを貼り付けます。必要な数のゾーンを貼り付けたら、それを左クリックしてドラッグしながら目的の位置に移動します。

貼り付け — コピーまたは切り取ったバーコード、OCR、またはマーク検知ゾーンを現在のイメージに貼り付けます。[貼り付け]メニューは、イメージや文字列をクリップボードにコピーした場合のみメニューに表示されます。バーコード、OCR、マーク検知ゾーンを貼り付ける場合、保存されたゾーンの座標を使ってゾーンの位置が決めます。貼り付けたゾーンの位置を変更したい場合は、ゾーンを左クリックして目的の場所に移動してください。

[貼り付け]は[コピー]と一緒に使用して、ジョブ内のバーコード付きの他の画像にバーコードゾーンのプロパティをコピーする場合に役立ちます。

ゾーンのテスト / ゾーンを全てテスト — 選択したバーコード、OCR、マーク検知ゾーン、またはすべてのゾーンから値の読み取りを試みます。[バーコード、OCR、マーク検知の値]ダイアログボックスが表示されます。

| Label | Type | Confidence | Orientation | Value | Zone X | Zone Y | Zone Width | Zone Height |
|------------|-------------|------------|-------------|------------------|--------|--------|------------|-------------|
| Name | Code 3 of 9 | 84 | 0° | ALICE L. ANDREAN | 33 | 316 | 626 | 150 |
| ID Number | Code 3 of 9 | 84 | 0° | 7654321 | 21 | 511 | 426 | 190 |
| Start Date | Code 3 of 9 | 84 | 0° | 07122000 | 470 | 506 | 350 | 230 |
| Section | Code 3 of 9 | 84 | 0° | APPLICATION | 21 | 103 | 782 | 161 |

このダイアログボックスには以下の情報が表示されます。

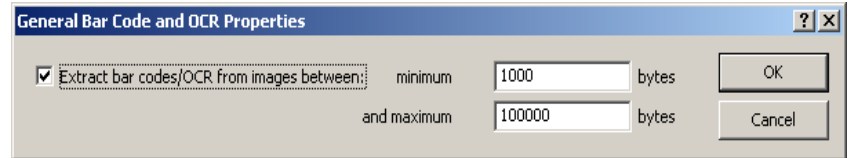
- **[ラベル]** は、[バーコード (OCR/ マーク検知) ゾーン] ダイアログボックスのバーコード、OCR、マーク検知ゾーンに割り当てられている名前を示します。
- **[タイプ]** は、ゾーン内に見つかったバーコードのタイプを示します。ゾーンが OCR ゾーンの場合、[タイプ] は OCR になります。ゾーンがマーク検知の場合、[タイプ] はマーク検知になります。
- 見つかったバーコード値の**確度 レベル** (パーセンテージ)。
- バーコードゾーン、OCR ゾーン、マーク検知ゾーンの**方向**
 0 度は、水平で正しい向きのバーコード、OCR、またはマーク検知ゾーンを表す
 90 度は、垂直で上部が左側のバーコード、OCR、またはマーク検知ゾーンを表す
 180 度は、水平で上下逆のバーコード、OCR、またはマーク検知ゾーンを表す
 270 度は、垂直で上部が右側のバーコード、OCR、またはマーク検知ゾーンを表す
- バーコード、OCR ゾーン、マーク検知ゾーンの**値**。
- バーコードゾーン、OCR ゾーン、マーク検知ゾーンの左上の **X 軸** と **Y 軸** の座標。単位は 1/100 インチで、イメージの左上角からの距離を表しています。
- バーコード、OCR、マーク検知ゾーンの**幅と高さ** (1/100ths インチ)。

注記： ゾーンのバーコード /OCR/ マーク検知の値が見つからない場合でも、値リストにゾーンが表示されます。この場合、ラベルとゾーンの座標だけが表示されます。

ゾーンのプロパティ — 現在選択しているバーコード、OCR、またはマーク検知ゾーンのプロパティを定義できます。[バーコード (OCR/ マーク検知) ゾーン] ダイアログボックスが表示されます。詳細については、本章の後半にある「[バーコードゾーンの設定] ダイアログボックス」、「[OCR ゾーンの設定] ダイアログボックス」、または「[マーク検知ゾーンの設定] ダイアログボックス」を参照してください。

一般プロパティ — すべてのバーコード、OCR、マーク検知ゾーンに適用するプロパティを定義できます。このオプションは、ドキュメントセパレーション用バーコードヘッダシートの使用や残りの原稿よりも小さなサイズでスキャンしてインデックスを作成する場合などに役立ちます。このオプションを利用すれば、バーコード / マーク検知 / OCR アプリケーションへのスキャンのパフォーマンスを向上できます。

このオプションを選択すると、[一般バーコードおよび OCR プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。



1. [次のイメージの中からバーコード / OCR を抽出] チェックボックスを選択すると、このオプションが有効になります。
2. 最小バイトフィールド（デフォルトは 1000 バイト）と最大バイトフィールド（デフォルトは 100000 バイト）に値を入力します。値を入力することにより、バーコード、OCR、マーク検知を読み取るイメージのサイズを限定できます。
3. [OK] をクリックします。

イメージ名の変更 — 現在表示されているイメージ名を変更するダイアログボックスを表示します。イメージに名前を付けたり、名前を変更したりする場合、キャプチャプロ ソフトウェア内で固有のイメージ名を指定してください。ファイル拡張子は必要ありません。

注記：「“ ? * . < > \ | / 」などの特殊文字はイメージ名には使用できません。

イメージの削除 — ジョブから現在のイメージを削除します。イメージを削除する場合、削除を確認するメッセージが表示されます。イメージリストに他のイメージが残っている場合は、削除したイメージの場所に、その前のイメージが表示されます。

イメージリストに他のイメージがある限り、イメージを削除してもバーコード、OCR、マーク検知ゾーン定義には影響しません。ただし、イメージリスト中の最後のイメージを削除した場合は、次のメッセージが表示されます。**これは最後のイメージです。このイメージを削除すると、すべてのバーコード、OCR、マーク検知ゾーンも削除されます。このイメージを削除しますか？**

このメッセージに対して [はい] をクリックすると、このジョブのすべてのバーコード、OCR、マーク検知ゾーンの定義も削除されます。バーコード、OCR、マーク検知ゾーンを定義するには、イメージリストに 1 つ以上のイメージが必要です。最後のイメージを削除すると、バーコード、OCR、マーク検知ゾーンもすべて削除されます。

ゾーンの削除 — 選択したバーコード、OCR、またはマーク検知ゾーンを削除します。ゾーンを削除する前に、確認のメッセージが表示されます。

すべてのゾーンの削除 — このジョブに定義されているバーコード、OCR、マーク検知ゾーンをすべて削除します。ゾーンが削除される前に、確認のメッセージが表示されます。

バーコード設定用のイメージのスキャン

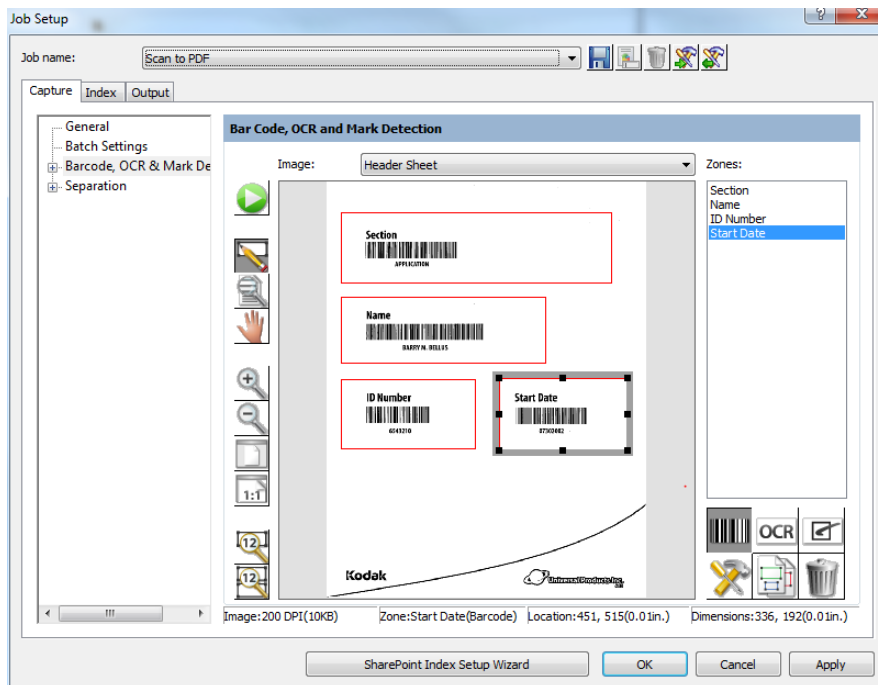
キャプチャプロ ソフトウェアでは、バーコードが記載されたページを使用して、スキャナー上のページやドキュメントを区切ることができます。また、バーコードセパレータを使って、ドキュメントの添付ファイルを作成することもできます。

バーコードをセパレータとして使用するには、次の作業を行ってください。

- バーコードのあるイメージをスキャンして、キャプチャプロ ソフトウェアに取り込みます。
- バーコードゾーンを描画、選択します。
- ジョブでバーコードゾーンセパレーションを設定します。

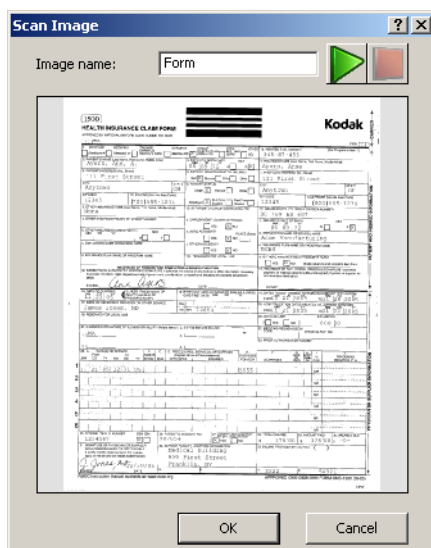
キャプチャプロ ソフトウェアでは、[バーコード] ウィンドウから直接バーコードイメージをスキャンして、表示、定義、編集できます。

1. [ファイル]>[ジョブセットアップ]を選択します。[ジョブセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [ジョブ名]ドロップダウンリストからジョブセットアップを選択します。
3. [スキャン]タブを表示して、[セパレーション]>[バーコードゾーンを使用]を選択します。[バーコード]ウィンドウが表示されます。



4. 緑色の [スキャン開始] ボタンを選択します。[イメージのスキャン]ダイアログボックスが表示されます。

5. 原稿をフィーダに正しくセットし、**[スキャン開始]** をクリックします。ダイアログボックスにイメージが表示されます。イメージはまっすぐにスキャンしてください。スキャナーでは、キャプチャソフトウェアの現在のページセットアップに設定されているパラメータが使用されます。



注記：

- スキャンされたイメージには、現在のテンプレートの自動回転、自動クロッピング、および傾き補正の設定も適用されてから表示されます。
- イメージが適切な場合は、**[イメージ名]** フィールドにイメージ名を入力します。イメージ名に、次の文字は使用できません： “? * . < > \ /”。
- イメージを破棄する場合は、**[キャンセル]** をクリックします。

6. **[OK]** をクリックするとイメージが保存されます。

注記：

- バーコードを定義するには、**[イメージ]** ドロップダウンリストに1つ以上のイメージを保存してください。
- イメージビューアから**[バーコード]** ウィンドウにイメージを転送することもできます。本章の後半にある「**[バーコード]** ウィンドウにイメージを転送」を参照してください。

バーコードゾーンの作成と 選択

インデックス作成またはセパレーションにバーコードイメージを使ってドキュメント/バッチを分割する前に、バーコードゾーンを作成して選択する必要があります。バーコードゾーンプロパティを使用して、適切な場所で読み取りできるように、バーコードゾーンを作成してください。

1. [ファイル]>[ジョブセットアップ]を選択します。[ジョブセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [ジョブ名]ドロップダウンリストからジョブセットアップを選択します。
3. [スキャン]タブを表示して、[セパレーション]>[バーコードゾーンを使用]を選択します。[バーコード]ウィンドウが表示されます。
4. [イメージ]ドロップダウンリストからイメージを選択します。イメージをスキャンする場合は、[バーコード]ウィンドウの緑色の[スキャン開始]アイコンをクリックします。

注記：

- バーコードゾーンを定義する場所の左上にマウスカーソルを移動します。
 - バーコードゾーンは、ジョブ固有のもので、イメージ固有のものではありません。そのため、新しいイメージを作成しても、キャプチャソフトウェアには前のイメージで定義したゾーンが表示されます。
 - バーコードゾーン位置の描画時には、バーコードの周囲に約 1/4 インチのスペースを残してください。バーコードを正常に読み取るには、このスペースが必要です。バーコードゾーンの位置は重複しても問題ありません。
5. マウスの左ボタンでカーソルをドラッグしながらバーコードゾーンの領域の周りに長方形を描きます。[バーコードゾーンのセットアップ]ダイアログボックスで選択したゾーン位置に定義されたバーコードは赤いボックスで囲まれ、[任意]で定義されたバーコードは青いボックスになります。四角形を描画すると、[バーコードゾーンのセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。
 6. [ゾーン名]フィールドに、バーコードゾーンの名前を入力します。ゾーンを保存するには、名前を指定する必要があります。
 7. その他の項目を設定したら、[OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じ、[バーコード]ウィンドウに戻ります。フィールドの説明については、「[バーコードゾーンの設定]ダイアログボックス」を参照してください。
 8. [OK] をクリックして設定情報を保存し、[ジョブセットアップ]ダイアログボックスを閉じます。

[バーコードゾーンの設定] ダイアログボックス

バーコードゾーンに名前を付け、このゾーンでの有効なバーコードの認識方法の詳細や、セパレーションの指定を行います。

ゾーン名 — バーコードゾーンの名前を入力します。この名前はバーコードを識別するもので、デフォルト値のリストのインデックス設定に「BC_[ゾーン名]」として表示されます。バーコード ラベル ([バーコードおよび OCR の値] ダイアログ ボックス) によって、キャプチャプロ ソフトウェアのインデックス フィールドが定義または特定されることはありません。

面：表面または裏面 — バーコードがイメージの表面、裏面のいずれにあるのかを選択します。

バーコードをマスクで保持 — 1 つ以上の任意バーコードゾーンが定義されている場合は、このオプションを使用します。[バーコードをマスクで保持] フィールドに指定されているマスクがバーコードと適合する場合、バーコード値は定義されたゾーンに対して保持されます。こうすることにより、ページから読み取られたバーコード値が正しいバーコードゾーンに割り当てられます。

このオプションは、複数のバーコードゾーンがページ内の物理的に同じ位置に存在しているが、値や意味がそれぞれ異なるような場合にも役立ちます (例：バッチヘッダシートに対して定義されたゾーンとドキュメントヘッダシートに対して定義されたゾーン)。指定されたマスクに準拠するには、バーコードの各文字が、マスク内の対象文字の位置のマスク構文と一致する必要があります。

たとえば、マスク「A<8>」を指定すると、最大 8 文字までのバーコード値が保持されます。

バーコード値は保持されるか？

SURGERY : 保存される

ADMISSION : 保存されない

必要に応じてマスク値を入力します。

最小桁数 — バーコード値の最小桁数を入力します。デフォルトでは、このオプションはテストされたバーコード値の長さに設定されます。値が見つからなかった場合、または値が6文字以上の場合、デフォルトは「6」に設定されます。部分読み取りのような場合でもバーコード値を保持できるように、[最小文字数]パラメータには6文字以内の値を設定することをお勧めします。

[部分読み取り]オプションが不要な場合、または有効になっている場合は、マスクと最小の入力文字数を組み合わせて保持するバーコード値をさらに制限できます。

例：

マスク：9(10)

最小桁数：6

この場合、6桁から10桁の間のバーコード値が保持されます。

マスク：9(10)

最小の入力文字数：10

この場合は、10桁のバーコードのみが保持されます。

バーコードの幅と高さ — バーコードの幅や高さが固定されている場合、値を1/100インチ単位で指定できます。設定すると、バーコード読み取りのパフォーマンスが向上します。一方の長さが可変の場合は、「0」を入力します。デフォルトは0です。

バーコードの次元は、歪みの量によって異なります。そのため、これらの値はバーコードの寸法が確実に分かっている場合にだけ入力することをお勧めします。

注記：40ピクセル未満の高さのバーコードについては、バーコードの高さを指定する必要があります（例：200dpiの場合、40ピクセルは20/100インチです）。

バーコードの幅と高さを指定する場合、許容誤差は±10%です（例：バーコードの高さとして20/100インチを指定した場合、18/100～22/100インチのバーコードが検出されます）。

タイプ — また、このバーコードゾーンで有効とみなされる追加のバーコードタイプも選択できます。

ゾーン内に複数のバーコードタイプが見つかることは珍しいことですが、複数の異なるバーコードタイプを選択することは可能です。バーコードのタイプの詳細については、本章の後半にある「バーコードタイプ」を参照してください。

選択するバーコードタイプの数が多いほど、スキャンのパフォーマンスは低下します。

バーコードのゾーンを描画すると、その場所ですべてのバーコードタイプが検索されます。検索に成功すると、見つかったバーコードタイプにタイプが設定されます。見つからなかった場合は、バーコードタイプは選択されません。以下の2つの例外があります。

- Code 39 Extended と Code 39 HIBC バーコードの場合、バーコードタイプが Code 39 に設定されることがあります。このような場合は、必要に応じて **Code 39 Extended** や **Code 39 HIBC** を手動で選択します。
- MSIPH バーコードの場合、バーコードタイプに MSI が設定されることがあります。このような場合は、**MSIPH** を手動で選択します。

[バーコードゾーン] ダイアログボックス (続き)

Bar Code Zone Setup

Zone name:

Side: Front Back

Keep bar codes with mask:

Minimum length:

Bar code width:

Bar code height:

(Size in 1/100 Inch, 0 = Variable)

Type:

Verify checksum

Minimum partial read characters:

Filtering:

Process barcode by: Auto Capture Pro

チェックサムを検証 — バーコードにチェックサム文字が含まれている場合、このチェックボックスを選択します。チェックサムにより、バーコード読み取りの精度が保証されます。チェックサムによる検証をサポートしていないバーコードタイプもあります。オプションでチェックサム検証をサポートしているバーコードタイプを次に示します。

Code 3 of 9
CODABAR
Interleaved 2 of 5

PDF417、UPC、EAN など一部のバーコードタイプはチェックサムルーチンが実装されており、無効にすることはできません。

チェックサム付きバーコードに対して [**チェックサムの検証**] を無効にすると、バーコード値にチェックサムの値 (通常はバーコードの最後の文字) が表示されます。有効にしておけば、チェックサムの値は表示されません。

スキャン中にチェックサム検証に失敗した場合、バーコード値は生成されず、インデックス フィールドの検証は失敗します。Code 128 など、いくつかのバーコードタイプには、必須のチェックサム文字が含まれています。コードが常に存在し、読み取る値が正しい必要があります。Code 39 などの他のコードでは、オプションのチェックサム文字があり、ある場合は付加コードが追加されます。

無効な Code 128 記号を読み取るために、[**読み取り部分の最小桁数**] オプションを選択できます。このオプションを選択すると、チェックサム検証に失敗しても、データ文字が報告されます。無効なチェックサムは返されません。バーコードにオプションのチェックサムがある場合、ソフトウェアはそれを検証しません。バーコードの仕様に従って処理します。

オプションのチェックサムがあるバーコードに対して [**部分読み取りの最小桁数**] を選択すると、検出されたものが良いか悪いかにかかわらず返されます。バーコードが正しい結果を返すけれども、チェックサム自体が失敗することもあります。チェックサムは黙示的なものであるため、結果は返されず、直接テストすることはできません。

最小部分読み取り文字 — バーコードが不完全な時に、キャプチャプロ ソフトウェアにバーコード値を生成させる場合、このチェックボックスを選択します。このオプションを選択した場合は、部分読み取りを許可する最小文字数を入力します。このオプションは、絶対値がさほど重要ではないドキュメントやバッチセパレーションにのみバーコードが使用される場合に役立ちます。

インデックス作成には、フィールドマスクと最小入力文字数を設定することをお勧めします。バーコードが不完全で [**最小部分読み取り文字**] フィールドが無効の場合、バーコード値は生成されません。

注記: [**最小部分読み取り文字**] は、[**チェックサムを検証**] を有効にしている場合は使用しないでください。使用すると、チェックサム検証の失敗時にバーコード値が生成される可能性があります。

フィルター — CCD ピクセルがドロップアウトする可能性がある FAX などのデバイスからバーコードを読み取る場合、フィルターを適用すると、ピクセルが欠けているバーの認識率が向上する場合があります。Filter1 を選択すると、バーの 1 ピクセルの隙間を埋めます。Filter2 は 2 ピクセルの隙間を埋め、その後も同様です。

[次によってバーコードを処理 :] — [自動] に設定すると、バーコードがスキャナーで読み取られます（可能な場合）。スキャナーで許容されるバーコード数の上限に達した場合や、スキャナーでバーコードがサポートされていない場合は、キャプチャプロでバーコードを読み取ります。[キャプチャプロ] に設定すると、ソフトウェアでバーコードが読み取られます。

スキャナーでバーコードを読み取るメリット（自動）：

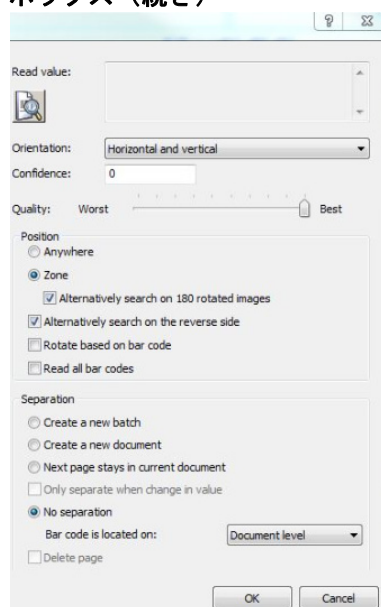
- 高速 — バーコードはスキャナーのフルスピードで読み取られる。
- 解像度 — バーコードはイメージのフル解像度（1200 dpi）で読み取られる。イメージ処理と圧縮によって、一部のスキャナーモデルでページ端の画質が低下する場合があります。

スキャナーでバーコードを読み取るデメリット（自動）：

- キャプチャプロに比べて、スキャナーではイメージごとに読み取ることができるバーコードの数が少ない。
- キャプチャプロに比べて、スキャナーでは読み取ることができるバーコードの種類が少ない。

注記： [すべてのバーコードを読み取る] オプションを選択した場合、[次によってバーコードを処理 :] を [キャプチャプロ] に設定する必要があります。

[バーコードゾーン] ダイアログボックス（続き）



方向 — ドロップダウンリストから方向を選択します。すべてのバーコードが同じ方向（すべて横向き、またはすべて縦向き）の場合、方向を指定することをお勧めします。これにより、バーコードの読み取りとスキャンのパフォーマンスが向上します。

大部分のバーコードが同じ向き（例：横向き）で、一部のバーコードが別の向き（例：縦向き）になっているような場合は、適切な「および」向き（例：横向きおよび縦向き）を使用することをお勧めします。

バーコードゾーンを初めて作成する際にバーコードが見つかった場合、そのバーコードの向きに自動的に設定されます。横向きがデフォルトです。

確度 — キャプチャプロソフトウェアがバーコード読み取り成功と判断する際の、条件を制限する確度の割合を入力します。入力した値が大きいほど、バーコードの読み取りエラーの可能性が低くなります。

品質 — [最低] から [最高] の間で、品質を選択します。レーザープリンタやオフセットプリンタで印刷された場合、バーコードの品質は高くなります。インクジェットプリンタやドットマトリックスプリンタで印刷された場合、バーコードの品質は低くなります。

スキャン対象バーコードの品質に応じて、[品質] レベルに適切な値を設定します。品質の設定が高いほど、バーコードの読み取りが速くなります。

位置 — [任意] または [ゾーン] を選択します。

- **任意**：バーコード用に任意のゾーンを作成する場合、ページ上のいずれかの位置で1つのバーコードの周りにゾーンを描画し、[任意] オプションを選択します。この状況は、原稿上の予想外の場所にバーコードが存在する場合によく見られます。[任意] バーコードを探す場合、イメージの上から下に向かって横向き / 縦向きバーコードが検索されます。ページやゾーンに複数の [任意] バーコードがあるかどうかを理解するために、この検索順序は重要です。
- **ゾーン**：デフォルト設定で、バーコードの読み取りとスキャンのパフォーマンスが向上させます。
 - **180 度回転したイメージも検索** — [ゾーン] オプションが有効の場合のみ使用できます。バーコードの読み取りに失敗した場合、イメージを 180 度回転した後にゾーンも検索されます。この場合、バーコードの読み取りとスキャン速度は低下しますが、ページが逆向きにスキャンされるため、バーコードの読み取り失敗を回避できます。[バーコードを基準に回転] オプションを選択しないと、イメージは永続的に回転しません。
- **裏面のイメージも検索** — このオプションを有効にすると、スキャン時に誤ってページが裏向きになった場合でもドキュメント/バッチセパレーションとインデックス作成の精度が向上します。
- **バーコードを基準に回転** — キャプチャプロ ソフトウェアは、バーコードが 180 度回転されていると判断した場合、バーコード ページを 180 度回転して正像にします。ドキュメントセパレーション用にこのオプションを使用します。ドキュメント内のすべてのページがバーコードゾーンのある先頭ページと同じように回転されます。必要に応じて、1つのバーコードゾーンだけ [バーコードを基準に回転] オプションを有効にします。

注記： キャプチャプロ ソフトウェアでは、**バッチの回転**はサポートされていません。

すべてのバーコードを読み取る：このオプションが選択され、[位置] が [任意] の場合、ページ上のバーコードはすべて読み取られます。バーコード値は ^ 文字によって区切られます。値の順序は、ページを左から右、そして上から下に検索したときに見つかったバーコードの順序です。

注記： [すべてのバーコードを読み取る] オプションを選択した場合、[次によってバーコードを処理:] を [キャプチャプロ] に設定する必要があります。

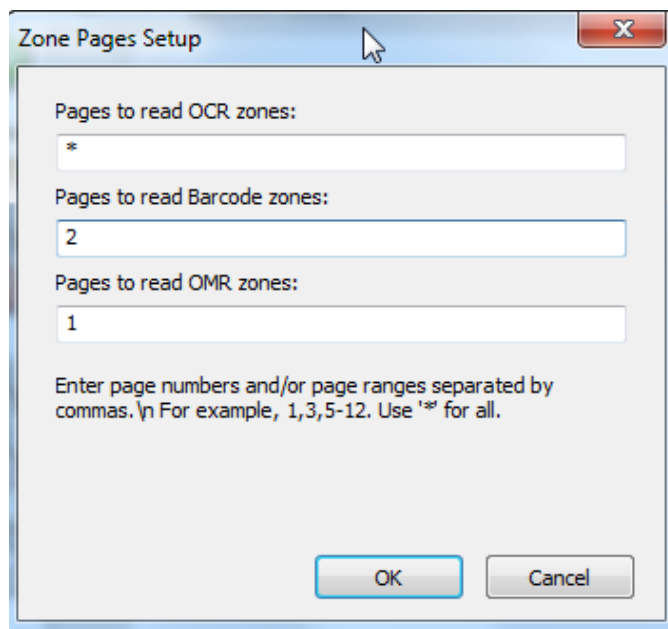
セパレーション — 以下のオプションが用意されています。

- **新規バッチを作成する** — セパレーション後のイメージはすべて新規バッチ内の新規ドキュメントに保存されます。
- **新規ドキュメントを作成する** — セパレーション後のイメージはすべて現在のバッチ内の新しいドキュメントに保存されます。
- **次のページは現在のドキュメントに入れる** — セパレーションの次のページを現在のドキュメントに残ります。
- **値が変更された場合のみ分割する** — 値が変更された場合のみ、ドキュメントまたはバッチが分割されます。
- **分割しない** — バーコードゾーンのバッチレベルまたはドキュメントレベルを選択します。

- **バーコードの場所：バッチレベル**：バッチ / ドキュメントのインデックス作成には、バッチレベルにあるバーコード、またはバッチを区別するバーコードを利用できます。バッチレベルバーコードは、バッチヘッダページにある場合のみ読み取られます。バッチコードやバーコードを使ってバッチセパレーションが定義されている場合は、バッチヘッダページがありません（ジョブ内の最低 1 つのバーコードゾーンがバッチセパレーション用に設定されている）。
- **バーコードの場所：ドキュメントレベル**：ドキュメントのインデックス作成には、ドキュメントレベルにあるバーコード、またはドキュメントを区別するバーコードを利用できます。バッチインデックス作成には利用できません。
- **[ページの削除]**— 新規ドキュメントを開始するバーコード付きページを削除する場合は、このオプションを選択します。これは、バーコードページがドキュメントセパレーションの目的で使用され、重要な情報がない場合に重要です。バーコードはドキュメントレベルのインデックス作成に利用できます。

[ゾーンページ設定] ダイアログボックス

デフォルトでは、バーコード (OCR、マーク検知) ゾーンはドキュメントの最初のページに適用されます。追加ページのバーコード (抽出テキスト、マークのチェック) を読み取るには、[ゾーンページ設定] ダイアログで特定のページまたは複数のページを選択します。[ゾーンページ設定] ダイアログボックスを表示するには、[バーコード、OCR、マーク検知ジョブセットアップ] ダイアログボックスの右下にあるゾーンアイコンで **[適用するページを選択]** を選択します。[ゾーンページ設定] ダイアログボックスにより、ページを個別に選択して、定義済みのバーコード、OCR、マーク検出ゾーンを適用します。



OCR ゾーンを読み取るページ— 定義済みの OCR ゾーンを適用するページを選択する際に使用します。ページ番号をコンマ「,」で区切ることで複数ページに入力することができます。たとえば、「3 - 8」。定義済み OCR ゾーンごとに、指定したページは、テキストが有効かどうかチェックされます。ゾーンで有効なテキストが見つかった場合、ゾーンには読み取られたテキストが割当てられます。次ページのゾーン内に有効なテキストがある場合、それは読み取り済みの以前のテキストに取って代わります。

入力したページの数値よりドキュメントのページが少ない場合、ゾーン値は空のままです。たとえば、ドキュメントには 6 ページあり、読み取りページが「8、11-15」と設定された場合、ゾーン値は、たとえ最初の 6 ページがゾーン内で有効なテキストであっても、空のままです。

ドキュメントの最終ページのゾーンの値を常に読み取る必要があります、ドキュメントのページ数が一定でない場合、アスタリスク「*」でドキュメントの各ページを読み取ります。最終ページで読み取られた値が、ゾーンに割り当てられる最終値となります。

注記：最終ページの値が読み取られない、または有効ではない場合、前ページの有効な値がゾーンに割り当てられます。

[バーコードを読み取るページ] が空の場合、どの OCR ゾーンも読み取りません。

バーコードを読み取るページ — 定義済みのバーコードゾーンを適用するページを選択する際に使用します。ページ番号をコンマ「,」で区切ることで複数ページに入力することができます。たとえば、「1,2,5,6」。複数ページの範囲は、最初のページ番号、ダッシュ「-」、最後のページ番号を入力することで設定できます。たとえば、「3 - 8」。定義済みバーコードゾーンごとに、指定したページは、テキストが有効かどうかチェックされます。ゾーンで有効なバーコード値が見つかった場合、ゾーンは読み取られたバーコード値が割り当てられます。次ページのゾーン内に有効なバーコードがある場合、それは読み取り済みの以前のバーコード値に取って代わります。

入力したページの数値よりドキュメントのページが少ない場合、ゾーン値は空のままです。たとえば、ドキュメントには 6 ページあり、読み取りページが「8、11-15」と設定された場合、ゾーン値は、たとえ最初の 6 ページが複数の有効なバーコードを含んでいても、空のままです。

ドキュメントの最終ページのゾーンの値を常に読み取る必要があります、ドキュメントのページ数が一定でない場合、アスタリスク「*」でドキュメントの各ページを読み取ります。最終ページで読み取られた値が、ゾーンに割り当てられる最終値となります。

注記：最終ページの値が読み取られない、または有効ではない場合、前ページの有効な値がゾーンに割り当てられます。

[バーコードを読み取るページ] フィールドが空の場合、どのバーコードゾーンも読み取りません。

OMR (光学式マーク認識) ゾーンを読み取るページ — マーク検知ゾーンを適用するための複数のページを指定することは、ほとんど実行されません。マーク検知ゾーンが「フレームなし」と定義された場合、複数ページ範囲で指定された最終ページがマーク検知ゾーンの値を決定します。マーク検知ゾーンが「フレームあり」と定義されていても、好ましい結果にならない場合があります。

バーコードゾーンによるドキュメントの分割

キャプチャプロ ソフトウェアでは、バッチ内のバーコード ゾーンを使ってドキュメントを分割できます。

1. **[ファイル]>[ジョブセットアップ]** を選択し、ジョブとバッチを選択します。
2. **[スキャン]** タブ を表示して、**[セパレーション]>[バーコードゾーンを使用]** を選択します。セパレーションの **[バーコードゾーンを使用]** ウィンドウ が表示されます。
3. バーコードゾーンを選択するか、新しく定義します。
4. マウスのボタンを右クリックしてコンテキスト依存メニューを表示し、**[ゾーンプロパティ]** をクリックします。**[バーコードゾーンの設定]** ダイアログボックスが表示されます。
5. セパレーションで、**[新規ドキュメントを作成する]** をクリックします。
6. 新規ドキュメントを開始するバーコード付きのページを削除する場合は、**[ページの削除]** オプションを選択します。
7. 特定のバーコード値またはマスクに制限する場合は、**[バーコードをマスクで保存]** / **[最小の入力文字数]** フィールドに入力します。
8. ドキュメント内のすべてのページをドキュメントヘッダのバーコードと同じ向きに回転する場合は、**[バーコードを基準に回転]** を選択します。バーコードの区切りページを削除する場合、バーコードを基準には回転できません。

例：

Mask = " ER" 9(8) "-" 999 Minimum length = 14: 文字列「ER」で始まり、次に 8 文字の数字、ハイフン、3 文字の数字が続く 14 文字以上のバーコード値の場合のみ、新規ドキュメントを作成します。

たとえば、フォルダの表紙にある患者番号バーコードに対して、新しいドキュメントを開始できます。この場合、患者番号をドキュメントインデックスとしても使用できます。同じゾーン内のバーコードが特定の値を持つバッチと他の値を持つドキュメントを作成する場合、上部に 2 つのゾーンをそれぞれ作成してください。

9. 他の項目を設定したら、**[OK]** をクリックしてダイアログボックスを閉じ、セパレーションの **[バーコードを使用]** ウィンドウに戻ります。
10. **[OK]** をクリックして設定情報を保存し、**[ジョブセットアップ]** ダイアログボックスを閉じます。

バーコードゾーンによるバッチの分割

1. **[ファイル]>[ジョブセットアップ]** を選択します。**[ジョブセットアップ]** ダイアログボックスが表示されます。
2. **[ジョブ名]** ドロップダウンリストからジョブセットアップを選択し、**[スキャン]** タブを開きます。
3. **[セパレーション]>[バーコードゾーンを使用]** を選択します。セパレーションの **[バーコードゾーンを使用]** ウィンドウ が表示されます。
4. バーコードゾーンを選択するか、新しく定義します。
5. マウスのボタンを右クリックしてコンテキスト依存メニューを表示し、**[ゾーンプロパティ]** をクリックします。**[バーコードゾーンの設定]** ダイアログボックスが表示されます。
6. **[セパレーション]** で、**[新規バッチ作成]** を選択します。

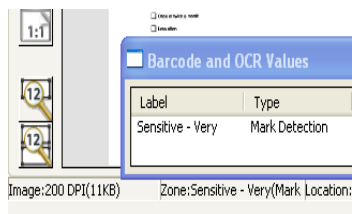
7. **[OK]** をクリックしてダイアログボックスを終了し、セパレーションの [バーコードを使用] ウィンドウに戻ります。
8. **[OK]** をクリックして設定情報を保存し、[ジョブセットアップ] ダイアログボックスを閉じます。

注記：

- バッチレベルのインデックス作成に使用されるバーコードゾーンは、バッチヘッダページにある場合のみ読み取られます。
- パッチコード、バーコード、OCR ゾーン (ジョブに最低 1 つのゾーンをバッチセパレーションとして設定) を使用すると、バッチセパレータとして使用できます。

バーコードゾーンの編集

1. [ファイル]>[ジョブセットアップ] を選択します。[ジョブセットアップ] ダイアログボックスが表示されます。
2. [ジョブ名] ドロップダウンリストからジョブセットアップを選択します。
3. [スキャン] タブ を表示して、[セパレーション]>[バーコードゾーンを使用] を選択します。セパレーションの [バーコードゾーンを使用] ウィンドウが表示されます。
4. 変更するバーコードゾーンをクリックするか、またはセパレーションの [バーコードゾーンを使用] ウィンドウの右側にあるゾーンのリストからバーコードゾーン名をクリックします。
5. マウスのボタンを右クリックしてコンテキスト依存メニューを表示し、[ゾーンプロパティ] をクリックします。[バーコードゾーンの設定] ダイアログボックスが表示されます。
6. 設定内容を変更したら、**[OK]** をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
7. **[OK]** をクリックして設定情報を保存し、[ジョブセットアップ] ダイアログボックスを閉じます。
8. バーコードゾーンを編集したら、バーコードをテストして、読み取り可能か検証してください。



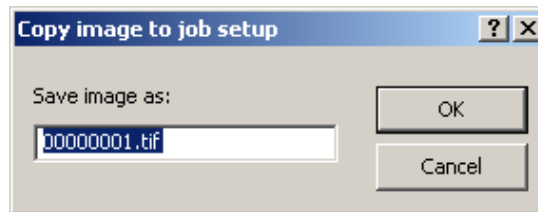
バーコードゾーンの削除

1. [ファイル]>[ジョブセットアップ]を選択します。[ジョブセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [ジョブ名]ドロップダウンリストからジョブセットアップを選択します。
3. [スキャン]タブを表示して、[セパレーション]>[バーコードゾーンを使用]を選択します。セパレーションの[バーコードゾーンを使用]ウィンドウが表示されます。
4. 削除するバーコードゾーンをクリックします。[バーコード]ウィンドウの左側にあるリストからバーコードゾーン名を選択することもできます。ゾーンがハイライトされます。
5. [削除]をクリックします。
6. [OK]をクリックして設定情報を保存し、[ジョブセットアップ]ダイアログボックスを閉じます。

[バーコード]ウィンドウにイメージを転送

バーコードのあるイメージをイメージビューアから[バーコード]ウィンドウに転送して、バーコードゾーンを作成できます。

1. メインウィンドウで、バーコードのある原稿をスキャンします。
2. イメージビューアで、転送するイメージを選択し、右クリックします。
3. [ジョブセットアップにイメージをコピー]を選択します。[ジョブセットアップにイメージをコピー]ダイアログボックスが表示されます。



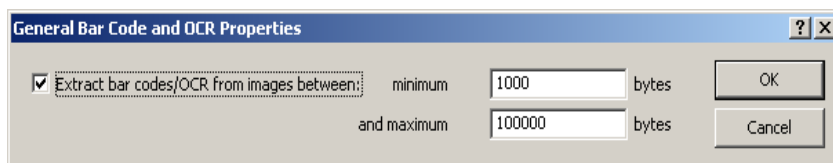
4. [イメージに名前を付けて保存]フィールドに新しいイメージ名を入力します。
5. [OK]をクリックします。これで[バーコード]ウィンドウにイメージを表示して、バーコードゾーンを作成できます。

バーコードイメージを直接[バーコード]ウィンドウにスキャンすることもできます。本章の前半にある「バーコード設定用のイメージのスキャン」を参照してください。

バーコードイメージサイズの範囲の設定

バーコードゾーンを定義すると、スキャンするページごとにバーコードがないかチェックされます。このチェックによって、スキャン性能が低下する場合があります。バーコードのページがほとんど同じバイトサイズの場合で、スキャンする他のページとサイズが異なる場合は、特定のサイズ（バイトカウント）範囲内のイメージだけ、バーコードをチェックさせることができます。この設定によって、スキャンのパフォーマンスが向上します。

1. [ファイル]>[ジョブセットアップ]を選択します。[ジョブセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [ジョブ名]ドロップダウンリストからジョブセットアップを選択し、[スキャン]タブを開きます。
3. [セパレーション]>[バーコードゾーンを使用]を選択します。セパレーションの[バーコードゾーンを使用]ウィンドウが表示されます。
4. 任意のイメージを選択し、バーコードゾーンを右クリックし、[一般プロパティ]を選択します。[一般バーコードおよびOCRプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。



注記：バーコードゾーンが存在しない場合、バーコードゾーンが定義されるまで、このオプションは利用できません。

5. [次のイメージの中からバーコード / OCR を抽出] チェックボックスを選択し、最小および最大バイトサイズの範囲を設定します。
6. 設定が完了したら、[OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じ、[バーコード]ウィンドウに戻ります。
7. [OK] をクリックして設定情報を保存し、[ジョブセットアップ]ダイアログボックスを閉じます。新しいイメージ範囲が保存されます。
8. バーコードゾーンを編集したら、バーコードゾーンをテストして、読み取り可能かどうかを検証してください。

注記：カラー / グレースケールイメージと白黒イメージの両方をスキャンする場合は、白黒イメージの範囲を指定します。

バーコードゾーンによるページの添付

1. [ファイル]>[ジョブセットアップ]を選択してジョブを選択し、[スキャン]タブを開きます。
2. [セパレーション]>[バーコードゾーンを使用]を選択します。[バーコード]ウィンドウが表示されます。
3. バーコードゾーンを選択するか、新しく定義します。
4. マウスのボタンを右クリックしてコンテキスト依存メニューを表示し、[ゾーンプロパティ]をクリックします。[バーコードゾーンの設定]ダイアログボックスが表示されます。

5. **[セパレーション]**で、**[次のページは現在のドキュメントに入れる]**を選択します。このオプションは、1つの添付ページに対してのみ有効になります。複数のページを添付する場合、添付用バーコードをページごとに適用してください。添付ページのバーコードは、インデックス作成には利用できません。
6. バーコードのあるページ(両面)を削除して、次のページを添付ファイルとして使用する場合は、**[ページの削除]**オプションを選択します。このオプションは、次のページが添付ファイルであるとヘッダを設定する場合に役立ちます。次のページには、イメージ回転が適用されます。
7. 特定のバーコード値またはマスクでページの添付を制限する場合は、**[バーコードをマスクで保持]**か**[最小桁数]**フィールド(あるいはその両方)を指定します。
8. 添付ページ(両面)をバーコードと同じ向きに回転する場合は、**[バーコードを基準に回転]**チェックボックスを選択します。
9. **[OK]**をクリックして設定情報を保存し、ダイアログボックスを閉じます。

バーコードゾーンのテスト

イメージを基に新しいバーコードゾーンを定義する場合、そのゾーンが読み取り可能かどうか自動的にチェックされます。ただし、その後にバーコードゾーンを編集したり、プロパティを変更した場合、そのOCRゾーンを読み取れなくなることがあります。このような場合は、手でバーコードゾーンをテストして、読み取り可能かどうかを確認できます。

1. **[ファイル]>[ジョブセットアップ]**を選択します。**[ジョブセットアップ]**ダイアログボックスが表示されます。
2. **[ジョブ名]**ドロップダウンリストからジョブセットアップを選択し、**[スキャン]**タブを表示します。
3. **[セパレーション]>[バーコードゾーンを使用]**を選択します。**[バーコード]**ウィンドウが表示されます。
4. **[バーコード、OCR、マーク検知ゾーンを全てテスト]**アイコンをクリックして全てのバーコードをテストするか、**[選択したバーコード、OCR、マーク検知ゾーンのテスト]**アイコンをクリックして個別にバーコードゾーンをテストします。**[バーコード、OCR、マーク検知の値]**ダイアログボックスが表示されます。
5. このボックスの値を確認したら、**[OK]**をクリックして**[バーコード]**ウィンドウに戻ります。
6. **[OK]**をクリックして設定情報を保存し、**[ジョブセットアップ]**ダイアログボックスを閉じます。バーコードゾーンがすべてテストされました。バーコード設定を変更した場合は、再度テストを行ってください。

バーコードタイプ

キャプチャプロ ソフトウェアは、次のバーコードタイプをサポートしています。

- Airline 2 of 5
- Aztec
- Barcode 32
- CODABAR
- Code 128

- Code 2 of 5 - Interleaved 2 of 5 と同時には選択できません。
- Code 3 of 9
- Code 39 (no stop start)
- Code 39 Extended
- Code 93
- Data Matrix
- EAN 13
- EAN 8
- インテリジェントメールバーコード
- Interleaved of 2 of 5 — Code 2 of 5 と同時には選択できません。
- PDF417 — 高密度の QR コードで、数平方インチの面積に 1250 バイトまでの情報を含むことができます。この密度により、ドキュメントのすべてのインデックスデータを 1 つのバーコードに入れることができます。
- Planet (米国郵便局コード)
- PostNet (Postal) : 他のバーコードタイプと一緒に選択できません。
- QR コード
- UCC Code 128
- UPC-A
- UPC-E

QR コードの特殊構文

QR コードを使用する場合、1 つのバーコードからドキュメントまたはバッチインデックスに全てのデータを記録できます。QR コードを使用したインデックス作成を促進するために、特殊な部分文字列構文が追加されました。

<barcode.zonename:[開始 ; 長さ]>

<barcode.zonename:[開始 ; 終了]>

<barcode.zonename:[データエレメント数、区切り文字 (コーテーション (' ') で囲む)]>

区切り文字は、実際の文字記号やその ASCII 10 進数の値 (印刷や入力ができない記号用) のいずれかに設定できます。区切り文字は、ダブルコーテーション (" ") で囲んでください。

たとえば、PDF417 バーコードにデータ「12345678*NURSERY*11/19/1962」が含まれている場合、3 つのインデックスフィールドデータに対して次の値をデフォルトとして使用できます。

| デフォルト値 | 実際の値 |
|--|------------|
| <BC.PDF417:[1, '*']> | 12345678 |
| バーコード文字列中のアスタリスクで区切られた 1 番目のエレメントが返されます。 | |
| <BC.PDF417:[2, '42']> | NURSERY |
| バーコード文字列中のアスタリスクで区切られた 2 番目のエレメントが返されます (42 はアスタリスクを表す ASCII コードです)。 | |
| <BC.PDF417:[3, '*']> | 1962/11/19 |
| バーコード文字列中のアスタリスクで区切られた 3 番目のエレメントが返されます | |

OCR ゾーンの使用

OCR (光学文字認識) とは、タイプライターや印刷されたテキストの画像 (通常はスキャナーで取り込んだもの) を、機械的または電子的に機械可読なテキストに変換することです。

OCR セットアップでは以下を定義できます。

- OCR ゾーン名
- テキストを読み取る物理的な場所 (イメージ上のゾーン)
- テキストの読み取り対象レベル (バッチまたはドキュメント)

[ジョブセットアップ] ダイアログボックスの [スキャン] タブにあるバーコード、OCR、マーク検知セットアップオプションを使用して、バーコード読み取りで 1 つ以上のバーコードを読み取るか、1 つ以上の OCR ゾーンに OCR パラメータを設定します。

[ジョブセットアップ] ダイアログボックスの [スキャン] タブにある OCR ゾーンセパレーション設定では、イメージをセパレーションの [OCR ゾーンを使用] ウィンドウにスキャンしてゾーンを定義し、OCR ゾーンプロパティを設定できます。

注記: [バーコードによるセパレーションおよび OCR ゾーンによるセパレーション] ウィンドウのコンポーネント、アイコン、コンテキスト依存メニューの詳細については、本章の前半の「[バーコード、OCR & マーク検知] ウィンドウ」と「[バーコード、OCR & マーク検知] ウィンドウのコンテキスト依存メニュー」を参照してください。

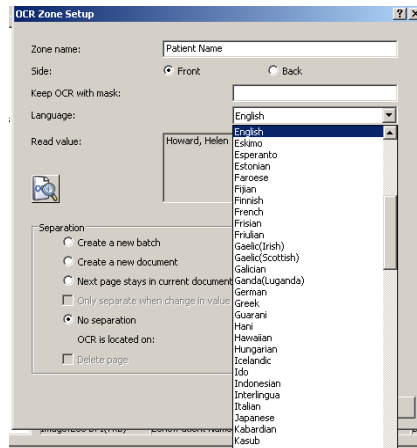
OCR インデックス作成はローカル言語対応辞書を使用して、英数字テキストを高速 (1000 文字 / 秒) で読み取ることができます。OCR はバーコード読み取りと同様にゾーン形式で行われ、スキャン中に処理されます。

キャプチャプロ ソフトウェアでは、OCR 用に以下のテキスト情報をサポートしています。

- リガチャー (結合文字)
 - 破線文字 (Broken characters)
 - 劣化文字 (Degraded characters)
 - 200dpi ~ 600dpi の解像度のテキスト
 - 8 ~ 72 ポイントのテキスト
 - 0 ~ 9 の数字
 - A ~ Z および a ~ z の英字
 - 記号 ! " \$ % & () * + , - . / : ; < = > ? @ [\] { } £ • ß ´ ¨
- 最良の結果を得るためには、300dpi の解像度と 12 ポイントの Sans Serif フォント (300dpi 未満の解像度の場合はより大きいサイズのフォント) を使用してください。歪んだドキュメントは使用しないでください。

- キャプチャプロ ソフトウェアは、OCR インデックス作成のための幅広い言語をサポートしています。言語のリストを表示するには、以下の手順に従います。

1. **[ファイル]>[ジョブセットアップ]** を選択します。[ジョブセットアップ] ダイアログボックスが表示されます。
2. **[ジョブ名]** ドロップダウンリストからジョブセットアップを選択し、**[スキャン]** タブを開きます。
3. **[セパレーション]>[OCR ゾーンを使用]** を選択します。セパレーションの **[OCR ゾーンを使用]** ウィンドウが表示されます。
4. OCR ゾーンをクリックした後、**[ゾーンのプロパティ]** をクリックします。**[OCR ゾーンの設定]** ダイアログボックスが表示されます。



5. **[言語]** ドロップダウンリストから、対象言語を選択します。

OCR 設定用のイメージの スキャン

キャプチャプロ ソフトウェアでは、OCR ゾーンに基づいてスキャン ページをバッチやドキュメントに分割できます。OCR ゾーンを利用して、ドキュメントに追加ページを添付することもできます。

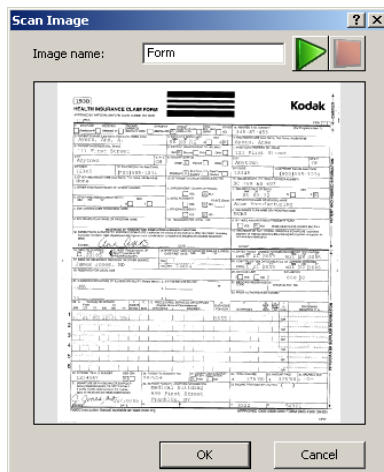
OCR テキストをセパレータとして使用するには、次の作業を行ってください。

1. OCR テキストのあるイメージをキャプチャプロ ソフトウェアにスキャンする。
2. OCR ゾーンを作成して定義します。
3. OCR ゾーンセパレーションのジョブを設定する。

セパレーションの OCR ゾーンウィンドウから直接イメージをスキャンするには：

1. **[ファイル]>[ジョブセットアップ]** を選択します。[ジョブセットアップ] ダイアログボックスが表示されます。
2. **[ジョブ名]** ドロップダウンリストからジョブセットアップを選択し、**[スキャン]** タブを開きます。
3. **[セパレーション]>[OCR ゾーンを使用]** を選択します。セパレーションの **[OCR ゾーンを使用]** ウィンドウが表示されます。

4. 原稿をフィーダに正しくセットし、[スキャン開始]をクリックします。ダイアログボックスにイメージが表示されます。イメージはまっすぐにスキャンしてください。スキャナーでは、キャプチャソフトウェアの現在のページセットアップに設定されているパラメータが使用されます。



注記：

- スキャンされたイメージには、現在のジョブセットアップに設定されている内容も適用されてから表示されます。
- イメージが適切な場合は、[イメージ名]フィールドにイメージ名を入力します。イメージ名に、次の文字は使用できません： “?*.<>|/”。
- イメージを破棄する場合は、[キャンセル]をクリックします。
- OCR ゾーンを定義するには、[イメージ]ドロップダウンリストに1つ以上のイメージを保存してください。
- イメージビューアからセパレーションの[OCRゾーンを使用]ウィンドウにイメージを転送できます。詳細については、本章の後半にある「[OCR]ウィンドウにイメージを転送」を参照してください。

5. [OK]をクリックします。

OCR ゾーンの作成と選択

OCR イメージを使ってドキュメント/バッチを分割する前に、OCR ゾーンを作成、選択してください。

1. [ファイル]>[ジョブセットアップ]を選択します。[ジョブセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [ジョブ名]ドロップダウンリストからジョブセットアップを選択し、[スキャン]タブを開きます。
3. [セパレーション]>[OCRゾーンを使用]を選択します。セパレーションの[OCRゾーンを使用]ウィンドウが表示されます。
4. [イメージ]ドロップダウンリストからイメージを選択します。イメージをスキャンする場合は、セパレーションの[OCRゾーン]ウィンドウにある緑色の[スキャン開始]アイコンをクリックします。

注記： OCR ゾーン的位置を定義する領域の左上にマウスカーソルを移動します。可変長および可変高さの OCR インデックスを作成するには、すべてのインデックス作成データを取得できるように十分な大きさのゾーンを描画してください。同時に、余計なデータ（例：フォームの罫線）がスキャンされないように、データを区別するゾーンをあまり大きくしないでください。

OCR ゾーンはイメージ固有ではなく、ジョブ固有です。そのため、新しいイメージを表示しても、前のイメージで使用し同じゾーンが引き続き表示されます。

5. マウスの左ボタンをクリックし、テキスト領域の周囲に四角形が描画されるまでカーソルをドラッグします。マウスボタンを離すと、[OCR ゾーンの設定] ダイアログボックスが表示されます。
6. [ゾーン名] フィールドに、新しい OCR ゾーンの名前を入力します。ゾーンを保存するには、名前を指定する必要があります。
7. その他の項目を指定したら、[OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じ、セパレーションの [OCR ゾーン] ウィンドウに戻ります。
8. [OK] をクリックして設定情報を保存し、[ジョブセットアップ] ダイアログボックスを閉じます。

[OCR ゾーンの設定] ダイアログボックス

OCR ゾーンにより、ゾーンの寸法などの情報がキャプチャプロ ソフトウェアに提供されます。OCR ゾーンを描画すると、ゾーン内の情報が読み取られ、[OCR ゾーンプロパティ] ウィンドウに認識されたテキストが表示されます。

注記： OCR 機能は、斜体、アンダーラインが付いた文字、アジア系言語の読み取りを苦手としています。OCR の認識率を高めるためには、白黒イメージを使用することを推奨します。

ゾーン名 — OCR ゾーンの名前を入力します。OCR ゾーンを保存するには、名前を付ける必要があります。

面：表面または裏面 — OCR ゾーンが、イメージの表面、裏面のいずれにあるのかを選択します。

保持する値のルール — 有効なあらゆる入力フォーマットのテキスト式を入力できます。または、このフィールドは空のままにできます。入力フォーマットのテキスト式が入力された場合、このルールを満たす OCR 読み取り文字列のみが保持されます。たとえば A<10> という式を入力した場合、10 文字以下のアルファベットを含む OCR 読み取り文字列のみが保持されます。詳細については、第 2 章の「入力フォーマット」を参照してください。

ゾーン内の値の検索 — [保持する値のルール] が固定文字列形式の場合、OCR ゾーン読み取り値として必要なのは、固定文字列のみです。

たとえば、[保持する値のルール] が [フォーム 1099] に設定されると、次の読み取り文字列が有効な読み取りとなり、(選択した場合は) バッチ / ドキュメントセパレーションが発生します。

「77644 フォーム 1099 - リビジョン 1.2」

「81763 フォーム 1099 - リビジョン 1.4」

「77644 フォーム 1099 - リビジョン 2.2」

文字セットのルール — 現時点では使用できません。

第 1 言語 — 適切な第 1 言語を選択すると、キャプチャ プロ ソフトウェアによって言語固有の特殊文字 (例 : ç や ü) が適切に OCR 処理されます。ドロップダウンリストを使用してサポートされる言語を表示します。

第 2 言語 — ゾーンに複数の言語の文字が含まれる場合、1 つ以上の第 2 言語を選択できます。

カスタム辞書 — カスタム辞書を使用すると、ドキュメントに表示される固有の用語や独自の用語を認識する精度を向上させます。[参照] をクリックして、カスタム辞書を選択します。

セパレーション — 以下のオプションが用意されています。

- **新規バッチを作成する** : セパレーション後のイメージはすべて新規バッチ内の新規ドキュメントに保存されます。
- **新規ドキュメントを作成する** : セパレーション後のイメージはすべて現在のバッチ内の新しいドキュメントに保存されます。
- **次のページは現在のドキュメントに入れる** : セパレーションの次のページを現在のドキュメントに入れます。

セパレーションなし — 次のオプションからいずれかを選択します。

- **OCR の場所 : ドキュメントレベル** : ドキュメントインデックス作成に、ドキュメントレベルの OCR ゾーンと、ドキュメントを分割する OCR ゾーンを使用できます。バッチインデックス作成には利用できません。
- **OCR の場所 : バッチレベル** : バッチインデックスおよびドキュメントインデックス作成に、バッチレベルの OCR ゾーンと、バッチを分割する OCR ゾーンの両方を使用できます。

値が変更された場合にのみ分割 — 値が変更された場合にのみ、ドキュメント / バッチを分割します。

ページの削除 — セパレーションを開始した OCR 読み取り値を含むページを削除します。

OK — ダイアログボックスを閉じ、セパレーションの OCR ゾーンウィンドウに戻ります。

特定ページへの OCR ゾーンの適用

すべての OCR ゾーンを適用するページの選択方法については、本章の前半にある「[ゾーンページ設定]ダイアログボックス」を参照してください。

OCR ゾーンによるドキュメントの分割

1. [ファイル]>[ジョブセットアップ]を選択します。[ジョブセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [ジョブ名]ドロップダウンリストからジョブセットアップを選択し、[スキャン]タブを開きます。
3. [セパレーション]>[OCR ゾーンを使用]を選択します。セパレーションの[OCR ゾーンを使用]ウィンドウが表示されます。
4. [イメージ]ドロップダウンリストからイメージを選択します。イメージをスキャンする場合は、セパレーションの[OCR ゾーン]ウィンドウにある緑色の[スキャン開始]アイコンをクリックします。

注記： マウスを使って OCR ゾーンを作成します。[OCR ゾーンの設定]ダイアログボックスが表示されます。

5. [セパレーション]で、[新規ドキュメントを作成する]をクリックします。
6. [OK]をクリックしてダイアログボックスを終了し、セパレーションの[OCR ゾーン]ウィンドウに戻ります。
7. [OK] をクリックして設定情報を保存し、[ジョブセットアップ]ダイアログボックスを閉じます。

注記： パッチコード、バーコード、OCR ゾーン(ジョブに最低1つのゾーンをバッチセパレーションとして設定)を使用すると、バッチセパレータとして使用できます。

OCR ゾーンによるバッチの分割

1. [ファイル]>[ジョブセットアップ]を選択します。[ジョブセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [ジョブ名]ドロップダウンリストからジョブセットアップを選択し、[スキャン]タブを開きます。
3. [セパレーション]>[OCR ゾーンを使用]を選択します。セパレーションの[OCR ゾーンを使用]ウィンドウが表示されます。
4. [イメージ]ドロップダウンリストからイメージを選択します。イメージをスキャンする場合は、セパレーションの[OCR ゾーン]ウィンドウにある緑色の[スキャン開始]アイコンをクリックします。

5. マウスを使って OCR ゾーンを作成します。[OCR ゾーンの設定]ダイアログボックスが表示されます。OCR バッチセパレーション用にイメージ上に領域を定義する場合、バッチ内の他のページではその領域は空白のままにする必要があります。
6. [セパレーション]で、[新規バッチの作成]をクリックします。
7. [OK] をクリックしてダイアログボックスを終了し、セパレーションの[OCR ゾーン]ウィンドウに戻ります。
8. [OK] をクリックして設定情報を保存し、[ジョブセットアップ]ダイアログボックスを閉じます。

注記： バッチレベルの OCR ゾーンは、バッチヘッダページにある場合のみ読み取られます。パッチコード、バーコード、OCR ゾーン(ジョブに最低1つのゾーンをバッチセパレーションとして設定)を使用すると、バッチセパレータとして使用できます。

カラー/グレースケールスキャンでのバッチセパレーションの詳細については、本章の後半の「カラー/グレースケールスキャン時にセパレータを使用」を参照してください。

OCR ゾーンプロパティの編集

1. [ファイル]>[ジョブセットアップ]を選択します。[ジョブセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [ジョブ名]ドロップダウンリストからジョブ名を選択し、[スキャン]タブを開きます。
3. [セパレーション]>[OCR ゾーンを使用]を選択します。セパレーションの[OCR ゾーンを使用]ウィンドウが表示されます。
4. 変更する OCR ゾーンをクリックするか、またはセパレーションの[OCR ゾーン]ウィンドウの左側にあるリストから OCR ゾーン名をクリックします。
5. マウスのボタンを右クリックしてコンテキスト依存メニューを表示し、[ゾーンプロパティ]をクリックします。[OCR ゾーンの設定]ダイアログボックスが表示されます。
6. 設定が完了したら、[OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じ、セパレーションの[OCR ゾーン]ウィンドウに戻ります。
7. [OK] をクリックして設定情報を保存し、[ジョブセットアップ]ダイアログボックスを閉じます。

OCR ゾーンを編集した後、OCR ゾーンをテストして、読み取り可能かどうかを検証してください。

OCR ゾーンの削除

1. [ファイル]>[ジョブセットアップ]を選択します。[ジョブセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [ジョブ名]ドロップダウンリストからジョブセットアップを選択し、[スキャン]タブを開きます。
3. [セパレーション]>[OCR ゾーンを使用]を選択します。セパレーションの[OCR ゾーンを使用]ウィンドウが表示されます。
4. 削除する OCR ゾーンをクリックします。セパレーションの[OCR ゾーンを使用]ウィンドウの左側にあるリストから OCR ゾーン名 をクリックすることもできます。ゾーンがハイライトされます。
5. [削除]をクリックします。
6. [OK] をクリックします。

[OCR] ウィンドウにイメージを転送

OCR テキストのあるイメージを直接イメージビューアにスキャンし、セパレーションの[OCR ゾーンを使用]ウィンドウに転送して、OCR ゾーンを作成できます。

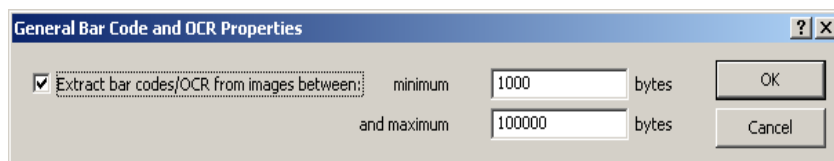
1. OCR テキストのある原稿をスキャンします。
2. イメージビューアで目的のイメージを選択し、右クリックします。
3. [ジョブセットアップにイメージをコピー]を選択します。[ジョブセットアップにイメージをコピー]ダイアログボックスが表示されます。

4. [イメージに名前を付けて保存] フィールドに新しいイメージ名を入力します。
5. [OK] をクリックします。

OCR イメージサイズの範囲の設定

OCR イメージが小さすぎて読み取れないこともあります。小さすぎるイメージを除外するために、イメージサイズの範囲を設定できます。

1. [ファイル]>[ジョブセットアップ] を選択します。[ジョブセットアップ] ダイアログボックスが表示されます。
2. [ジョブ名] ドロップダウンリストからジョブセットアップを選択し、[スキャン] タブを開きます。
3. [セパレーション]>[OCR ゾーンを使用] を選択します。セパレーションの [OCR ゾーンを使用] ウィンドウが表示されます。
4. イメージを選択し、OCR ゾーンを右クリックし、[一般プロパティ] を選択します。[一般バーコードおよび OCR プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。



注記： OCR ゾーンが存在しない場合、OCR ゾーンが定義されるまで、このオプションは利用できません。

5. [次のイメージの中からバーコード / OCR を抽出] チェックボックスを選択し、最小および最大バイトサイズの範囲を設定します。
6. 設定が完了したら、[OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じ、セパレーションの [OCR ゾーンを使用] ウィンドウに戻ります。
7. OCR ゾーンを編集した後、OCR ゾーンをテストして、読み取り可能かどうかを検証してください。

OCR ゾーンによるページの添付

ページの添付は、各ページが書類（例：小切手、航空券、請求書などの取引書類）で、時々その書類にページ（関連するメモなど）を追加する必要があるようなジョブを設定する場合に役立ちます。

1. [ファイル]>[ジョブセットアップ] を選択します。[ジョブセットアップ] ダイアログボックスが表示されます。
2. [ジョブ名] ドロップダウンリストからジョブ名を選択し、[スキャン] タブを開きます。
3. [セパレーション]>[OCR ゾーンを使用] を選択します。セパレーションの [OCR ゾーンを使用] ウィンドウが表示されます。
4. [イメージ] ドロップダウンリストからイメージを選択します。イメージをスキャンする場合は、セパレーションの [OCR ゾーンを使用] ウィンドウにある緑色の [スキャン開始] アイコンをクリックします。
5. カーソルを使って、イメージ上の OCR テキストを見つけない場所にある OCR ゾーンを定義します。OCR 添付用に定義された領域は、バッチ内の他のすべてのページで空白でなければなりません。[OCR ゾーンの設定] ダイアログボックスが表示されます。

6. **[セパレーション]**で、**[次のページは現在のドキュメントに入れる]**を選択します。このオプションは、1つの添付ページに対してのみ有効になります。複数のページを添付する場合、OCRゾーンを添付ページ毎に適用してください。添付ページのOCRゾーンはインデックス作成に利用できません。
7. OCRゾーンのあるページ(両面)を削除して、次のページを添付ファイルとして使用する場合は、**[ページの削除]**を選択します。このオプションは、次のページが添付ファイルであるとヘッダを設定する場合に役立ちます。
8. **[OK]**をクリックして設定情報を保存し、ダイアログボックスを閉じます。

OCRゾーンのテスト

イメージを基に新しいOCRゾーンを定義する場合、そのゾーンが読み取り可能かどうか自動的にチェックされます。ただし、その後にOCRゾーンを編集したり、プロパティを変更した場合、そのOCRゾーンを読み取れなくなることがあります。OCRゾーンを手動でテストして、まだ読み取りが可能であることを確認できます。

1. **[ファイル]>[ジョブセットアップ]**を選択します。**[ジョブセットアップ]**ダイアログボックスが表示されます。
2. **[ジョブ名]**ドロップダウンリストから**ジョブセットアップ**を選択し、**[スキャン]**タブを開きます。
3. **[セパレーション]>[OCRゾーンを使用]**を選択します。セパレーションの**[OCRゾーンを使用]**ウィンドウが表示されます。
4. **[バーコード/OCR/マーク検知ゾーンを全てテスト]**アイコンをクリックしてすべてのOCRゾーンをテストするか、**[選択したバーコード/OCR/マーク検知ゾーンのテスト]**をクリックしてOCRゾーンを個別にテストします。**[バーコード/OCR/マーク検知の値]**ダイアログボックスが表示されます。
5. 値を確認したら、**[OK]**をクリックしてセパレーションの**[OCRゾーンを使用]**ウィンドウに戻ります。
6. **[OK]**をクリックします。OCRゾーン設定を変更した場合は、再度テストを行ってください。

カラー/スキャン時にセパレータを使用

キャプチャプロソフトウェアは、セパレータ(バーコードゾーン、OCRゾーン、パッチコード)のあるカラー、グレースケール、白黒イメージをスキャンできます。イメージは分割することも、結合することもできます。カラー/グレースケールイメージを素早く、高精度に分するため、キャプチャプロソフトウェアはセパレータ読み取り用に白黒イメージを複製して、使用します。

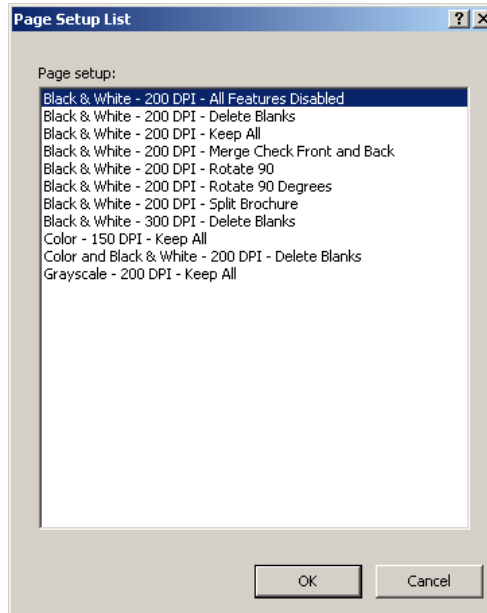
カラー/グレースケールイメージと白黒イメージの両方をスキャンする場合に、ソフトウェアがバーコードゾーン、パッチコード、OCRゾーンを検知すると、4つのページイメージをすべて削除するか、新規または現在のドキュメントやバッチに添付します。この処理は、**[バーコードゾーン設定]**ダイアログボックス、**[パッチコード設定]**ダイアログボックス、**[OCRゾーン設定]**ダイアログボックスでの設定内容に応じて行います。

カラー/グレースケールイメージのみをスキャンする場合、ソフトウェアは白黒イメージを複製して読み取りに使用します。これらの白黒イメージは表示、出力されませんが、バーコード読み取り、パッチコード読み取り、OCR インデックス作成に使用されます。

バーコードゾーン/ OCR ゾーンスキャン のためのカラーイメ ージの設定

キャプチャプロ ソフトウェアでは、バーコード データや OCR キストのソースとしてカラーまたはグレースケールイメージを使用できます。ただし、白黒のイメージを使用したほうが、キャプチャプロ ソフトウェアの処理速度と信頼性が向上します。

1. [スキャン]>[ページセットアップリスト]を選択します。[ページセットアップリスト]ダイアログボックスが表示されます。



2. リストから [同時スキャン] のページセットアップを選択します (例: カラーおよび白黒 - 200 DPI - 白紙ページを削除)。
3. スキャナーに原稿をセットして、緑色の [スキャン開始] アイコンをクリックします。イメージがイメージビューアに表示されます。
4. バーコードゾーン / OCR 対象の白黒イメージを選択し、マウスの右ボタンをクリックしてイメージコンテキスト依存メニューを表示します。
5. バーコード / OCR 設定に [編集] > [イメージをコピー] を選択します。[ジョブセットアップにイメージをコピー] ダイアログボックスが表示されます。
6. テキストボックスに新しいイメージ名を入力して、[OK] をクリックします。
7. [ファイル] > [ジョブセットアップ] をクリックします。[ジョブセットアップ] ダイアログボックスが表示されます。
8. [スキャン] タブを開き、[セパレーション] > [バーコードゾーンを使用] または [セパレーション] > [OCR ゾーンを使用] を選択します。選択内容に応じて、セパレーションの [バーコード] またはセパレーションの [OCR ゾーンを使用] ウィンドウが表示されます。

9. [イメージ] ドロップダウンボックスに新しいイメージ名が表示されます。前の章で説明したバーコードゾーンまたは OCR ゾーンの設定手順に従います。
10. [OK] をクリックします。

バーコード & OCR の 免責条項

Copyright 2000-2015, AllMyPapers, All Rights Reserved.

本ソフトウェアには ABBYY® FineReader® が含まれています。ABBYY および FineReader は ABBYY の登録商標です。このソフトウェアの元のインストールが Capture Pro バージョン 5.5 以前であった場合、このソフトウェアには OmniPage/-E OCR ソフトウェアが含まれます。© 1995-2017 Nuance Communications, Inc. All Rights Reserved.

キャプチャプロ ソフトウェアには、以下の OCR/ マーク検知 / バーコード関連の免責条項が適用されます。

本製品には最先端の OCR/バーコード/マーク検知技術が採用されていますが、あらゆる環境における認識精度を保証するものではありません。すべてのソフトウェア / 文書は、OCR/ バーコード / マーク検知の認識精度を明示的または黙示的に保証しない形で提供されています。

Kodak Alaris Inc. およびその販売代理店は、キャプチャプロ ソフトウェアの OCR/ マーク検知 / バーコード認識技術から得られる情報の改変、複製、コピー、変換により生じた不法行為や権利侵害による直接的または間接的な誤用や損害について、いかなる責任も負いません。

マーク検知ゾーンの 使用

マーク検知は、特定の領域でインクマークの有無を検出する方法です。インクマークは、いくつかの意図した情報を伝える場合に使用されます。

高い精度を得るには回答者への優れたドキュメント設計と明確な指示が非常に重要です。理想的にはその指示の中に埋め込みおよび埋め込みエラーのチェックボックスのモデルサンプルを印刷することが推奨されます。回答者にはダークブルーまたはブラックのボールペンでドキュメントに記入するよう促す必要があります。鉛筆は避けるべきです。なぜなら、フォームがカラーでスキャン時に色抜けした場合、インクカラーを持つボールペンはドロップアウトカラーに近いからです。

マーク検知の設定では以下を定義できます。

- マーク検知ゾーンの名前。
- マークを読み取る物理的な場所（イメージ上のゾーン）。
- マークが検知される場合の値。
- マーク検知されなかった時の値。
- マークがボックスまたは円などのフレーム内に含まれている場合。
- ランダムな汚れやスクラッチ「ノイズ」による、マークを判別する感度。
- 1セットの値を返すマーク検知ゾーンのグループ。

[ジョブセットアップ] ダイアログボックスの [スキャン] タブにあるバーコード / OCR / マーク検知セットアップオプションを使用して、1 つ以上のマーク検知ゾーンにマーク検知パラメータを設定します。

注記：

- バッチおよびドキュメントセパレーションはマーク検知ゾーンに対しては提供されません。
- 最高の結果を得るには、300 dpi 解像度のイメージを使用します。

マーク検知設定用のイメージのスキャン

キャプチャプロ ソフトウェアでは、マーク領域、またはマーク領域グループのステータスをスキャンして保存できます。

マーク検知を使用するには：

- マーク領域のあるイメージをキャプチャプロソフトウェアにスキャンします。
- マーク検知ゾーンを描画、選択します。
- オプションのマーク検知ゾーンのグループを設定します。

キャプチャプロ ソフトウェアでは、[マーク検知] ウィンドウから直接マーク検知イメージをスキャンして、表示、定義、編集できます。

1. [ファイル]>[ジョブセットアップ]を選択します。[ジョブセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [ジョブ名]ドロップダウンリストからジョブセットアップを選択します。
3. [スキャン] タブを開き、[バーコード、OCR & マーク検知]を選択します。[マーク検知]ウィンドウが表示されます。
4. 緑色の[スキャン開始] ボタンを選択します。[イメージのスキャン]ダイアログボックスが表示されます。
5. 原稿をフィーダに正しくセットし、[スキャン開始] をクリックします。ダイアログボックスにイメージが表示されます。イメージはまっすぐにスキャンしてください。スキャナーでは、キャプチャプロソフトウェアの現在のページセットアップに設定されているパラメータが使用されます。

注記：

- スキャンされたイメージには、現在の設定の自動回転、自動クロッピング、および傾き補正の設定も適用されてから表示されます。
 - イメージが適切な場合は、[イメージ名]フィールドにイメージ名を入力します。イメージ名に、次の文字は使用できません： “ ? . < > \ / 。
 - イメージを破棄する場合は、[キャンセル] をクリックします。
 - マーク検知ゾーンを定義するには、[イメージ]ドロップダウンリストに 1 つ以上のイメージを保存してください。
 - イメージビューアから [マーク検知] ウィンドウにイメージを転送することもできます。本章の後半にある「[マーク検知] ウィンドウにイメージを転送」を参照してください。
6. [OK] をクリックするとイメージが保存されます。

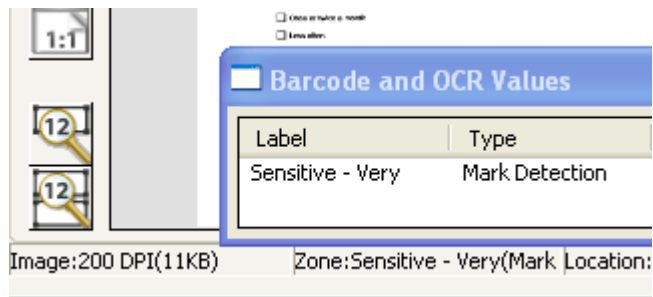
マーク検知ゾーンの作成と 選択

インデックス作成のためにマーク検知イメージを使用する前に、1つまたは複数のマーク検知ゾーンを作成し、選択する必要があります。マーク検知ゾーンは、マークを探す場所を示すために作成されます。複数のマーク検知ゾーンをグループ化し、1つのインデックスフィールドに入力することができます。

1. **[ファイル]>[ジョブセットアップ]**を選択します。**[ジョブセットアップ]**ダイアログボックスが表示されます。
2. **[ジョブ名]**ドロップダウンリストからジョブセットアップを選択し、**[スキャン]**タブを開きます。
3. **[バーコード、OCR、マーク検知]**を選択します。**[バーコード、OCR & マーク検知]**ウィンドウが表示されます。
4. **[イメージ]**ドロップダウンリストからイメージを選択します。イメージをスキャンする場合は、**[バーコード、OCR & マーク検知]**ウィンドウの**[スキャン開始]**アイコンをクリックします。
 - マーク検知ゾーンの位置を定義する場所の左上にマウスカーソルを移動します。
 - マークのフレーム（ボックス、円、長円など）を含んだマーク検知領域の周囲に描画する場合、フレームの周囲に約 1/4 インチの境界線領域を残しておきます。
 - フレームを含まない（空白の領域またはラインがマークに提供されず）ゾーンをマーク検知領域の周囲に描画する場合、ゾーン内に文字、またはイメージの他の要素が存在しないことを確認します。
5. マウスの左ボタンをクリックし、マーク領域の周囲に四角形が描画されるまでカーソルをドラッグします。マウスボタンを離すと、**[マーク検知ゾーンの設定]**ダイアログボックスが表示されます。
6. **[ゾーン名]**フィールドに、新しいマーク検知ゾーンの名前を入力します。ゾーンを保存するには、名前を指定する必要があります。
7. その他の項目を設定したら、**[OK]** をクリックしてダイアログボックスを閉じ、**[マーク検知]**ウィンドウに戻ります。フィールドの説明については、「**[マーク検知ゾーンの設定]**ダイアログボックス」を参照してください。
8. **[OK]** をクリックして設定情報を保存し、**[ジョブセットアップ]**ダイアログボックスを閉じます。

マーク検知ゾーンの編集

1. [ファイル]>[ジョブセットアップ]を選択します。[ジョブセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [ジョブ名]ドロップダウンリストからジョブセットアップを選択します。
3. [スキャン]タブを開き、[バーコード、OCR、マーク検知]を選択します。[バーコード、OCR、マーク検知ゾーン]ウィンドウが表示されます。
4. 変更するマーク検知ゾーンをクリックします。
5. マウスのボタンを右クリックしてコンテキスト依存メニューを表示し、[ゾーンプロパティ]をクリックします。[マーク検知ゾーンの設定]ダイアログボックスが表示されます。
6. 設定内容を変更したら、[OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
7. [OK] をクリックして設定情報を保存し、[ジョブセットアップ]ダイアログボックスを閉じます。
8. マーク検知ゾーンを編集したら、[選択したバーコード、OCR、またはマーク検知ゾーンのテスト]機能を使用して、マーク検知ゾーンをテストします。



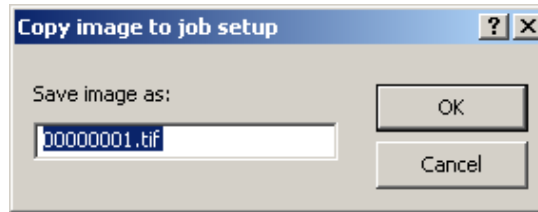
マーク検知ゾーンの削除

1. [ファイル]>[ジョブセットアップ]を選択します。[ジョブセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [ジョブ名]ドロップダウンリストからジョブセットアップを選択します。
3. [スキャン]タブを開き、[バーコード、OCR、マーク検知]を選択します。[バーコード、OCR、マーク検知ゾーン]ウィンドウが表示されます。
4. 削除するマーク検知ゾーンをクリックします。
5. [削除] をクリックします。
6. [OK] をクリックして設定情報を保存し、[ジョブセットアップ]ダイアログボックスを閉じます。

[マーク検知] ウィンドウ にイメージを転送

キャプチャプロ ソフトウェアでは、マーク検知ゾーンのあるイメージをイメージビューアから [マーク検知] ウィンドウに転送して、マーク検知ゾーンを作成できます。

1. メインウィンドウで、マークのあるイメージをスキャンします。
2. イメージビューアで、転送するイメージを選択し、右クリックします。
3. **[ジョブセットアップにイメージをコピー]** を選択します。[ジョブセットアップにイメージをコピー] ダイアログボックスが表示されます。

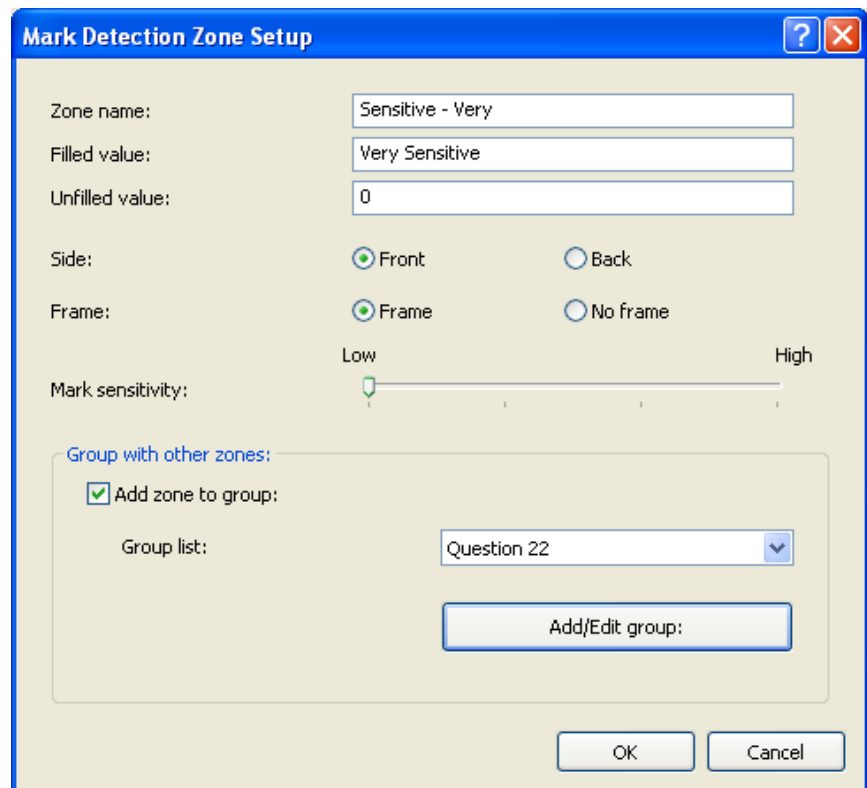


4. **[イメージに名前を付けて保存]** フィールドに新しいイメージ名を入力します。
5. **[OK]** をクリックします。これで [マーク検知] ウィンドウにイメージを表示して、マーク検知ゾーンを作成できるようになりました。

[マーク検知] ウィンドウでマーク検知イメージをスキャンすることもできます。本章の前半にある「マーク検知設定用のイメージのスキャン」を参照してください。

[マーク検知ゾーンの設定] ダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、マーク検知ゾーンに名前を付け、マークがどのように検出されるかを説明します。また、複数のゾーンをグループ化して単一の結果を生成することもできます。



ゾーン名 — 新しいマーク検知ゾーンの名前を入力します。この名前はマーク検知を識別するもので、デフォルト値のリストのインデックス設定に「MD_[ゾーン名]」として表示されます。

埋め込み済みの値 — 「埋め込み済み」が検出された場合、ゾーンはこの値を返します。値は、「1」などの単一文字や「このチェックボックスはマークされました」などの複数文字の値が可能です。また、この値は空白のままにもできます。

ゾーンがマーク検知ゾーンのグループに追加された場合、この値はゾーングループから返される値に含まれます。本項の後半にある「マーク検知ゾーングループの設定」を参照してください。

未記入の値 — 「未記入」または空欄が検出された場合、ゾーンはこの値を返します。値は、「0」の単一文字や「このチェックボックスはマークされていません」などの複数文字の値が可能です。また、この値は空白のままにもできます。

ゾーンがマーク検知ゾーンのグループに追加された場合、この値は使用されません。ゾーンのグループから返される非埋め込み値は、グループ設定で定義されます。本項の後半にある「マーク検知ゾーングループの設定」を参照してください。

面：表面または裏面 — マーク検知がイメージの表面、裏面のいずれにあるのかを選択します。

フレーム：フレームまたはフレームなし — フレームは、四角形、円、長円などが可能です。その中にマークが配置されることとなります。フレームの寸法は、各方向最低 50 ピクセルが必要で、300 dpi 解像度の場合は 4 mm (0.2 インチ) となります。

- **[フレーム]** が選択された場合、X、ティック、非実線ハッチ、縦線または横線などの形状で埋め込められます。推奨の埋め込みの形状は X またはティックです。フレーム領域内の隣接する黒い少数のピクセルは、結果としてマーク検知ゾーンの「埋め込み」値となります。
- **[フレームなし]** が選択された場合、隣接する数個の黒ピクセルのマークが、結果としてマーク検知ゾーンで「記入済み」の値となります。フォームにマーク用のフレームがあるものの、フレームに色が付いている場合は、**[フレームなし]** を選択してください。

マーク感度：低～高 — 優れた印刷による高品質のフォームの場合は、感度を [高] に設定する必要があります。[高] が選択された場合、隣接する黒い少数のピクセルのマークは、結果として「埋め込み」値となります。低品質フォームの場合、より低い感度を設定することにより、染みや可視性の紙の繊維が無視されることになり、結果として処理は成功します。

ゾーンをグループに追加 — このマーク検知ゾーンがその他のマーク検知ゾーンに関連しており、関連するゾーンのグループで単一の結果が望まれる場合、このオプションを選択します。たとえば、「好き」、「嫌い」、「どちらでもない」という 3 つのチェックボックスを示すフォームがあるとします。3 つのマーク検知ゾーン（予想される回答ごとに 1 つ）は定義されています。3 つのマーク検出ゾーンすべてでこのオプションが選択され、同じグループに追加されます。

特定ページへのマーク検知ゾーンの適用

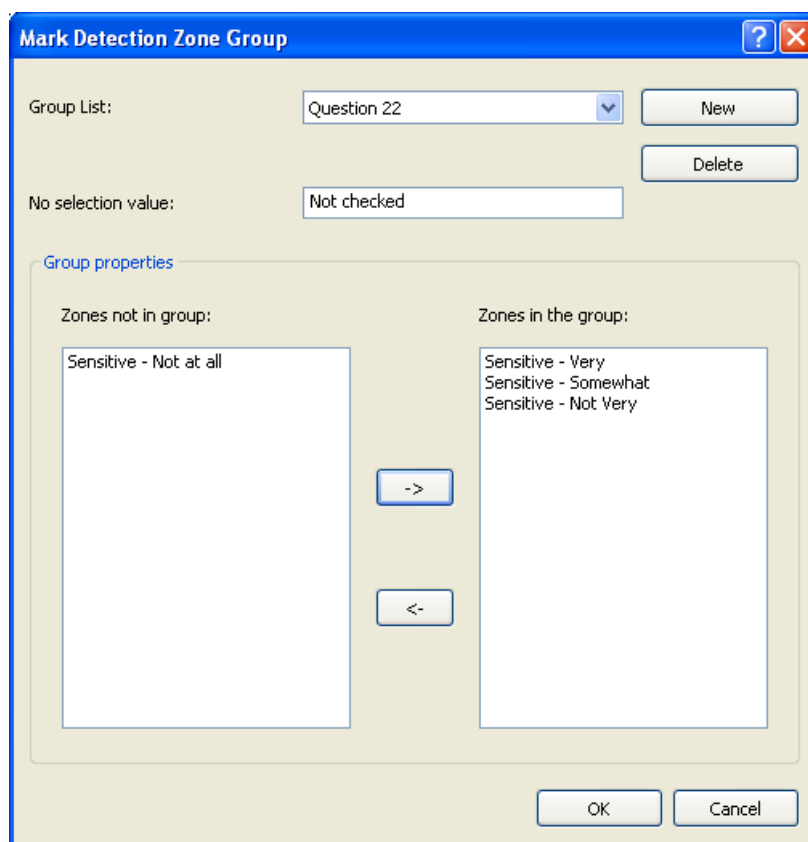
すべてのマーク検知ゾーンを適用するページの選択方法については、本章の前半にある「[ゾーンページ設定] ダイアログボックス」を参照してください。

マーク検知ゾーングループの設定

ページ上の予想される各マークについて、「マーク検知ゾーンの設定」で示されるようにマーク検知ゾーンが作成、設定されます。個々のマーク検知ゾーンは、マーク領域が「埋め込み」か「非埋め込み」かに応じて値を返します。これは簡単な「はい」、「いいえ」の質問に対して有効に機能します。複数の回答が予想されますが、1つの回答が望ましい質問の場合、マーク検知ゾーンを「グループ化」することができます。

たとえば、「飛行機で旅行するとき、座席の位置はどれがよいですか？」という質問の場合、予想される3つの回答として「通路側」、「窓側」、「気にしない」が挙げられます。3つのマーク検知ゾーン（予想される回答ごとに1つ）が作成されることとなります。3つのマーク検知ゾーンはすべて1つの新しいマーク検知グループに追加されます。この質問に対して1つのインデックスフィールドが作成され、マーク検知グループはインデックスフィールドのデフォルト値として使用されます。第2章の「ドキュメントインデックスフィールドの追加」を参照してください。

マーク検知ゾーンをグループに追加するには：



1. [**ゾーンのグループへの追加**] を選択します。既存のマーク検知グループのリストが表示されます。該当のマーク検知ゾーンを追加するグループを選択します。
 - 既存のマーク検知グループが存在しない場合、[**新しいゾーングループの作成**] ダイアログボックスが表示されます。
 - 新しいグループの名前を入力して、[**OK**] をクリックします。

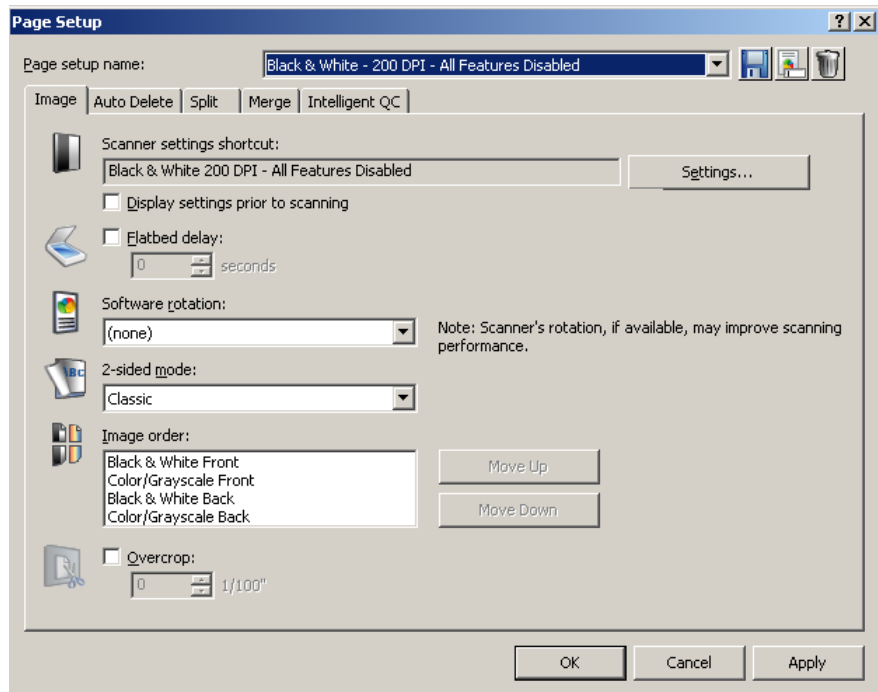
2. **[グループの追加 / 編集]** を選択します。[マーク検知ゾーングループ] ダイアログボックスが表示されます。
 - **グループリスト** — 現在のマーク検知グループの名前を示します。他のマーク検知グループを表示するにはドロップダウンリストをクリックします。
 - **選択なしの値** — グループ内のどのマーク検知ゾーンにもマークが検出されない場合、グループはこの値を返します。値は、「0」などの単一文字や「選択なし」などの複数文字の値が可能です。また、この値は空白のままにもできます。
 - **グループプロパティ** —> ボタンを使用して、グループに追加するマーク検知ゾーンを [グループ外ゾーン] リストから選択し、[グループ内ゾーン] リストに移動します。
3. <- ボタンを使用して、グループから除外するマーク検知ゾーンを、[グループ内ゾーン] リストから選択し、[グループ外ゾーン] リストに移動します。
4. **[OK]** をクリックします。

5 ページセットアップ

[ページセットアップ] ダイアログボックス




[ページセットアップ] ダイアログボックスでは、イメージスキャンパラメータの定義、イメージの自動削除、イメージの分割、イメージの結合などの設定ができます。

[ページセットアップ]にアクセスするには、[ファイル]>[ページセットアップ]をクリックします。



ページセットアップ名 — ドロップダウンリストから、既存のページセットアップを選択します。

アイコン

| | |
|---|---|
|  | 追加 : [名前を付けて保存] ダイアログボックスを表示します。ここでは、新しいページセットアップを追加できます。 |
|  | 名前の変更 : [名前の変更] ダイアログボックスを表示します。ここでは、現在選択されているページセットアップの名前を変更できます。 |
|  | 削除 : 選択したページセットアップを削除できる確認メッセージが表示されます。 |

[イメージ] タブ — スキャン後のイメージ表示方法を定義できます。

[自動削除] タブ — スキャンイメージが設定値を超えた場合、イメージを削除します。

[分割] タブ — スキャンしたイメージが一定の幅を超えた場合に、自動的に分割できます。

[結合] タブ — スキャンしたページの表面と裏面のイメージを結合して単一のイメージを作成できます。

[インテリジェント QC] タブ — イメージ処理中に適用される次のオプションを設定できます：自動方向修正、2 値化、パンチ穴除去。

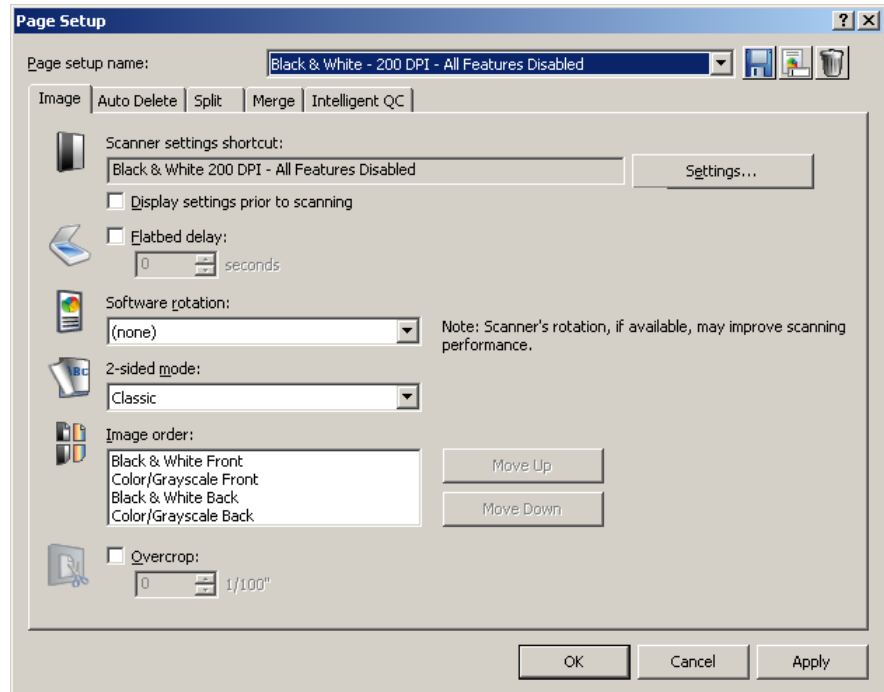
OK — 設定内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

キャンセル — 変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

適用 — ダイアログボックスを閉じることなく、ダイアログボックスの変更内容を承認します。

[イメージ] タブ

[イメージ] タブでは、スキャナーのパラメータや、出力前のイメージ処理を設定できます。



セットアップ — [セットアップ] をクリックすると、TWAIN データソースが表示され、スキャンの設定が行えます。設定に関する詳細は、ご使用のスキャナーの『ユーザズガイド』を参照してください。

スキャンする前に設定を表示する — このオプションを選択した場合、緑色の [スキャン開始] アイコンのクリック時に TWAIN データソースが表示されます。

フラットベッドのスキャン間隔 — 次の原稿をフラットベッドにセットできるように、スキャンの間に待機する時間を設定します。ドロップダウンリストから待機時間を選択してください。

ソフトウェアによる回転 — スキャン後にイメージを自動回転します。[なし]、[90]、[180]、[270] 度を選択します。別の設定を選択すると、回転後のイメージの状態を示すアイコンが表示されます。

注記： TWAIN データソースでこの回転を設定すると、[イメージ] タブで [ソフトウェアの回転] を使用するよりもスキャンのパフォーマンスが向上する場合があります。

両面モード — ドロップダウンリストから [クラシック] または [カレンダー] モードを選択します。選択内容に応じたアイコンが表示されます。オリジナルイメージとアイコンを比較して、クラシックレイアウトかカレンダーレイアウトかを確認できます。

- **クラシック**：一般的に複数ページのレポートに使用されます。**両面モード**は、裏面イメージに対応した表面イメージの回転方法に影響します。ドキュメント全体の回転 (0 度 °、90 度 °、180 度 °、270 度 °) は設定されません。

クラシックの使用時、**両面モード**では、表面と裏面のイメージが以下のように対応します。

0 度 ° 回転した表面は、裏面では 0 度 ° 回転。
180 度 ° 回転した表面は、裏面では 180 度 ° 回転。
90 度 ° 回転した表面は、裏面では 270 度 ° 回転。
270 度 ° 回転した表面は、裏面では 90 度 ° 回転。

- **カレンダー**： プレゼンテーション配布資料、財務報告書、壁掛けカレンダーなどで通常使用します。**両面モード**オプションは、裏面イメージに対応した表面イメージの回転方法にのみ影響します。ドキュメント全体の回転 (0 度 °、90 度 °、180 度 °、270 度 °) は設定されません。

- **カレンダー**の使用時、**両面モード**では、表面と裏面のイメージが以下のように対応します。

0 度 ° 回転した表面は、裏面では 180 度 ° 回転。
180 度 ° 回転した表面は、裏面では 0 度 ° 回転。
90 度 ° 回転した表面は、裏面では 90 度 ° 回転。
270 度 ° 回転した表面は、裏面では 270 度 ° 回転。

イメージの順番 — イメージを選択し、ボックスに表示するイメージの順序を [上に移動] または [下に移動] から選択します。

オーバークロップ — このチェックボックスを有効にすると、イメージのすべての端を、1/100 インチ単位で切り取れます。

OK — 設定内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

キャンセル — 変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

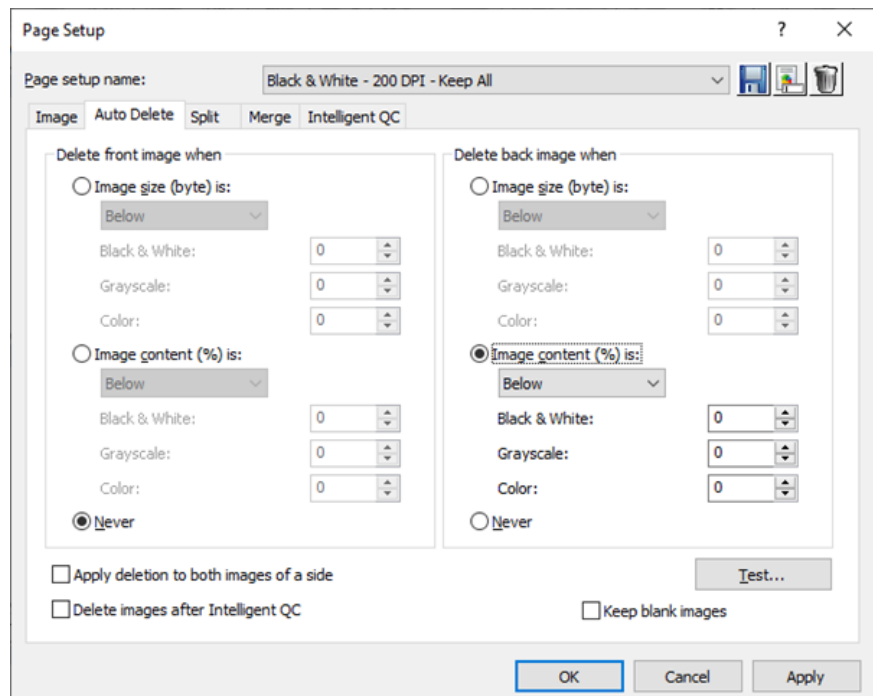
適用 — ダイアログボックスを閉じることなく、ダイアログボックスの変更内容を承認します。

[自動削除] タブ

[自動削除] タブでは、イメージを自動的に削除するオプションを設定できます。内容のないイメージや、非常に込み入ったページ（申込用紙裏面の細かい約款など）を自動的に削除できます。自動削除設定は、表面と裏面がそれぞれ独立して指定されます。

カラー、グレースケールおよび / または白黒のイメージタイプを同時にスキャンする場合、自動削除設定も独立して設定されます。したがって、選択したイメージの種類のみを削除することを選択できます。

自動削除を使用する場合は、[テスト] オプションを使用して、削除の対象になる典型的なドキュメントをスキャンすることをお勧めします。[テスト] オプションの結果により、[イメージのサイズ (バイト)] オプションまたは [イメージの内容 (%)] オプションのいずれかを使用して自動削除を設定する必要があるかが判断できます。詳細については、「設定のテスト」を参照してください。



- **イメージが次のサイズ (バイト) 以上** — 説明的で込み入った内容を多く含むページを削除する場合は、このオプションを選択します。たとえば、表面 / 裏面ページに似たような内容（保険の書類など）の原稿で、表面の内容は保存する必要があり、裏面の内容は要求の申立て方法が記載されている（保存の必要はない）ような原稿をスキャンする場合、バイト数を指定し、イメージファイルがその値を超える場合は削除させるように値を入力します。この値を超えるイメージは、すべて大き過ぎるとみなされ、削除されます。
- **イメージが次のサイズ (バイト) 未満** — 内容がない、または内容が少ないページを削除する場合は、このオプションを選択します。イメージファイルの容量を入力します。この値を下回るイメージは、すべて空白とみなされ、削除されます。

- **イメージの内容 (%) が次のサイズ以上** — 大き過ぎると判断する値をパーセントで指定する以外は、**イメージが次のサイズ (バイト) 以上** オプションと似ています。この値を超えるイメージは、すべて削除されます。
- **イメージの内容 (%) が次のサイズ未満** — このオプションは、キャプチャソフトウェアがページの内容を空白または非常に少ないとみなす値をパーセントで指定する以外は、**イメージが次のサイズ (バイト) 未満** オプションと似ています。この値を下回るイメージは、すべて空白とみなされ、削除されます。白紙ページがある場合は、この設定を使用します。

注記：

- **[イメージのサイズ (バイト)]** オプションを選択すると、解像度、圧縮率などの別の要素がイメージのサイズに影響を与えます。
- **[イメージの内容 (%)]** オプションでは、イメージに含まれる情報の割合のみで判断されるので、イメージのサイズ、解像度、圧縮率などが変化する場合、より一貫性があり、確度が高いオプションです。

無効 — ソフトウェアによってイメージが自動的に削除されないようにするには、**[無効]** をクリックします。

読み取り面の白黒とカラーの白紙イメージを削除 — 白黒イメージとカラー/グレイイメージの両方を削除します。

インテリジェント QC 後のイメージを削除 — イメージを削除する前に、選択したインテリジェント QC イメージ処理機能をイメージで実行する場合に、このオプションを選択します。たとえば、カラーイメージを削除する前にカラーイメージからグレースケールイメージを作成することができます。

テスト — **[テストイメージ]** ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスでは、サンプル画像をスキャンして、設定を確認できます。

OK — 設定内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

キャンセル — 変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

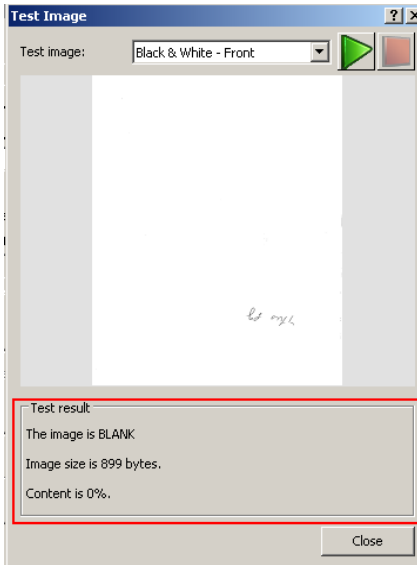
適用 — ダイアログボックスを閉じることなく、ダイアログボックスの変更内容を承認します。

白紙イメージをキープする — このオプションを有効 (チェック) にすると、白紙イメージは削除されずにハイライト表示されます。

設定のテスト

[イメージのテスト] ダイアログボックスを使用して、削除設定にイメージが一致するかどうかをテストします。削除対象のイメージが削除され、保存対象のイメージが保存されることを確認するために、設定をテストすることを強く推奨します。

1. [自動削除] タブの [テスト] をクリックして、[イメージのテスト] ダイアログボックスを表示します。



2. 自動削除用にテストする原稿の一部をスキャナーにセットします。
3. 原稿をスキャンしたら、ドロップダウンリストから [白黒表面]、[白黒裏面]、[カラー表面]、[カラー裏面] を選択します。

注記：ドロップダウンリストに表示されるオプションは、ページセットアップの設定に依存します。

4. [スキャン開始] アイコンをクリックします。結果が [テスト結果] ボックスに表示されます。
 - このイメージは：イメージが白紙か白紙なしかを示します。
 - イメージが次のサイズ (バイト)：テストイメージのサイズをバイトで示します。
 - イメージの内容が次の (%)：テストイメージのコンテンツの割合 (パーセンテージ) です。

5. [イメージサイズ (バイト)]、[コンテンツは - %] のテスト結果ボックスに表示された値を評価します。

注記：[テスト結果] ボックスに表示された値に基づき、入力した値を再度調整します。たとえば、白紙イメージの代表的なイメージバイトサイズが 799 バイトで、一般的な白紙イメージが 900 バイトの場合、[自動削除] タブの [イメージサイズ (バイト)] フィールドには 850 バイトの値を入力するとよいでしょう。

6. [OK] をクリックします。

注記：テストイメージスキャン中は、[分割] と [結合] のオプションは無視されます。

イメージの分割

イメージの分割は、フォームの処理に利用できます。折りたたまれたフォームをスキャンする場合は、フォームの登録や検証の精度を向上させるために複数の小さなイメージに分割することが必要になることがあります。キャプチャプロソフトウェアは、イメージの分割とソートを行って、イメージのデータを正しい順番で出力します。

分割は、1/100 インチ単位で最小～最大幅の間に適合するページにのみ実行されます。分割処理は垂直分割で、ページは左、中央、および右部分に均等に分割されます（3つに分割の場合）。分割はイメージ回転後に行われます。スキャナーの搬送部よりも幅が広い場合横向きではスキャンできない大きなフォームの場合、イメージ回転が必要になります。

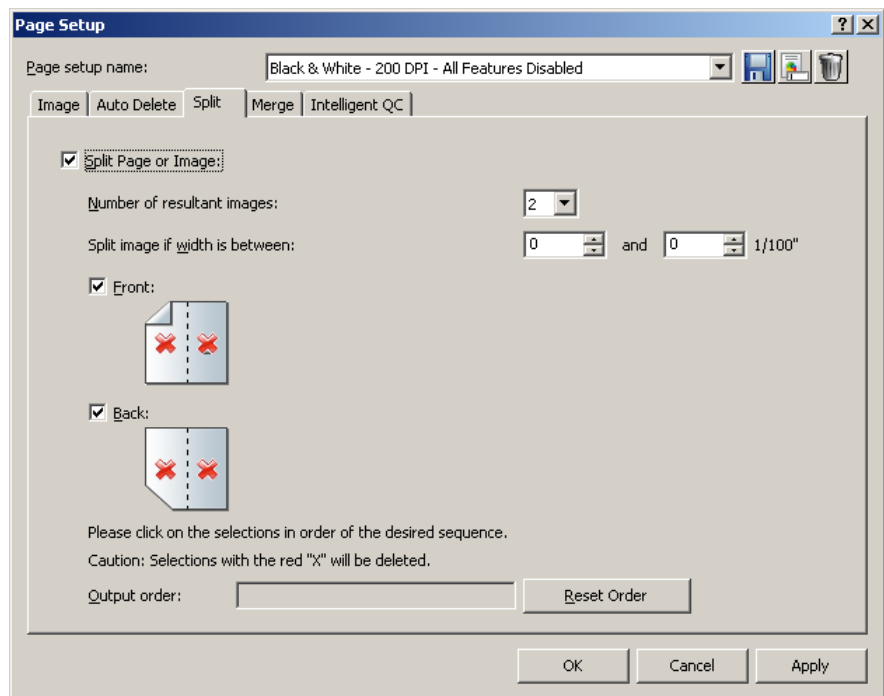
ドキュメントのスキャン方法に応じて、[ページセットアップ] ダイアログボックスの [イメージ] タブで [ソフトウェア回転] オプションを設定します。

分割後は、奇数番号のイメージが表面イメージ、偶数番号のイメージが裏面イメージとみなされます。キャプチャプロソフトウェアは結合 / 分割処理後すぐに結果を表示するため、ページ設定をテストして必要に応じて変更できます。

片面イメージをスキャンする場合（または、フラットベッドでスキャンする場合）は、表面画像だけが分割されます。

イメージの分割

スキャン時にイメージを分割するには：



1. [ページまたはイメージを分割] チェックボックスをクリックします。

注記： 結合オプションと分割オプションの両方を同時に選択できません。[結合] オプションを無効にするには、[結合] タブを開き、[表面と裏面を単一イメージに結合] チェックボックスの選択を解除します。

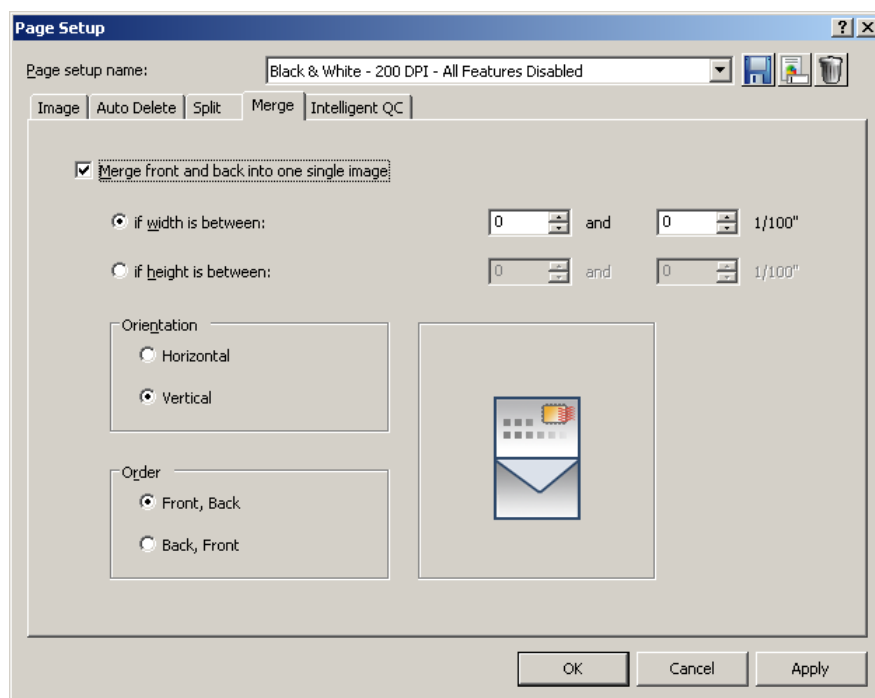
2. [分割イメージ数] ドロップダウンリストから、2～12枚のイメージを選択します。

3. **[幅が次の範囲内の場合にイメージ分割]** フィールドから、ページまたはイメージの幅の範囲を選択します。ページの幅が指定範囲内の場合、分割されます。表面または裏面のいずれかが範囲外の場合は、両面とも分割されません。
4. **[表面]** または **[裏面]**（あるいはその両方）を選択し、分割を有効にします。選択内容を表す図が表示されます。たとえば、両方のチェックボックスを選択した場合、赤い「X」があるアイコンが各ページに表示されます。
 イメージを出力する順番に合わせて、各イメージセグメントをクリックします。イメージセグメントをクリックしていくと、赤い「X」が消えます。
 赤い「X」が残っているイメージセグメントは削除され、出力されません。このオプションは、最後のページが必ず白紙になるパンフレットなどの場合に役立ちます。
 注記：片面スキャナーを使用している場合、**表面と裏面の両方**を選択すると分割されません。分割させるには、**表面のみ**を選択します。
5. 必要に応じて、**[順序のリセット]** をクリックし、出力順を削除し、最初からやり直します。
6. **[OK]** をクリックして設定情報を保存し、**[ページセットアップ]** ダイアログボックスを閉じます。

[結合] タブ

スキャン時に両面イメージを結合するには：

1. **[表面と裏面を1イメージに結合]** チェックボックスをクリックします。



注記：結合オプションと分割オプションの両方を同時に選択できません。分割オプションを無効にするには、**[分割]** タブを開き、**[ページまたはイメージを分割]** チェックボックスの選択を解除します。

2. **[幅が次の範囲内の場合]** または **[高さが次の範囲内の場合]** フィールドで、結合される表面と裏面のイメージに対するイメージの最大の幅か高さを1/100インチ単位で設定します。これらのパラメータに適合するイメージのみが結合されます。他のイメージは結合されません。

3. 結合するイメージの方向を [横] または [縦] で選択します。
4. [表面、裏面] または [裏面、表面] をクリックし、結合する表面と裏面の順序を選択します。
5. [OK] をクリックして設定情報を保存し、[ページセットアップ] ダイアログボックスを閉じます。

インテリジェント QC タブ

[ページセットアップ] ダイアログの [インテリジェント QC] タブを使用すると、スキャン中に実行する以下のイメージ処理機能を設定できます。

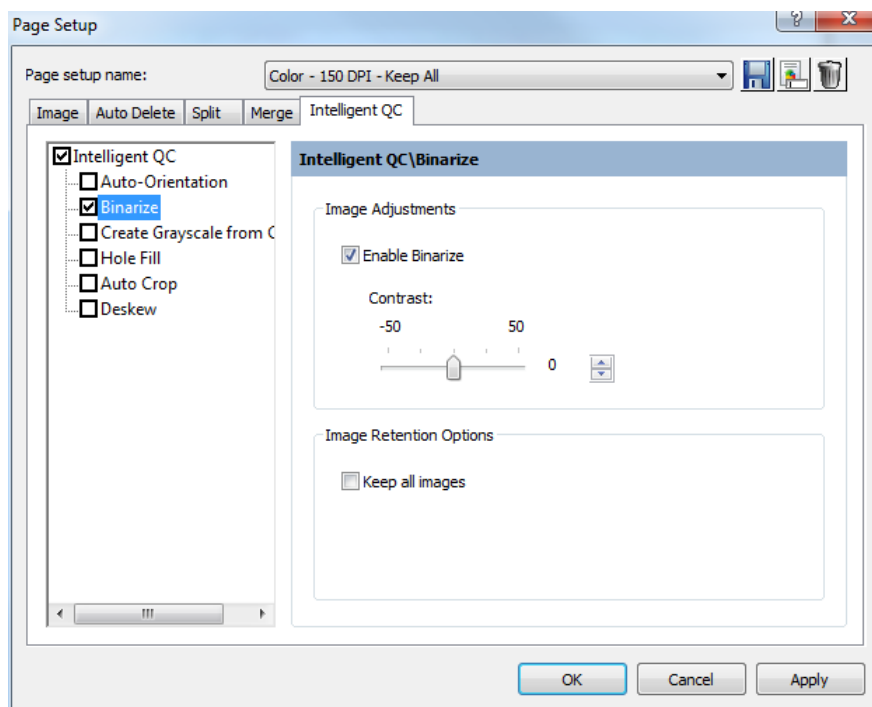
- 自動方向修正
- 2 値化
- カラーからグレースケールを作成
- パンチ穴除去
- 自動クロッピング
- 傾き修正

自動方向修正

自動方向修正は、原稿の内容を解析し、スキャンイメージが正像になるように回転します。ページの表面の方向修正をする [表面の方向修正]、または裏面の方向修正をする [裏面の方向修正] を選択できます。

2 値化

2値化は、カラーイメージまたはグレイイメージを白黒イメージに変換します。スキャナーが、カラーまたはグレイでスキャンするように設定する必要があります。スキャン中、イメージが白黒に変換され、ノイズがチェックされます。過度のノイズが検出された場合、イメージにフラグが設定され、スキャン後に目的のイメージの画質をさらに向上させることができます。



画像調整

- **2 値化** — [コントラスト] を調整するには、このオプションを選択します。
 - **コントラスト**: 各イメージのコントラストを設定します。原稿のセットに、文字のかすれや色の付いた背景／暗い背景を持つイメージが含まれている場合、コントラストを上げることをお勧めします。

原稿が薄紙で、裏面の内容が表面に透けて見える場合、コントラストを下げることでより良い結果が得られる可能性があります。多くの場合、コントラストを0に設定すると最良な結果が得られます。

イメージ維持オプション

- **すべてのイメージを維持** – デフォルトでは、フラグの付いたカラーまたはグレースケールイメージだけが白黒イメージとともにバッチ内に残り、スキャン後にこれらのイメージのみを変更できます。フラグが設定されているかどうかにかかわらず、スキャナーから送信されたすべてのイメージを修正できるようにカラーイメージやグレイイメージをすべて保存するには、このボックスを選択します。

注記：

- **[しきい値 - インテリジェント QC]** を有効にした状態で、Kodak のスキャナー または Alaris のスキャナーを使用する場合、ノイズが多すぎるとスキャナーで判断されたイメージに対してのみ、グレースケール イメージを利用できます。
- **[すべてのイメージを保持]** を選択して自動削除を使用すると、自動削除の処理が優先されます。
- 出力後、カラーイメージまたはグレースケールイメージを保持しない場合は、ジョブセットアップの [出力] タブで **[白黒]** チェックボックスのみを選択します。

カラーからグレースケールを作成

[カラーからグレースケールを作成] は、スキャナーから送信されるカラーイメージごとにグレースケールイメージを作成します。カラーおよびグレースケールイメージはバッチに追加されます。必要な設定はありません。

パンチ穴除去

パンチ穴除去は、原稿端の近くにある丸形や長方形の穴を埋めます。

スキャナーの背景は黒にする必要があります。ページの表面のパンチ穴除去 **[表面のパンチ穴除去]**、またはページの裏面のパンチ穴除去 **[裏面のパンチ穴除去]** を選択できます。

自動クロッピング

自動クロッピングでは、スキャンしたイメージをクロップして、イメージの末尾に現れる場合がある背景の枠を消去します。可能な場合は、スキャナーの自動クロッピング機能を使用することをお勧めします。必要な設定はありません。

傾き修正

傾き修正では、イメージのわずかな回転や傾きを修正します。選択した場合、自動クロッピングは自動的に選択されます。必要な設定はありません。

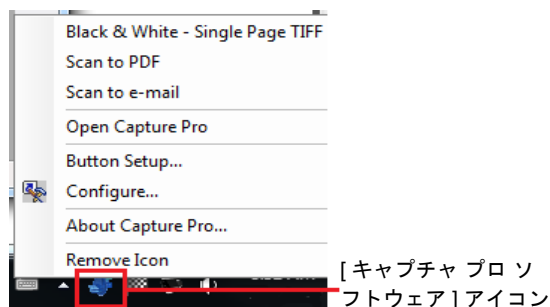
6 便利なショートカット機能

ボタン マネージャ

スキャンのショートカットを作成すると、各ショートカット名をスキャナーボタンの特定の番号に割り当てることができます(スキャナーにボタンがある場合)。最大 9 個のボタンを割り当てることができます。番号を割り当てると、コントロールパネルのスタートボタンで簡単にスキャンオプションにアクセスして使用できます。

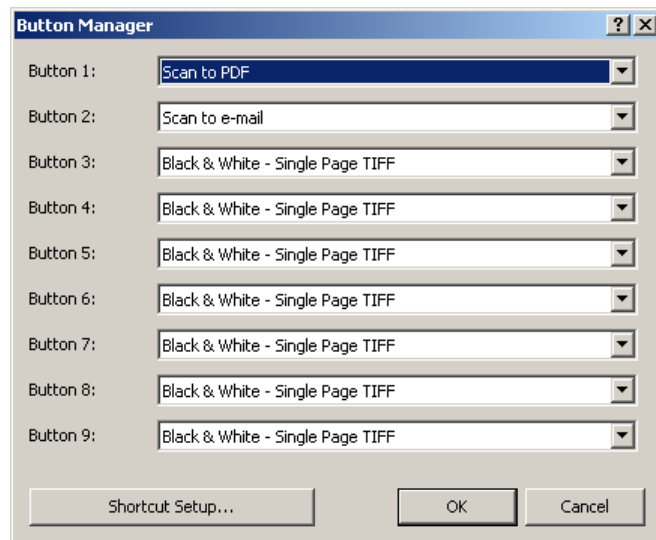
[ボタンマネージャ] ダイアログボックスにアクセスするには：

1. システム トレイ内のキャプチャプロ ソフトウェアのアイコンを右クリックし、[ボタンのセットアップ] をクリックします。



[ボタンマネージャ] ダイアログボックスが表示されます。

2. ドロップダウンリストのボタン 1 から 9 に対して、スキャナーに実行させるアクションを割り当てます。デフォルトは、アクションなしです。



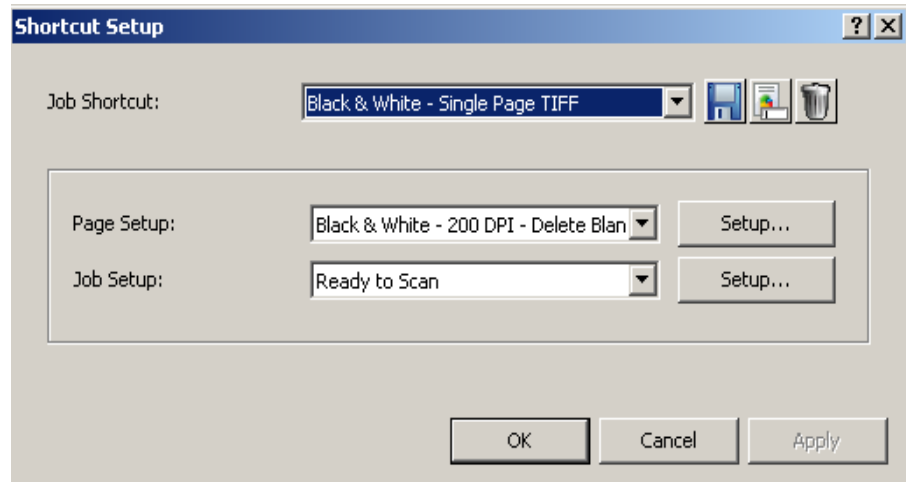
3. [ショートカットセットアップ] をクリックすると、[ショートカットセットアップ] ダイアログボックスが表示されます。ここでは、ジョブのショートカット名、ページセットアップ、ジョブセットアップを割り当てることができます。
4. [OK] をクリックします。

注記： ボタンマネージャに問題が発生した場合、第9章「トラブルシューティング」の「よくあるご質問 (FAQ)」を参照してください。

[ショートカットセットアップ] ダイアログボックス

[ボタンマネージャ] ダイアログボックスから [ショートカットセットアップ] を選択すると、[ショートカットセットアップ] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは新しいジョブのショートカット作成や、現在選択しているジョブショートカット名の変更や削除ができます。また、関連付けられているページやジョブセットアップの選択、変更ができます。

注記： ボタンマネージャでは、スキャナーのボタンにショートカットを割り当てることはできません。



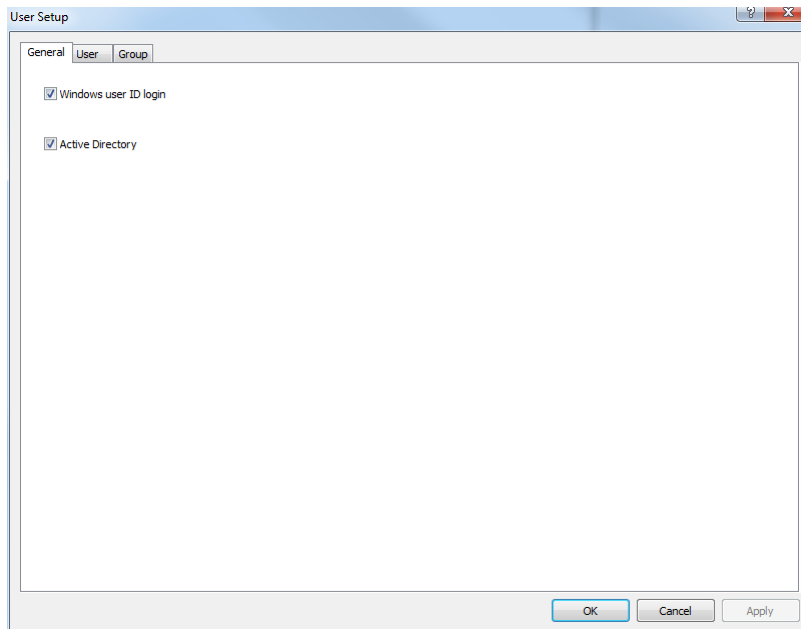
1. ドロップダウンリストから該当するジョブショートカット名を選択します。アイコンを使用して、ジョブショートカットの追加、名前変更、削除ができます。
 - **追加**：新しいジョブショートカットを追加できます。
 - **名前の変更**：現在選択されているジョブショートカットの名前を変更できます。
 - **削除**：選択したジョブショートカットを削除できる確認メッセージが表示されます。
2. 必要に応じて、[ページセットアップ] ドロップダウンリストからページセットアップを選択するか、[セットアップ] をクリックして [ページセットアップ] ダイアログボックスを表示し、新しいページセットアップを作成します。
3. 必要に応じて、[ジョブセットアップ] ドロップダウンリストからジョブセットアップを選択するか、[セットアップ] をクリックして [ジョブセットアップ] ダイアログボックスを表示し、新しいジョブセットアップを作成します。
4. [OK] をクリックします。

7 ユーザとグループのセットアップ

[ユーザセットアップ] ダイアログボックス

[ユーザセットアップ] ダイアログボックスでは、キャプチャプロソフトウェアのユーザを設定、管理できます。ユーザセットアップ機能は、キャプチャプロソフトウェアの管理者権限を持つユーザのみが設定できます。

[ユーザセットアップ] を開くには、[ファイル] > [ユーザセットアップ] を選択します。[ユーザセットアップ] ダイアログボックスが表示されます。



[ユーザセットアップ] ダイアログボックスには、次の 3 つのタブがあります。[一般]、[ユーザ]、[グループ]。

[一般] タブ

[一般] タブでは、[Windows ユーザ ID ログイン] チェックボックスを選択することで、ユーザのログイン機能をバイパスできます。

Active Directory サーバーでユーザ認証を行いたい場合は、**Active Directory** チェックボックスをクリックしてください。

Active Directory を使用してユーザとグループをセットアップ

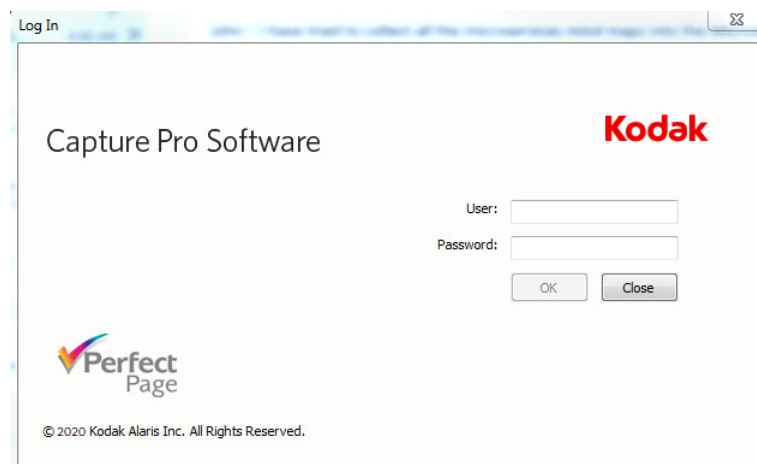
Active Directory にチェックを入れて新規ユーザがログインすると、キャプチャプロソフトウェアはそのユーザがメンバーになっている各 Active Directory グループを確認して、一致するキャプチャプロソフトウェアグループを見つけます。新規ユーザは、ユーザの Active Directory グループに一致する最初のキャプチャプロソフトウェアグループに追加されます。

一致するグループが見つからない場合でも、新規ユーザはキャプチャプロソフトウェアに追加され、ユーザの Active Directory グループの 1 つを基にした新しいグループがキャプチャプロソフトウェアに作成されます。デフォルトでは、新しいグループにはキャプチャプロソフトウェアの許可またはジョブがありません。ユーザ設定を変更することを許可されているキャプチャプロソフトウェアユーザが、ユーザ設定にアクセスして新しいグループの許可とジョブを割り当てるか、または新規ユーザを既存のキャプチャプロソフトウェアグループに割り当てる必要があります。

新規ユーザが Active Directory グループのメンバーではない場合、ユーザは初めてログインするときに、少なくとも 1 つのグループのメンバーである必要があることを伝える警告メッセージを受け取ります。

ユーザが初めてログインする前に、キャプチャプロ ソフトウェア システム管理者 (sysadmin) が、適切なグループをキャプチャプロ ソフトウェアに追加することをお勧めします。キャプチャプロ ソフトウェアに入力されるグループ名は、Active Directory で定義されたグループ名と一致する必要があります。

ユーザがキャプチャプロ ソフトウェアにログインするときは、ユーザ名にドメインを含む必要があります。例：domain\UserID

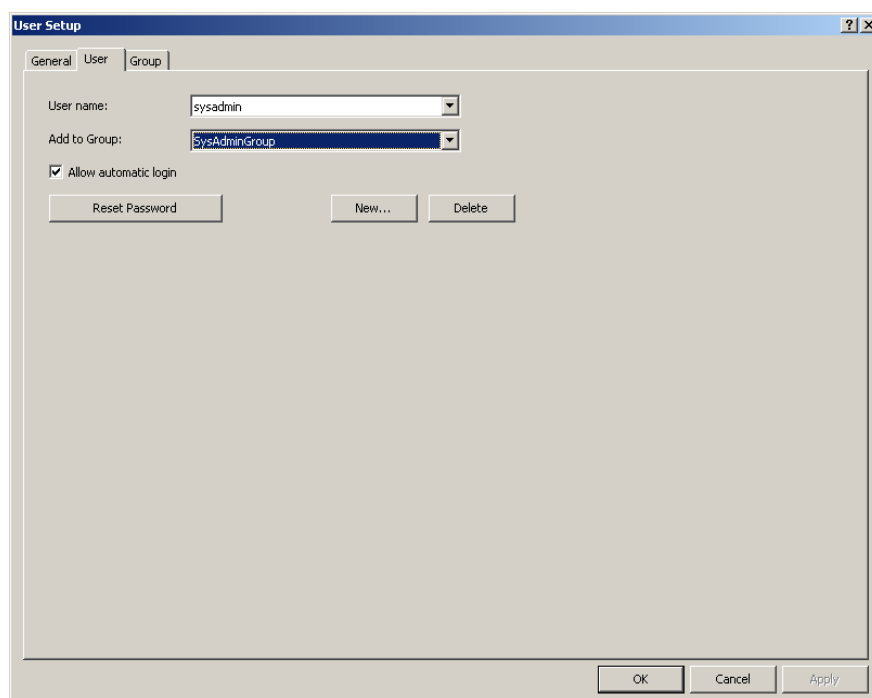


[ユーザ] タブ

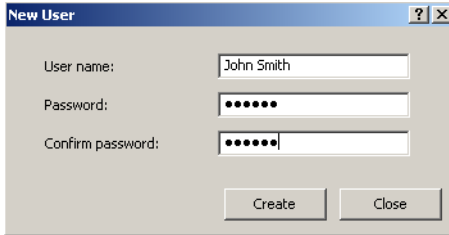
キャプチャプロ ソフトウェアでユーザとユーザグループを設定して、特定のジョブや機能の使用を限定することができます。

新規ユーザの追加

1. [ファイル]>[ユーザセットアップ] を選択します。
2. [ユーザ] タブを開きます。



3. **[新規]** をクリックします。**[新規ユーザ]** ダイアログボックス が表示されます。



4. ユーザ名を **[ユーザ名]** フィールドに入力します。
5. このユーザのパスワードを **[パスワード]** フィールドに入力します。
6. **[パスワードの確認]** フィールドにパスワードを再度入力して、**[作成]** をクリックします。このユーザが自動的にリストに追加されます。

注記： ユーザは **[ファイル]** > **[パスワードの変更]** を選択して、パスワードを変更できます。

ユーザのグループへの追加

1. **[ファイル]** > **[ユーザセットアップ]** を選択し、**[ユーザ]** タブを開きます。**[ユーザセットアップ]** ダイアログボックスが表示されます。
2. **[ユーザ名]** ドロップダウンリストからユーザ名を選択します。
3. **[グループに追加]** ドロップダウンリストからグループ名を選択します。
4. キャプチャプロ ソフトウェアのログイン機能をバイパスし、キャプチャプロ ソフトウェアが起動した際にユーザに自動的にログインさせる場合、**[自動ログインを許可]** を選択します。

注記： 別のユーザでログインする場合は、**[ファイル]** > **[ログアウト]** を選択し、新しいユーザでログインします。

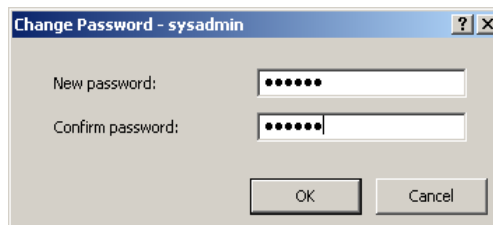
5. **[OK]** をクリックします。

ユーザの削除

1. **[ファイル]** > **[ユーザセットアップ]** を選択し、**[ユーザ]** タブを開きます。**[ユーザセットアップ]** ダイアログボックスが表示されます。
2. 削除するユーザを、**[ユーザ名]** ドロップダウンリストから選択します。
3. **[削除]** をクリックします。確認ボックスが表示されます。
4. **[はい]** をクリックして、削除を確認します。
5. **[OK]** をクリックします。

パスワードのリセット

1. **[ファイル]** > **[ユーザセットアップ]** を選択し、**[ユーザ]** タブを開きます。**[ユーザセットアップ]** ダイアログボックスが表示されます。
2. パスワードをリセットするユーザを、ドロップダウンリストから選択します。
3. **[パスワードのリセット]** をクリックします。**[パスワードの変更 - sysadmin]** ダイアログボックスが表示されます。



4. [新しいパスワード]フィールドに新しいパスワードを入力します。
5. [パスワードの確認]フィールドにパスワードを再度入力します。
6. [OK] をクリックします。

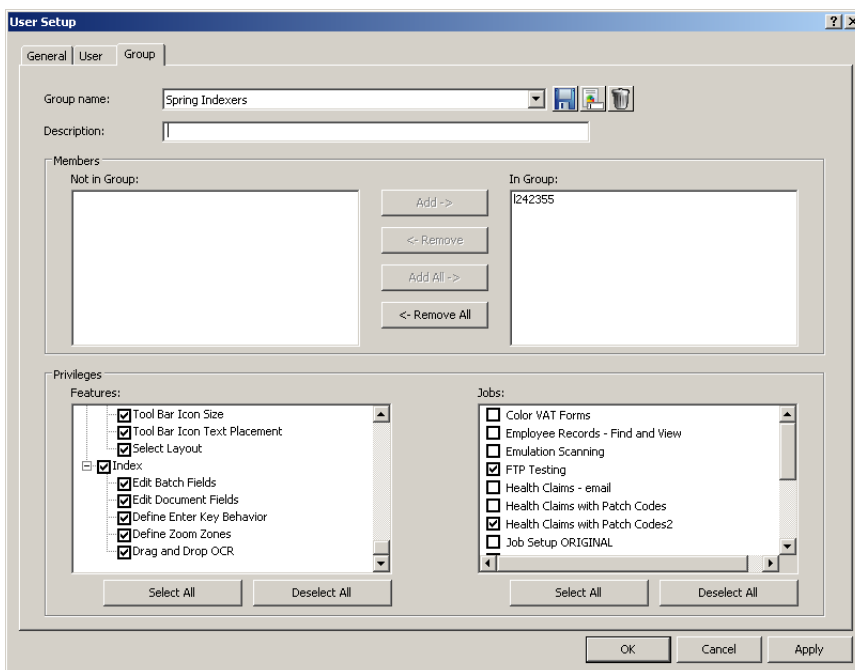
注記： ユーザは [ファイル] > [パスワードの変更] を選択して、パスワードを変更できます。

[グループ] タブ

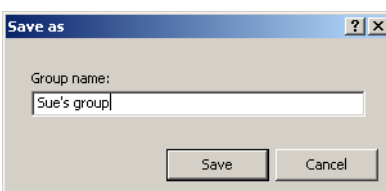
[グループ] タブを使用して、ユーザグループの追加や削除、ジョブ権限の追加や削除ができます。

ユーザグループの設定

1. [ファイル] > [ユーザセットアップ] を選択して、[グループ] タブを開きます。[ユーザセットアップ] ダイアログボックスの [グループ] タブが表示されます。



2. [追加] アイコンをクリックします。[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。



3. 新しいグループ名を入力して、[OK] をクリックします。[グループ名] ドロップダウンリストに新しいグループ名が表示されます。[説明] フィールドにグループに関する説明を追加することもできます。

注記： 新しいグループを作成する場合、まずグループを作成してから [ユーザ] タブに移動して、グループのメンバーを追加してください。

4. [メンバー] ボックス内の [追加]、[削除]、[すべてを追加]、[すべてを削除] ボタンを使用して、ユーザを選択したグループに追加したり、グループから削除したりします。[メンバー] ボックスには、グループに追加可能なすべてのユーザが表示されています。新しいグループの作成時は、[グループ外] フィールドと [グループ内] フィールドは空白です。

5. **[権限]**の**[機能]**で、このグループのメンバーに利用させるキャプチャプロソフトウェアの機能、ツールバー、メニューを選択します。**[すべて選択]**や**[すべて選択解除]**を使ってすべてを一度に変更できます。デフォルトでは、すべてのソフトウェア機能とジョブが選択されています。
6. **[権限]**の**[ジョブ]**で、このグループのメンバーが使用するジョブを選択します。**[すべて選択]**や**[すべて選択解除]**を使ってすべてを一度に変更できます。
7. **[OK]**をクリックします。

グループの削除

1. **[ファイル]**>**[ユーザセットアップ]**を選択して、**[グループ]**タブを開きます。**[ユーザセットアップ]**ダイアログボックスの**[グループ]**タブが表示されます。
2. 削除するグループを、**[グループ名]**ドロップダウンリストから選択します。
3. **[削除]**アイコンをクリックします。確認ボックスが表示されます。**[はい]**をクリックすると、グループが削除されます。

注記： グループを削除すると、そのグループ内のユーザがグループから削除され、**[メンバー]**ボックスの**[グループ外]**リストに戻されます。

グループ名の変更

1. **[ファイル]**>**[ユーザセットアップ]**を選択して、**[グループ]**タブを開きます。**[ユーザセットアップ]**ダイアログボックスの**[グループ]**タブが表示されます。
2. 名前を変更するグループを、**[グループ名]**ドロップダウンリストから選択します。
3. **[名前の変更]**アイコンをクリックします。**[名前の変更]**ダイアログボックスが表示されます。
4. 新しいグループ名を入力して、**[OK]**をクリックします。

8 自動インポート

概要

自動インポートはスキャナーを使用したり、手動でファイルを指定しなくても、監視フォルダと呼ばれる指定ディレクトリを利用して、キャプチャプロソフトウェアにイメージをインポートすることが出来ます。これは、「監視フォルダ」と呼ばれる特別なディレクトリを監視することで実施されます。インポートされるファイルは、監視フォルダ内のサブフォルダで、**自動インポート**、または **AI バッチフォルダ**と呼ばれるサブフォルダにコピーされます。自動インポートを使用すると、まるでスキャナーを接続したかの様にキャプチャプロソフトウェアのワークステーションにイメージを取り込むことが出来ます。

ファイルを自動インポートするには、監視フォルダ内に AI バッチフォルダを作成します。AI バッチフォルダ (自動インポート バッチ フォルダ) は、自動インポートの設定時に指定された監視フォルダの中に自動的に作成されます。新規 AI バッチが作成されると、カウントダウンタイマーが開始します。ユーザは AI バッチフォルダにファイル (ネスト化されたサブフォルダに含まれている可能性がある) をコピーします。AI バッチフォルダに新規ファイルやフォルダがコピーされる毎にカウントダウンタイマーが初期値にリセットされ、再度カウントダウンが開始されます。タイマーの期限が過ぎると、AI バッチフォルダがロックされ、自動インポートのキャプチャキューの最後に追加され、処理されます。詳細については、「自動インポート処理」を参照してください。

AI バッチフォルダを作成できない MFP (多機能プリンタ) タイプのデバイスの場合、イメージファイルが監視フォルダに直接コピーされる場合があります。

自動インポート用にバッチ分割方法を設定すると、新規 AI バッチ毎にキャプチャプロソフトウェアの新規バッチを作成します。また、各ジョブセットアップとページセットアップの設定ルールに則って、インポート処理を実行します。各 AI バッチは現在処理中のバッチが確実に完了してから次の処理に進みます。

次のイメージファイル形式がサポートされています : tiff、jpg、pdf、bmp、ioca、modca、gif、cmp、png。

自動インポートセットアップ

1. [スキャン]メニューから[自動インポートセットアップ]を選択します。
[自動インポートセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。

注記： このダイアログボックスにおける設定は、指定した自動インポートの場所（監視フォルダ）に作成されたすべてのAIバッチに適用されます。

The screenshot shows the 'Auto Import Setup' dialog box with the following settings:

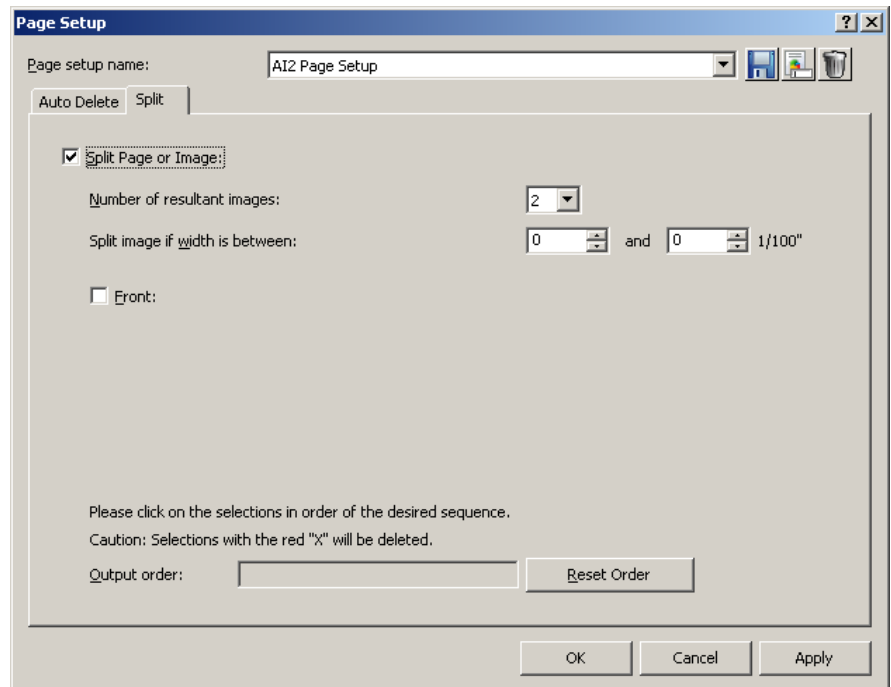
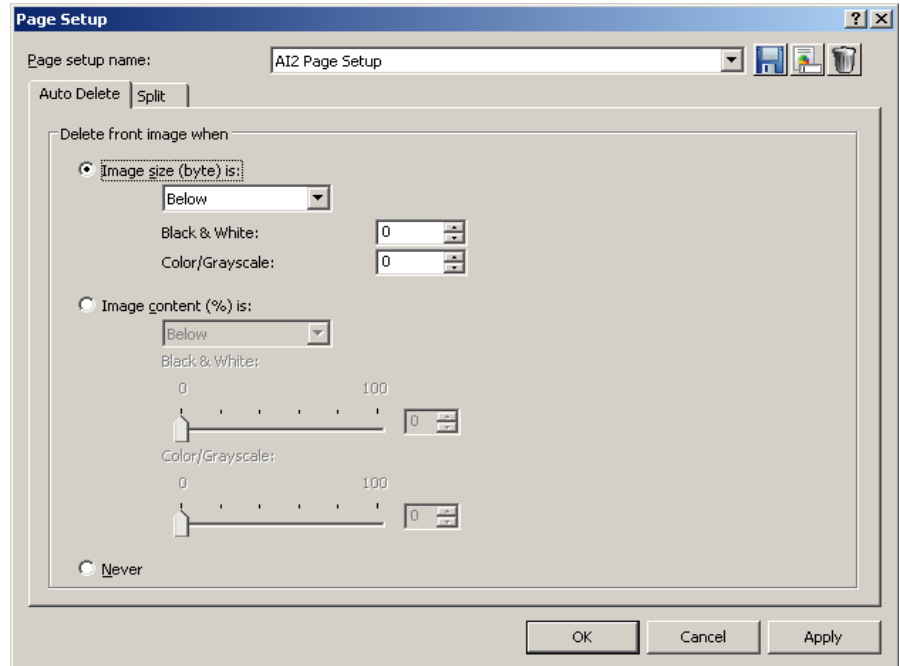
- Start Auto Import when application is launched (Auto Import must be the selected source)
- Auto import name: Upload
- Settings:
 - Auto import location: C:\AutoImport\Hot Folder
 - Auto import timeout: 60 seconds
 - Job setup for auto import: Ready to Scan
 - Page setup for auto import: Delete Blanks
- Archive:
 - Backup the files to: C:\AutoImport\Backup Files
- Error Handling:
 - Maximum import error: 1
 - Cache the error files and data to: C:\AutoImport\Error Cache

2. [アプリケーションの起動時に自動インポートを開始]を選択すると、キャプチャプロの起動時に自動インポートの監視フォルダの監視を自動で開始します。
3. 自動インポートの設定に名前を入力します。参照しやすい名称にすると良いでしょう。フォルダ名や特定の場所を指すものではありません。
4. この自動インポートの設定に関連付けられた自動インポートの監視フォルダの場所を選択します。自動インポートでは、このフォルダ内に新しいAIバッチフォルダが作成されるのを監視し、タイムアウト期間が過ぎた後に、AIバッチを処理します（詳細については、「自動インポート処理」を参照してください）。

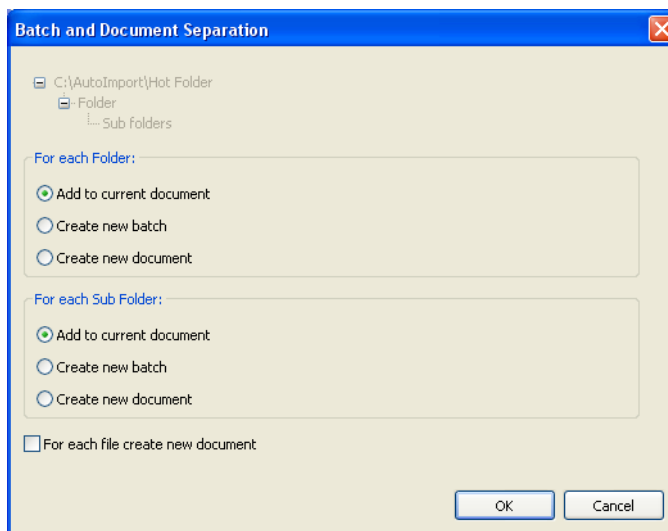
監視フォルダにはいくつか条件が必要になります。

- 監視フォルダにはキャプチャプロ ソフトウェアを使用する全ユーザーに対して「Read/Write」の権限を付与してください。
 - 監視フォルダは、対象となるすべてのイメージソースから書込み可能にしてください。ネットワークから監視フォルダへイメージファイルを書き込む場合、各ユーザーやネットワークスキャナー、その他デバイスから監視フォルダへ書き込みアクセスが出来る様に共有が設定されていることを確認してください。
 - キャプチャプロ ソフトウェアがファイル共有を設定したり、監視フォルダに対するユーザのアクセス権限を設定したりすることはありません。ファイル/フォルダの共有設定に関しては、お客様の責任で行ってください。
 - 監視フォルダはローカルまたはマッピングされたドライブに設定してください。
5. 自動インポートのタイムアウトを設定します。この間隔は、イメージファイルを監視フォルダへコピーする際に考えられる最長時間を基に設定すると良いでしょう。設定は運用方法に依存します。例：
- **ネットワークスキャナー** — ユーザーがネットワーク経由で監視フォルダにイメージを直接送信するために Scan Station 500 をセットアップしました。一つの原稿の束をスキャン、スキャン完了した束を除去、次の書類束をスキャンという作業を繰り返す運用になります。この運用には 60 秒の遅延が必要です。ユーザーが次の束をスキャンする前に、タイムアウトになったり、AI バッチが終了にならない様、監視フォルダのタイムアウト設定は 120 秒必要になります。
 - **[ネットワークフォルダからイメージをコピー]** — 別のスキャナーでスキャンしたイメージファイルや、他の方法で生成したイメージファイルをまとめて、これらのファイルを自動インポート用に キャプチャプロ ソフトウェアワークステーションに転送するには、「コピー」操作が必要です。ローカルネットワークでは、1 秒間隔でイメージが送信されます。タイムアウト間隔は 10 秒に設定されます。
- 詳細については、「自動インポート処理」を参照してください。
6. 監視フォルダに関連付けるジョブを選択 / 作成します。

7. 監視フォルダに関連付けるページセットアップを選択 / 作成します。ページセットアップオプションは以下に限定されています。



8. **[セパレーションオプション]**を選択して、自動インポートフォルダと、サブフォルダに対してバッチとドキュメントセパレーションオプションを選択します。また、ファイルごとに新規ドキュメントの作成も選択できます。このオプションは、ファイルに複数のイメージがある場合に便利です。
- [セパレーションオプション]**は、フォルダおよびサブフォルダが存在しないため、ファイルが監視フォルダに直接コピーされる場合に限定されます。使用できる唯一のオプションは、**1 ファイル毎に新規ドキュメントを作成**です。このオプションを選択しない場合、監視フォルダにコピーされるすべてのファイルは 1 つのドキュメントに配置されます。このオプションを選択した場合、ファイル名ごとに 1 つのドキュメントが作成されます。



9. 自動インポートの完了時に AI バッチの内容をアーカイブする場合は、**[ファイルのバックアップ先]**を選択し、バックアップの場所を指定します。
- アーカイブでは、AI バッチの全体の内容が指定したバックアップ場所にコピーされます。バックアップは、オリジナルの状態ですべてのバックアップ先に AI バッチ全体の内容をコピーします。
- 複数の監視フォルダに対し、1 つのアーカイブ場所を使用します。
 - 自動インポートの設定毎にアーカイブフォルダを作成する必要はありません。
 - アーカイブ先はローカルまたはマップされたドライブに設定してください。
10. 自動インポート処理が中断されるまで許可されるエラー数を指定します。イメージファイルが正しく読み込めない場合にエラーが発生します。インデックスエラーや、その他サポートイメージの open/read 時のエラーは、インポートエラーに適用されません。**[インポートエラーの許容数]** ドロップダウンボックスで設定されている値を超えると処理が停止し、ユーザーが不良なイメージを再処理するか、スキップするか、自動インポートを中断することができるダイアログボックスが表示されます。エラー処理と復旧の詳細については、「エラー処理」を参照してください。
11. 読み取りできないファイルをコピーして、保存する場所を **[エラーファイルおよびエラー情報のキャッシュ先]** フィールドに指定します。自動インポート処理中、サポート対象ファイルが開けない場合は、「プレースフォルダ」イメージに置き換えられ、エラーのあるイメージはエラーキャッシュにコピーされます。

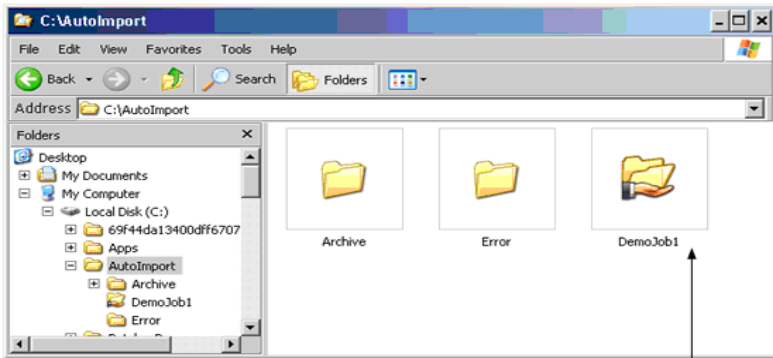
注記： エラーのキャッシュ先はローカルまたはマッピングされたドライブに設定してください。

12. 完了したら [OK] をクリックします。

自動インポート処理

注記： 次の例では、いくつかのフォルダに特別なアイコンを追加してわかりやすくしていますが、これらのアイコンは、実際の自動インポートのセットアップでは実際のフォルダに表示されません。

前に説明した AI Demo1 自動インポートのセットアップでは、ディレクトリは以下ようになります。

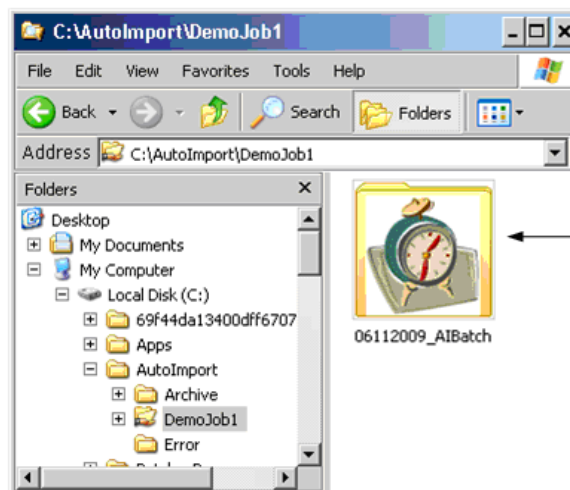


AI Demo 1 監視フォルダ

[自動インポート] を有効にするには、[ファイル] > [ワークステーションのセットアップ] を選択してから、[自動インポート] をソースとして選択します。これにより、スキャナーとスキャナー固有の設定が無効になります。[アプリケーションの起動時に自動インポート開始] を選択していない場合、スキャナーの起動時と同様に [開始] をクリックする必要があります。予め設定しておいた監視フォルダ内にファイルが無いが監視します。[停止] ボタンがクリックされるまで、監視フォルダ内に格納された順に新規 AI バッチのジョブでインポート処理します。通常のスキャン操作を再開するには、[ファイル] > [ワークステーションセットアップ] を選択し、スキャナーを選択します。

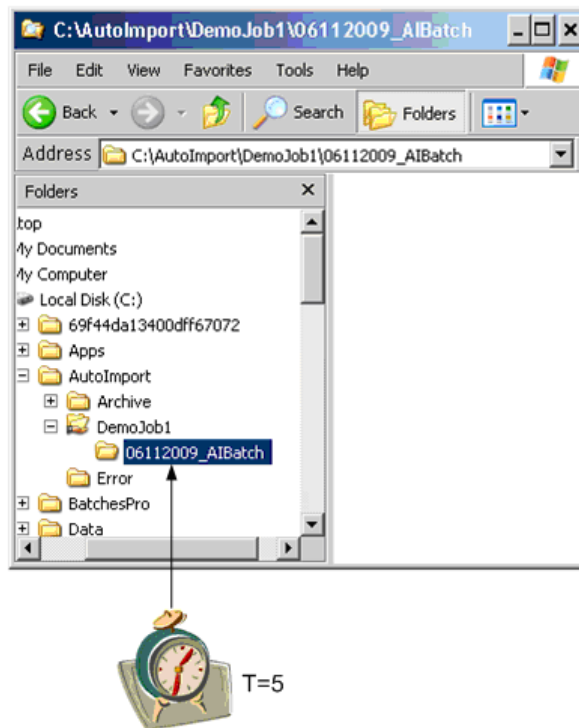
注記： 自動インポートが無効の場合は、エラーメッセージを避けるため、関連フォルダが手動で削除される前にセットアップを削除する必要があります。

新規の AI バッチを作成するには、監視フォルダ内に新規 AI バッチフォルダを作成します。

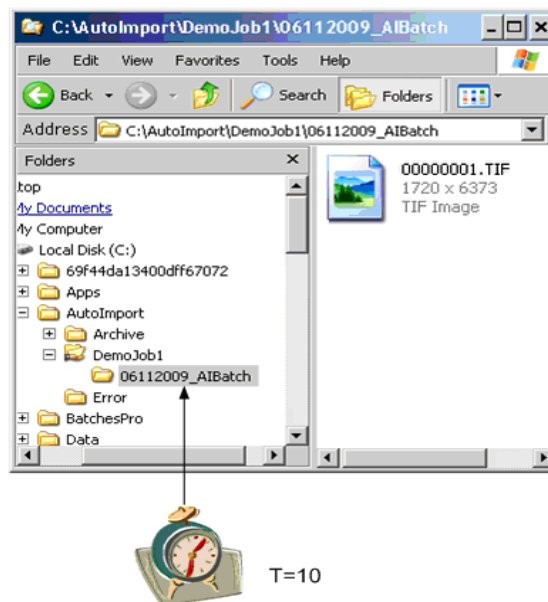


新しい AI バッチです。
タイマー = 10 秒

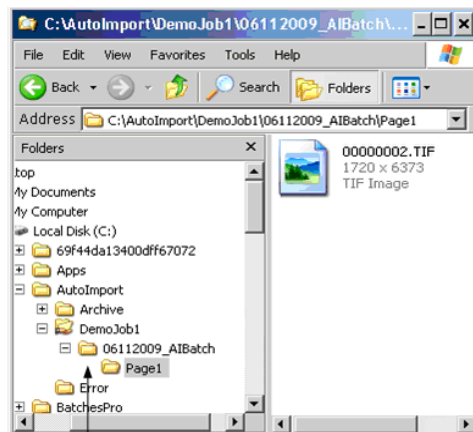
タイマーがカウントダウンを開始します。5 秒経過し、AI バッチフォルダ (06112009_AIBatch) に新しいファイルが追加されなく、タイマーは 5 になります。



AI バッチフォルダ、そのサブフォルダのいずれかにファイルが現れると、タイマーはリセットされます。

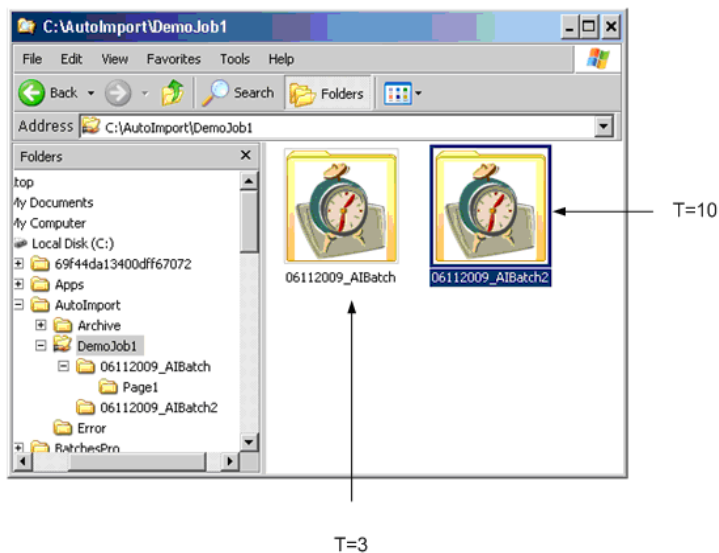


AI バッチを含むサブフォルダは退避が可能で、親の AI バッチフォルダにあるタイマーが、リセットされます。06112009_AIBatch を含むサブフォルダを退避させると、退避させたサブフォルダはタイマーがリセットされます。退避させたサブフォルダには、タイマーがありません。06112009_AIBatch フォルダ用のタイマーは1つだけです。

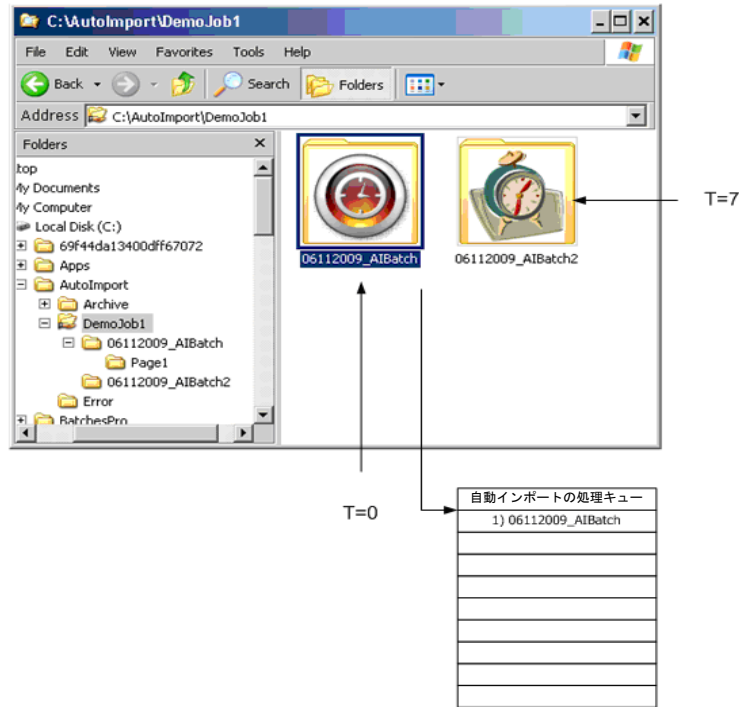


注記： 256 文字を超えるパス名は Windows OS ではサポートされていない可能性があります。サブフォルダやファイル名の長さは、この制限を越えない様に注意してください。

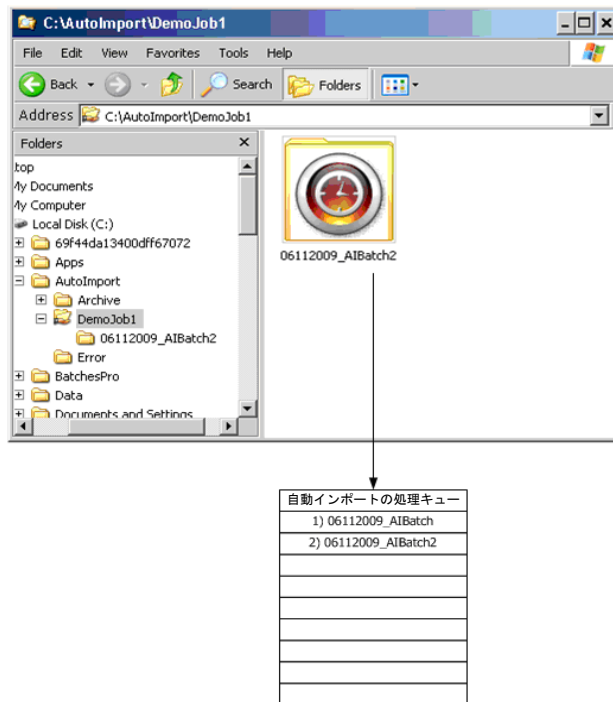
新規 AI バッチフォルダが監視フォルダに格納されると、新規 AI バッチのタイマーが起動し、他の AI バッチから独立してインポート処理されます。



タイマーの期限が切れると、AI バッチフォルダがロックされ、自動インポートの処理キューに挿入されます。



他のジョブもそのタイマーの期限が過ぎると、処理キューに挿入されます。



自動インポートの処理キューは、先入れ先出しの順序で処理されます。この例では、06112009_AIBatch に続いて 106112009_AIBatch2 の内容がインポート処理されています。これらの AI バッチは同じジョブでインポート処理されます (同じ監視フォルダからインポートされます)。バッチセパレータが二つの AI バッチの間に割り込み、AIDemo1 のジョブの内容に従って処理されます。

ファイルが格納された AI バッチは、ファイルとサブフォルダをアルファベット順で、繰返しインポート処理します。

ただし、すべての AI バッチでは、同じ自動インポート処理キューを共有しているため、個別の監視フォルダにある AI バッチが処理されると、自動インポートのオプションと関係なくバッチセパレータが挿入されます。

自動インポートの処理キューに含まれる AI バッチは、先入れ先出しの順序で処理されます。キューには、管理機能はありません。AI バッチは、エラーがなければすべて、順々に処理されます（「エラー処理」を参照してください）。

バッチ全体が処理されると、必要に応じて元のファイルがバックアップにコピーされます。

サーバ / サービス設定

Windows サーバオペレーティングシステムに自動インポートをインストールした場合、より堅牢な環境となり、オペレータの負担を最小限に抑えられます。監視フォルダを同じサーバ上に配置することが推奨されます。

1. 「自動インポートの設定」セクションに示される手順を使用してキャプチャプロ自動インポートをサーバにインストールします。
2. キャプチャプロを起動し、自動インポートジョブを設定します。

次のオプションは必ず選択してください。[**アプリケーションの起動時に自動インポート開始**]。

注記： 監視フォルダがサーバに存在しない場合、キャプチャプロ自動インポートサービスでは監視フォルダへの読み取り / 書き込みアクセス権限が必要になります。サービスでは定義済みのユーザーが存在しないため、これは通常困難になります。

3. 自動インポートが正しく動作していることを確認します。
4. キャプチャプロ ソフトウェアをシャットダウンします。
5. キャプチャプロ ソフトウェアの Web サイト www.kodakalaris.com/go/CaptureProAIService からキャプチャプロ自動インポートサービスをダウンロードします。
6. キャプチャプロ自動インポートがインストールされているサーバと同じサーバにキャプチャプロ自動インポートサービスをインストールします。
7. デフォルトでは、キャプチャプロ自動インポート サービスには自動スタートアップが設定されており、初期ステータスは「**停止状態**」になっています。手動でサービスを開始するか、サーバを再起動します。

これでキャプチャプロ自動インポートはサーバで実行されます。監視フォルダに配置されたすべてのイメージファイルがインポートされ、「自動インポートの設定」で選択されたジョブにより示される処理が行われます。

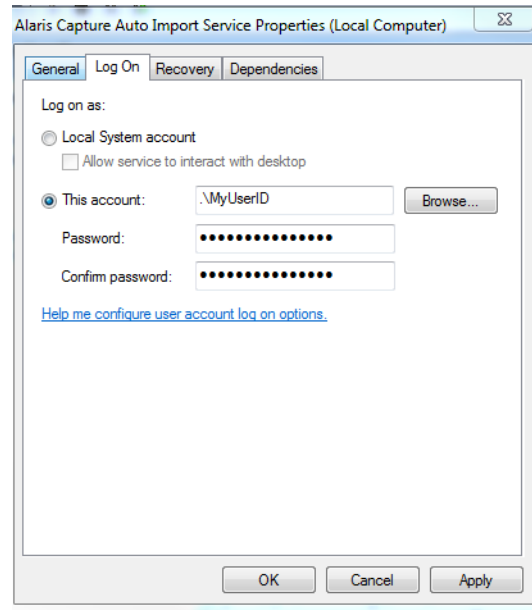
サーバが再起動されるたびに自動インポートが自動的に起動されます。

ジョブ セットアップの変更または追加を行うには、キャプチャプロ自動インポート サービスを停止し、キャプチャプロ ソフトウェアを手動で起動します。更新が完了したら、キャプチャプロ ソフトウェアをシャットダウンし、キャプチャプロ自動インポート サービスを手動で開始するか、サーバを再起動します。

注記： 共有ワークグループ環境でジョブセットアップを変更する場合、変更が反映されるように自動インポートをいったん停止してから再起動を行う必要があります。

自動インポートサービスのプロパティ

ローカルの管理者グループに確実にユーザーを追加するには、自動インポートサービスのログオンをデフォルトのローカルシステムアカウントからユーザーアカウントに変更する必要があります。



エラー処理

バッチ処理中にサポート対象のイメージファイルが開けない場合：

- 問題のあるファイルはエラーキャッシュにコピーされ、
- 一般的な「エラー」イメージによって置き換えられ、
- AI バッチのエラーカウントが増加します。

バッチセットアップで定義されているエラーのしきい値に到達した場合は、バッチの出力処理を停止し次のオプションがあるダイアログボックスが表示されます。

- **無視**：次のイメージに進みます。次の不良なイメージが検出されるまで、バッチの出力処理を続行します。
- **中断**：バッチ内の残りのファイルがエラーキャッシュフォルダにコピーされ、自動インポート処理を停止します。中断した後に自動インポートを再スタートすると、キューの次のバッチを処理します。エラーキャッシュにコピーされたバッチの自動回復手順はありません。不良ファイルを特定、修正し、手動でバッチフォルダを監視フォルダに再挿入する必要があります。

9 インテリジェントなジョブ選択

概要

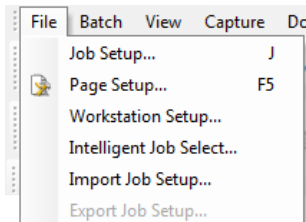
キャプチャ プロの [ファイル] メニューにある [インテリジェントなジョブ選択] 機能を使用すると、高度なパラメータを設定して、スキャン中にジョブ セットアップまたはページ セットアップを *自動的に* 変更できます。条件が事前定義されたパッチコードがスキャンされると、オペレータによる操作を必要とすることなく、ページセットアップまたはジョブセットアップが変更されます。

インテリジェントなジョブ選択機能を効果的に使用するには、ドキュメントを準備して、パッチページをバッチに追加する必要があります。

この機能は、Kodak スキャナーおよび Alaris のスキャナーのみで利用できます。Kodak スキャナーまたは Alaris のスキャナーを使用していない場合は、このオプションは無効になります。この章では、[インテリジェントなジョブ選択] の [一般] および [セットアップ] タブでオプションを選択する方法と手順について説明します。

次を行う必要があります。

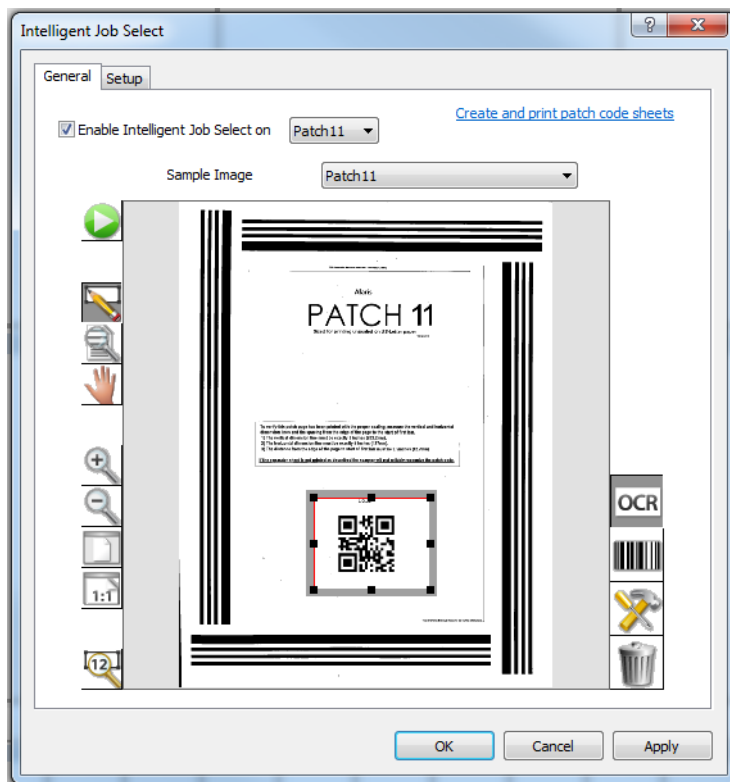
1. セットアップの変更を指示するため、1 枚以上のパッチページをセットアップします。
2. 各パッチページで指定された変更について、キャプチャプロを構成します。



[インテリジェントなジョブ選択] にアクセスするには、キャプチャ プロの [ファイル] メニューから [インテリジェントなジョブ選択 ...] を選択します。

[インテリジェントなジョブ選択]-[一般]タブ




[インテリジェントなジョブ選択]の[セットアップ]ウィンドウでは、スキャナーで読み取るパッチコードに基づいて、セットアップの変更をいつ、どのように実行するかを定義できます。このウィンドウの[一般]タブには、次のオプションが用意されています。













インテリジェントなジョブ選択を有効にするパッチ — 機能パッチ ページのパッチ タイプを選択します。有効な機能パッチには、[パッチ 10]、[パッチ 11]、[パッチ 12]、[パッチ 13]、[パッチ 14]、[パッチ 15]があります。

[サンプル イメージ] — サンプル イメージとしてすでに保存されているイメージを選択し、このパッチのルールを定義します。ドロップダウンリストには、インテリジェントなジョブ選択のセットアップ用にスキャンされたすべてのイメージが含まれます。バーコードや OCR ゾーンを定義するには、このリストに1つ以上のイメージがなければなりません。

アイコン

| | |
|---|--|
|  | <p>[スキャン開始] — [イメージのスキャン] ダイアログ ボックスを開きます。ここでは、イメージ名の入力と、バーコード、OCR テキストセグメント、またはマーク領域を含むイメージのスキャンが可能です。</p> <p>注記： キャプチャプロ ソフトウェアでは、現在選択されているページ セットアップを使用して、サンプル イメージをスキャンします。</p> |
|  | <p>[選択範囲] — スキャンしたイメージ上のバーコードや OCR 文字列の周囲に四角形を描画して、[バーコード ゾーンの設定] ダイアログ ボックスまたは [OCR ゾーンの設定] ダイアログ ボックスを表示します。</p> |
|  | <p>[拡大] — イメージの一部を拡大します。拡大ツールを移動してクリックアンドホールドすると、その領域が拡大されます。</p> |

| | |
|---|---|
|  | [スクロール]— イメージが[機能パッチ セットアップ]イメージウィンドウより大きい場合に、イメージを移動できます。 |
|  | [ズームイン]— イメージをズームインします。 |
|  | [ズームアウト]— イメージをズームアウトします。 |
|  | [ウィンドウに合わせる]— イメージの表示を変更して、[インテリジェントなジョブ選択]の[イメージのセットアップ]ウィンドウにイメージを合わせます。 |
|  | [原寸大]— イメージを原寸大で表示します。スキャンされた1ピクセルと、[インテリジェントなジョブ選択]の[イメージのセットアップ]ウィンドウの1ピクセルが等しくなります。 |
|  | [バーコード、OCR、マーク検知ゾーンのテスト]— [バーコード、OCR、マーク検知の値]ダイアログ ボックスを開きます。ここでは、1つのバーコード、OCR、マーク検知ゾーンのテスト結果を参照できます。 |
|  | [OCR ゾーンの設定]— [インテリジェントなジョブ選択]の[セットアップ]ウィンドウに表示されたイメージから、OCRゾーンを作成できます。 |
|  | [バーコードの設定]— [バーコード、OCR & マーク検知]ウィンドウに表示されたイメージから、バーコードゾーンを作成できます。 |
|  | [ゾーンのプロパティ]— [バーコードゾーンの設定]、[OCRゾーンの設定]、または[マーク検知ゾーンの設定]ダイアログボックスを開きます。ここから、選択したバーコード、OCR、マーク検知ゾーンのプロパティを参照できます。 |
|  | [選択したゾーンの削除]— バーコード、OCR、マーク検知ゾーンを削除できます。選択すると、削除を確認するメッセージが表示されます。 |

[OK]— 設定内容を保存して、ダイアログ ボックスを閉じます。

[キャンセル]— 適用されていない変更を破棄し、ダイアログ ボックスを閉じます。

[適用]— 設定内容を保存して、ダイアログ ボックスを開いたままにします。

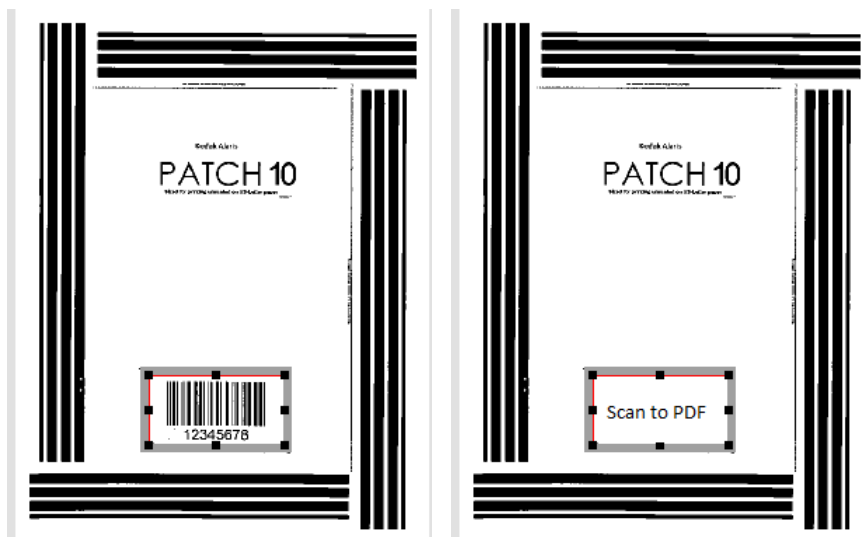
機能パッチ ページの作成

セットアップの変更を開始するために使用されるパッチページを作成します。[パッチ 10]、[パッチ 11]、[パッチ 12]、[パッチ 13]、[パッチ 14]、[パッチ 15] のいずれかを使用します。パッチページはバーコードまたはテキストを使用してカスタマイズする必要があります。

注記： [インテリジェントなジョブ選択] の [セットアップ] では、1つのゾーンのみを作成できます。複数の方法でセットアップを変更するには、それぞれの方法について 1 枚ずつパッチページを作成します。

たとえば、左下に示す「パッチ 10」ページを使用して、「バーコード値が 12345678 の場合に、ページ セットアップをカラー 150 DPI に変更する」といったセットアップの変更を実装できます。

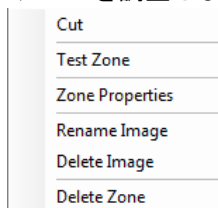
また、右下に示す「パッチ 10」ページを使用して、「OCR ゾーンが「PDF に出力」である場合に、ジョブを PDF に出力に変更する」といったセットアップの変更を実装できます。



機能パッチセットアップの作成

1. パッチシートを準備したら、[インテリジェントなジョブ選択] の [セットアップ] を構成します。[一般] タブで、[インテリジェントなジョブ選択を有効にするパッチ] を選択します。この機能用にカスタマイズされた機能パッチのタイプをドロップダウンリストから選択します。
2. [サンプルイメージ] ドロップダウン リストからパッチ ページのイメージを選択するか、「機能パッチ ページの作成」で作成したパッチ ページをスキャンします。
3. パッチページに追加したバーコードのバーコードゾーン、または文字列の OCR ゾーンを作成します。
4. ゾーンをテストして、バーコードまたは文字列が認識されることを確認します。

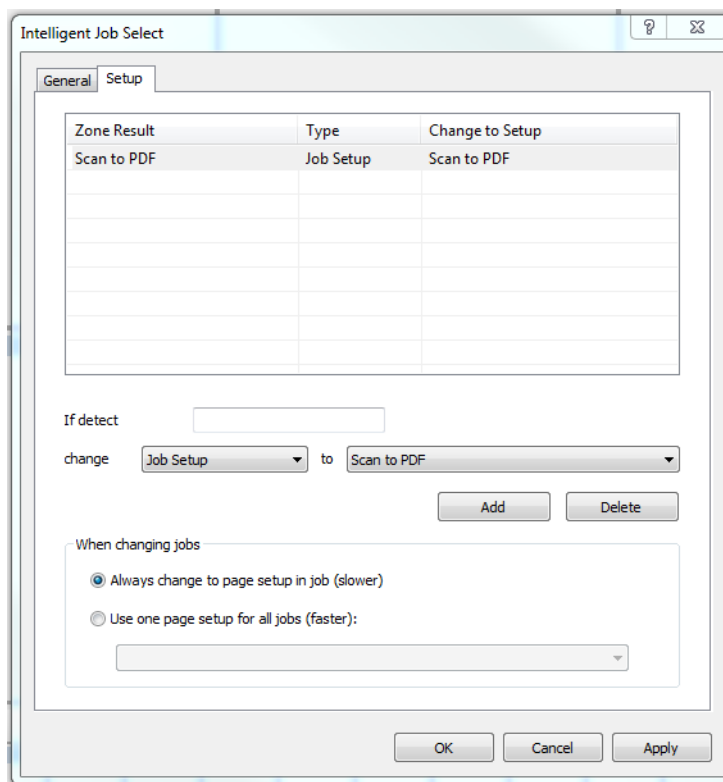
- 必要に応じて、イメージの右クリックメニューを使用し、イメージまたはゾーンを調整します。



- 次に、1つ以上のルールをセットアップして、スキャナーでこのパッチページが認識された際に実行されるセットアップの変更を定義します。

[インテリジェントなジョブ選択]-[セットアップ]タブ

[インテリジェントなジョブ選択]を有効にし、バーコードやOCRゾーンを使用してサンプルイメージページをセットアップした後は、機能パッチが検出された際に従うルールを作成する必要があります。ルールは、[インテリジェントなジョブ選択]ウィンドウの[セットアップ]タブで定義します。[セットアップ]タブには、以下のオプションがあります。



[次を検出した場合]— [一般] タブでセットアップしたパッチ ページのバーコードまたは OCR テキストの値を入力します。

[変更]— ドロップダウン リストから [ジョブ セットアップ] または [ページ セットアップ] を選択します。

[変更後]— ドロップダウン リストからジョブ セットアップまたはページ セットアップの名前を選択します。パッチページが検出されると、このフィールドに入力するセットアップに変更されます。

[追加]— ルールを定義した後、[追加] ボタンを使用して、表示リストに追加します。

[削除] — 表示リストからルールを選択して、[削除]を選択すると、選択されたルールが削除されます。

ジョブの変更時 — このオプションは、スキャナーで機能パッチコードの読み取りが行われるスキャナー（例：Kodak i5x50）には利用できません。このようなスキャナーでは、スキャナーの定格速度でスキャンが実行されます。

- **ジョブのページセットアップを常に変更（低速）**：ジョブで定義したページセットアップ、または前回使用したページセットアップ（ページセットアップが定義されていない場合）を使用する場合に選択します。
- **すべてのジョブで1つのページセットアップを使用（高速）**：スキャナーの速度でスキャンする場合に選択します。すべてのジョブで使用するページセットアップを、ドロップダウンリストから定義する必要があります。

[OK] — 設定内容を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

[キャンセル] — リストに適用されていない変更を破棄し、ダイアログボックスを閉じます。

[適用] — 設定内容を保存して、ダイアログボックスを開いたままにします。

ルールの定義

ルールには次のような形式を使用します。[次を検出した場合:]<値>[変更:]<ジョブセットアップまたはページセットアップ>[変更後:]<希望するセットアップ名>。

1. [次を検出した場合:]、[変更:]、[変更後:]のフィールドを使用して、パッチページのルールをセットアップします。
2. ルールを定義した後、[追加]ボタンを選択して、ルールをリストに追加します。
3. [適用]または[OK]を使用して、変更を保存します。
4. 必要に応じて、追加のルールを作成します。複数の種類のカスタマイズ済みパッチシートがある場合は、パッチシートごとにルールを作成する必要があります。

注記： ルールを変更するには、これを削除して、新しいルールを追加します。

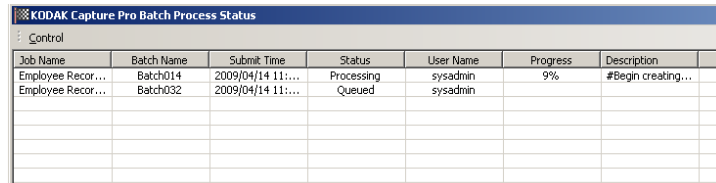
10 トラブルシューティング

エラーのクリア

[キャプチャプロ バッチ処理ステータス] ウィンドウには、キャプチャプロ ソフトウェアから出力するバッチに関する情報が表示されます。

[バッチステータス] ウィンドウを表示するには：

- [バッチ]>[バッチ出力ステータスの表示] を選択します。



| Job Name | Batch Name | Submit Time | Status | User Name | Progress | Description |
|-------------------|------------|-------------------|------------|-----------|----------|--------------------|
| Employee Recor... | Batch014 | 2009/04/14 11:... | Processing | sysadmin | 9% | #Begin creating... |
| Employee Recor... | Batch032 | 2009/04/14 11:... | Queued | sysadmin | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

エラーを解消するには：

- [ジョブ名] をクリックし、[すべてのエラーをクリア] または、[選択したエラーをクリア] を選択します。

コマンドラインからのログイン

キャプチャプロ ソフトウェアは、以下の形式のコマンドを使用したログインをサポートしています。

```
Capture.exe/username<username>/password<password>
```

たとえば、ユーザ名が「tester」でパスワードが「123465」であるユーザの場合、以下のコマンドを使用してキャプチャプロ ソフトウェアを起動できます。

```
Capture.exe/username tester/password 123465
```

Windows の現在のユーザ名でキャプチャプロ ソフトウェアにログインする場合は、以下のコマンドで起動できます。

```
Capture.exe/username
```

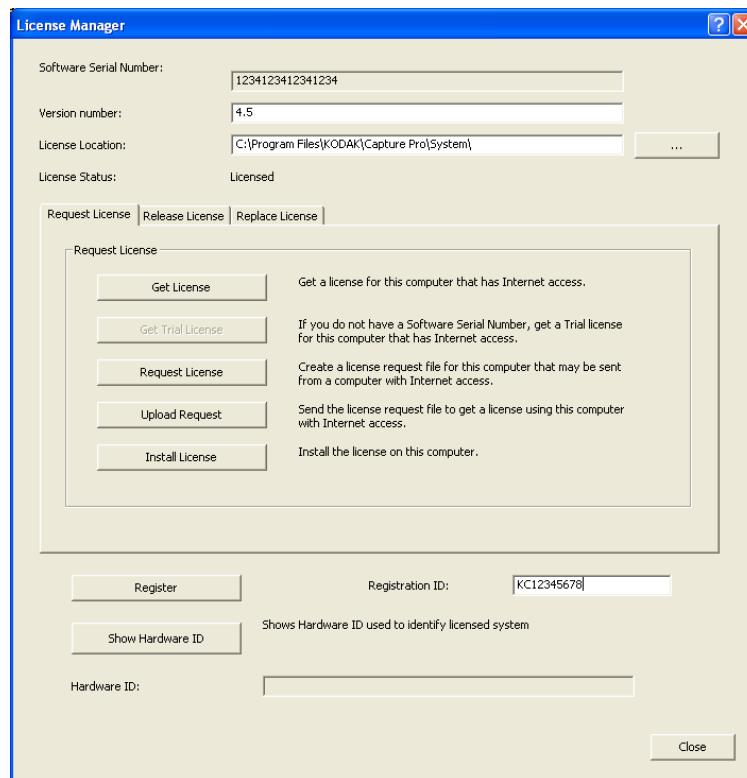
テクニカル サポート

キャプチャプロ ソフトウェアのサポートについては、Kodak Alaris の Web サイト (www.kodakalaris.com/go/CaptureProSupport) を参照してください。サポートページには、製品アップグレードのダウンロード、ドライバ、アクセサリ、FAQ (よくある質問) へのアクセス方法、お客様の国 / 地域で提供されているキャプチャプロ ソフトウェアのサポートオプションの詳細など、製品ごとの情報が掲載されています。

付録 A ライセンスマネージャ

ライセンスマネージャは、キャプチャプロソフトウェアとは独立してインストールし、実行できるユーティリティです。ライセンスマネージャは、キャプチャプロソフトウェアとともにインストールし、ヘルプメニューから**ライセンスマネージャ**を選択するか、**Kodak > Kodak Capture Pro Software**にあるショートカットを選択し、アクセスして実行することができます。キャプチャプロソフトウェアがコンピュータにインストールされていない場合、www.alarisworld.com/go/CaptureProDownloadよりライセンスマネージャをダウンロードできます。このユーティリティはキャプチャプロソフトウェアのライセンスを取得および管理するために使用できる一連の機能を提供します。

ライセンスマネージャは、インターネットにアクセスできないキャプチャプロソフトウェアを実行しているワークステーションのライセンスを取得する最も簡単な方法です。



ソフトウェアシリアル番号 — ライセンスを特定する際に使用するソフトウェアシリアル番号を表示します。

バージョン番号 — 使用したいキャプチャプロソフトウェアのバージョンを指定します。バージョン 4.0.0 より以前のバージョンは選択できません。

ライセンスの場所 — ライセンスがインストールされている場所を指定します。通常のインストールの場合、C:\Program Files\Kodak\Capture Pro\System になります。

ライセンスのステータス — ステータス：ライセンス付与済み、一時ライセンスまたはライセンスなし。一時ライセンスは所定日に期限が切れます。

ライセンスリクエスト、ライセンスのリリース および ライセンスの交換 タブ — 詳細情報と手順については、以降のセクションを参照してください。

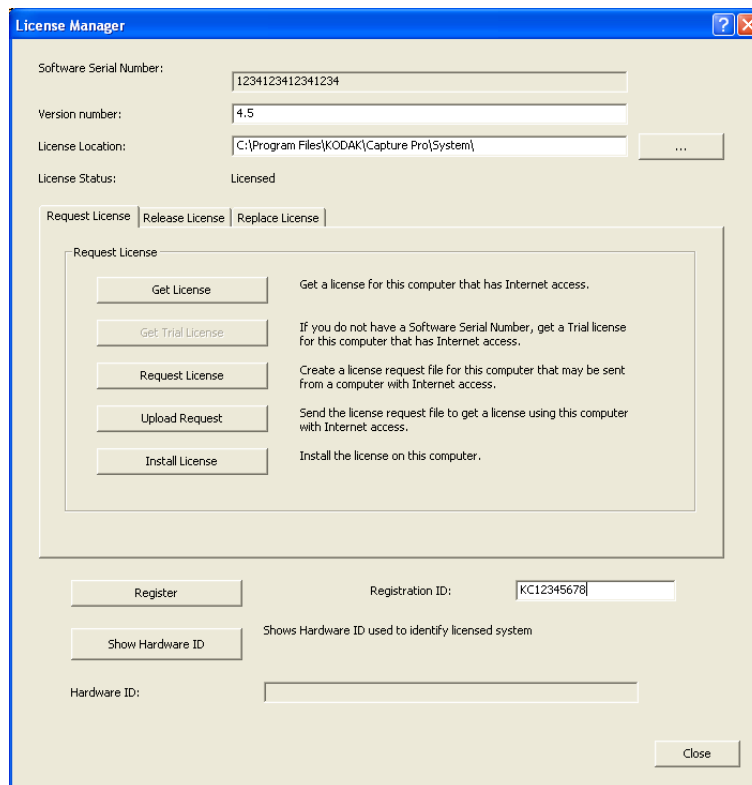
登録 — キャプチャプロ ソフトウェアを登録し、**登録 ID** を取得できます。**登録 ID** は、このライセンスまたはお持ちの他のキャプチャプロ ソフトウェアを将来インストールする場合に使用可能です。

ハードウェア ID の表示 — ライセンスされたワークステーションを特定する際に使用するハードウェア ID を表示します。

閉じる — ライセンスマネージャウィンドウを閉じます。

ライセンスを要求する

ライセンス要求の各機能は、*Kodak Alaris* ライセンスサーバーにライセンスを要求する際に使用されます。



ライセンスの取得 — このオプションは、ライセンスを取得するワークステーションがインターネットにアクセスできる場合に使用します。

試用版のライセンスを取得 — ソフトウェアのシリアル番号がない場合、試用版のライセンスを要求することができます。

ライセンス要求 — ライセンスを取得するワークステーションがインターネットにアクセスできない場合、**[ライセンス要求]** を選択すると、インターネットにアクセスできるコンピュータを使用して、ライセンスを要求する際に使用できるライセンス要求ファイルが作成されます。ライセンス要求ファイルの場所を入力するよう求められます。

要求のアップロード — この機能は、*Kodak Alaris* ライセンスサーバーにライセンス要求ファイルを送信するために、インターネットにアクセスできるコンピュータで使用されます。ライセンス要求ファイルの場所を入力するよう求められます。ライセンス要求が正常に終了した場合、ライセンスファイルはこの場所に戻されます。

ライセンスのインストール — この機能は、インターネットにアクセスできるコンピュータから取得したライセンスをインストールするために、インターネットにアクセスできないワークステーションで使用されます。ライセンスファイルの場所を入力するよう求められます。

ライセンス要求を使用する例を以下にいくつか示します。

例 1

シナリオ: キャプチャプロ ソフトウェアがワークステーションにインストールされています。オプション機能を 1 つ購入しましたが、このオプション機能を有効化するためにライセンスを更新する必要があります。ワークステーションはインターネットにアクセスしています。

解決策:

1. メニューバーから、**[ヘルプ]** > **[ライセンスマネージャ]** を選択します。
2. ライセンスマネージャウィンドウから **[ライセンス要求]** タブを選択してから、**[ライセンスの取得]** を選択します。

新しいライセンスを取得し、インストールされます。

例 2

シナリオ: インターネットにアクセスできないワークステーションにキャプチャプロ ソフトウェアをインストールしています。インストール時にインストーラはライセンス要求ファイルを作成しました。どうすればよいでしょうか。

解決策:

1. インターネットにアクセスできる別のコンピュータで、キャプチャプロ ソフトウェア ダウンロードサイト (www.alarisworld.com/go/CaptureProDownload) からライセンスマネージャツールをダウンロードします。
2. ライセンスマネージャをインストールし、起動します。
3. **[ライセンス要求]** タブから、**[要求のアップロード]** を選択します。
4. インターネットにアクセスできないワークステーションで作成したライセンス要求ファイルを参照し、ファイルをアップロードします。

ライセンス要求ファイルを選択するために参照した場所と同じ場所にライセンスが戻され保存されます。

5. キャプチャプロ ソフトウェアをインストールしているワークステーションに戻されたライセンスファイルを移動し、インストールを続行します。

例 3

シナリオ: キャプチャプロ ソフトウェアがワークステーションにインストールされています。オプション機能を 1 つ購入しましたが、このオプション機能を有効化するためにライセンスを更新する必要があります。ワークステーションはインターネットにアクセスしていません。

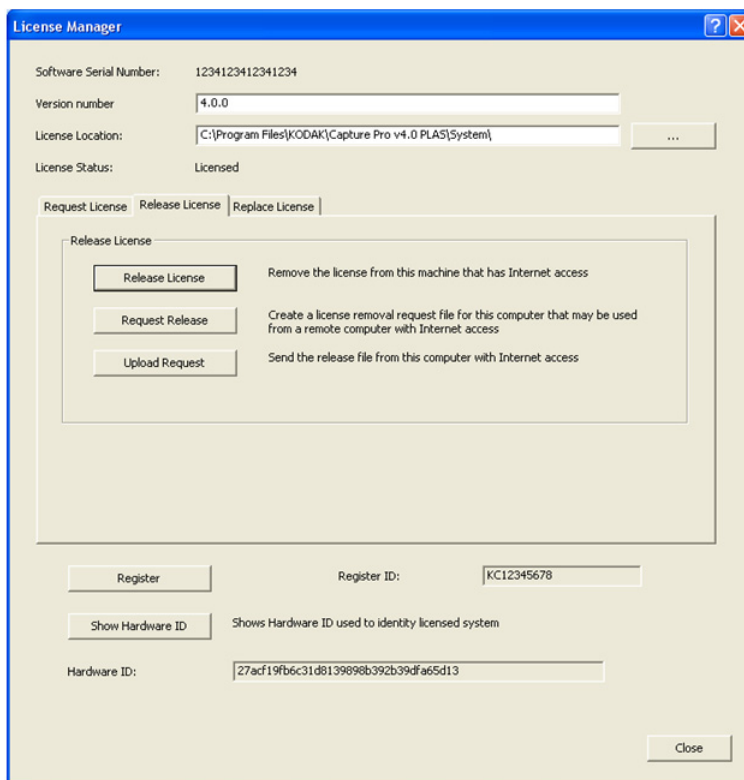
解決策:

1. メニューバーから、**[ヘルプ]** > **[ライセンスマネージャ]** を選択します。
2. ライセンスマネージャウィンドウから **[ライセンス要求]** タブを選択してから、**[ライセンス要求]** を選択します。
3. ライセンス要求ファイルを保存したい場所へのパスを入力します。**[要求]** を選択します。ライセンス要求ファイルが作成されます。
4. ライセンス要求ファイルをインターネットにアクセスできるコンピュータに移動します。

- インターネットにアクセスできるコンピュータで、次のキャプチャプロソフトウェアダウンロードサイトからライセンスマネージャツールをダウンロードします。
(www.alarisworld.com/go/CaptureProDownload)
- ライセンスマネージャをインストールし、起動します。
- [ライセンス要求] タブで、[要求のアップロード] を選択します。
- このコンピュータに移動したライセンス要求ファイルを参照し、[アップロード] を選択します。
ライセンス要求ファイルを選択するために参照した場所と同じ場所にライセンスが戻され保存されます。
- 戻されたライセンスファイルを、キャプチャプロソフトウェアを実行しているワークステーションに移動し、[ライセンス要求] タブから[ライセンスのインストール] を選択します。このワークステーションに移動したライセンスファイルへのパスを入力するよう求められます。

ライセンスのリリース

ライセンスのリリースの各機能は、現在割り当てられているワークステーションからライセンスをリリースする際に使用されます。ライセンスをリリース、またはライセンスを別のワークステーションに移動してからキャプチャプロソフトウェアをアンインストールします。



ライセンスのリリース — ライセンスされたワークステーションがインターネットにアクセスできる場合、このオプションによりライセンスがワークステーションから削除され、ライセンスが新しいワークステーションで使用できるようになります。

リリースの要求 — ライセンスされたワークステーションがインターネットにアクセスできない場合、このオプションを使用してリリース要求ファイルを作成します。このファイルはインターネットにアクセスできるコンピュータに移動し、**[要求のアップロード]**を使用して Kodak Alaris ライセンスサーバーに送信できます。リリース要求ファイルの場所を入力するよう求められます。

要求のアップロード — このオプションは、インターネットにアクセスしてるコンピュータからリリース要求ファイルを Kodak Alaris ライセンスサーバーに送信することによりライセンスをリリースするために使用されます。リリース要求ファイルの場所を入力するよう求められます。

ライセンスのリリースを使用する例を以下にいくつか示します。

例 1

シナリオ: キャプチャプロ ソフトウェアがワークステーションにインストールされています。キャプチャプロ ソフトウェアを、新しい高速のワークステーションに移動したいと思っています。ワークステーションはインターネットにアクセスしています。

解決策:

1. メニューバーから、**[ヘルプ]**>**[ライセンスマネージャ]**を選択します。
2. ライセンスマネージャウィンドウから **[ライセンスのリリース]** タブを選択してから、**[ライセンスのリリース]**を選択します。
3. キャプチャプロ ソフトウェアを終了します。このワークステーションからライセンスが削除され、新しいワークステーションにインストールすることができます。

例 2

シナリオ: キャプチャプロ ソフトウェアがワークステーションにインストールされており、ワークステーションを再設定する必要があります (メモリの追加 / 削除、BIOS のアップデート、装置名の変更、マザーボードの交換、等)。ワークステーションはインターネットにアクセスしています。

解決策:

1. メニューバーから、**[ヘルプ]**>**[ライセンスマネージャ]**を選択します。
2. ライセンスマネージャウィンドウから **[ライセンスのリリース]** タブを選択してから、**[ライセンスのリリース]**を選択します。
3. キャプチャプロ ソフトウェアを終了します。
4. 必要に応じてワークステーションを再設定します。
5. 通常、Capture Pro アプリケーションフォルダ < ドライブ >: \Program Files\Kodak\Capture Pro\KCSPLM.exe にあるライセンスマネージャツールを起動します。
6. ライセンスマネージャウィンドウから **[ライセンス要求]** タブを選択してから、**[ライセンスの取得]**を選択します。新しいライセンスを取得し、インストールされます。

例 3

シナリオ: キャプチャプロ ソフトウェアがワークステーションにインストールされており、ワークステーションを再設定する必要があります (メモリの追加 / 削除、BIOS のアップデート、装置名の変更、マザーボードの交換、等)。ワークステーションはインターネットにアクセスしていません。

解決策:

1. メニューバーから、[ヘルプ]>[ライセンスマネージャ]を選択します。
2. ライセンスマネージャウィンドウから [ライセンスのリリース] タブを選択してから、[リリースの要求]を選択します。リリース要求ファイルを保存したい場所へのパスを入力します。[要求]を選択します。
3. キャプチャプロ ソフトウェアを終了します。
4. リリース要求ファイルをインターネットにアクセスできるコンピュータに移動します。
5. キャプチャプロ ソフトウェア ダウンロードサイトからライセンスマネージャツールをダウンロードします。
6. ライセンスマネージャをインストールし、起動します。
7. [ライセンスのリリース] タブで、[要求のアップロード]を選択します。
8. このコンピュータに移動したライセンス要求ファイルを参照し、[アップロード]を選択します。
9. キャプチャプロ ソフトウェアを実行しているワークステーションを再設定します。
10. 設定が完了したら、通常 Capture Pro アプリケーションフォルダ <ドライブ>:\Program Files\Kodak\Capture Pro\KCSPLM.exe にあるライセンスマネージャツールを起動します。
11. [ライセンス要求] タブでを選択してから [ライセンス要求]を選択します。ライセンス要求ファイルを保存したい場所へのパスを入力します。[要求]を選択します。ライセンス要求ファイルが作成されます。
12. ライセンス要求ファイルを、インターネットにアクセスできる、ライセンスマネージャがインストールされたコンピュータに移動します。
13. [ライセンス要求] タブで、[要求のアップロード]を選択します。
14. このコンピュータに移動したライセンス要求ファイルを参照し、[アップロード]を選択します。
15. 戻されたライセンスファイルを、インターネットにアクセスできるワークステーションに移動し、[ライセンス要求]タブを選択してから[ライセンスのインストール]を選択します。このワークステーションに移動したライセンスファイルへのパスを入力するよう求められます。

例 4

シナリオ: ワークステーションのハードウェア設定を変更したので、キャプチャプロ ソフトウェアを起動すると**無効なライセンスコード**を知らせるメッセージを受け取ります。どうすればよいでしょうか。

解決策 1:

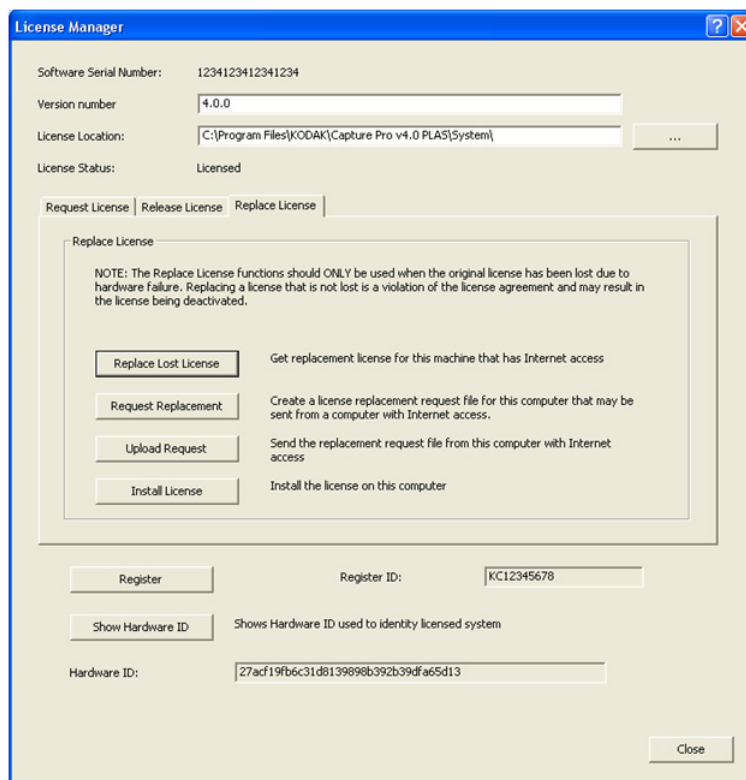
1. ワークステーションのハードウェア設定を元の設定に戻します。これができない場合、解決策 2 を参照してください。
2. インターネットにアクセスできる場合は例 2 を参照し、お使いのワークステーションがインターネットにアクセスできない場合は例 3 を参照してください。

解決策 2:

- お使いのワークステーションがインターネットにアクセスできる場合：
 1. Capture Pro インストールフォルダ（通常、**プログラムファイル > Kodak > Capture Pro**）から、ライセンスマネージャ KCSPLM.exe を実行します。
 2. [ライセンスの交換] タブで、[消失したライセンスの交換] を選択します。新しいライセンスを取得し、インストールされます。
- お使いのワークステーションがインターネットにアクセスできない場合：
 1. Capture Pro インストールフォルダ（通常、**プログラムファイル > Kodak > Capture Pro**）から、ライセンスマネージャ KCSPLM.exe を実行します。
 2. [ライセンスの交換] タブで、[交換の要求] を選択します。交換要求ファイルを保存したい場所へのパスを入力します。[要求] を選択します。ライセンス交換要求ファイルが作成されます。
 3. キャプチャプロ ソフトウェアを終了します。
 4. 交換要求ファイルをインターネットにアクセスできるコンピュータに移動します。
 5. インターネットにアクセスできるコンピュータで、キャプチャプロ ソフトウェア ダウンロードサイトからライセンスマネージャツールをダウンロードします。
 6. ライセンスマネージャをインストールし、起動します。
 7. [ライセンスの交換] タブで、[要求のアップロード] を選択します。
 8. このコンピュータに移動した交換要求ファイルを参照し、[アップロード] を選択します。交換要求ファイルを選択するために参照した場所と同じ場所にライセンスが戻され保存されます。
 9. 戻されたライセンスファイルをインターネットにアクセスできないワークステーションに移動します。
 10. インターネットにアクセスできないワークステーションで、[ライセンスの交換] タブに進み、[ライセンスのインストール] を選択します。
 11. このワークステーションに移動したライセンスファイルの場所を参照し、[インストール] を選択します。

ライセンスの交換

ライセンスの交換機能は機器の故障または損失により失われた元のライセンスを交換するために使用します。消失されていないライセンスの交換は、ライセンス契約の違反となり、ライセンスの権利を喪失する可能性があります。



消失したライセンスの交換 — 交換ワークステーションがインターネットに接続している場合、このオプションはこのワークステーションの新しいライセンスを取得してインストールします。

交換の要求 — 交換ワークステーションがインターネットにアクセスできない場合、このオプションを使用してライセンス交換要求ファイルを作成します。このファイルはインターネットにアクセスできるコンピュータに移動し、**[要求のアップロード]**を使用して Kodak Alaris ライセンスサーバーに送信できます。

要求のアップロード — このオプションは、Kodak Alaris ライセンスサーバーに交換ライセンス要求ファイルを送信するために、インターネットにアクセスできるコンピュータで使用されます。

ライセンスのインストール — この機能は、インターネットにアクセスできるコンピュータから取得したライセンスをインストールするために、インターネットにアクセスできないワークステーションで使用されます。

ライセンスの交換を使用する例を以下にいくつか示します。

例 1

シナリオ: キャプチャプロ ソフトウェア ワークステーションのハードドライブに障害が発生し、コンテンツを復元することができません。ワークステーションはインターネットにアクセスしています。どうすればよいでしょうか。

解決策:

1. キャプチャプロ ソフトウェアをインストールする前に、キャプチャプロ ソフトウェア ダウンロードサイトからライセンスマネージャツールをダウンロードします。

2. ライセンスマネージャをインストールし、起動します。
3. [ライセンスの交換] タブで、[消失したライセンスの交換] を選択します。新しいライセンスが取得されますが、今のところ必要ありません。
4. キャプチャプロ ソフトウェア ダウンロードサイトからキャプチャプロ ソフトウェアをダウンロードし、インストーラを起動します。インストール時に、新しいキャプチャプロ ソフトウェア ライセンスのコピーが Kodak Alaris ライセンスサーバーから取得されます。

例 2

シナリオ: キャプチャプロ ソフトウェア ワークステーションのハードドライブに障害が発生し、コンテンツを復元することができません。ワークステーションはインターネットにアクセスしていません。どうすればよいでしょうか。

解決策:

1. キャプチャプロ ソフトウェアをインストールする前に、キャプチャプロ ソフトウェア ダウンロードサイトからライセンスマネージャツールをダウンロードします。
2. インターネットにアクセスできないワークステーションにライセンスマネージャをインストールし、ライセンスマネージャを起動します。
3. [ライセンスの交換] タブで、[交換の要求] を選択します。交換ファイルを保存したい場所へのパスを入力します。[要求] を選択します。ライセンス交換要求ファイルが作成されます。
4. ライセンス交換要求ファイルをインターネットにアクセスできるコンピュータに移動します。
5. インターネットにアクセスできるコンピュータで、キャプチャプロ ソフトウェア ダウンロードサイトからライセンスマネージャツールをダウンロードします。
6. ライセンスマネージャをインストールし、起動します。
7. [ライセンスの交換] タブで、[要求のアップロード] を選択します。
8. このコンピュータに移動したライセンス交換要求ファイルを参照し、[アップロード] を選択します。ライセンス交換要求ファイルを選択するために参照した場所と同じ場所にライセンスが戻され保存されます。
9. キャプチャプロ ソフトウェアをインストールしたいワークステーションに戻り、キャプチャプロ ソフトウェア インストーラを実行します。インストール時にインストーラはライセンス要求ファイルを作成します。
注記: 手順 8 で交換ライセンスをすでに作成しているため、ライセンス要求ファイルは必要ありません。
10. キャプチャプロ ソフトウェアをインストールしているワークステーションに交換ライセンスファイルを移動し、インストールを続行します。

